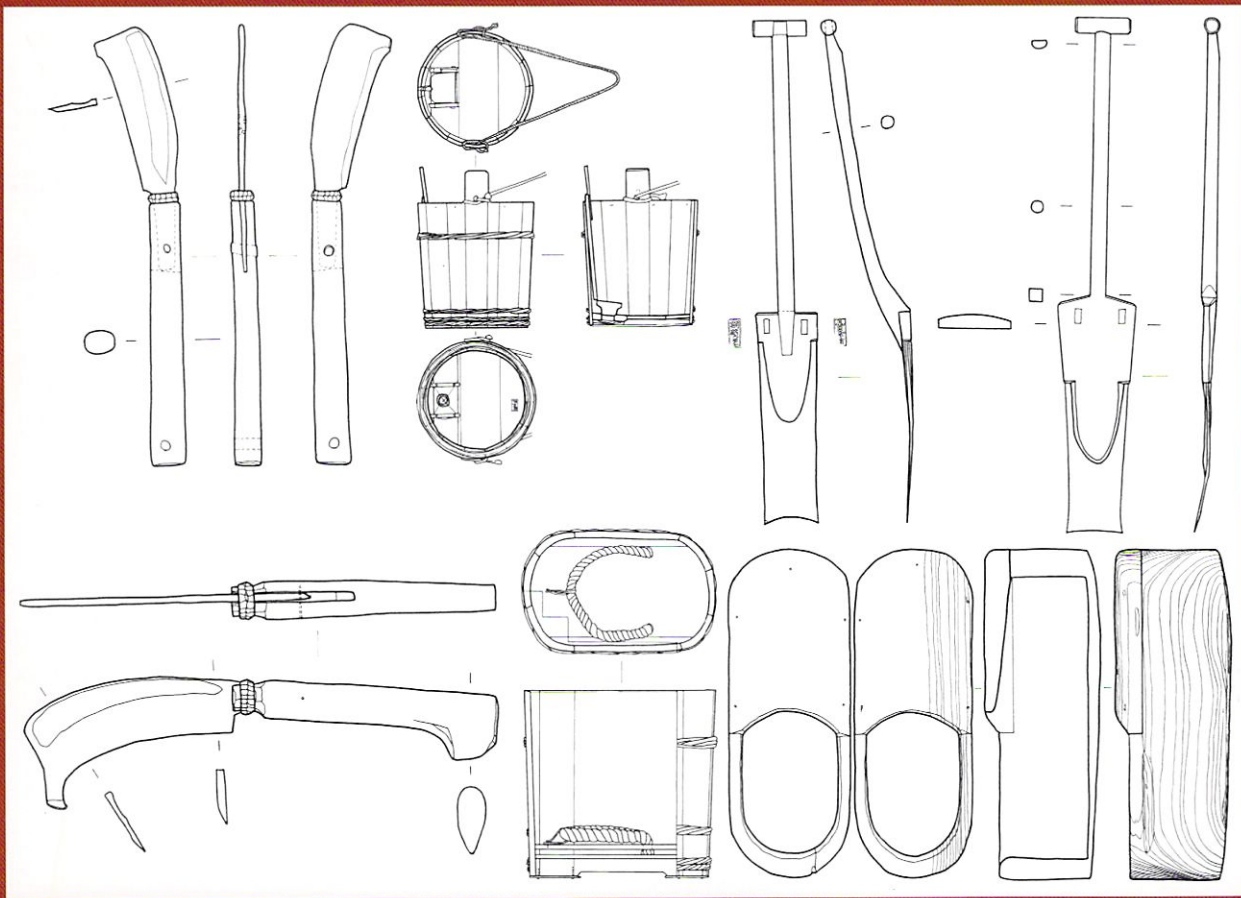


琵琶湖博物館 資料目録

18 号 2008年3月

民俗資料 4

生産生業



LAKE BIWA MUSEUM
琵琶湖博物館

琵琶湖博物館資料目録

第18号

民俗資料 4

生産生業

滋賀県立琵琶湖博物館

2008 年（平成 20 年）3 月

目 次

凡 例	1
民具資料目錄 (4)	7

凡 例

1. 本目録は、滋賀県立琵琶湖博物館蔵民俗資料目録の第4巻である。収録資料は、平成8年度から平成14年度までに当館に寄贈、あるいは当館に移管された、民俗資料のうち、2.生産生業（H.漁撈、O.諸職を除く）の1099件である。

2. 資料目録の作成は、当館の資料整備事業の一環として行った。資料整備事業の体制は、以下の通りである。

平成8～12年度 学芸職員 用田政晴、中藤容子 業務嘱託員 細川真理子

平成13～17年度 学芸職員 用田政晴、中藤容子 業務嘱託員 國分政子

平成18～19年度 学芸職員 用田政晴、業務嘱託員 辻川智代

3. 資料目録には、資料番号、旧受入れ番号、分類、地方名、標準名、点数、収集地、資料の特徴、法量、重量を示し、写真を掲載した。

1) 資料番号

資料の分類順に、100001から始まる通し番号を付与した。原則として資料1点につき1整理番号を与えているが、品質・形状などにより複数点数で1整理番号を与えていることもある。

2) 旧受入れ番号

資料の一部は、滋賀県教育委員会により昭和54年度から平成7年度にかけて行われた滋賀県有形民俗文化財収集事業において収集されたものであり、その調査報告書（以下、『滋賀県の民具』⁽¹⁾と称する。）の中で受入れ番号を付した形ですでに公表されている。そのため、利用者の便宜をはかり、資料の対照ができたものについては『滋賀県の民具』での受入れ番号を旧受入れ番号として（ ）内に記した。

3) 分類

資料は、当館の民俗資料分類（別掲表1）に基づいて分類している。また、本書に収録した漁撈関係資料は、資料の性質を鑑みてさらに詳細な分類を行った（別掲表2）。

なお、当館の民俗資料分類は、文化庁内民俗文化財研究会編著『民俗文化財の手びき－調査・収集・保存・活用のために』1979年、および『滋賀県の民具』での分類を参考に、当館で独自に行ったものである。

4) 地方名

資料の名称は、その使用者、提供者等からの聞き取り情報に基づいて、地方名としてカタカナで記した。ただし、収集時の調査カード（県教育委員会作成の「滋賀県民俗文化財調査カード」、当館作成の「受入カード」など）に漢字表記のみで記録されているものについては、正確な読みが不明なため、漢字のままとした。なお、一部に不適切な表現も見られるが、民俗語彙という意味からそのままにした。

5) 標準名

資料の名称について、『滋賀県の民具』において標準名として記されたものがある場合には（ ）内にそれを記した。また、地方名が不詳のものについては、当館で標準名に相当するものとする「資料名」を〈 〉内に記した。ただし、この「資料名」は当館における資料整備の都合上、仮称として付与したものであり、現状ではこれらの名称を全国的に標準名として使用できるものとは考えていない。

6) 点数

資料の点数は、その形状や使用法など各資料の特性を考慮して計数した。従って、全体として統一された計数法とはなっていない。

7) 収集地

収集地名は、原則として収集時の呼称とし、表記は大字単位までとした。滋賀県では平成16年10月以降、市町村合併が行われ、本書の刊行時にはすでに地名が変更された地域もある。そのため、現地名表記と一致しない場合もある。

8) 資料の特徴

各資料について、資料収集時に作成した調査カードの記述をもとに、その製作あるいは入手に関する情報、および使用に関する情報を中心とした、資料の特徴を簡単に記した。特に、滋賀県有形民俗文化財収集事業により収集された資料については、「滋賀県民俗文化財調査カード」、および『滋賀県の民具』での記述をもとにしたため、旧所有者、調査員の表現に依る所が大きい。

9) 法量

単位は cm (センチメートル) とし、当館で計測した。特に、滋賀県有形民俗文化財収集事業により収集された資料については、破損、劣化等の要因により、収集時とは重量の異なるものも見られるため、一部の資料については再計測を行った。また、複数点あるものについては写真の位置により示した。

10) 重量

単位は g (グラム) とし、当館で計測した。特に、滋賀県有形民俗文化財収集事業により収集された資料については、破損、劣化等の要因により、収集時とは形状等の異なるものも見られるため、一部の資料については再計測を行った。また、複数点あるものについては写真の位置により示した。

11) 写真

本目録に収録した資料の全点について、写真を掲載した。写真撮影は用田政晴が行った。

4. 本目録に掲載した資料はすべてデータベース化され、当館の博物館情報システムに登録されている。また、これは当館のインターネットページ「データベース検索」(<http://www.lbm.go.jp/>) で公開している。
5. 本書は用田政晴、辻川智代、細川真理子、國分政子が編集した。

註

- (1) 滋賀県有形民俗文化財収集事業報告書として刊行されたものは以下の16冊である。

滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	1』	1980年
滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	2』	1981年
滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	3』	1982年
滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	4』	1983年
滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	5』	1984年
滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	6』	1985年
滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	7』	1987年
滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	8』	1988年
滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	9』	1989年
滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	10』	1990年
滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	11』	1991年
滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	12』	1992年
滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	13』	1993年
滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	14』	1994年
滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	15』	1995年
滋賀県教育委員会『滋賀県の民具 滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書	16』	1996年

表 1-1. 琵琶湖博物館所蔵民俗資料分類

大分類	中分類	小分類	大項目	大分類	中分類	小分類	大項目
1. 衣食住	A. 衣	1. かぶりもの	(1) 笠 (2) 帽子 (3) その他	2. 生産生業	D. 自然物採集	1. 採集・運搬用具	(1) 採集・運搬用具
		2. 着物類	(1) 長着 (2) 袴 (3) 羽織 (4) 襦袢 (5) 丹前、半纏、野良着 (6) でんち (7) 帯 (8) 帯付觸品 (9) 半衿 (10) 前掛 (11) 手甲 (12) 袴・股引 (13) 脚絆 (14) 腰巾 (15) 洋服		E. 農耕	2. 処理・加工用具	(1) 処理・加工用具
		3. はきもの	(1) 足袋 (2) 下駄 (3) 草履 (4) 草鞋 (5) 藁沓、かんじき (6) 靴			1. 焼畑用具	(1) 鋤 (2) 鍬 (3) 塊割 (4) 鋤鎌 (5) 犁 (6) 馬鍬 (7) 田下駄・桶杓 (8) 苗代用具 (9) 田植杓・田植繩 (10) 苗籠 (11) 土入機 (12) 掘串 (2) ゴイ (3) 竜尾車・竜骨車 (4) 踏車 (5) その他揚水用具 (6) 施肥用具 (7) 草刈爪・鎌 (8) 除草機 (9) 防虫用具 (10) その他管理用具
		4. 雨具・防寒具	(1) 合羽、道行 (2) 蓑			3. 管理用具	(1) 水桶 (2) ゴイ (3) 竜尾車・竜骨車 (4) 踏車 (5) その他揚水用具 (6) 施肥用具 (7) 草刈爪・鎌 (8) 除草機 (9) 防虫用具 (10) その他管理用具
		5. 化粧・結髪用具	(1) 化粧用具 (2) 結髪用具			4. 収穫・調整用具	(1) 収穫用具 (2) 千歯扱 (3) 足踏脱穀機 (4) 脱穀棒 (5) 豆脱穀用具 (6) 麦脱穀用具 (7) 唐箕 (8) 万石通 (9) 篩 (10) 箕 (11) 乾燥用具 (12) 土臼 (13) 精米用具 (14) 本地鉢 (15) その他収穫・調整用具
		6. 洗濯・裁縫用具	(1) 洗濯用具 (2) 裁縫用具			5. その他	(1) 製茶用具
		7. その他	(1) 布		F. 山樵	1. 山図面・入会文書 2. 施設(山小屋・炭焼窯) 3. 山樵用具	(1) 柚用具 (2) 木挽用具 (3) 炭焼用具
	B. 食	1. 食料	(1) 穀物貯蔵用具 (2) 水貯蔵用具 (3) その他貯蔵用具			4. 製品 5. 搬出用具 6. 儀礼用具 7. その他	(1) 搬出用具
		2. 貯蔵用具	(1) 釜 (2) 茶釜・茶罐 (3) 鍋 (4) その他鍋 (5) 鍋敷・鍋棚 (6) 蒸籠 (7) 洗米用具 (8) 櫛上げ籠		G. 採鉱・冶金	1. 施設・設備 2. 採鉱・冶金用具 3. 運搬・販売用具 4. 儀礼用具	
		3. 炊事用具	(1) 調理用具 (2) 半煮 (3) 紅鉢 (4) 搗鉢 (5) 餅つき用具 (6) 製粉用具 (7) 豆腐製造用具 (8) その他調理・調整用具		H. 漁撈	1. 漁具および漁撈関係用具	(1) 臨井漁具 (2) 定置漁具 (3) 網漁具 (4) 釣漁具 (5) 突漁具 (6) 伏せ漁具 (7) 目曳漁具 (8) 鰻狙具 (9) その他の漁具 (10) 漁業補助用具 (11) 漁具関係参考資料 (12) 漁具製作・修理用具 (13) 船 (14) 船関係用具 (15) 船関係参考資料 (16) 船大工道具 (17) 鍛冶屋道具 (18) その他の諸職道具 (19) 保存・運搬・交易用具 (20) 真珠養殖関係用具 (21) その他の水産加工用具 (22) その他
		4. 調理・調整用具	(1) 調理用具 (2) 半煮 (3) 紅鉢 (4) 搗鉢 (5) 餅つき用具 (6) 製粉用具 (7) 豆腐製造用具 (8) その他調理・調整用具			2. 漁具製作・修理用具 3. 船および船関係用具	
		5. 保存・加工用具	(1) 貯桶 (2) 漬物桶 (3) その他の保存・加工用具		I. 製塩	1. 製塩用具	
		6. 醸造・製造用具	(1) 味噌製造用具 (2) 醤油製造用具		J. 狩猟	1. 秘伝書・絵図 2. 狩猟用具 3. 処理用具 4. 儀礼用具	(1) 狩猟用具
		7. 嗜好品用具	(1) 喫茶用具 (2) 喫煙用具 (3) 飲酒用具		K. 養蚕	1. 飼育用具	(1) 桑摘用具 (2) 給桑用具 (3) 蚕盆・蚕棚 (4) 蚕網 (5) その他飼育用具 (6) 蔴折機・蔴 (1) 収穫用具
		8. 飲食器	(1) 飯櫃 (2) 鉢 (3) 重箱 (4) 膳 (5) 櫃 (6) 碗・鉢・皿 (7) 杓子 (8) 箸・匙 (9) 弁当箱 (10) 盆			2. 収穫・処理用具 3. 儀礼用具	
	C. 住	1. 屋敷構え	(1) 屋根瓦		L. 畜産	1. 飼育用具	(1) 牛飼育用具 (2) 牛の鞍 (3) 牛使役用具 (4) 養鶏用具 (5) 養蜂用具
		2. 住居	(2) 竈 (3) 井戸 (4) その他			2. 伯楽用具 3. 儀礼用具	
		3. 附属建物	(1) 風呂 (2) 便所 (3) その他				
		4. 家具・調度	(1) 簞笥 (2) 長持・扶箱 (3) 行李 (4) 水屋 (5) 机 (6) 座具 (7) 櫃 (8) 籠 (9) 提灯 (10) 行灯 (11) 火鉢 (12) 炬燵 (13) その他				
		5. 寝具	(1) 寝具 (2) 枕 (3) その他				
		6. 建築習俗用具	(1) 雪かき				
		7. 防護用具	(1) 蓑				
		8. その他	(1) 雪かき (2) 雪敷除用具 (3) その他				

表 1 - 2. 琵琶湖博物館所蔵民俗資料分類

大分類	中分類	小分類	大項目
2. 生産・生業	M. 染織	1. 織機	(1) 織機
		(2) 織機用具	
		2. 製糸用具	(1) 製糸用具
		(2) 繰繰機	
		(3) 糸車	
	N. 手細工	(4) 繰繰機	
		(5) 糸枠	
		3. 機織用具	(1) 繰掛・座繰
		(2) 糸枠	
		(3) 経台	
3. 交通・交易	O. 諸職	(4) 機	
		(5) その他機織り用具	
		4. 染料	(1) 染織用具
		5. 染織用具	(1) 原料
		1. 原料処理用具	(2) 細綿用具
	P. 運輸・運搬	(3) 柿渋製造用具	
		2. 細工用具	(1) 草鞋作台
		(2) 俵編機	
		(3) 袋機	
		(4) 俵製作用具	
4. 社会生活	Q. 交易	(5) その他細工用具	
		3. 製品	
		1. 組合	(1) 鍛冶屋用具
		2. 諸職用具	(2) 鋳屋用具
		(1) 鍛冶屋用具	(3) 仏具屋用具
	R. 社会生活	(4) フリキ屋用具	
		(5) 瓦屋用具	
		(6) 屋根屋用具	
		(7) 木地屋用具	
		(8) 合羽屋用具	
5. 信仰	S. 信仰	(9) その他諸職用具	
		1. 交通・運輸施設	(1) 牛の鞍
		2. 運搬用具	(2) 背負梯子
		(1) 交通・運輸施設	(3) 背巾・背巾・負い縄
		(2) 運搬用具	(4) 大秤棒
	T. 民俗知識	(3) 車・舟・橇	(5) 釜
		4. 旅行用具	(6) 籠
		5. 通信施設・用具	(7) 岡持
		6. 儀礼用具	(8) 手鉤
		1. 交易施設	(9) 風呂敷
6. 民俗知識	U. 民俗芸能	(2) 商業用具	(10) 袋
		2. 商業用具	(1) 荷車
		3. 計算・計量具	(2) 田舟
		4. 梱包用具	(1) 旅行用具
		5. 端礼類	(1) 通信用具
7. 芸能・娯楽	V. 娯楽・遊技	6. 看板・広告類	
		7. 証書・手形・貨幣類	
		8. 印章・絵符類	
		1. 共同施設	
		2. 共有道具	
	W. 人の一生	3. 防災・避難用具	(1) 防災用具
		4. 警防・刑罰用具	
		5. 家印・印判類	
		6. 贈答・社交用具	
		7. その他	
8. 人の一生	X. 年中行事	1. 聖地・祠堂	(1) 神体・偶像類
		2. 神体・偶像類	(2) 神棚
		3. 石塔	(3) 仏壇
		4. 神事・仏事用具	(1) 神事用具
		5. 神札・護符類	(2) 仏事用具
9. 年中行事	Y. 年中行事	6. 奉納・祈願品類	(1) 奉納札
		7. 縁起物類	
		8. 信仰関係服装・用具	(1) 信仰関係服装
		9. 憑霊関係用具	
		1. 教育施設・用具	(1) 文房具
10. その他	Z. その他	2. 医療・衛生施設	
		3. 薬品・医療・保健具	(1) 医療用具
		4. 暦・計時用具	(1) 時計
		5. 卜占・まじない用具	(1) 形代
		6. 規矩・準繩類	
11. その他	AA. その他	7. 計算・計量具	(1) 秤
		8. その他	(2) 枺
		1. 施設	(3) 算盤
		2. 設備	
		3. 大道具・小道具	
12. その他	BB. その他	4. 装束	
		5. 仮面類	
		6. 人形	
		7. 楽器	
		8. 文書	

大分類	中分類	小分類	大項目
7. 芸能・娯楽	V. 娯楽・遊技	1. 施設	
		2. 競技用具	
		3. 娯楽・遊戯具・玩具	(1) 娯楽・遊戯具・玩具
		4. 衣裳・曲譜類	
		5. その他	
	W. 人の一生	1. 産育施設	
		2. 妊娠・出産	
		3. 生児儀礼用具	(1) 宮参着
		4. 育児用具	(1) 産着
		(2) 着	
8. 人の一生	X. 年中行事	5. 七五三・成人祝用具	
		6. 結婚中の贈答品・縁起物の配物	
		7. 婚礼用具	
		8. 厄年・年祝の用具	(1) 祈禱
		9. 葬送用具	
	Y. 年中行事	10. 忌明け・年忌の用具	
		11. 喪屋・霊屋・墓	
		1. 一月	
		2. 二月	
		3. 三月	
9. 年中行事	Z. その他	4. 四月	
		5. 五月	
		6. 六月	
		7. 七月	
		8. 八月	
	AA. その他	9. 九月	
		10. 十月	
		11. 十一月	
		12. 十二月	

民具資料目録（４）

101456 (1435)

2-D-01-01

ホリカギ

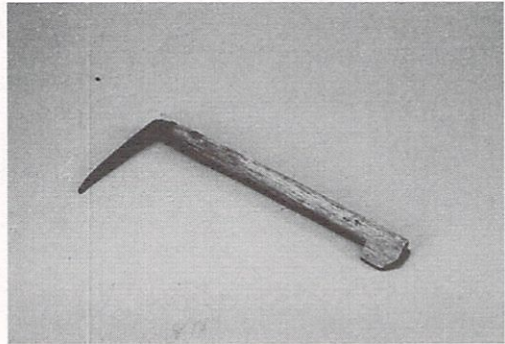
1点

伊香郡余呉町奥川並

鉄製。柄は桎製。山芋（自然薯）を掘る時、荒起こしを平鍬でした後、芋に接する所をこれで掘り、芋を折らないようにした。

法量(cm) 長41.0, 刃長13.6, (柄)径2.8

重量(g) 333



101457 (2786)

2-D-01-01

カキチギリ

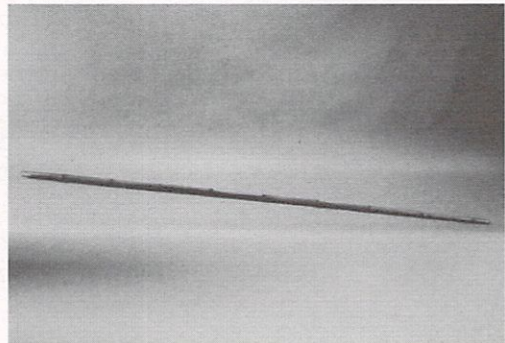
1点

坂田郡近江町高溝

爆竹で作る。波柿、甘柿、栗等の収穫時に使用。昭和30年代に製作。昭和50年代まで使用。

法量(cm) 長269.5, 径4.0, 切込11.0

重量(g) 703



101458

2-D-01-01

タケノコホリ

1点

近江八幡市牧町

鉄製の鍬先に桎製の柄を付ける。竹藪で筍を掘るのに使用。

法量(cm) 全長68.0, (鍬先)長29.0, 幅7.5, (柄)長径3.1, 短径2.6

重量(g) 1900



101459 (1792)

2-D-01-01

マツケカゴ (松茸籠)

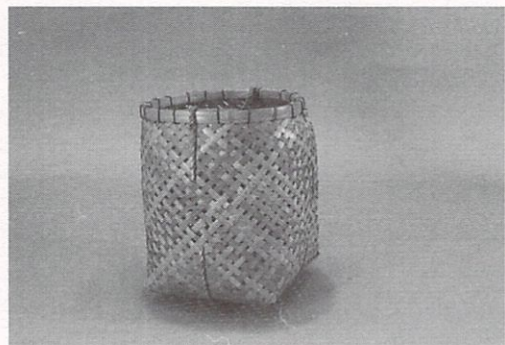
1点

八日市市大森町

割竹を編む。松茸狩りの時に使う。10月1日～30日まで集落の山を立入禁止にして「止め山」とし、松茸山の入札を行う。松茸山落札者はその期間毎日山へ入り松茸を収穫し、八日市の市場へ出荷した。大正時代中期～昭和28年頃まで使用。

法量(cm) 長径30.5, 短径29.0, 高39.0

重量(g) 700



101460 (1033)

2-E-02-01

スキ

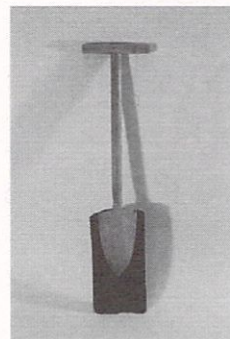
1点

東浅井郡浅井町鍛冶屋

鉄製の鍬先に桎製の柄を付ける。風呂鍬。大正末年に製作。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 全長89.8, (鍬先)長36.0, 幅17.5, (柄)径3.5, (握部)長21.8, 径3.6

重量(g) 2300



101461 (2041)

2-E-02-01

ホリ

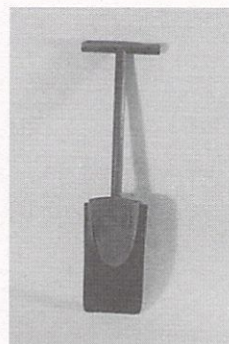
1点

伊香郡高月町唐川

鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。ホリベラ（柄）は大工、農家などで作り、鉄製の刃は鍛冶屋が作る。この型の鋤は湿田向きで、畑地では小型の鋤を使う。土を掘り起こすので「ホリ」と呼ぶ。刃先が摩滅すると鍛冶屋で付刃してもらった。焼印あり。

法量(cm) 全長86.9, (鋤先)長37.7, 幅18.0, (柄)径3.3, (握部)長25.0, 径3.1

重量(g) 3100



101462 (2041)

2-E-02-01

ホリ

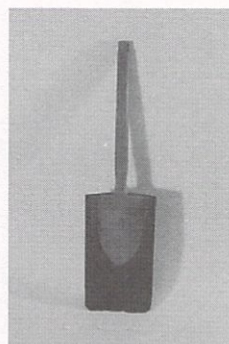
1点

伊香郡高月町唐川

鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。ホリベラ（柄）は大工、農家などで作り、鉄製の刃は鍛冶屋が作る。この型の鋤は湿田向きで、畑地では小型の鋤を使う。土を掘り起こすので「ホリ」と呼ぶ。刃先が摩滅すると鍛冶屋で付刃してもらった。焼印「唐川」など。

法量(cm) 全長80.0, (鋤先)長35.0, 幅18.5, (柄)径3.3

重量(g) 2600



101463 (2446)

2-E-02-01

スキ

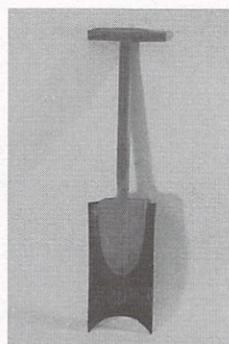
1点

坂田郡近江町宇賀野

鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。昭和初期～50年頃まで田起こしで使用。焼印「東ハふ平」「◎」。

法量(cm) 全長99.0, (鋤先)長43.0, 幅21.7, (柄)径4.5, (握部)長26.0, 径3.0

重量(g) 4000



101464 (1985)

2-E-02-01

ホリ

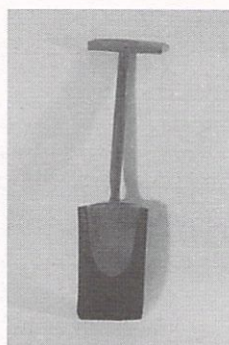
1点

坂田郡山東町柏原

鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。鉄製の刃は磨耗等で使用に耐えなくなると鍛冶屋へ修理に出した。柄は数回付け替えられている。田の土を起こすために使う。この作業を「田ハネ」「田起こし」と呼ぶ。昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 全長91.8, (鋤先)長38.6, 幅22.0, (柄)径3.7, (握部)長23.5, 径3.6

重量(g) 3400



101465 (1070)

2-E-02-01

スキ

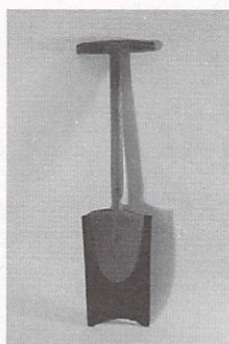
1点

長浜市加田町

鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 全長94.6, (鋤先)長38.8, 幅21.3, (柄)径3.9, (握部)長25.0, 径4.0

重量(g) 3300



101466 (167)

2-E-02-01

アゼホリボリ

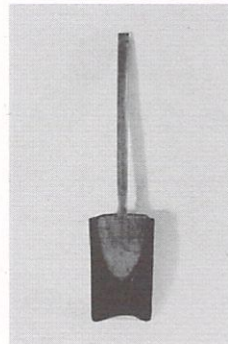
1点

長浜市国友町

鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。刃先は浅井町鍛冶屋で作られたものを購入。虎姫町宮部のホリスゲで柄を付ける。田の畦掘りに使う。畦の深さは鉄の部分一杯まで掘る。ホリで土を前にほりのけてゆく。畦作りにはこのホリの上に土をのせて畦の上に積む。昭和初期に製作。昭和20年頃まで使用。刃に刻印あり。

法量(cm) 全長89.0, (鋤先) 長34.0, 幅22.0, (柄) 径3.4

重量(g) 3200



101467 (2447)

2-E-02-01

コスキ

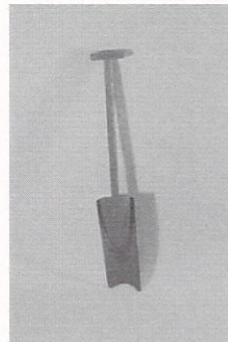
1点

坂田郡近江町宇賀野

鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。畦ぬりのあと、小鋤でなでて仕上げる。昭和40年頃まで使用。

法量(cm) 全長81.0, (鋤先) 長32.5, 幅12.5, (柄) 径3.0, (握部) 長11.3, 径2.6

重量(g) 1200



101468 (2042)

2-E-02-01

スキベラ

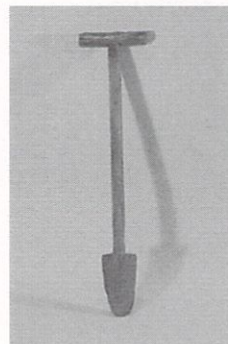
1点

伊香郡高月町唐川

桎製。刃先は欠損。風呂鋤。このような柄はこの地方の農家、大工で作られていた。材料は桎の木が多い。焼印あり。

法量(cm) 全長70.3, (鋤先) 長15.5, 幅9.3, (柄) 径3.4, (握部) 長17.1, 径3.0

重量(g) 498



101469 (2042)

2-E-02-01

スキベラ

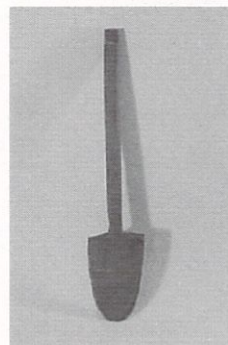
1点

伊香郡高月町唐川

桎製。刃先は欠損。風呂鋤。このような柄はこの地方の農家、大工で作られていた。材料は桎の木が多い。金属の刃先をつけ、水田で使った。

法量(cm) 全長79.5, (鋤先) 長25.0, 幅15.7, (柄) 径3.6

重量(g) 886



101470 (1033)

2-E-02-01

スキ

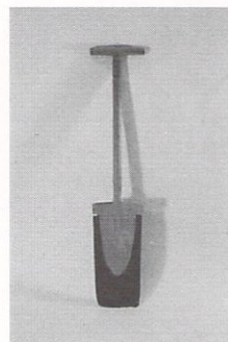
1点

東浅井郡浅井町鍛冶屋

鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。大正末年に製作。昭和30年頃、鉄製の柄に替わるまで長く使われた。

法量(cm) 全長98.1, (鋤先) 長35.9, 幅16.2, (柄) 径3.3, (握部) 長19.9, 径3.2

重量(g) 2500



101471 (1685)

2-E-02-01

ホリ

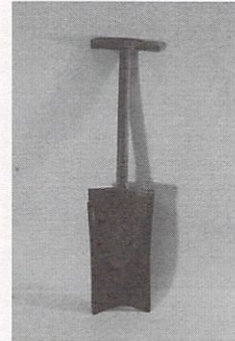
1点

東浅井郡浅井町瓜生

鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。田起こし、荒起こし、土砕きなどに使用した。

法量(cm) 全長97.0, (鋤先) 長40.0, 幅21.0, (柄) 径3.9, (握部) 長24.2, 径3.4

重量(g) 3600



101472 (1986)

2-E-02-01

ホリ

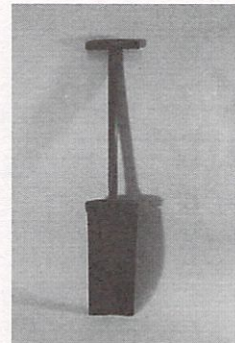
1点

坂田郡山東町柏原

鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。刃先は磨耗等で使用に耐えなくなると修理に鍛冶屋へ出した。柄のすげ替えが何度かなされている。田の排水溝を掘ったり、田起こしの口明け用として用いた。昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 全長101.8, (鋤先) 長39.0, 幅17.0, (柄) 径3.4, (握部) 長19.5, 径3.0

重量(g) 3000



101473 (3302)

2-E-02-01

スキ

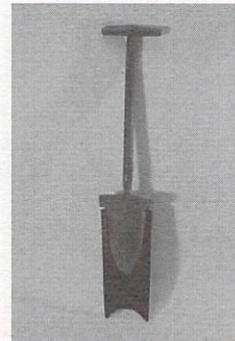
1点

坂田郡近江町宇賀野

鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。水田の耕起(はね田)に使用。鋤の形態としては古いものである。昭和50年代まで使用。

法量(cm) 全長105.0, (鋤先) 長40.5, 幅15.5, (柄) 径3.7, (握部) 長21.4, 径3.5

重量(g) 3100



101474 (3302)

2-E-02-01

スキ

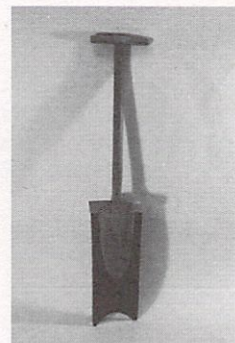
1点

坂田郡近江町宇賀野

鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。水田の耕起(はね田)に使用。鋤の形態としては古いものである。昭和50年代まで使用。

法量(cm) 全長106.0, (鋤先) 長41.5, 幅16.5, (柄) 径3.6, (握部) 長21.3, 径3.5

重量(g) 3200



101475 (2446)

2-E-02-01

スキ

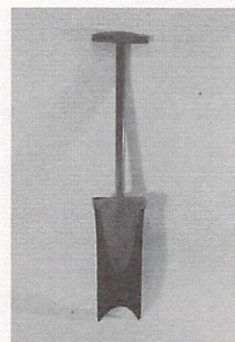
1点

坂田郡近江町宇賀野

鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。3月～4月頃、この鋤で田の土を30cm角に耕耘する作業を「はね田」という。はね田のあとは三ツ鍬で田砕きをした。背丈により鋤を使い分けた。昭和50年頃まで使用。

法量(cm) 全長107.0, (鋤先) 長43.0, 幅17.0, (柄) 径3.5, (握部) 長21.5, 径2.5

重量(g) 3000



101476 (2446)

2-E-02-01

スキ

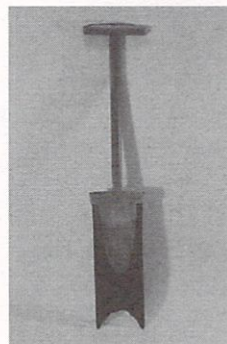
1点

坂田郡近江町宇賀野

鉄製の鋤先に櫛製の柄を付ける。風呂鋤。3月～4月頃、この鋤で田の土を30cm角に耕耘する作業を「はね田」という。はね田のあとは三ツ鎌で田碎きをした。背丈により鋤を使い分けた。昭和50年頃まで使用。焼印「◎」。

法量(cm) 全長111.5, (鋤先) 長47.0, 幅18.0, (柄) 径3.5, (握部) 長21.5, 径2.0

重量(g) 3900



101477 (101)

2-E-02-01

サキヤリスキ

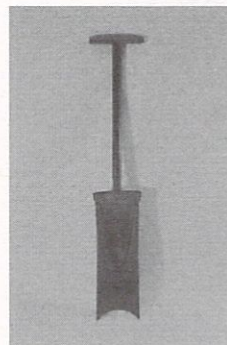
1点

坂田郡米原町磯

鉄製の鋤先に櫛製の柄を付ける。風呂鋤。刃先は米原町磯の鍛冶屋に頼んだ。米原町米原の小玉というハナエ屋(スゲヤ、スキヤ)に柄をつけてもらった。鋤が大きく重いので持ち上げずに刃先だけを左右に倒しながらすいていく。畝の土を砕くときにも使用した。大正時代に使用。

法量(cm) 全長111.0, (鋤先) 長47.0, 幅17.5, (柄) 径3.5, (握部) 長21.0, 径3.1

重量(g) 3000



101478 (1685)

2-E-02-01

ホリ

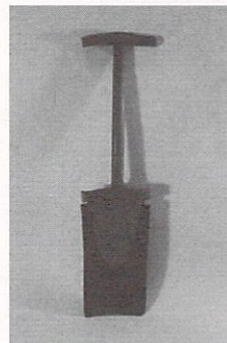
1点

東浅井郡浅井町瓜生

鉄製の鋤先に櫛製の柄を付ける。風呂鋤。田起こし、荒起こし、土碎きに使用。刻印あり。

法量(cm) 全長95.0, (鋤先) 長40.0, 幅21.0, (柄) 径3.8, (握部) 長24.4, 径3.5

重量(g) 3400



101479 (164)

2-E-02-01

タハネボリ

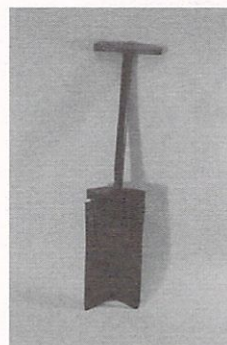
1点

長浜市国友町

鉄製の鋤先に櫛製の柄を付ける。風呂鋤。鋤先は浅井町鍛冶屋で購入し、虎姫町宮部のホリスゲで柄をつけてもらう。田ハネ(土をほり起こす)に使う。土は鋤先と同じ深さをほり起こす。はねた土は前に起こしていく。昭和20年頃まで使用。刻印「国友東」。

法量(cm) 全長103.0, (鋤先) 長43.0, 幅22.0, (柄) 径3.5, (握部) 長26.4, 径3.5

重量(g) 4800



101480 (356)

2-E-02-01

オオスキ

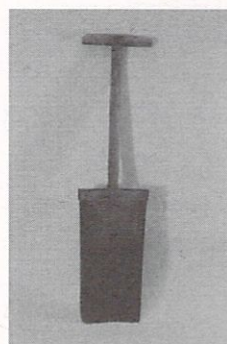
1点

八日市市建部日吉町

鉄製の鋤先に櫛製の柄を付ける。風呂鋤。湿田で使用。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 全長105.5, (鋤先) 長45.5, 幅22.3, (柄) 径3.8, (握部) 長24.9, 径3.5

重量(g) 5600



101481 (294)

2-E-02-01

オオスキ

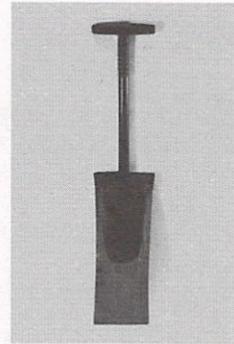
1点

八日市市建部上中町

鉄製の鋤先に桜製の柄を付ける。風呂鋤。湿田の土起こしに使用。明治時代初期～30年頃まで使用。

法量(cm) 全長103.0, (鋤先) 長49.0, 幅19.5, (柄) 径4.0, (握部) 長21.5, 径3.0

重量(g) 4400



101482 (1678)

2-E-02-01

ソギバナシャミズキ

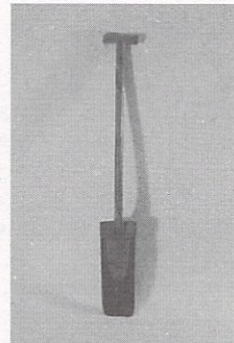
1点

八日市市御園町

鉄製の鋤先に桜製の柄を付ける。風呂鋤。

法量(cm) 全長97.5, (鋤先) 長28.0, 幅11.5, (柄) 径2.9, (握部) 長12.0, 径3.0

重量(g) 1500



101483 (56)

2-E-02-01

ソギバナシャミズキ

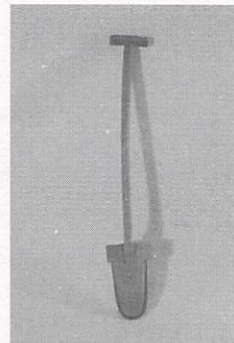
1点

八日市市瓜生津町

鉄製の鋤先に桜製の柄を付ける。風呂鋤。焼印あり。

法量(cm) 全長100.5, (鋤先) 長31.5, 幅12.5, (柄) 径2.6, (握部) 長12.0, 径3.0

重量(g) 849



101484

2-E-02-01

スキ

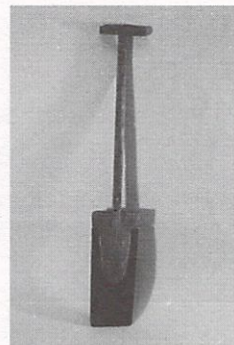
1点

神崎郡能登川町伊庭

鉄製の鋤先に桜製の柄を付ける。風呂鋤。

法量(cm) 全長102.8, (鋤先) 長24.9, 幅14.8, (柄) 径3.0, (握部) 長15.9, 径2.8

重量(g) 2400



101485 (1948)

2-E-02-01

スキ

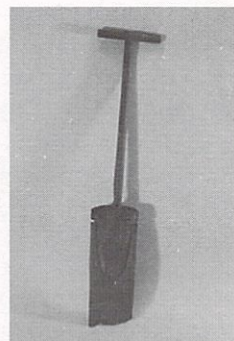
1点

神崎郡能登川町今

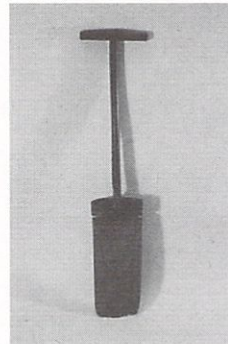
鉄製の鋤先に桜製の柄を付ける。風呂鋤。昭和20年頃まで田畑の耕作に使用。焼印あり。

法量(cm) 全長104.0, (鋤先) 長37.5, 幅15.4, (柄) 径3.0, (握部) 長21.5, 径3.1

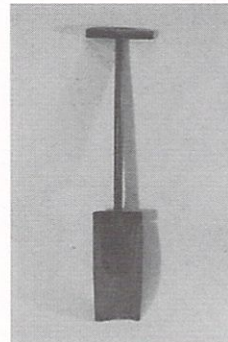
重量(g) 2100



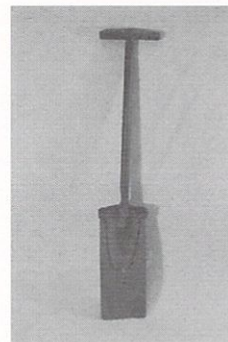
101486 (1948) 2-E-02-01
 スキ 1点
 神崎郡能登川町今
 鉄製の鋤先に櫛製の柄を付ける。風呂鋤。昭和20年頃まで田畑の耕作に使用。焼印あり。
 法量(cm) 全長96.0, (鋤先) 長34.3, 幅15.6, (柄) 径2.9, (握部) 長22.3, 径3.4
 重量(g) 2000



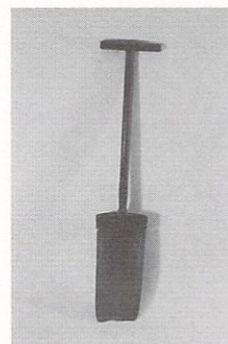
101487 (1948) 2-E-02-01
 スキ 1点
 神崎郡能登川町今
 鉄製の鋤先に櫛製の柄を付ける。風呂鋤。昭和20年頃まで田畑の耕作に使用。
 法量(cm) 全長96.8, (鋤先) 長32.8, 幅15.6, (柄) 径2.6, (握部) 長21.7, 径2.9
 重量(g) 2100



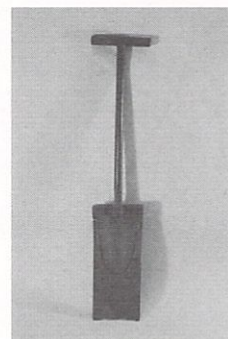
101488 (1948) 2-E-02-01
 スキ 1点
 神崎郡能登川町今
 鉄製の鋤先に櫛製の柄を付ける。風呂鋤。昭和20年頃まで田畑の耕作に使用。
 法量(cm) 全長99.0, (鋤先) 長35.3, 幅15.8, (柄) 径3.1, (握部) 長19.7, 径3.1
 重量(g) 2300



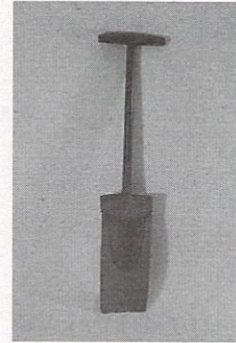
101489 (1948) 2-E-02-01
 スキ 1点
 神崎郡能登川町今
 鉄製の鋤先に櫛製の柄を付ける。風呂鋤。昭和20年頃まで田畑の耕作に使用。焼印あり。
 法量(cm) 全長98.5, (鋤先) 長33.0, 幅16.0, (柄) 径3.0, (握部) 長20.6, 径2.9
 重量(g) 2000



101490 (1649) 2-E-02-01
 スキ 1点
 神崎郡能登川町伊庭
 鉄製の鋤先に櫛製の柄を付ける。風呂鋤。畦をつくったり、溝を掘る時に使う。焼印あり。
 法量(cm) 全長105.0, (鋤先) 長37.5, 幅17.4, (柄) 径3.2, (握部) 長21.4, 径3.5
 重量(g) 3000



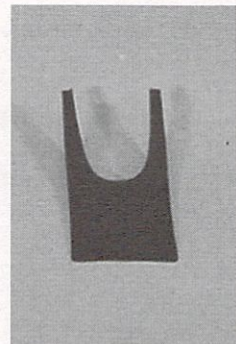
101491 (1948) 2-E-02-01
 スキ 1点
 神崎郡能登川町今
 鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。昭和20年頃まで田畑の耕作に使用。
 法量(cm) 全長98.5, (鋤先) 長36.0, 幅17.2, (柄) 径3.1, (握部) 長23.1, 径3.5
 重量(g) 2900



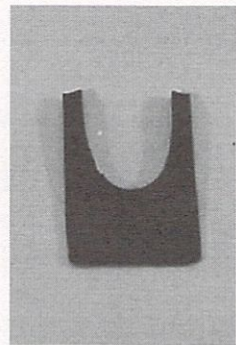
101492 (1948) 2-E-02-01
 スキ 1点
 神崎郡能登川町今
 鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。昭和20年頃まで田畑の耕作に使用。焼印あり。
 法量(cm) 全長97.8, (鋤先) 長37.2, 幅18.2, (柄) 径3.6, (握部) 長22.7, 径3.7
 重量(g) 3600



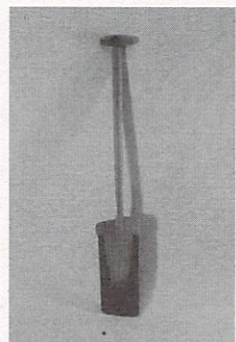
101493 (1950) 2-E-02-01
 スキノハサキ 1点
 神崎郡能登川町今
 鉄製の鋤先。田畑の耕作用具。昭和20年頃まで使用。
 法量(cm) 長31.8, 幅12.2
 重量(g) 800



101494 (1950) 2-E-02-01
 スキノハサキ 1点
 神崎郡能登川町今
 鉄製の鋤先。田畑の耕作用具。昭和20年頃まで使用。
 法量(cm) 長35.6, 幅16.0
 重量(g) 1600



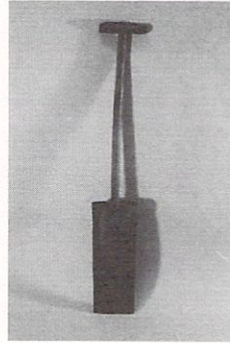
101495 (1879) 2-E-02-01
 スキ 1点
 大津市坂本本町
 鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。風呂鋤。鋤先が傷むと坂本の鳥井鍛冶屋で修理した。野鍛冶も回ってきて修理した。鋤の刃先は水につけて抜く。田の土をすくい取ったり、四角にとったりするのに使用。大正時代まで使用。
 法量(cm) 全長98.5, (鋤先) 長29.4, 幅13.8, (柄) 径3.3, (握部) 長11.1, 径3.2
 重量(g) 1500



101496
スキ

2-E-02-01
1点

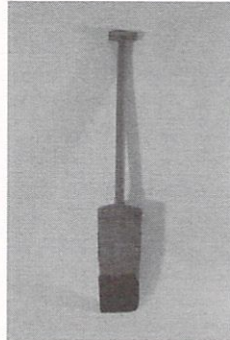
鉄製の鋤先に櫛製の柄を付ける。風呂鋤。焼印あり。
法量(cm) 全長103.9, (鋤先)長36.0, 幅14.6, (柄)径2.9, (握部)長
16.4, 径3.4
重量(g) 2500



101497 (984)
スキ

2-E-02-01
1点

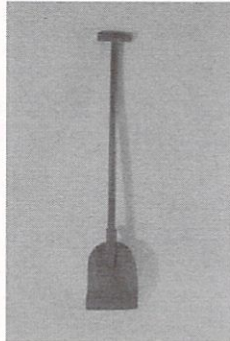
神崎郡永源寺町山上
檜で柄と鋤先を一本で作る。握り手は別作り。鋤先の両面に薄手の鉄板を貼り付ける。耕土が軟らかく、小石などの混入していない、湿田で使用されたもの。一般の荒土の水田では破損しやすく不向き。焼印「□保大垣 柄吉」など。
法量(cm) 全長102.8, (鋤先)長30.2, 幅14.8, (柄)長72.6, 径3.5, (握部)長10.2, 径3.2
重量(g) 1075



101498 (480)
スキ

2-E-02-01
1点

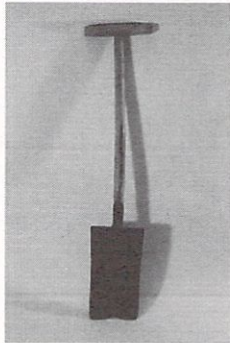
八日市市布施町
檜製の柄に栗製の鋤先をつけ、その先に鉄板を貼る。水田用の鋤。江戸時代に製作、使用。
法量(cm) 全長110.5, (鋤先)長10.0, 幅21.0, (柄)長77.0, 径2.9, (握部)長13.0, 径3.2
重量(g) 1000



101499
スキ

2-E-02-01
1点

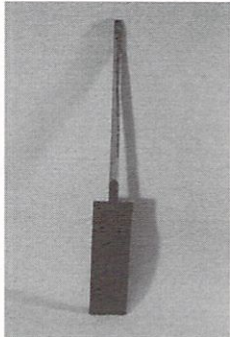
鉄製の鋤先に櫛製の柄を付ける。焼印あり。
法量(cm) 全長95.7, (鋤先)長30.5, 幅16.0, (柄)径3.0, (握部)長21.1, 径3.6
重量(g) 2000



101500
スキ

2-E-02-01
1点

鉄製の鋤先に櫛製の柄を付ける。焼印あり。
法量(cm) 全長103.0, (鋤先)長40.8, 幅13.0, (柄)径3.1
重量(g) 2100



101501 (1439)

2-E-02-01

スキ

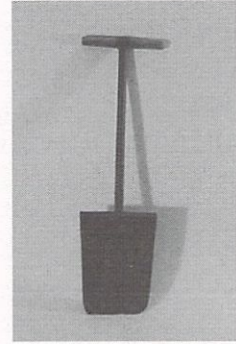
1点

東浅井郡浅井町内保

鋤先から柄までを鉄で一体に作る。握部のみ桎製のものを差し込む。水田の荒掘りや畦作りに使用した。昭和20年～25年まで使用。

法量(cm) 全長88.3, (鋤先)長33.0, 幅20.8, (柄)径2.6, (握部)長25.7, 径3.2

重量(g) 2700



101502 (1858)

2-E-02-01

ホリ

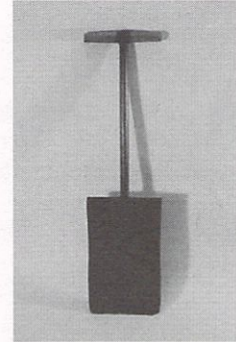
1点

坂田郡山東町柏原

鋤先から柄までを鉄で一体に作る。握部のみ木製。田の土に突きさして取手を手前に引き、鋤部に足をかけ、土をめくる。土をカエス（めくる）までにハネコミと称して、稲藁、レンゲ草、畦草などを入れ、根肥にする。昭和21年～38年まで使用。

法量(cm) 全長91.9, (鋤先)長38.5, 幅23.8, (柄)径2.7, (握部)長24.9, 径3.4

重量(g) 3900



101503 (2977)

2-E-02-01

ハネタスキ

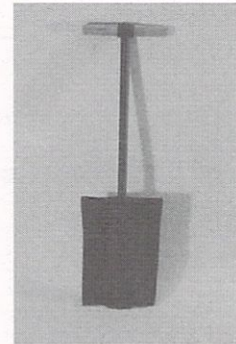
1点

坂田郡近江町高溝

撞木以外は鉄製。田を鋤く。昭和初年に製作。昭和40年頃まで使用。

法量(cm) 全長88.0, (鋤先)長35.5, 幅23.3, (柄)径2.6, (握部)長25.7, 径3.0

重量(g) 3200



101504

2-E-02-01

スキ

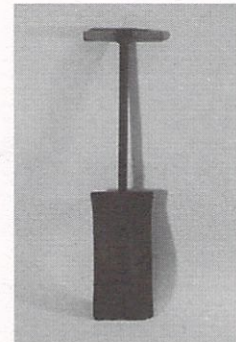
1点

神崎郡能登川町伊庭

鋤先から柄までを鉄で一体に作る。握部のみ桎製。

法量(cm) 全長89.5, (鋤先)長40.0, 幅19.4, (柄)径2.8, (握部)長24.7, 径3.4

重量(g) 3000



101505 (1948)

2-E-02-01

スキ

1点

神崎郡能登川町今

鉄製の鋤先に桎製の柄を付ける。田畑の耕作。昭和30年代まで使用。焼印あり。

法量(cm) 全長98.5, (鋤先)長37.2, 幅10.8, (柄)径3.2, (握部)長15.2, 径3.3

重量(g) 1600



101506 (1948)

2-E-02-01

スキ

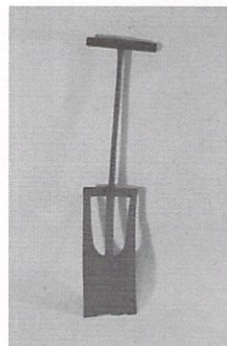
1点

神崎郡能登川町今

鋤先から柄までを鉄で一体に作る。握部のみ桎製。田畑の耕作。昭和20年頃まで使用。焼印あり。

法量(cm) 全長94.3, (鋤先) 長44.9, 幅18.6, (柄) 径1.9, (握部) 長24.2, 径3.4

重量(g) 4100



101507 (395)

2-E-02-01

スキ

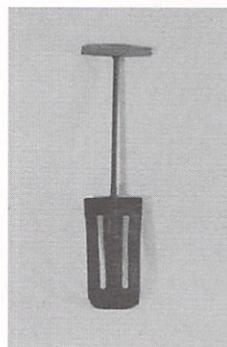
1点

神崎郡能登川町伊庭

鋤先から柄までを鉄で一体に作る。握部のみ桎製。明治時代～昭和30年代まで使用。

法量(cm) 全長90.4, (鋤先) 長39.5, 幅18.3, (柄) 径1.9, (握部) 長23.9, 径3.6

重量(g) 4000



101508 (394)

2-E-02-01

スキ

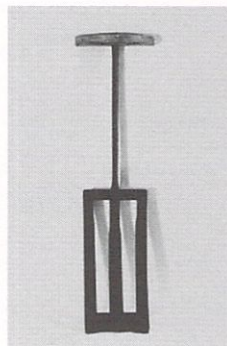
1点

神崎郡能登川町伊庭

鋤先から柄までを鉄で一体に作る。握部のみ桎製。田畑の耕起用。明治時代～昭和30年代まで使用。

法量(cm) 全長88.7, (鋤先) 長44.0, 幅19.6, (柄) 径2.0, (握部) 長24.0, 径3.5

重量(g) 4000



101509 (1948)

2-E-02-01

スキ

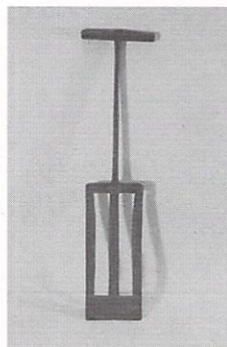
1点

神崎郡能登川町今

鋤先から柄までを鉄で一体に作る。握部のみ桎製。田畑の耕作に使用。昭和20年頃まで使用。焼印あり。

法量(cm) 全長96.3, (鋤先) 長46.4, 幅19.0, (柄) 径2.0, (握部) 長24.4, 径3.3

重量(g) 3800



101510 (1948)

2-E-02-01

スキ

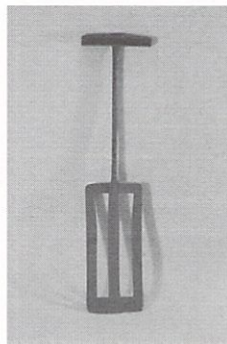
1点

神崎郡能登川町今

鋤先から柄までを鉄で一体に作る。握部のみ桎製。田畑の耕作に使用。昭和20年頃まで使用。焼印あり。

法量(cm) 全長93.5, (鋤先) 長44.5, 幅19.0, (柄) 径1.9, (握部) 長22.6, 径3.4

重量(g) 4000



101511

2-E-02-01

ゲタスキ

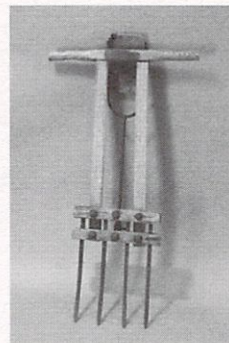
1点

神崎郡能登川町伊庭

刃は鉄製。柄と下駄は木製。

法量(cm) 全長96.8, (鋤先) 長40.6, 幅26.2, (柄) 幅4.1, (握部) 長54.6, 径3.7, (下駄) 幅11.4, 長21.2

重量(g) 6000



101512 (392)

2-E-02-01

ゲタスキ

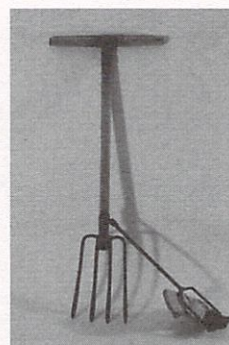
1点

神崎郡能登川町伊庭

刃は鉄製。柄と下駄は木製。下駄に足をかけ連続的に耕起する。大正時代末期～昭和30年代まで使用。

法量(cm) 全長100.6, (鋤先) 長30.6, 幅20.4, (柄) 径3.3, (握部) 長40.6, 径3.1, (下駄) 幅10.2, 長23.6

重量(g) 3900



101513 (409)

2-E-02-01

ゲタスキ

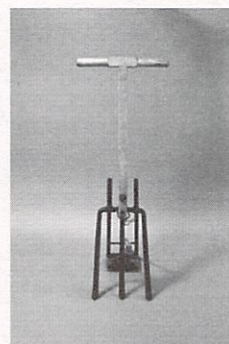
1点

神崎郡能登川町伊庭

刃は鉄製。柄と下駄は桎製。浅く堅い田で使用。大正時代～昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 全長101.8, (鋤先) 長41.5, 幅26.5, (柄) 径3.4, (握部) 長37.7, 径3.3, (下駄) 幅10.8, 長14.9

重量(g) 6200



101514 (1949)

2-E-02-01

ゲタスキ

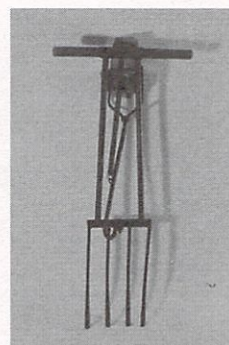
1点

神崎郡能登川町今

刃と柄は鉄製。握部と下駄は木製。深田の耕起用。テコの原理でゲタを支点に掘り起こした。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 全長102.2, (鋤先) 長41.0, 幅23.2, (柄) 径2.1, (握部) 長49.0, 径3.2, (下駄) 幅11.2, 長21.2

重量(g) 6100



101515 (1949)

2-E-02-01

ゲタスキ

1点

神崎郡能登川町今

刃と柄は鉄製。握部と下駄は木製。深田の耕起用。テコの原理でゲタを支点に掘り起こした。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 全長99.3, (鋤先) 長48.0, 幅24.3, (柄) 径2.0, (握部) 長48.4, 径3.2, (下駄) 幅10.6, 長21.3

重量(g) 6900



101516 (1430)

2-E-02-02

アゼヌリグワ

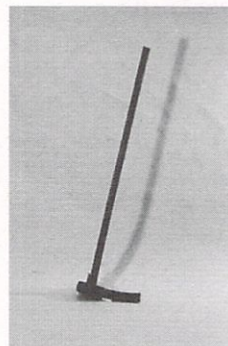
1点

伊香郡余呉町中之郷

木の台に鉄製の鍬先をはめ、櫛製の柄を付ける。風呂鍬。田の畔に土をあげ、上をなでて美しく塗る。大正時代に使用。

法量(cm) 全長122.5, (鍬先) 長31.6, 幅10.0, (柄) 長径3.3, 短径2.7

重量(g) 1300



101517 (212)

2-E-02-02

クワ (鍬)

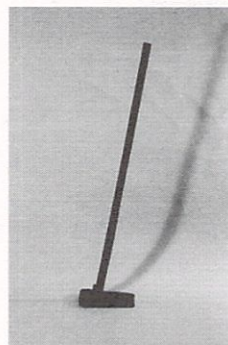
1点

伊香郡木之本町大音

櫛製の台に鉄製の刃先をはめ、櫛製の柄を付ける。風呂鍬。畑作に使用。明治時代まで使用。焼印あり。

法量(cm) 全長114.5, (鍬先) 長25.0, 幅12.0, (柄) 長径3.1, 短径2.5

重量(g) 1400



101518 (1900)

2-E-02-02

ヒラクワ

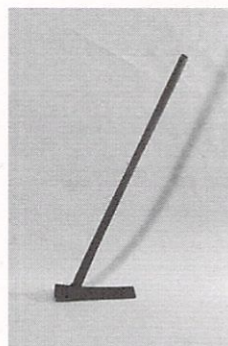
1点

東浅井郡浅井町

櫛製の台に鉄製の刃先をはめ、櫛製の柄を付ける。風呂鍬。柄が折れたため、途中で接ぎ木してある。

法量(cm) 全長104.4, (鍬先) 長32.1, 幅9.3, (柄) 長径3.2, 短径2.2

重量(g) 1200



101519 (1483)

2-E-02-02

アゼヒラグワ

1点

坂田郡伊吹町寺林

櫛製の台に鉄製の刃先をはめ、木製の柄を付ける。風呂鍬。水田耕作に使用した。畦塗り用という。

法量(cm) 全長93.8, (鍬先) 長36.5, 幅8.6, (柄) 径3.0

重量(g) 1400



101520 (3830)

2-E-02-02

フログワ (風呂鍬)

1点

坂田郡山東町野一色

櫛製の台に鉄製の刃先をはめ、櫛製の柄を付ける。風呂鍬。田起こし、畑の畝立て、土かけなどに使用した。大正時代～昭和初年に製作。昭和20年代まで使用。

法量(cm) 全長110.5, (鍬先) 長37.7, 幅12.5, (柄) 長径3.0, 短径2.4

重量(g) 1400



101521 (2449)

2-E-02-02

フログワ (風呂鍬)

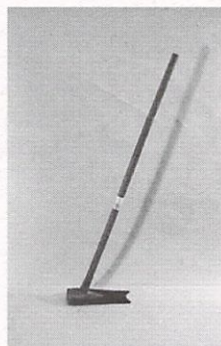
1点

坂田郡近江町宇賀野

櫛製の台に鉄製の刃先をはめ、櫛製の柄を付ける。風呂鍬。水田や畑地で使用。大正時代に製作。昭和40年代まで使用。焼印「◎」。

法量(cm) 全長170.0, (鍬先) 長28.5, 幅11.0, (柄) 長径3.0, 短径1.5

重量(g) 1500



101522 (159)

2-E-02-02

カラクワ (唐鍬)

1点

長浜市国友町

櫛製の台に鉄製の刃先をはめ、櫛製の柄を付ける。風呂鍬。鍬先の鉄の部分は東浅井郡浅井町鍛冶屋で購入し、虎姫町宮部のホリスゲで木の部分につけてもらう。やわらかい田や湿田の土の荒起こしに使用した。昭和10年頃に製作。昭和25年頃まで使用。

法量(cm) 全長106.0, (鍬先) 長26.0, 幅11.0, (柄) 長径3.4, 短径2.9

重量(g) 1400



101523 (272)

2-E-02-02

カイコングワ (開墾鍬)

1点

八日市市三津屋町

櫛製の台に鉄製の刃先をはめ、櫛製の柄を付ける。風呂鍬。田畑の開墾に使用。江戸時代末期～明治時代初期まで使用。

法量(cm) 全長90.5, (鍬先) 長38.0, 幅14.0, (柄) 長径3.5, 短径3.0

重量(g) 2700



101524 (850)

2-E-02-02

アゼヌリクワ

1点

八日市市御園町

櫛製の台に鉄製の刃先をはめ、櫛製の柄を付ける。風呂鍬。水田の畔塗り用。畦は土の上に粗蕨と藁を置き、上から鍬で泥土を塗り、漏水を防いだ。明治時代中期～昭和40年頃まで使用。焼印あり。

法量(cm) 全長91.2, (鍬先) 長36.2, 幅14.3, (柄) 長径3.5, 短径3.4

重量(g) 2400



101525 (955)

2-E-02-02

ヒラグワ

1点

蒲生郡日野町寺尻

櫛製の台に鉄製の刃先をはめ、櫛製の柄を付ける。風呂鍬。農作業に使用。明治時代中期～昭和20年頃まで使用。焼印あり。

法量(cm) 全長119.0, (鍬先) 長31.4, 幅12.3, (柄) 長径3.0, 短径2.8

重量(g) 1600



101526 (1920)

2-E-02-02

キグワ

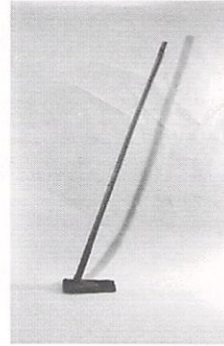
1点

大津市坂本町

櫛製の台に鉄製の刃先をはめ、櫛製の柄を付ける。風呂鍬。畑の土入れなどに使用。明治時代～大正時代まで使用。

法量(cm) 全長131.3, (鍬先) 長27.4, 幅12.1, (柄) 径2.8

重量(g) 1400



101527 (1097)

2-E-02-02

ダンガ

1点

大津市南滋賀

櫛製の台に鉄製の刃先をはめ、櫛製の柄を付ける。風呂鍬。畦ぬり、畝切りに使用。戦前まで使用。焼印あり。

法量(cm) 全長96.5, (鍬先) 長36.0, 幅14.1, (柄) 長径3.5, 短径3.0

重量(g) 2600



101528 (3862)

2-E-02-02

ハタケグワ

1点

高島郡朽木村麻生

櫛製の台に鉄製の刃先をはめ、櫛製の柄を付ける。風呂鍬。先金(サキガネ)は鍛冶職人が取替えた。この鍬の先は後で取り替えたものか。耕起用、除草用、作畦用で柄を付ける角度が異なったという。畑作業専用に使用。木部が痩せて先金が落ちようになってから使用せず。大正時代～戦前まで使用。

法量(cm) 全長137.0, (鍬先) 長28.2, 幅12.0, (柄) 径3.3

重量(g) 1200



101529 (2127)

2-E-02-02

クワ

1点

高島郡今津町椋川

櫛製の台に鉄製の刃先をはめ、櫛製の柄を付ける。風呂鍬。湿田、畑の耕作に使用。大正時代～昭和初期まで使用。

法量(cm) 全長93.4, (鍬先) 長35.0, 幅13.4, (柄) 径3.2

重量(g) 1800



101530

2-E-02-02

(不詳) 〈鍬〉

1点

櫛製の台に鉄製の刃先をはめ、櫛製の柄を付ける。風呂鍬。焼印「毛甚」。

法量(cm) 全長88.5, (鍬先) 長22.8, 幅13.2, (柄) 径2.8

重量(g) 1400



101531

インドグワ

近江八幡市牧町

木製の台に鉄製の刃先をはめ、櫛製の柄を付ける。風呂鍬。泥を混ぜるのにオトコシ（男衆）が使用。柄が短いため、中腰で使用する。

法量(cm) 全長88.0, (鍬先) 長30.2, 幅11.0, (柄) 長径3.3, 短径2.7

重量(g) 1500

2-E-02-02

1点



101532 (1950)

スキノハサキ

神崎郡能登川町今

鉄製。柄、台は欠損。田畑の耕作用具。昭和20年頃まで使用。

法量(cm) 長25.3, 幅9.4

重量(g) 410

2-E-02-02

1点



101533

(不詳) 〈鍬〉

櫛製の台に鉄製の刃を付ける。柄は欠損。

法量(cm) 長24.4, 幅10.9

重量(g) 600

2-E-02-02

1点



101534 (2042)

クワノエ

伊香郡高月町唐川

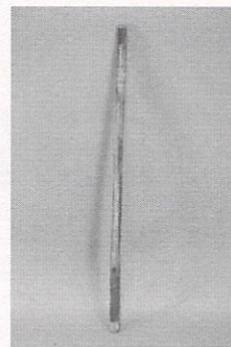
櫛製の台と柄。刃先は欠損。木部は地方の農家や大工で作られていた。金属の刃先をつけ、水田で使用した。焼印あり。

法量(cm) 長116.0, 長径3.4, 短径2.5

重量(g) 548

2-E-02-02

1点



101535 (1426)

ヒラクワ

伊香郡余呉町中之郷

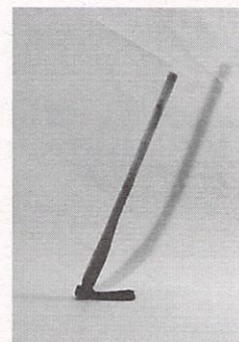
櫛製の柄に鉄製の刃先を付ける。鉄で形をつくり、先にハガネを先かけし、砂利の多い硬い土でも耐えられるようにしている。畑の畦、溝、穴掘りなどに使用。また、木の根の多い所で根を先で切り取りながら掘りすすむ。この鍬は明治時代から80年程使用されたもので、先も減り小さくなっているが、元は大きく重い。墨書あり。

法量(cm) 全長91.3, (刃) 長22.6, 幅8.0, (柄) 長径3.4, 短径2.5

重量(g) 1200

2-E-02-02

1点



101536 (1902)

2-E-02-02

クワ

1点

東浅井郡浅井町

鉄製。鍬。柄は欠損。

法量(cm) 長20.1, 幅8.3

重量(g) 538



101537 (1950)

2-E-02-02

スキノハサキ

1点

神崎郡能登川町今

鉄製。鍬。柄は欠損。戦前まで田畑の耕作に使用。

法量(cm) 長19.2, 幅8.5

重量(g) 468



101538 (3817)

2-E-02-02

トグワ

1点

坂田郡山東町野一色

鉄製の鍬先に櫛製の柄を付ける。筍掘りなど、根を起こすときに使用した。昭和初年に製作。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 全長75.0, (鍬先) 長18.7, 幅8.2, (柄) 長径3.0, 短径2.4

重量(g) 1400



101539 (1427)

2-E-02-02

サキボソクワ

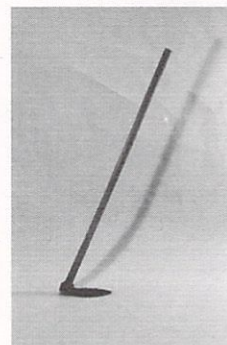
1点

伊香郡余呉町中之郷

鉄製の鍬先に櫛製の柄を付ける。鍬先はヒラクワの先を細くし、先にハガネを先かけする。小石の多い畑を掘り起こしたり、畦立に使用。ツルハシのようにも使用した。大正時代に使用。

法量(cm) 全長120.3, (鍬先) 長24.5, 幅7.8, (柄) 長径3.2, 短径2.7

重量(g) 1200



101540 (1877)

2-E-02-02

クワ

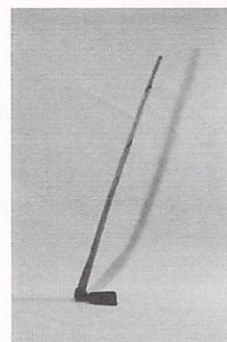
1点

大津市坂本本町

鉄製の鍬先に櫛製の柄を付ける。柄は自然木で自分で付けた。刃先は農鍛冶が回って修理して歩いた。作物を植えてある間を掻く。戦前に使用。墨書あり。

法量(cm) 全長123.7, (鍬先) 長21.1, 幅14.5, (柄) 長径2.7, 短径2.3

重量(g) 1500



101541 (1428)

2-E-02-02

ミツグワ

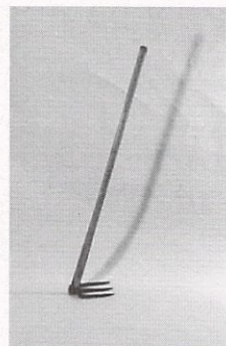
1点

伊香郡余呉町中之郷

鉄製の鍬先に木製の柄を付ける。三ツ鍬。鉄で形を造り、その先に鋼をサキガケする。刃先が尖っており、畑の固い土を耕作する。江戸時代～昭和まで使用。刻印「鏡中」。

法量(cm) 全長116.5, (鍬先) 幅12.3, 長21.5, (柄) 長径3.1, 短径2.4

重量(g) 1100



101542 (1901)

2-E-02-02

クマデグワ

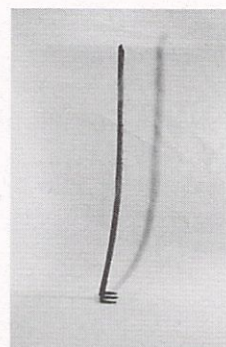
1点

東浅井郡浅井町

鉄製の鍬先に木製の柄を付ける。三ツ鍬。刃の先は四角くなっている。焼印あり。

法量(cm) 全長138.2, (鍬先) 長11.0, 幅10.7, (柄) 径3.2

重量(g) 1000



101543 (57)

2-E-02-02

ミツクワ

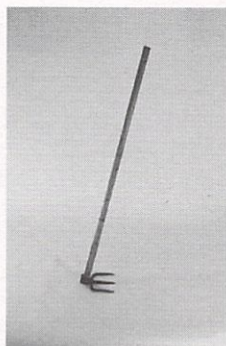
1点

八日市市瓜生津町

鉄製の鍬先に桎製の柄を付ける。三ツ鍬。刃の先は丸くなっている。焼印あり。

法量(cm) 全長117.8, (鍬先) 長14.0, 幅15.0, (柄) 長径3.5, 短径2.7

重量(g) 1200



101544

2-E-02-02

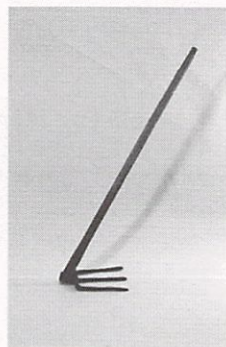
(不詳) 〈鍬〉

1点

鉄製の鍬先に木製の柄を付ける。三ツ鍬。刃の先は平たくなっている。

法量(cm) 全長113.2, (鍬先) 長30.4, 幅20.4, (柄) 径2.9

重量(g) 1400



101545 (953)

2-E-02-02

イチョウグワ

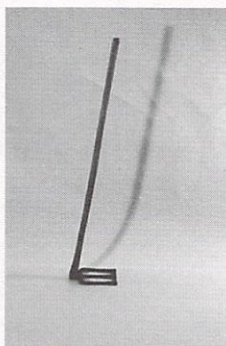
1点

蒲生郡日野町寺尻

鉄製の鍬先に桎製の柄を付ける。三ツ鍬。刃の先は平たくなっている。春、畑の畝土を砕くのに使用。大正時代初期に製作。昭和20年頃まで使用。

法量(cm) 全長122.0, (鍬先) 長24.4, 幅16.3, (柄) 径2.8

重量(g) 1900



101546

2-E-02-02

ビッチュウ

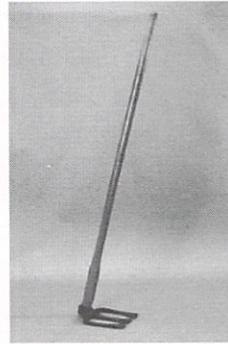
1点

近江八幡市牧町

鉄製の鍬先に木製の柄を付ける。三ツ鍬。刃の先は平たくなっている。泥を起すのに使用。焼印あり。

法量(cm) 全長120.5, (鍬先) 長21.8, 幅17.3, (柄) 長径2.8, 短径2.5

重量(g) 1800



101547

2-E-02-02

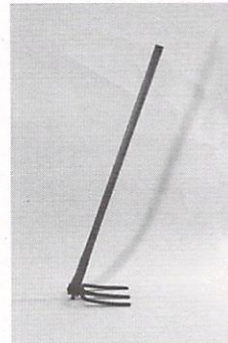
(不詳) 〈鍬〉

1点

鉄製の鍬先に木製の柄を付ける。三ツ鍬。刃の先は平たくなっている。

法量(cm) 全長113.2, (鍬先) 長27.5, 幅17.0, (柄) 長径3.4, 短径2.5

重量(g) 1400



101548 (1432)

2-E-02-02

クダキタグワ

1点

伊香郡余呉町中之郷

鉄製。三ツ鍬。刃の先は平たくなっている。刃1本は欠損。柄は欠損。福井県武生で製作。アラタグワで水田を耕起した土を、クダキタグワで更に小さく砕く。

法量(cm) 長20.6, 幅13.0

重量(g) 571



101549 (1429)

2-E-02-02

アラタグワ

1点

伊香郡余呉町中之郷

鉄製。三ツ鍬。刃の先は平たくなっている。柄は欠損。田を耕起するのに使用。荒起こした田の土を細かく砕くのは小さいクダキタグワを使用する。大正時代に使用。刻印あり。

法量(cm) 長26.8, 幅16.0

重量(g) 1400



101550 (169)

2-E-02-02

ミツグワ

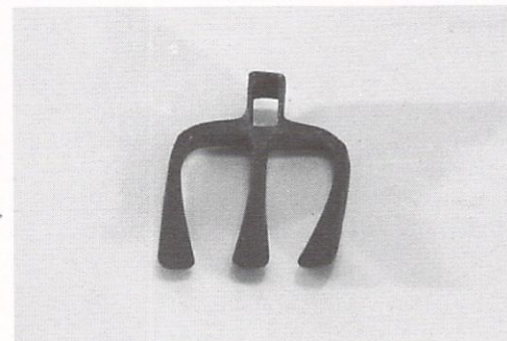
1点

長浜市国友町

鉄製。三ツ鍬。刃の先は平たくなっている。柄は欠損。昭和20年頃に製作。湿田や畑の土を細かく砕く。三ツ鍬は金属が太く重い。

法量(cm) 長20.5, 幅13.0

重量(g) 666



101551 (1431)

2-E-02-02

ウネウチグワ

1点

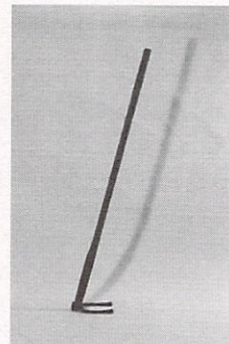
伊香郡余呉町中之郷

鉄製の鍬先に木製の柄を付ける。二ツ鍬。刃の先は平たくなっている。

田の稲と稲の間や農作物の畝の間を打ち起こす。昭和初期まで使用。

法量(cm) 全長127.8, (鍬先) 長20.3, 幅10.9, (柄) 長径3.0, 短径2.1

重量(g) 833



101552 (1686)

2-E-02-02

フタツクワ

1点

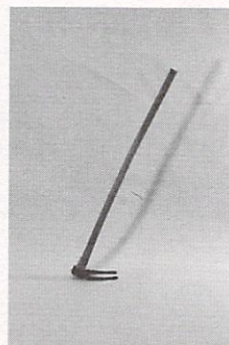
東浅井郡浅井町瓜生

鉄製の鍬先に櫛製の柄を付ける。二ツ鍬。刃の先は平たくなっている。

田起こしに使用した。刻印「瓜宅兵衛」。

法量(cm) 全長110.0, (鍬先) 長22.4, 幅9.0, (柄) 径3.5

重量(g) 1200



101553 (2110)

2-E-02-02

フタツクワ

1点

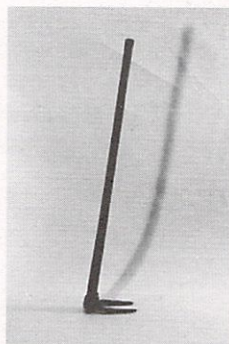
坂田郡伊吹町高番

鉄製の鍬先に櫛製の柄を付ける。二ツ鍬。刃の先は平たくなっている。

畑の土は小石が多いので刃先が短くなっている。昭和50年頃まで使用。

法量(cm) 全長106.0, (鍬先) 長20.5, 幅6.6, (柄) 長径3.0, 短径2.3

重量(g) 1400



101554 (2974)

2-E-02-02

ダイウチグワ

1点

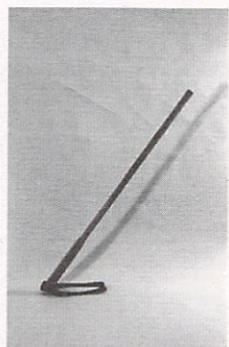
坂田郡近江町高溝

鉄製の鍬先に櫛製の柄を付ける。二ツ鍬。刃の先は平たくなっている。

柄は手元が楕円、鍬柄部分は長角になっている。昭和初期まで荒田起こしに使用。

法量(cm) 全長120.0, (鍬先) 長27.5, 幅10.5, (柄) 長径3.5, 短径2.5

重量(g) 1700



101555 (3829)

2-E-02-02

フタツグワ

1点

坂田郡山東町野一色

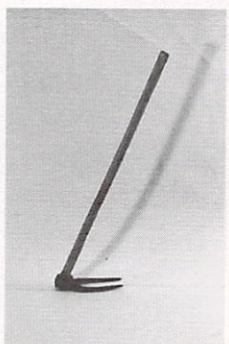
鉄製の鍬先に櫛製の柄を付ける。二ツ鍬。刃の先は丸いものをたたいて

やや平たくしている。大根等の畑の畝間の中打ち用。昭和初年に製作。

昭和初年～30年代まで使用。

法量(cm) 全長94.2, (鍬先) 長25.0, 幅7.1, (柄) 長径3.3, 短径1.8

重量(g) 1400



101556 (58)

2-E-02-02

ヨツクワ

1点

八日市市瓜生津町

鉄製の鍬先に櫛製の柄を付ける。四ツ鍬。刃の先は平たくなっている。焼印あり。

法量(cm) 全長119.5, (鍬先) 長17.5, 幅17.0, (柄) 長径3.5, 短径2.3

重量(g) 1400



101557 (952)

2-E-02-02

イチョウグワ

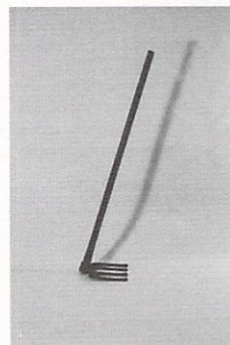
1点

蒲生郡日野町寺尻

鉄製の鍬先に櫛製の柄を付ける。四ツ鍬。刃の先は平たくなっている。田畑の土起こし、土入れ、土砕きに使用。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 全長119.0, (鍬先) 長26.3, 幅17.0, (柄) 長径2.8, 短径2.5

重量(g) 2300



101558 (169)

2-E-02-02

ヨツグワ

1点

長浜市国友町

鉄製。四ツ鍬。刃先は平たくなっている。柄は欠損。湿田や畑の土を細かく砕く。昭和20年頃に製作。

法量(cm) 長16.5, 幅15.0

重量(g) 385



101559 (169)

2-E-02-02

ヨツグワ

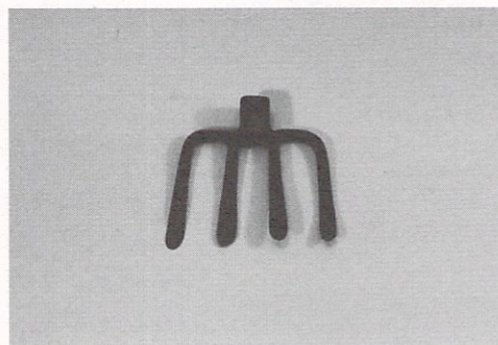
1点

長浜市国友町

鉄製。四ツ鍬。刃先は平たくなっている。柄は欠損。湿田や畑の土を細かく砕く。昭和20年頃に製作。

法量(cm) 長19.0, 幅14.5

重量(g) 390



101560

2-E-02-02

イツツグワ

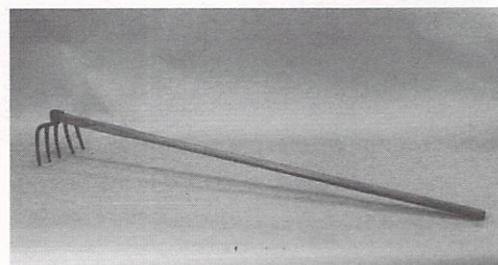
1点

近江八幡市牧町

鉄製の鍬先に櫛製の柄を付ける。五ツ鍬。田や畑の泥のタカヒク（高低）をならすのに使用。焼印あり。

法量(cm) 全長153.5, (鍬先) 長18.7, 幅25.8, (柄) 長径2.7, 短径2.6

重量(g) 1700



101561 (122)

クワ

八日市市池田町

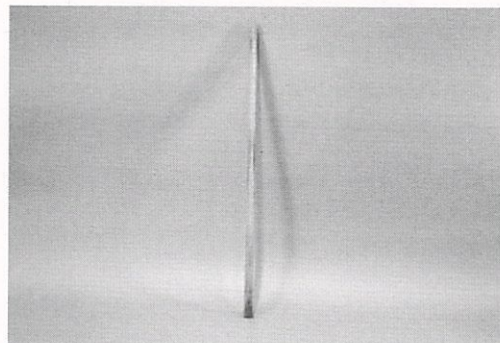
櫛製。鍬の柄。先は欠損。

法量(cm) 長97.7, 長径3.3, 短径2.5

重量(g) 507

2-E-02-02

1点



101562

(不詳) 〈鍬〉

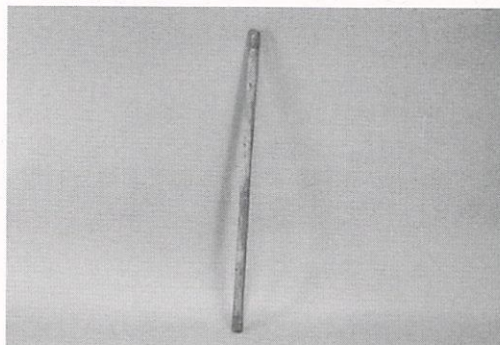
櫛製。先は欠損。

法量(cm) 長88.6, 長径2.8, 短径2.4

重量(g) 450

2-E-02-02

1点



101563

(不詳) 〈鍬〉

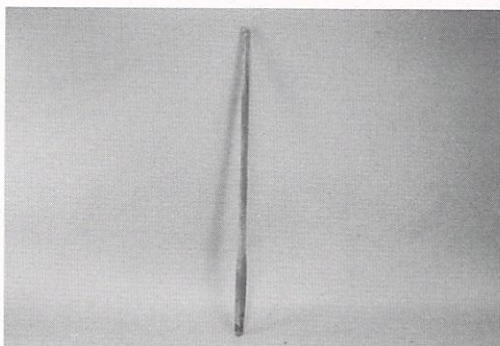
木製。先は欠損。焼印「儀平」。

法量(cm) 長115.2, 長径2.8, 短径2.1

重量(g) 533

2-E-02-02

1点



101564 (2448)

クレフリ (塊割)

坂田郡近江町宇賀野

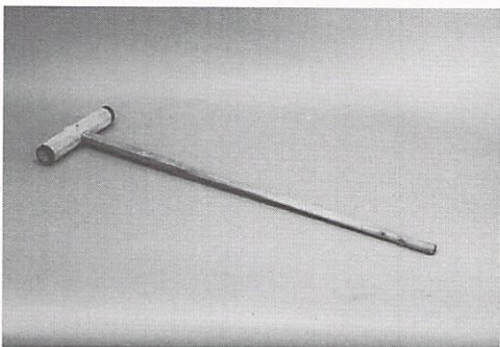
櫛製の槌部に木製の柄を付ける。槌の両端には鉄環をはめる。はね田で掘り上げた土塊を日光と風で白く乾かし、これで打ち砕く。大正時代～昭和40年頃まで使用。

法量(cm) 全長120.0, (槌部) 長33.0, 径5.5, (柄) 長径3.0, 短径2.0

重量(g) 1500

2-E-02-03

1点



101565 (2448)

ドロカチ

近江八幡市牧町

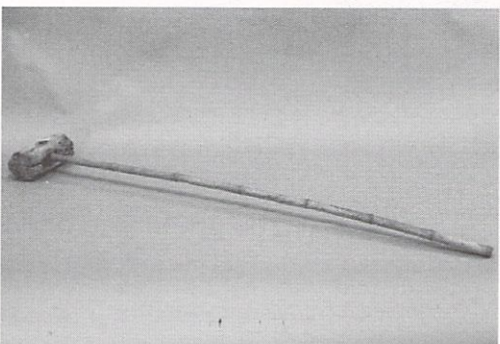
木製の槌部に竹製の柄を付ける。田畑の土の塊を叩いて砕くのに使用。

法量(cm) 全長127.0, (槌部) 長20.0, 径9.0, (柄) 径2.8

重量(g) 1000

2-E-02-03

1点



101566 (2448)

2-E-02-03

ドロカチ

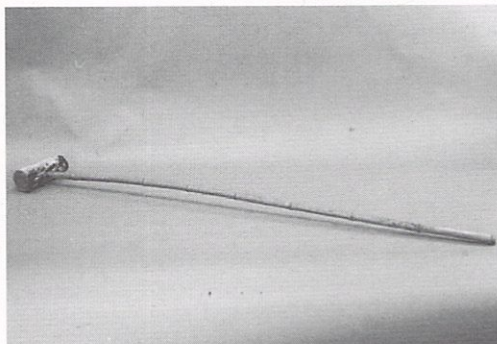
1点

近江八幡市牧町

木製の槌部に竹製の柄を付ける。田畑の土の塊を叩いて砕くのに使用。

法量(cm) 全長162.0, (槌部) 長22.5, 径7.5, (柄) 径2.7

重量(g) 1100



101567 (189)

2-E-02-04

ドロカキジョウレン (泥掻鋤簾)

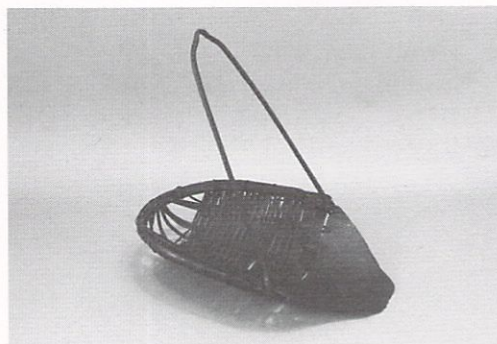
1点

伊香郡西浅井町大浦

鉄製の刃先に竹で編んだ皿をつけたもの。柄は欠損。湖岸や川の砂泥を掻きあつめるためのもの。力仕事であり、若い男子が主に使用した。昭和初期に製作。昭和15年頃まで使用。

法量(cm) 長57.0, 幅41.0, 高55.3

重量(g) 3700



101568 (2972)

2-E-02-04

ジョレン (鋤簾)

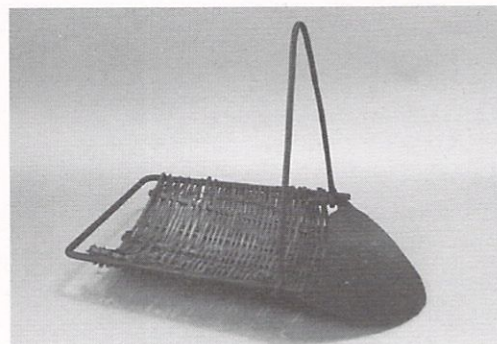
1点

東浅井郡びわ町下八木

鉄製の刃先に竹で編んだ皿をつけたもの。柄は欠損。川底さらえから転じ、粃殻の掻き出しに用いる。昭和20年代に製作。昭和60年頃まで使用。

法量(cm) 長67.0, 幅36.4, 高49.5

重量(g) 4500



101569 (98)

2-E-02-04

ジョリン (鋤簾)

1点

守山市木浜町

鉄の刃先に竹で編んだ皿をつけたもの。柄は欠損。堀のゴミ、砂をすくって田に入れ、田を広げるのに使用する。

法量(cm) 長54.0, 幅41.0, 高57.0

重量(g) 3600



101570 (2044)

2-E-02-04

ジョウレン (鋤簾)

1点

伊香郡高月町唐川

鉄製の歯に径0.4cmの蔓を巻き木杵に固定し、竹の柄を付ける。高時川から取水しているので、その川ざらえに使用した。大正時代に使用。

法量(cm) 長17.3, 幅24.0, (柄) 長75.8, 径3.5

重量(g) 738



101571 (736)

2-E-02-04

ジョーレン (鋤簾)

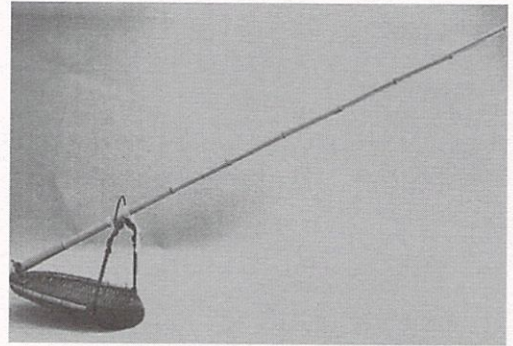
1点

東浅井郡湖北町尾上

鉄製の刃先に竹で編んだ皿をつけ、竹製の柄を付ける。大正時代に使用。

法量(cm) 長60.0, 幅33.2, (柄) 長219.5, 径3.8

重量(g) 2100



101572 (145)

2-E-02-04

ジョウレン (鋤簾)

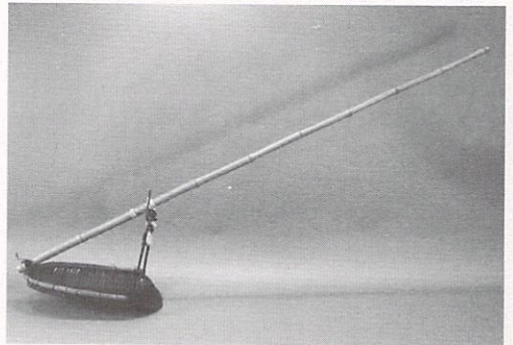
1点

長浜市国友町

鉄製の刃先に竹で編んだ皿をつけ、竹製の柄を付ける。刃先は業者から購入して自分でつくる。昭和30年頃までどぶ、溝等の泥あげに使用。

法量(cm) 長29.0, 幅27.0, (柄) 長87.0, 径3.0

重量(g) 899



101573 (1952)

2-E-02-04

ジョレン (鋤簾)

1点

神崎郡能登川町今

鉄製の刃先に竹で編んだ皿をつけ、竹製の柄を付ける。昭和30年代まで土砂を掻きよせる時に使用。刻印「用水土今」。

法量(cm) 現存長23.0, 幅30.8, (柄) 長95.4, 径2.5

重量(g) 1005



101574 (959)

2-E-02-04

ジョレン (鋤簾)

1点

蒲生郡日野町寺尻

鉄製の刃先に竹で編んだ皿をつけ、竹製の柄を付ける。日野川河床補修、堤補修等に使用。このジョレンは日野川の川仕事のみに使用され、他の灌水路には柄とジョレンが固定されたものを使用した。大正時代に製作。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 長22.0, 幅27.5, (柄) 長76.5, 径2.3

重量(g) 849



101575 (1903)

2-E-02-04

鋤簾

1点

東浅井郡浅井町

鉄製の皿に竹製の柄を付ける。

法量(cm) 長21.4, 幅23.0, (柄) 長84.0, 長径2.8, 短径2.4

重量(g) 1100



101576 (1866)

2-E-02-04

ジョレン (鋤簾)

1点

坂田郡山東町志賀谷

鉄製の皿に桎製の柄を付ける。針金で取付部を補修してある。主に用水の溝川を浚えるのに使った。昭和初期～45年頃まで使用。

法量(cm) 長20.5, 幅27.5, (柄)長96.8, 径2.8

重量(g) 1600



101577 (851)

2-E-02-04

ジョレン (鋤簾)

1点

八日市市御園町

鉄製の皿に桎製の柄を付ける。水田の畦塗りの泥寄せ。川掘り、砂利採り等に使う。大正時代初期頃に製作。昭和40年頃まで使用。焼印あり。

法量(cm) 長25.0, 幅18.0, (柄)長78.5, 径3.0

重量(g) 1100



101578 (1952)

2-E-02-04

ジョレン (鋤簾)

1点

神崎郡能登川町今

鉄製の皿に竹製の柄を付ける。土砂をかき寄せる時に使用。昭和30年代まで使用。刻印あり。

法量(cm) 長24.0, 幅27.5, (柄)長101.1, 径2.8

重量(g) 1500



101579 (3021)

2-E-02-04

ジョリン (鋤簾)

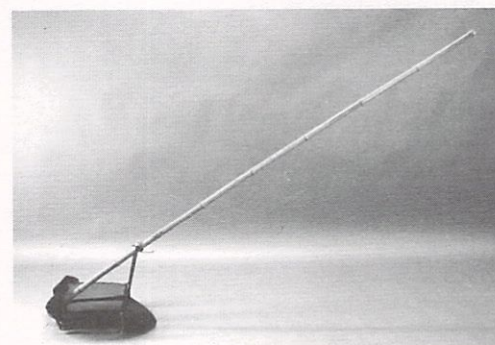
1点

草津市北山田町

鉄棒は野鍛冶に作らせ、刃先に綱を焼きつける。鉄棒に金網をとりつける。砂をすくって船に積む。昭和25年頃に製作。昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 長52.5, 幅30.0, (柄)長314.0, 径3.0

重量(g) 3500



101580 (242)

2-E-02-05

ヒトカラスキ

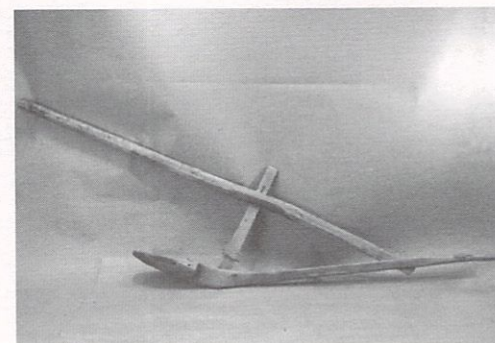
1点

八日市市三津屋町

木製。水田農耕用。1人で曳き、田の土を起こす。また、畑作の麦の土掛けに使用した。明治時代末期～昭和40年頃まで使用。

法量(cm) 全長263.0, 幅17.7, 高112.0

重量(g) 7200



101581

カラスキ

八日市市

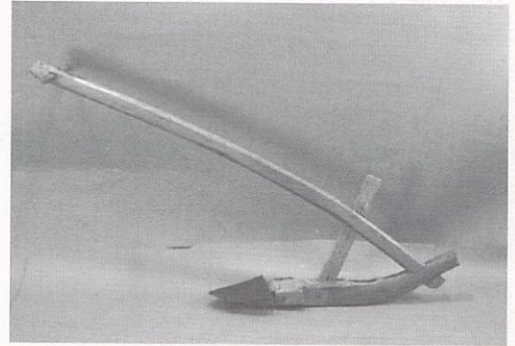
木製。刃先は鉄。刃に刻印「高北」。

法量(cm) 全長147.5, 幅35.5, 高81.5, (刃) 長20.5, 幅19.0

重量(g) 4500

2-E-02-05

1点



101582 (692)

シンリキカラスキ

八日市市蛇溝町

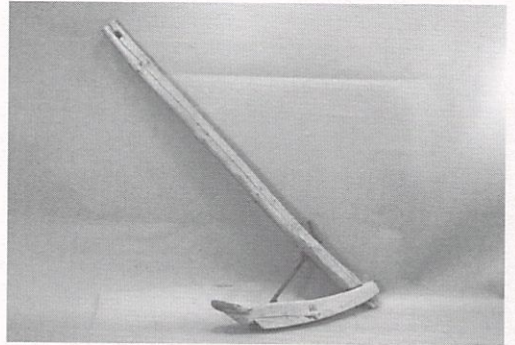
松と檜を手斧で削り、鉄の支柱を付ける。刃先は欠損。畑作物の土かけに使用。犁を畝筋に入れ、両腕で犁に結わえた稲縄を持ち、歯先を土に入れ引きながら後向きに進むと土が両側に掘り起こされ、畑作物の根元に土入れができる。昭和7年に製作。昭和30年まで使用。

法量(cm) 全長174.4, 幅10.5, 高55.4

重量(g) 6300

2-E-02-05

1点



101583 (640)

カラスキ

野洲郡中主町比留田

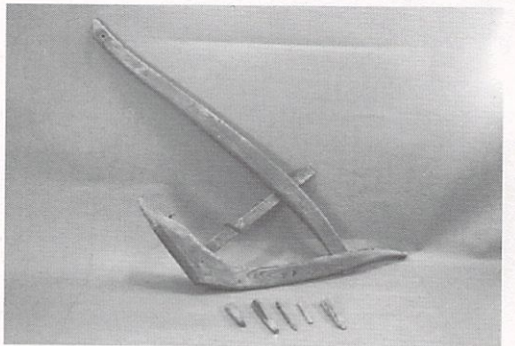
木製。一部鉄製。刃先は欠損。麦や菜種等を植えるために畝立てした畝を割り砕く時に用いた長犁である。この作業を分け田と言った。

法量(cm) 全長178.0, 幅8.0, 高91.0

重量(g) 8195

2-E-02-05

1点



101584 (1388)

カラスキ

神崎郡永源寺町山上

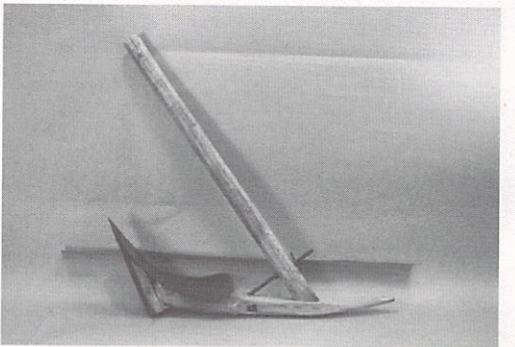
木製。刃先は鉄。焼印「山上 松屋」。

法量(cm) 全長121.0, 幅21.3, 高116.3, (刃) 長59.5, 幅21.3

重量(g) 10000

2-E-02-05

1点



101585 (351)

カラスキ

八日市市建部上中町

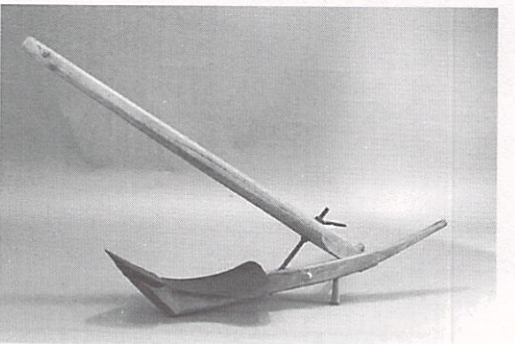
木製。刃先は鉄。牛に引かせて田を鋤く。

法量(cm) 全長116.2, 幅57.5, 高98.1, (刃) 長56.5, 幅22.8

重量(g) 9400

2-E-02-05

1点



101586 (641)

2-E-02-05

カラスキ

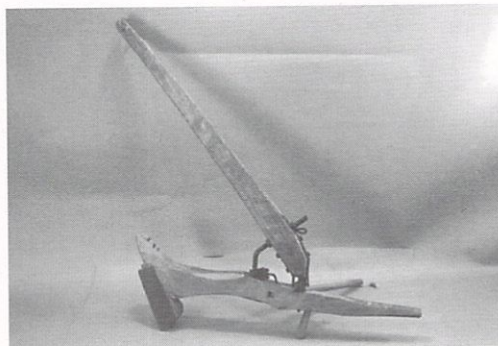
1点

野洲郡中主町比留田

木製。一部鉄製。刃先は欠損。長犂で崩した畝に残る芯を取り崩すための小型犂。所有者による独特な工夫がされた深耕用である。

法量(cm) 全長156.0, 幅84.0, 高90.6

重量(g) 10600



101587 (2134)

2-E-02-05

カラスキ

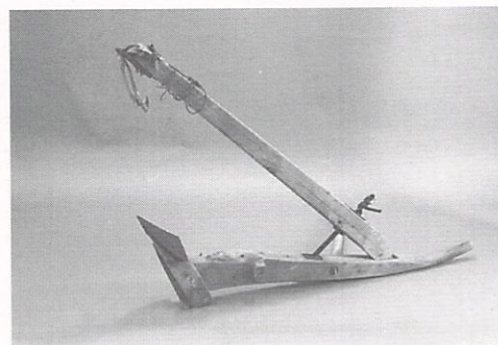
1点

高島郡今津町椋川

木製。刃は金属製。牛に引かせ、水田を耕す。明治時代に使用。

法量(cm) 全長120.2, 幅90.0, 高102.4, (刃) 長20.0, 幅7.4

重量(g) 8500



101588 (1368)

2-E-02-05

スキ

1点

伊香郡高月町唐川

木製。刃先は鉄製。昭和9年に初めて旧七郷村に導入された際に当時の農業技術員が指導のため使用したもの。昭和10年~25年頃まで使用。焼印「日の本號 両用犂」「熊本縣御船町 合名會社東洋社」「新案特許」「貳號」「推奨 農林省御推奨 日の本號深耕犂」など。

法量(cm) 全長137.0, 幅81.2, 高101.2, (刃) 長47.2, 幅19.5

重量(g) 12100



101589 (2973)

2-E-02-05

スキ

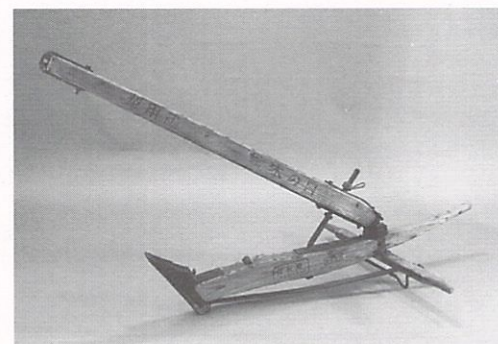
1点

東浅井郡びわ町下八木

木製。一部鉄製。刃先は欠損。牛に曳かせて水田を耕起する際に使用。昭和30年代に購入。昭和40年まで使用。焼印「日の本號 両用犂」「熊本市上熊本駅前 東洋社」「新案特許」「登録商標 旗票 農林省御推奨 日の本號深耕犂 帝國□明協会大□」「Pride of Japan Hinomotogo PLOUGH DAINIPPON KUMAMOTOSHI」など。

法量(cm) 全長145.2, 幅75.5, 高102.0

重量(g) 10500



101590 (1466)

2-E-02-05

カラスキ

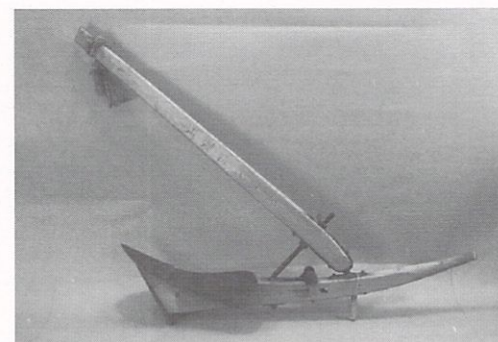
1点

坂田郡伊吹町寺林

木製。刃先は鉄製。荒起こしに使用。昭和初年~30年まで使用。焼印「高北犂 登録商標 新興號」「高北式新興號」「登録商標 高北」「三重県名張市 株式會社 高北農機製作所」「高北」「54 0158」「JAPAN TAK 高北 高北式」。

法量(cm) 全長151.0, 幅35.8, 高103.8, (刃) 長51.8, 幅18.2

重量(g) 11400



101591 (172)

スキ

長浜市国友町

木製。刃先は鉄製。牛の首と鞍から力綱を張り、刃先を土中へ突きさし、牛が前進する力を利用して刃先で土を掘り返す。昭和30年頃まで使用。焼印「高北犁 登録商標 新興號」「三重県名張市 株式会社 高北農機製作所」「登録商標 謹製」「高北式新興號」。刃に刻印「TRADE MARK 高北 MADE BY TAKAKITA」。

法量(cm) 全長141.0, 幅73.5, 高109.9, (刃)長46.7, 幅19.5

重量(g) 13300

2-E-02-05

1点



101592 (673)

カラスキ

野洲郡中主町下堤

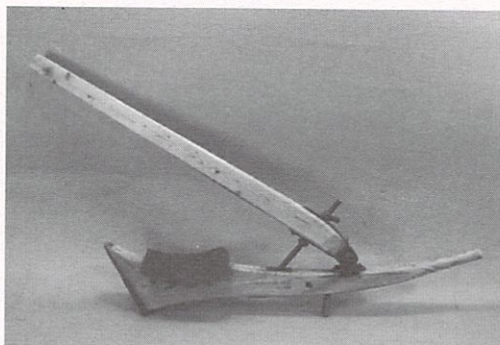
木製。刃先は鉄製。農機具店で購入。比較的耕土の浅い土地で流行した。牛用。焼印「三重県名張町 □□□□高北農具製作所」。印字「高北式光榮號」「老號」。

法量(cm) 全長129.0, 幅19.0, 高110.3, (刃)長29.6, 幅19.0

重量(g) 11100

2-E-02-05

1点



101593 (3049)

カラスキ

滋賀郡志賀町中浜

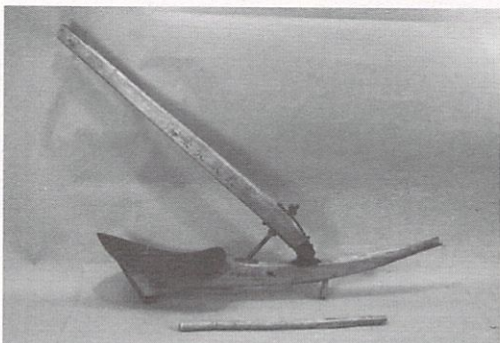
木製。刃先は鉄製。堅田町の農機具店で購入。牛に引かせて田畑を耕耘する。昭和初期～30年まで使用。焼印「三重県名張市 株式會社 高北農機製作所」。印字「高北式光榮號」「老號」。

法量(cm) 全長150.0, 幅69.8, 高110.8, (刃)長49.5, 幅19.9

重量(g) 10900

2-E-02-05

1点



101594 (1264)

カラスキ

八日市市御園町

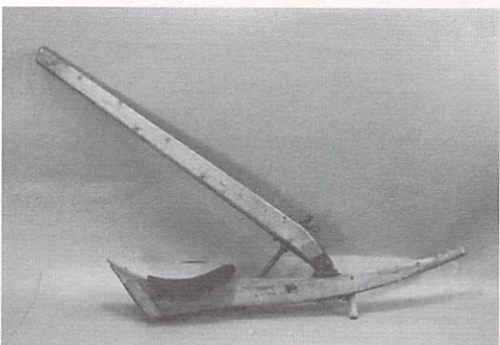
木製。刃先は鉄製。農耕牛の尻につけ、田畑の耕作に使用。昭和初期～30年代まで使用。焼印「高北犁 登録商標 光榮號」「登録商標 高北」「登録□□ 高北 謹製」「八號」「三重県名張市 株式會社 高北農機製作所」「55 1481」「光8」「高北」。

法量(cm) 全長154.0, 幅45.5, 高96.3, (刃)長29.6, 幅17.2

重量(g) 9300

2-E-02-05

1点



101595 (849)

カラスキ

八日市市御園町

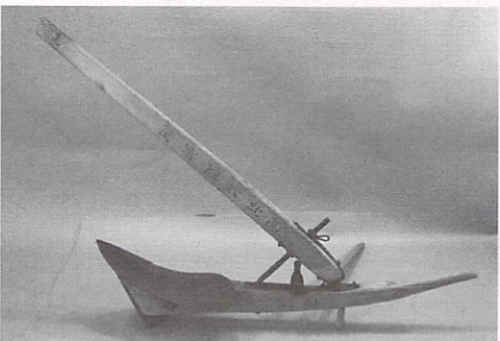
木製。刃先は鉄製。牛に曳かせて水田や畑の土起こしに使用した。昭和初期～40年頃まで使用。焼印「高北式國富號」「高北犁 登録商標 國富號」「三重県名張市 株式會社 高北農機製作所」「登録商標 高北 謹製」「登録商標 高北」「昭和型」。刃に刻印「新案登録 高北」「38」「高北」。

法量(cm) 全長142.0, 幅91.9, 高102.3, (刃)長51.2, 幅20.2

重量(g) 12600

2-E-02-05

1点



101596 (287)

2-E-02-05

カラスキ

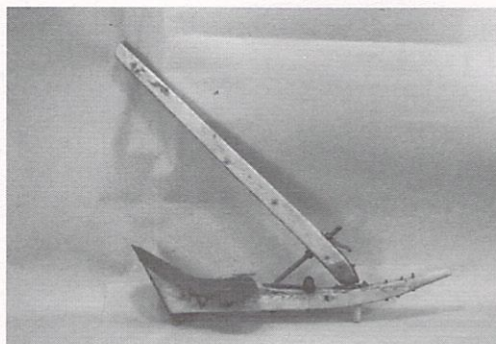
1点

八日市市三津屋町

木製。刃先は鉄製。田畑の耕作の際に牛に曳かせて土を掘り起こすのに使用。刃に刻印「高北」「13」。焼印「高北式國富號」「昭和型」「高北農機製作所」「登録商標 高北」「新案□□高北謹製」「TRADE 高北 MARK KABUSHIKI KAISHIYA TAKAKITA NOGUSEISAKU SHOKINSEI NABARICHO MIEKEN JAPAN」。

法量(cm) 全長137.5, 幅24.8, 高104.5, (刃) 長51.5, 幅19.5

重量(g) 12000



101597 (288)

2-E-02-05

カラスキ

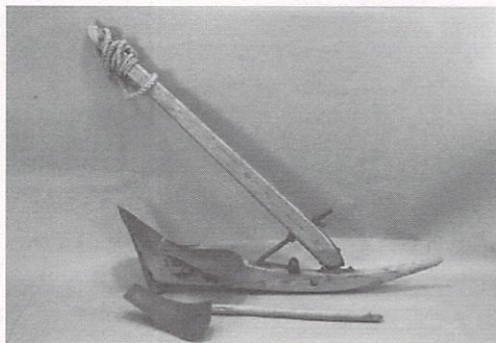
1点

八日市市三津屋町

木製。刃先は鉄製。水田耕作の際に牛に曳かせて土を起すのに使用。昭和30年頃まで使用。刃に刻印「新案登録 高北」「39」。焼印「登録商標 高北犁」「新案登録 高北 謹製」「三重県名□□ 高北□□製作所」「昭和□」「□ARVESTER NABARI MIEKEN」。

法量(cm) 全長142.0, 幅91.0, 高94.5, (刃) 長49.6, 幅20.5

重量(g) 11000



101598 (641)

2-E-02-05

カラスキ

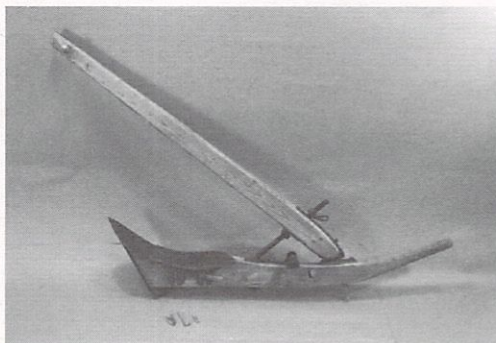
1点

野洲郡中主町比留田

木製。刃先は鉄製。長犁で崩した畝に残る芯を取り崩すための小型犁。所有者による独特な工夫がされた深耕用である。焼印「新案□□高北謹製」。

法量(cm) 全長146.0, 幅18.8, 高106.0, (刃) 長49.4, 幅18.8

重量(g) 11500



101599 (1388)

2-E-02-05

カラスキ

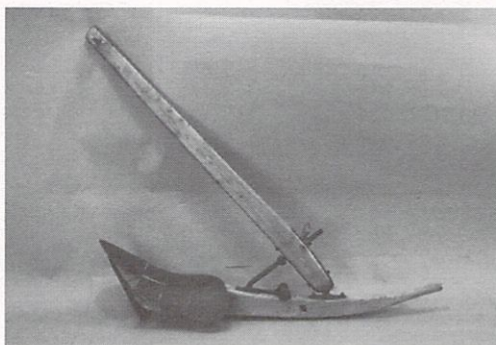
1点

神崎郡永源寺町山上

木製。刃先は鉄製。農耕用。刃に刻印「高北」。印字「名張町 高北農具製作所」「高北」。

法量(cm) 全長129.6, 幅21.5, 高109.0, (刃) 長50.6, 幅21.0

重量(g) 12300



101600 (295)

2-E-02-05

カラスキ

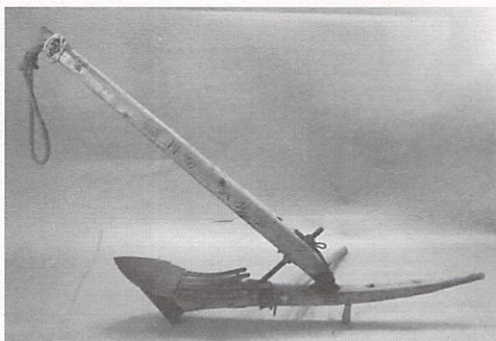
1点

八日市市建部上中町

木製。刃先は鉄製。牛に曳かせ、耕地の土を掘り返す。昭和27年頃に製作か。焼印「高北式土の母號 □ 八號」「高北式土の母號」「三重県名張市 株式会社 高北農機製作所」「□ 特許 高北謹製」「□」「登録商標 高北」「55」「8」。

法量(cm) 全長155.0, 幅87.0, 高98.0, (刃) 長47.6, 幅17.0

重量(g) 11400



101601 (985)

2-E-02-05

カラスキ

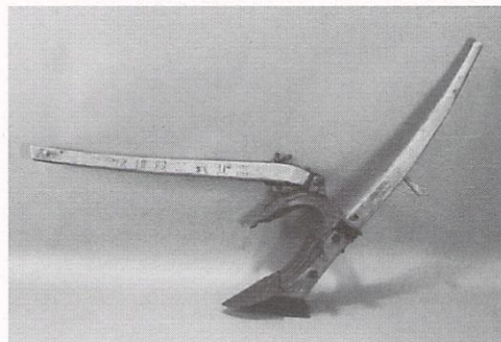
1点

神崎郡永源寺町市原野

木製。刃先は鉄製。重労働の掘り返し作業を牛（馬）の牽引力で行うための道具。牛馬の後ろから手綱で操作した。大正時代～昭和40年代まで使用。印字「高北式二段耕犁」「高北 土の母 三號」。

法量(cm) 全長159.0, 幅29.5, 高122.5, (刃) 長23.8, 幅16.5

重量(g) 12100



101602 (985)

2-E-02-05

カラスキ

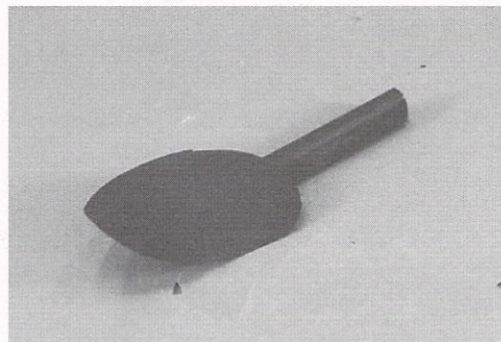
1点

神崎郡永源寺町市原野

鉄製。重労働の掘り返し作業を牛（馬）の牽引力で行うための道具。牛馬の後ろから手綱で操作した。大正時代～昭和40年代まで使用。

法量(cm) 全長45.3, (刃) 長26.7, 幅13.8

重量(g) 1100



101603 (3818)

2-E-02-05

スキサキ

1点

坂田郡山東町野一色

鉄製。鋳物。牛耕用の犁の先。未使用。昭和20年代～30年代まで使用。刻印「新案登録 高北」。

法量(cm) 長23.0, 幅19.8, 高3.5

重量(g) 905



101604

2-E-02-05

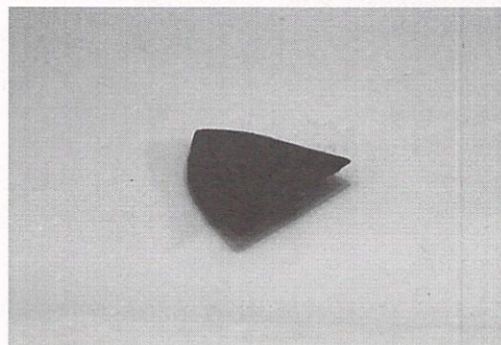
(不詳) 〈犁〉

1点

鉄製。牛耕用の犁の先。

法量(cm) 長20.0, 幅20.0, 厚3.3

重量(g) 756



101605

2-E-02-05

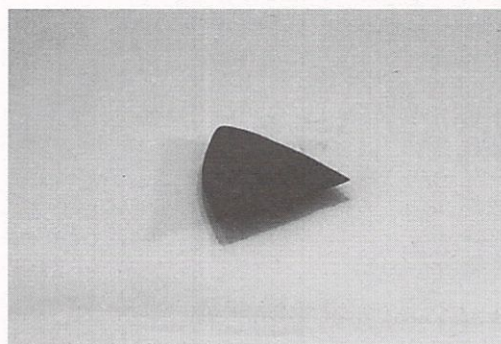
(不詳) 〈犁〉

1点

鉄製。牛耕用の犁の先。

法量(cm) 長18.7, 幅18.5, 厚2.8

重量(g) 664



101606

(不詳) 〈犁〉

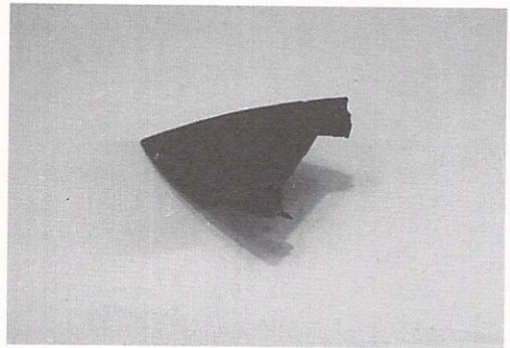
2-E-02-05

1点

鉄製。牛耕用の犁の先。

法量(cm) 長27.5, 幅20.5, 厚5.5

重量(g) 1700



101607

(不詳) 〈犁〉

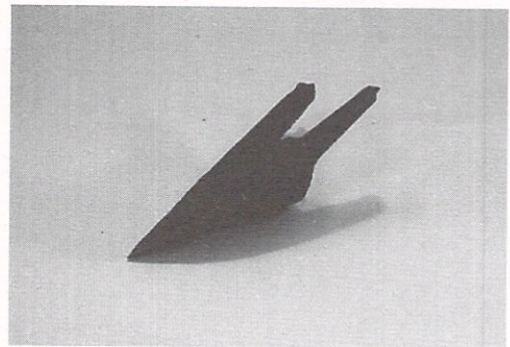
2-E-02-05

1点

鉄製。牛耕用の犁の先。

法量(cm) 長37.5, 幅23.0, 厚8.2

重量(g) 1900



101608

(不詳) 〈犁〉

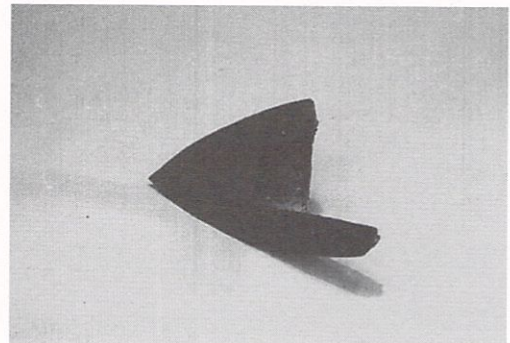
2-E-02-05

1点

鉄製。牛耕用の犁の先。

法量(cm) 長37.4, 幅21.8, 厚7.8

重量(g) 2000



101609

(不詳) 〈犁〉

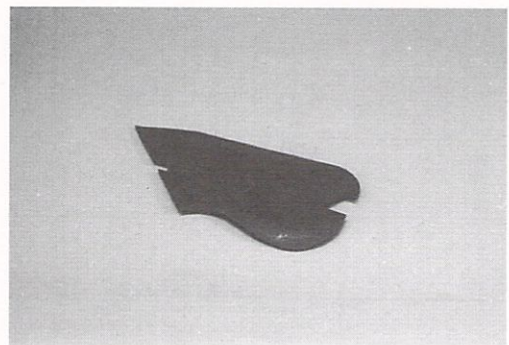
2-E-02-05

1点

鉄製。牛耕用の犁の先。

法量(cm) 長46.0, 幅22.5

重量(g) 2000



101610 (165)

マグワ (馬鍬)

2-E-02-06

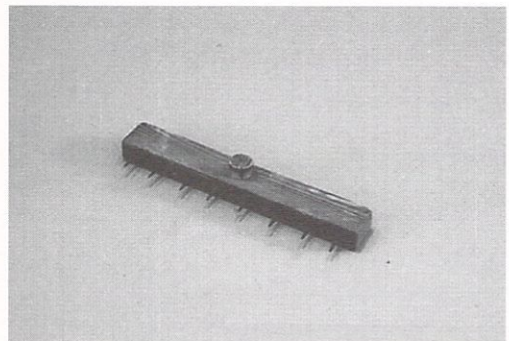
1点

長浜市国友町

杉に鉄釘を8本打ちつけ、柄を付ける。柄は欠損。田植の際に、田を最後に整地する道具。これで田の面を前後にならして歩く。昭和10年頃に製作。昭和25年頃まで使用。焼印「中秀」。

法量(cm) 長36.0, 幅8.7, 厚3.5

重量(g) 431



101611 (1437)

2-E-02-06

マンガカケ (馬鍬搔)

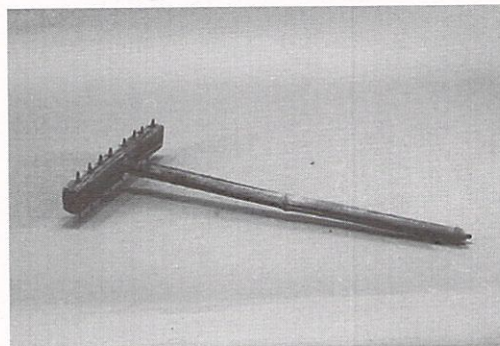
1点

長浜市列見町

杉材に5mm角の鉄釘を8本打ち込み、上下へつき出す。杉材の中央に2~3cmの穴をあけ、竹の先を通して固定して柄とする。柄の長さは2m程度あった。田植前の水田の土ならしに使用。昭和20年頃に製作。昭和40年頃まで使用。

法量(cm) 全長71.2, 幅35.5, 高9.3, (柄) 径2.9

重量(g) 660



101612

2-E-02-06

(不詳) 〈柄振〉

1点

長浜市下坂浜

杉の角材に鉄釘を7本打ち込み、竹製の柄を付ける。

法量(cm) 長225.5, 幅36.0, 高9.6, (柄) 径3.0

重量(g) 770



101613 (286)

2-E-02-06

マンガ (馬鍬)

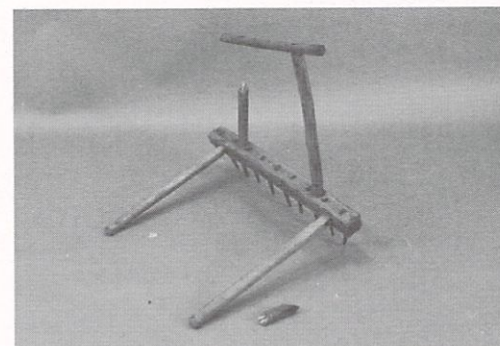
1点

八日市市三津屋町

角材に鉄釘を9本打ち付けて齒とする。水田耕作の際に牛に曳かせて土を砕く。昭和初期に製作。

法量(cm) 長62.0, 幅75.7, 高70.5

重量(g) 4000



101614 (889)

2-E-02-06

マグワ (馬鍬)

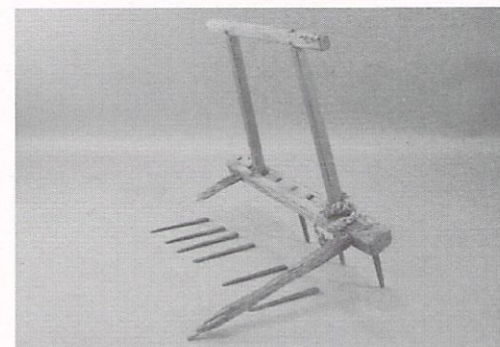
1点

八日市市市辺町

角材に鉄釘9本を打ち付けて齒とする。牛の尻につけ、水田耕作に使用。明治時代末期~昭和20年代まで使用。

法量(cm) 長60.5, 幅82.0, 高76.3

重量(g) 4400



101615 (1331)

2-E-02-06

マグワ (馬鍬)

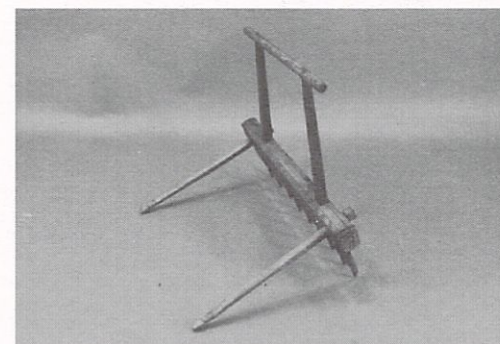
1点

神崎郡永源寺町山上

角材に鉄釘9本を打ち付けて齒とする。牛馬に曳かせて水田を耕作した。大正時代に購入。昭和40年代まで使用。焼印あり。

法量(cm) 長63.0, 幅89.0, 高72.8

重量(g) 6000



101616 (646)

2-E-02-06

マンガン (馬鍬)

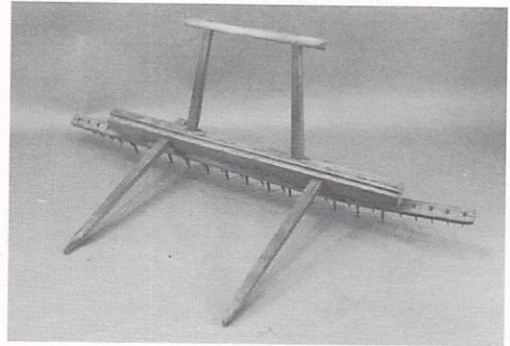
1点

野洲郡中主町比留田

角材に鉄釘13本を打ち付けて歯とする。上から歯22本の付歯を装着する。焼印あり。

法量(cm) 長86.3, 幅200.5, 高73.5

重量(g) 13500



101617 (171)

2-E-02-06

マグワ (馬鍬)

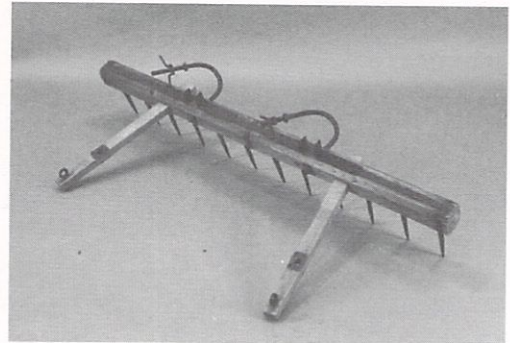
1点

長浜市国友町

杉材に鉄釘12本を打ち付けて歯とする。牛の首、鞍より引いた曳綱を曳き木につけ、二個のカンに接続する。荒掘りした田の土を砕く。昭和15年頃に購入。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 長55.0, 幅139.0, 高30.0

重量(g) 10000



101618 (1467)

2-E-02-06

マグワ (馬鍬)

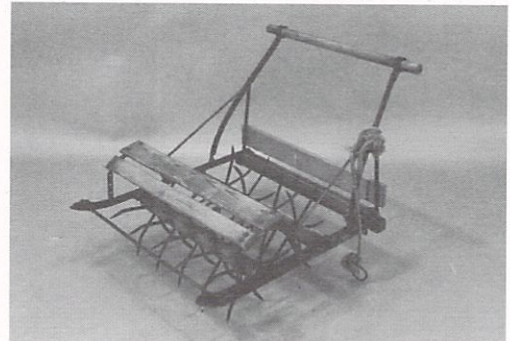
1点

坂田郡伊吹町寺林

鉄製。握手は木製。春、荒起こした水田を牛に曳かせて荒砕きする用具。昭和初期～40年頃まで使用。印字「農林省比較審査 優位入選砕土器 坪井式朝日マグワ 坪井農具製作所」。

法量(cm) 全長92.0, 幅74.5, 高56.8, (刃部) 径37.5, 幅1.5

重量(g) 18000



101619 (662)

2-E-02-06

砕土器

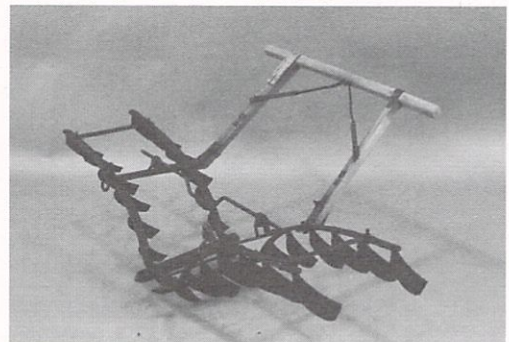
1点

野洲郡中主町野田

鉄製。柄は木製。土を細かく砕くのに使用。一般用のものでは使いにくい。ため、持主が改良した。焼印「野田 かじ富」など。

法量(cm) 長84.0, 幅131.3, 高64.5

重量(g) 17300



101620 (662)

2-E-02-06

砕土器

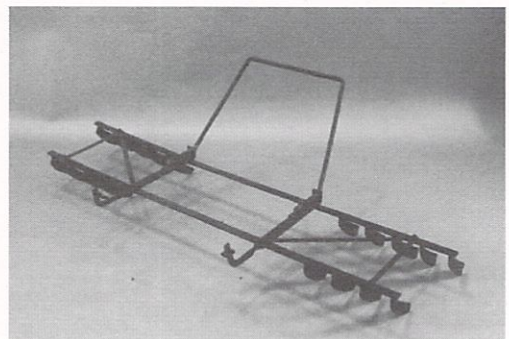
1点

野洲郡中主町野田

鉄製。101619で一度細かく砕いた土を更に細かくするのに使用。

法量(cm) 長62.5, 幅164.3, 高52.3

重量(g) 13800



101621 (1452)

2-E-02-06

ゴミカキのツク

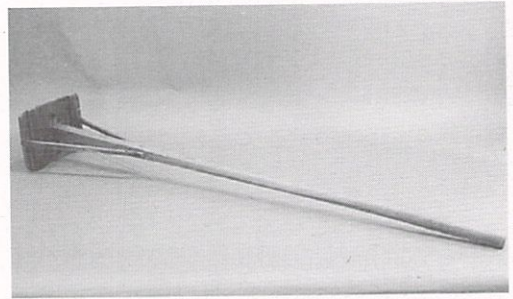
1点

守山市木浜町

自家製。木製。ゴミカキした泥を田にあげ、溝へゴミを入れ、突いてならす。ほ場整備で堀が埋まるまで使用した。焼印「木舟太」。

法量(cm) 全長182.0, 縦25.6, 横38.0

重量(g) 2000



101622 (1423)

2-E-02-07

タゲタ (田下駄)

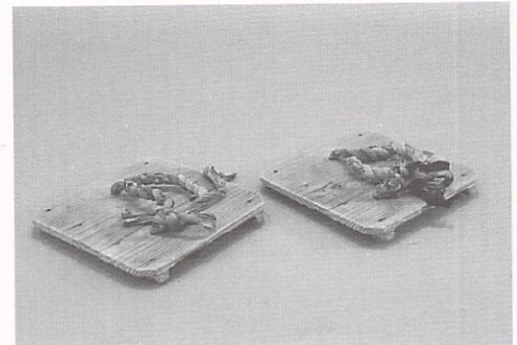
1点

伊香郡余呉町中之郷

杉板に綿布で作った鼻緒を付ける。秋の穫入れに湿田を歩く時に履いた。江戸時代～昭和まで使用。

法量(cm) (左) 長22.5, 幅22.7, 高2.2, (板) 厚1.1, (鼻緒) 径1.5, (右) 長22.5, 幅22.6, 高2.3, (板) 厚1.1, (鼻緒) 径2.0

重量(g) (左) 290, (右) 298



101623 (3842)

2-E-02-07

タゲタ (田下駄)

1点

高島郡朽木村麻生

杉板の両端に棧を釘付けし、藁の左縄の鼻緒を付ける。湿田の稲刈りに履く。昭和50年代以降に使用。

法量(cm) (左) 長33.3, 幅24.2, 高3.7, (板) 厚2.2, (鼻緒) 径2.0, (右) 長33.3, 幅24.3, 高3.6, (板) 厚2.0, (鼻緒) 径2.0

重量(g) (左) 647, (右) 766



101624 (16)

2-E-02-07

ナンバ

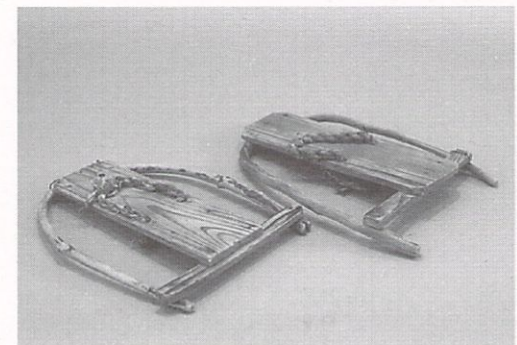
1点

伊香郡余呉町川並

杉材に曲げた木をつけ、木綿の鼻緒を付ける。稲刈りの時に田に水が多くても沈まないようにこれを履いて田に入った。

法量(cm) (左) 長35.8, 幅27.6, 高4.1, (板) 厚1.1, (鼻緒) 径1.3, (右) 長39.6, 幅29.0, 高4.8, (板) 厚1.2, (鼻緒) 径1.6

重量(g) (左) 270, (右) 329



101625 (15)

2-E-02-07

オオアシ

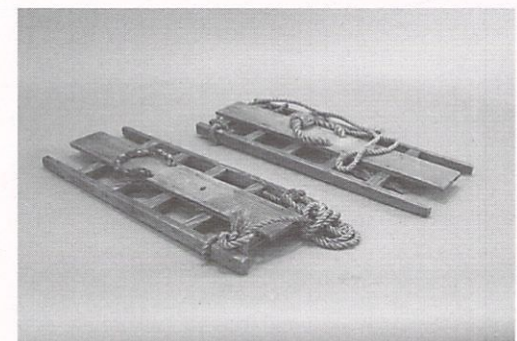
1点

伊香郡余呉町川並

杉を梯子状に組み、その上に板をのせる。鼻緒は藁。田植え前に田を平らにするのに使用した。

法量(cm) (左) 長67.0, 幅25.0, 高4.1, (板) 厚1.4, (鼻緒) 径1.8, (手綱) 長85.0, 径1.0, (右) 長66.5, 幅25.5, 高3.1, (板) 厚1.4, (鼻緒) 径1.7, (手綱) 長93.0, 径1.0

重量(g) (左) 950, (右) 968



101626 (3843)

2-E-02-07

オアシ (大足)

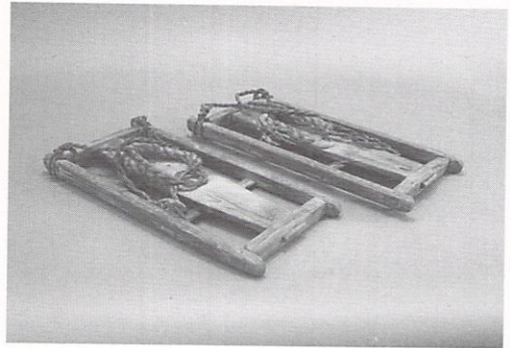
1点

高島郡朽木村麻生

自家製。栗材。引き手綱は科。鼻緒は藁。これを履いて田のすみずみまで歩き、堆肥などを埋め込むと共に田面を均す。昭和30年代～平成まで使用。

法量(cm) (左) 長61.5, 幅28.2, 高7.5, (板) 厚3.5, (鼻緒) 径3.0, (手綱) 長66.0, 径0.8, (右) 長61.5, 幅28.2, 高7.5, (板) 厚1.7, (鼻緒) 径2.5, (手綱) 長67.0, 径1.3

重量(g) (左) 1450, (右) 1350



101627 (2128)

2-E-02-07

ウワシ (田下駄)

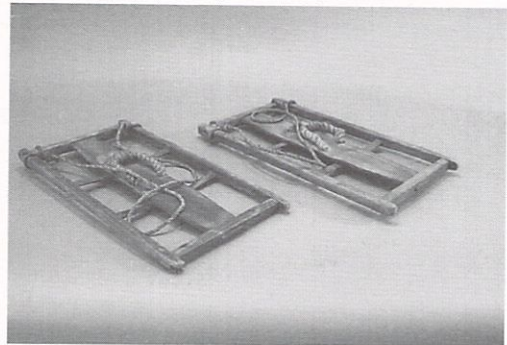
1点

高島郡今津町棕川

木製。鼻緒は藁。手綱は麻。シル田(湿田)を耕作する際に足に履いて使用した。これでホトラ(堆肥)を底にしずめ、底にある泥を上にあげて田全体を歩いてまわり、苗を植えやすくした。大正時代～昭和30年頃まで使用。

法量(cm) (左) 長63.8, 幅33.7, 高6.5, (板) 厚1.4, (鼻緒) 径2.5, (手綱) 長58.0, 径1.0, (右) 長64.0, 幅33.5, 高6.0, (板) 厚1.5 (鼻緒) 径2.0, (手綱) 長66.0, 径0.7

重量(g) (左) 1081, (右) 1017



101628 (645)

2-E-02-07

オケグツ (桶沓)

1点

野洲郡中主町比留田

杉製。箍は竹。底に釘を打つ。鼻緒は棕櫚繩に綿を巻く。

法量(cm) (左) 長26.8, 幅19.4, 高27.4, (右) 長27.7, 幅19.5, 高26.5

重量(g) (左) 1250, (右) 1100



101629

2-E-02-07

桶沓

1点

野洲郡中主町吉川

杉製。箍は竹。鼻緒は藁。焼印「兵」。

法量(cm) (左) 長30.6, 幅17.5, 高29.3, (右) 長31.0, 幅18.8, 高29.0

重量(g) (左) 1400, (右) 1250



101630 (1459)

2-E-02-07

オケナンバ

1点

守山市木浜町

木製。箍は竹。鼻緒は藁。桶屋に注文して作った。箍は昭和40年代に守山市石田の桶屋まで持って行ってかえた。ヨシを刈るときに履く。ヨシを刈り、近江八幡のヨシヤ川島に売った。その前にはゴミカキにも使用。昭和38年頃まで使用。

法量(cm) (左) 長30.0, 幅21.3, 高34.5, (右) 長30.8, 幅22.0, 高34.0

重量(g) (左) 1600, (右) 1600



101631 (815)

2-E-02-08

竹筒

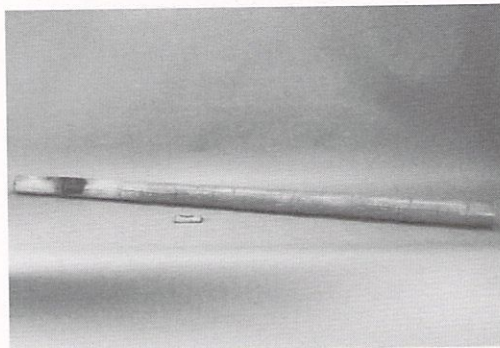
1点

野洲郡中主町六条

竹製。種籾を保存するのに使用。

法量(cm) 長265.0, 径12.0

重量(g) 4200



101632 (1712)

2-E-02-08

モミオケ (籾桶)

1点

坂田郡伊吹町寺林

木製。箍は竹。本来は飴桶。種籾入りに転用して土蔵で保管した。明治時代まで使用。墨書「申の五拾番 本飴安」「申の五拾番 風袋四百四拾円」「滋賀県坂田郡本郷村 菓子製造商安兵衛」。

法量(cm) 径39.0, 高22.8, (蓋) 径39.0, 高2.5

重量(g) 2465



101633 (956)

2-E-02-08

ヒラトックリ (平徳利)

1点

蒲生郡日野町寺尻

陶器。種子を保存する容器に使用。江戸時代末期～大正時代中期頃まで使用。

法量(cm) 口径7.8, 高22.0, 最大径22.0

重量(g) 2400



101634 (2371)

2-E-02-08

チナラシ (地均し)

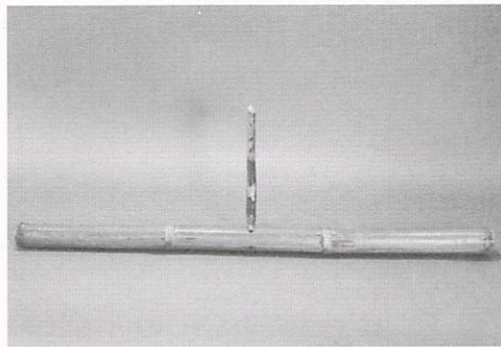
1点

坂田郡近江町高溝

自然木の柄の先に竹を付ける。苗代をつくる時、まき床を水平にするために使用する。昭和初年～50年代まで使用。

法量(cm) (竹) 長99.3, 径5.5, (柄) 長51.5, 径1.4

重量(g) 500



101635 (794)

2-E-02-08

モミオサエ

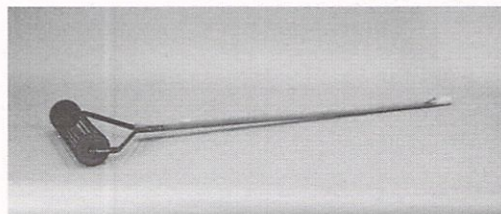
1点

野洲郡中主町吉川

鉄製のローラーに木の柄を付ける。中主町比留田で苗代改良を始め、湖南地方に広まった。この改良苗代に播種した籾を平均に安定させるために使用する。刻印あり。

法量(cm) 全長137.9, (ローラー) 幅37.9, 高8.2, (柄) 径2.5

重量(g) 1700



101636 (144)

2-E-02-08

耨ローラ (耨蒔用)

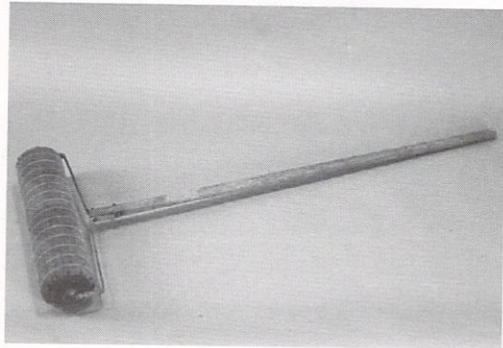
1点

長浜市国友町

金網製のローラーに木の柄を付ける。田にタネオトシ (耨種をまく) の時、耨種の上をこれで軽く押さえ、種を泥の中にいれる。昭和20年頃に購入。印字「三和式沈耨器」。

法量(cm) 全長124.3, (ローラー) 幅43.0, 径10.0, (柄) 径2.5

重量(g) 1200



101637 (691)

2-E-02-09

タビキツナ (田引き綱)

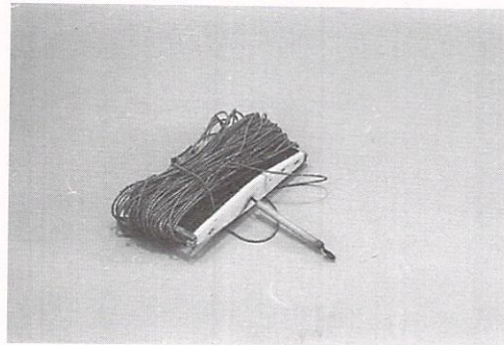
1点

八日市市蛇溝町

松板で枠を作り、鉄棒を通す。棕櫚縄を巻く。田植をするとき、畦から畦にこの縄を張る。この縄と縄の間は1間半と1間の2通りの張り方がある。1間半の時は8本の苗、1間の時は7本の苗を植える。この縄を張る役は戸主であった。昭和10年に製作。

法量(cm) 全長37.0, (巻取部) 幅35.0, 高14.5, (縄) 径0.3

重量(g) 575



101638 (1959)

2-E-02-09

ナワシロヒモ (苗代紐)

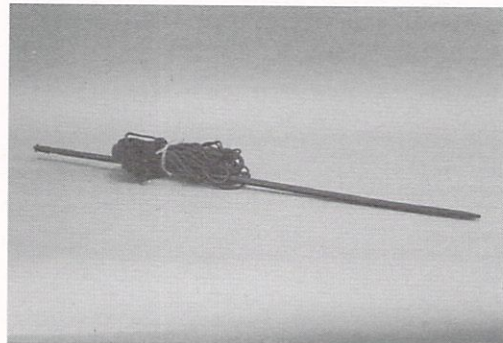
1点

神崎郡能登川町今

棕櫚製。鉄。田の中で直線を引くために鉄の棒を土中に突きさし、棕櫚縄を張った。昭和30年代頃まで使用。

法量(cm) (棒) 長132.6, 径1.8, (縄) 長2240.0, 径0.6

重量(g) (棒) 2900, (縄) 396



101639 (2085)

2-E-02-09

タツナグルマ (田綱車)

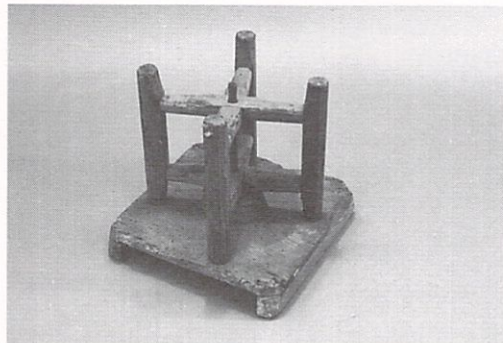
1点

八日市市建部瓦屋寺町

木製。田植用の細縄を巻き、田植の時の並木植などの区割 (条) に使用する。大正10年頃に製作。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 縦37.8, 横37.0, 高36.8

重量(g) 3600



101640

2-E-02-09

(不詳) 〈田植縄〉

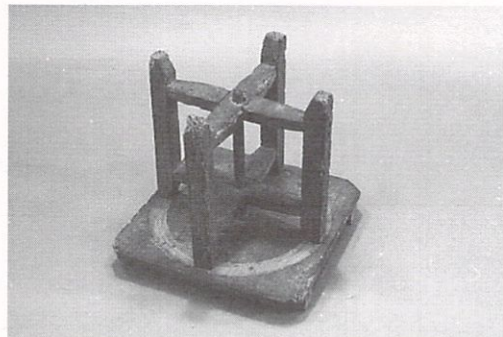
1点

八日市市川合寺

木製。墨書「川合寺」など。

法量(cm) 縦39.0, 横38.5, 高37.3

重量(g) 3500



101641

(不詳) 〈田植縄〉

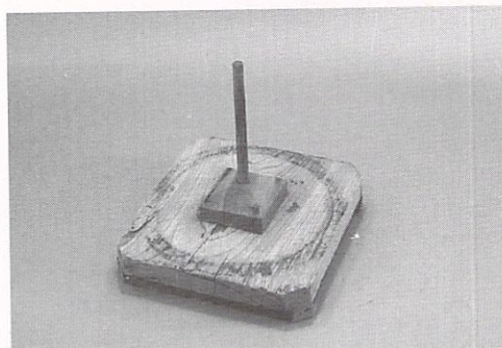
2-E-02-09

1点

木製。

法量(cm) 縦41.5, 横38.7, 高39.4

重量(g) 6700



101642 (907)

タヒキナワ (田引き縄)

2-E-02-09

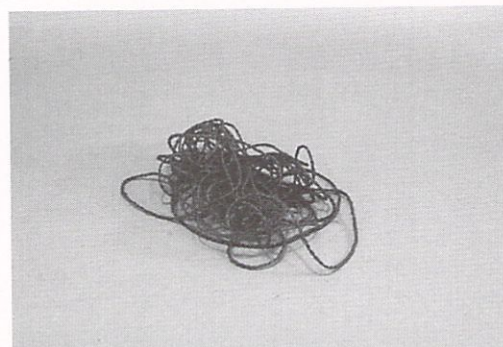
1点

蒲生郡日野町寺尻

棕櫚製。田植の時、苗を植える寸法をとるのに使用。昭和6年頃～11年頃まで使用。

法量(cm) 長1920.5, 径0.4

重量(g) 100



101643 (156)

ハリナワ (張り縄)

2-E-02-09

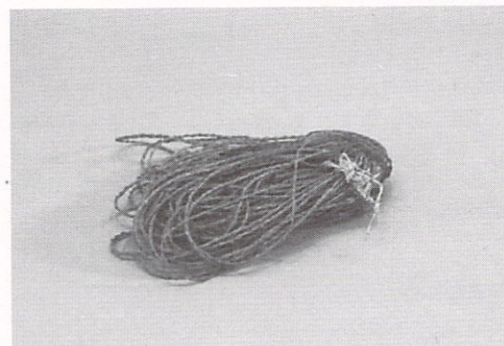
1点

長浜市国友町

棕櫚製。長さ三十間。田植の苗を整然と植えるのは難しかったため、縄を張って列を決める方法は急速に普及した。のち、六角面に桝型の棧を組んだものを田の面へ転がせて、正方形の型跡をつけ苗を植えるようになった。昭和20年頃に製作、使用。

法量(cm) 長4884.0, 径0.4

重量(g) 117



101644 (1168)

田植え枠

2-E-02-09

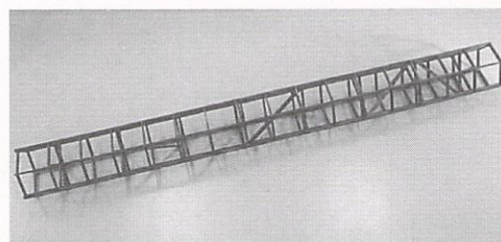
1点

高島郡新旭町旭

檜材。長さ2間の木枠で断面は六角になっている。田植えの際に六角の枠を転がし、苗を植える場所を決める。昭和40年に製作。昭和46年頃まで使用。

法量(cm) 全長368.8, 径40.3, 一辺20.3

重量(g) 8000



101645 (1425)

田植枠

2-E-02-09

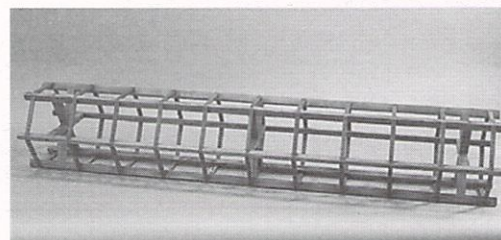
1点

伊香郡余呉町中之郷

杉材。指物大工が製作。枠目は希望により製作されるが、あまり小さいと田打車が間に合わない。枠目が正方形だと縦横いずれの方向へもまわす事ができる。田植の際に田の表面に跡をつけ、その跡に苗を植える。この枠は山田用で目が小さいが、普通はもう少し枠も目も大きい。昭和初期に製作、使用。

法量(cm) 全長190.8, 径37.2, 一辺18.6

重量(g) 4900



101646 (1897)

田植杵

東浅井郡浅井町八島

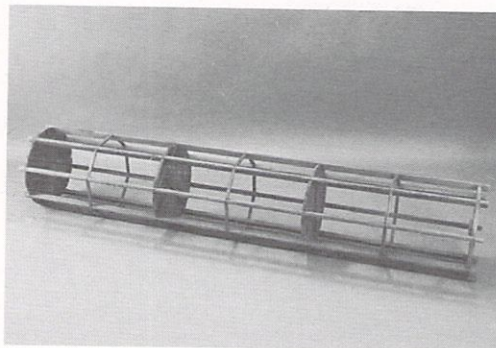
木製。丸形。

法量(cm) 全長206.9, 径39.8, 一辺14.9

重量(g) 6900

2-E-02-09

1点



101647 (1377)

タウエワク (田植杵)

伊香郡高月町唐川

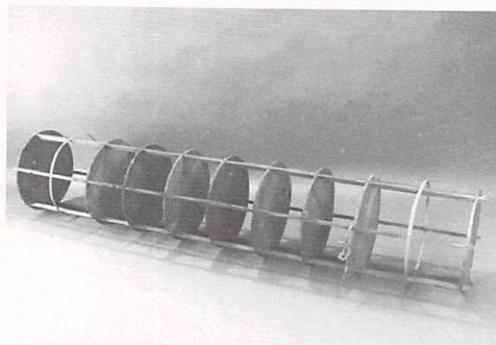
木製。丸形。田の代かき後、型杵を回して正条植の押型をつける。25cm条間10条型杵。丸型杵は湿田でも土面に凹型がつき、能率がよかった。杵利用前は縄を張り、その中に8株を植え、後進した。田植杵の場合前進する人が多い。昭和20年頃から使用。

法量(cm) 全長244.0, 径47.0, 一辺22.0

重量(g) 9600

2-E-02-09

1点



101648 (2522)

田植え杵

坂田郡近江町宇賀野

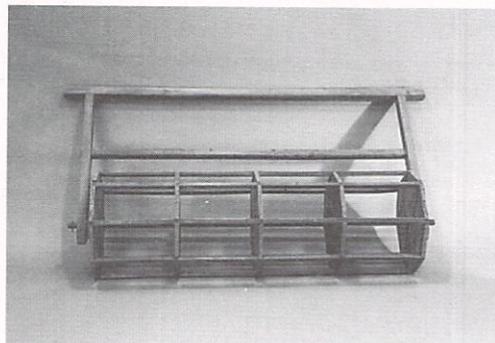
木製。八角形の板5枚に鉄の棒を通し、木の杵が取り付けられている。整地した水田の水を抜いた後、この道具ですじをつけ、田植えをする。昭和40年代まで使用。焼印あり。

法量(cm) 全長123.0, 高81.5, (杵) 径40.5, 一辺15.5, (持手) 幅152.5, 長70.0

重量(g) 12500

2-E-02-09

1点



101649 (3074)

サンカクジョウギ (田植杵)

甲賀郡甲南町池田

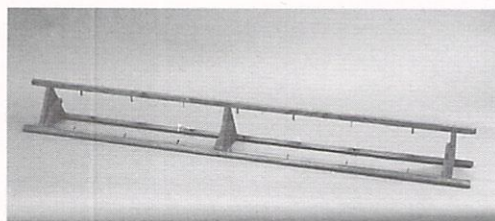
杉材。三角形。田植用定規。22cm間隔で24mmの釘を打つ。

法量(cm) 全長175.0, 幅21.6, 高18.8

重量(g) 1300

2-E-02-09

1点



101650 (3074)

サンカクジョウギ (田植杵)

甲賀郡甲南町池田

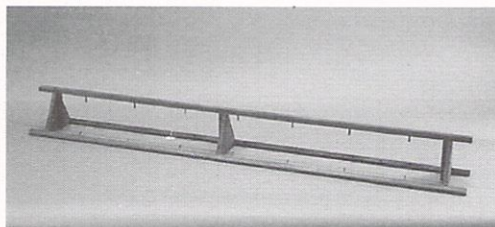
杉材。三角形。田植用定規。22cm間隔で24mmの釘を打つ。

法量(cm) 全長175.4, 幅21.6, 高18.8

重量(g) 1600

2-E-02-09

1点



101651 (661)

2-E-02-10

ナエカゴ (苗籠)

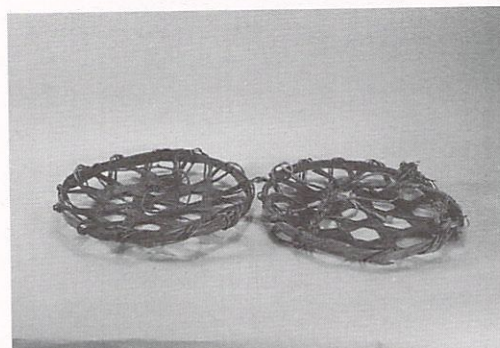
1点

野洲郡中主町野田

割竹を六ツ目に編む。持手は藁縄。苗を入れ、天秤棒で担ぐ。

法量(cm) (左) 口径48.0, 高6.9, (右) 口径50.5, 高6.8

重量(g) (左) 485, (右) 451



101652 (282)

2-E-02-10

ナエカゴ (苗籠)

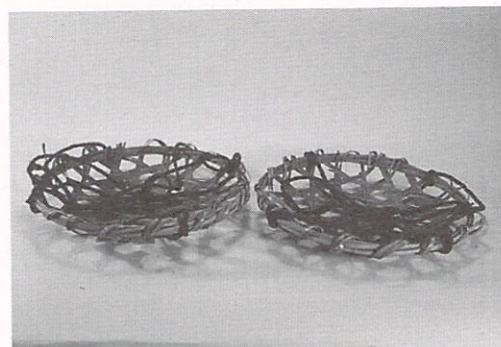
1点

八日市市三津屋町

割竹を六ツ目に編む。持手は棕櫚縄。稲の苗を苗代田から田植の田まで運ぶ。昭和10年頃に製作。

法量(cm) (左) 口径53.0, 高9.6, (右) 口径52.5, 高10.5

重量(g) (左) 603, (右) 635



101653 (690/844)

2-E-02-10

竹畚

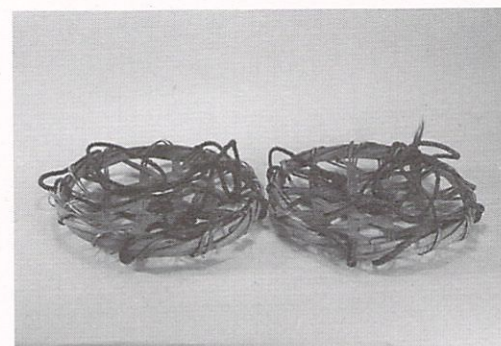
1点

八日市市蛇溝町

割竹を六ツ目に編む。持手は棕櫚縄。苗代で育てた早苗を本田に運搬する。昭和8年に製作。昭和10年まで使用。

法量(cm) (左) 口径48.5, 高7.0, (右) 口径46.5, 高7.8

重量(g) (左) 563, (右) 581



101654 (793)

2-E-02-10

ナエカゴ (苗籠)

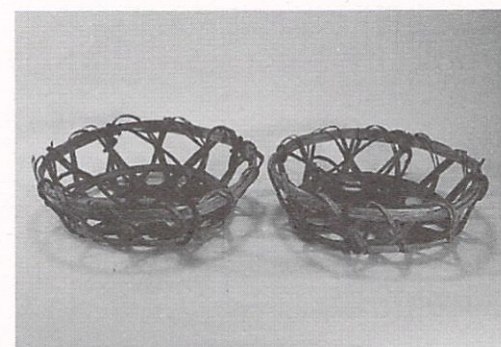
1点

野洲郡中主町吉川

割竹を六ツ目に編む。持手は棕櫚縄。苗代の苗を束にし、外側に根、内側に先を入れる。これを担ぎ、苗を適当に配ってまわる。

法量(cm) (左) 口径47.0, 高13.3, (右) 口径49.5, 高14.0

重量(g) (左) 736, (右) 769



101655 (762)

2-E-02-10

ナヨカゴ (苗籠)

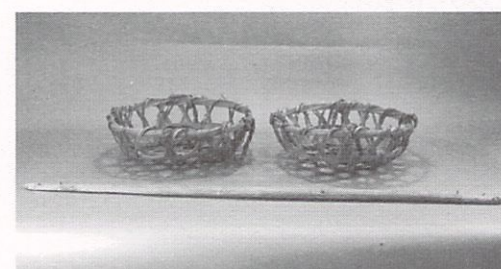
1点

伊香郡余呉町中之郷

割竹を六ツ目に編む。持手は藁縄。器用な人は自作したが、通常は籠職人から購入した。縄は家で適当に付ける。苗代から苗を田に運ぶのに、水のしたたる苗束をこの籠に並べて入れ、天秤棒で担って田に運ぶ。大正時代～昭和初期まで使用。

法量(cm) (籠左) 口径57.5, 高20.3, (籠右) 口径56.5, 高19.5, (棒) 長163.0, 長径5.4, 短径3.0

重量(g) (籠左) 905, (籠右) 894, (棒) 835



101656 (128)

2-E-02-10

ナエモチカゴ (苗持籠)

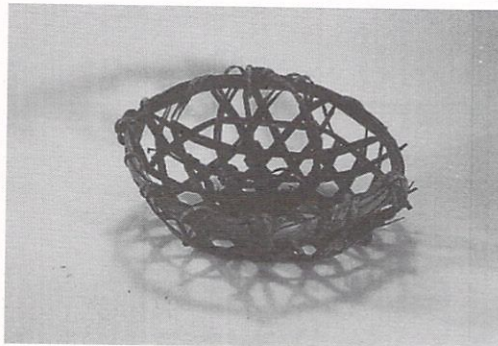
1点

長浜市国友町

割竹を六ツ目に編む。持手は藁縄。雑貨屋等でも販売された。籠を天秤棒にかけて担い、稲の苗運びに使用する。この籠2杯の苗で約一反分となる。昭和20年頃に製作。昭和25年頃まで使用。

法量(cm) 口径60.0, 高27.5

重量(g) 1060



101657 (1370)

2-E-02-10

ジャカゴ (苗籠)

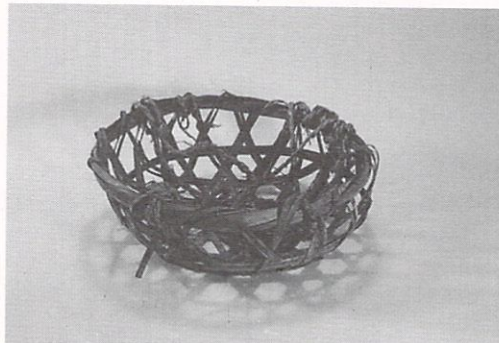
1点

伊香郡高月町唐川

割竹を六ツ目に編む。持手は藁縄。田植時、苗は苗カゴ (ニシンカゴ) に入れて腰につける。この籠を天秤棒で担ぎ、畦畔まで運ぶ。苗束50~70束が入った。大正時代に使用。

法量(cm) 口径60.0, 高20.0

重量(g) 1200



101658 (2139)

2-E-02-10

ナエカゴ (苗籠)

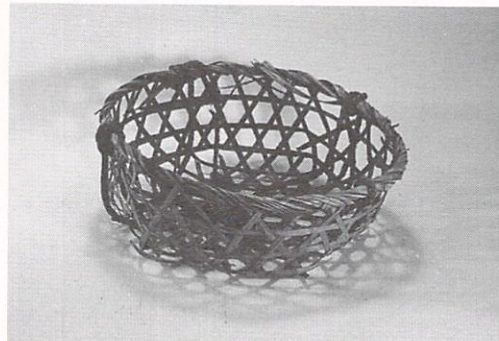
1点

高島郡今津町椋川

幅1.5cmの竹皮を六ツ目に編む。持手は麻縄。稲の苗をこの中に入れ、天秤棒で担いで運ぶ。昭和17年頃に製作。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 口径63.7, 高27.4

重量(g) 1024



101659 (845)

2-E-02-10

ナエモッコ (苗畚)

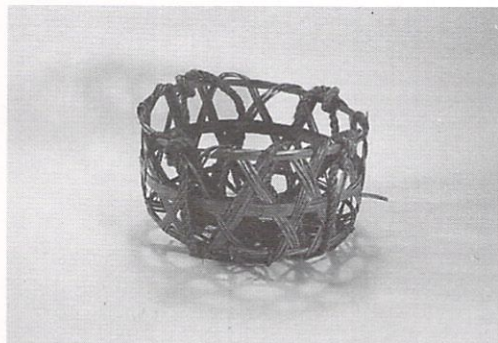
1点

八日市市蛇溝町

割竹を六ツ目に編む。持手は藁縄。苗代より田へ苗を運搬するのに使用。苗を入れ天秤棒で担ぐか、リヤカーに乗せて運ぶ。昭和20年頃に製作。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 口径46.0, 高30.0

重量(g) 920



101660 (689)

2-E-02-10

ナエカゴ (苗籠)

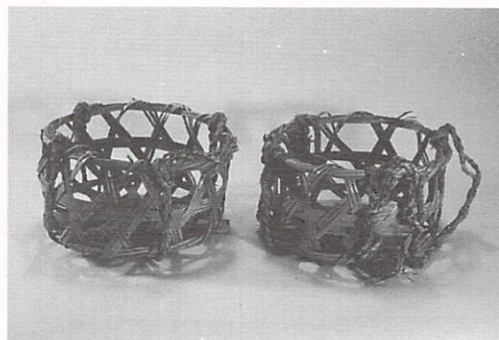
1点

八日市市蛇溝町

真竹を六ツ目に編む。持手は藁縄。田植の種苗を苗代より取り、この籠に入れて天秤棒で2個担ぎ、田植する田まで早苗を運搬する。昭和10年頃に製作。昭和35年まで使用。

法量(cm) (左) 口径46.5, 高27.5, (右) 口径45.8, 高26.5

重量(g) (左) 1072, (右) 1000



101661 (118)

2-E-02-10

ナエカゴ (苗籠)

1点

八日市市林田町

割竹を編んで作る。持手は棕櫚縄。墨書「大正五年」「辰秋」「中喜」「林田」。

法量(cm) (左) 口径51.0, 高22.2, (右) 口径52.0, 高22.3

重量(g) (左) 1200, (右) 1000



101662 (1371)

2-E-02-10

ニシンカゴ (鯰籠)

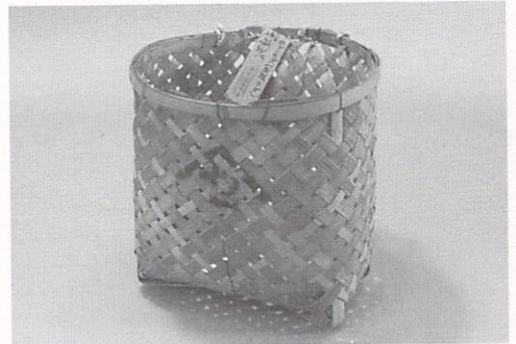
1点

伊香郡高月町唐川

真竹を編んで作る。籠屋でも販売していたが、冬の農閑期に数人が集り、他の竹細工、藁細工と同様に作る。田植カゴともいう。田植をするときに腰につけ、苗束を入れる。また大正年間頃はニシンを5cmぐらいに切って入れ、株元に差しこみ肥料としたので、ニシンカゴとも称した。大正時代末期頃に製作。墨書あり。

法量(cm) 口径20.0, 高34.8, 底径30.0

重量(g) 456



101663 (1627)

2-E-02-10

ハリボテカゴ (張子籠)

1点

八日市市市辺町

自家製。竹製。上から渋紙を貼る。大豆、小豆、麦、稲穂等の穀類を入れて水田、畑等に播く時に使用した。大正12年頃に製作。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 口径45.7, 高30.3, 底径38.0, 横36.1

重量(g) 950



101664 (352)

2-E-02-11

カルチベーター

1点

八日市市建部上中町

鉄製。柄は木製。牛に曳かせて耕作する。昭和中期に製作、使用。プレート「昭和二十六年三月十五日官報発表 渡邊式高級カルチベーター 愛知縣渥美郡田原町萱町65 渡邊式鉄工所」。

法量(cm) 長159.0, 幅53.5, 高76.3

重量(g) 27000



101665 (243)

2-E-02-11

麦播種機

1点

八日市市三津屋町

鉄製。柄は木製。麦の播種に使用。昭和20年～30年頃まで使用。印字「片倉式カルチベーター」。

法量(cm) 長151.0, 幅53.3, 高62.5

重量(g) 20000



101666

(不詳) 〈替刃〉

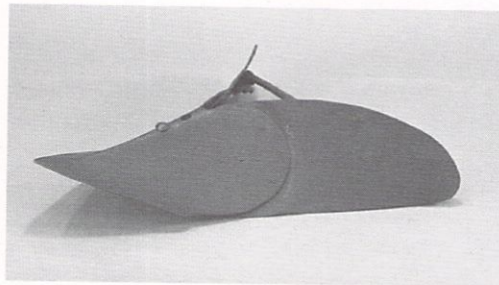
2-E-02-11

1点

鉄製。

法量(cm) 長49.0, 幅48.0, 高12.0

重量(g) 4300



101667

(不詳) 〈替刃〉

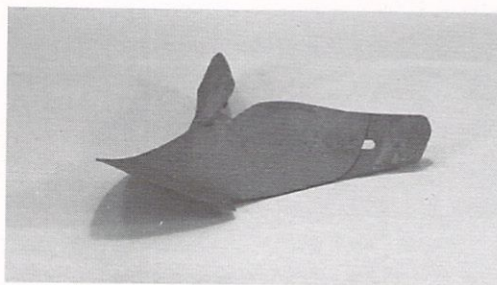
2-E-02-11

1点

鉄製。

法量(cm) 長37.5, 幅36.0, 高9.0

重量(g) 2100



101668 (350)

タニアゲ

2-E-02-11

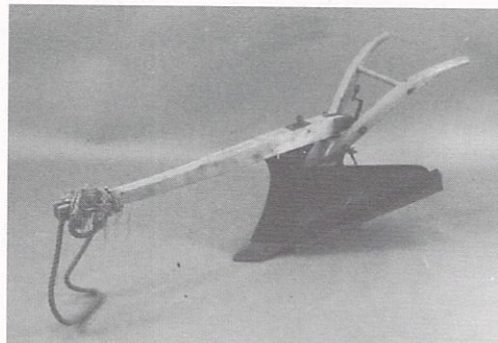
1点

八日市市建部上中町

鉄製。柄は木製。畦の土を取り、畦の上に乗せる。昭和初期～30年頃まで使用。

法量(cm) 全長162.5, 幅69.3, 高69.0, (刃) 長84.0

重量(g) 18400



101669 (3051)

(不詳) 〈土入機〉

2-E-02-11

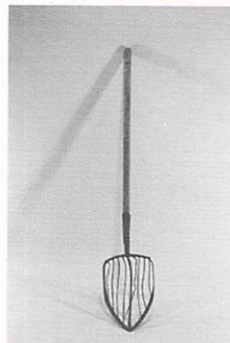
1点

滋賀郡志賀町中浜

鉄棒に直径3.0mmの鉄線を張る。柄は桎製。麦の分根のため芽の上に土を被せるのに使用した。以前は鋤や鍬でかけていた。昭和初期～50年頃まで使用。焼印あり。

法量(cm) 全長194.0, (先) 長32.0, 幅20.5, (柄) 長92.0, 径2.8

重量(g) 900



101670 (137)

麦の土入機

2-E-02-11

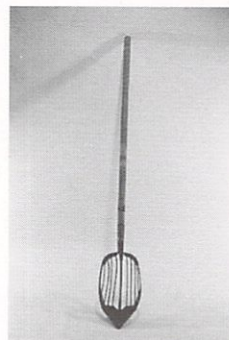
1点

長浜市国友町

ブリキ製。柄は木製。麦をまいた畦に芽が出、大きく苗が育ってくるとこれで土をかぶせる。昭和20年頃まで使用。

法量(cm) 全長154.5, (先) 長33.0, 幅18.5, (柄) 長120.5, 径3.2

重量(g) 1400



101671 (1878)

2-E-02-11

麦の土入れ

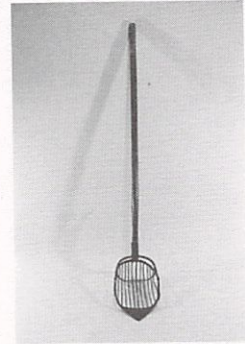
1点

大津市坂本町

鉄製。柄は木製。土入れに使用。戦前まで使用。

法量(cm) 全長141.0, (刃) 長34.5, 幅19.9, (柄) 長108.3, 径2.9

重量(g) 1300



101672 (895)

2-E-02-11

麦の土入れ

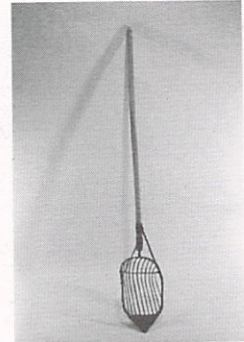
1点

八日市市市辺町

鉄製。柄は桎製。麦の土入れに使う。麦の新芽が伸びないよう、芽の上から土をすくい麦の上に篩をかけるように土を入れる。昭和15年～30年頃まで使用。刃先に刻印あり。

法量(cm) 全長141.5, (刃) 長33.0, 幅18.8, (柄) 長106.7, 径2.7

重量(g) 900



101673 (1952)

2-E-02-11

ジョレン (鋤簾)

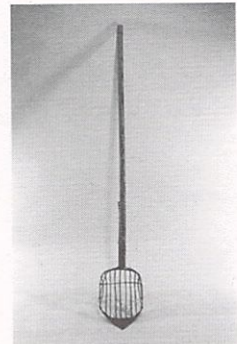
1点

神崎郡能登川町今

鉄製。柄は木製。土砂をかき寄せる時に使用。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 全長158.0, (刃) 長28.1, 幅19.5, (柄) 長130.8, 径3.2

重量(g) 1300



101674 (1687)

2-E-02-11

ツチクダキ (土砕き)

1点

東浅井郡浅井町瓜生

鉄製。柄は桎製。土の荒砕きに使用した。

法量(cm) 全長121.0, (刃) 長28.0, 幅19.0, (柄) 長121.0, 径3.0

重量(g) 1400



101675 (341)

2-E-02-11

麦の土入機

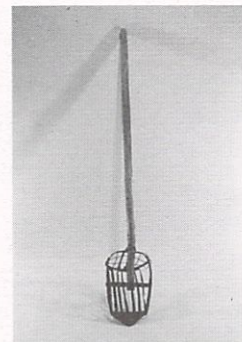
1点

八日市市寺町

鉄製。柄は木製。昭和10年頃まで使用。

法量(cm) 全長134.0, (刃) 長31.1, 幅19.6, (柄) 長119.5, 径3.1

重量(g) 1300



101676 (595)

2-E-02-11

麦の土入れ

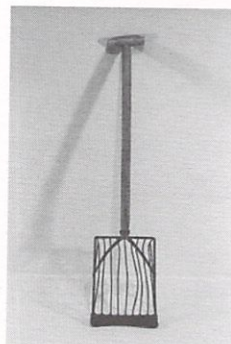
1点

野洲郡中主町比留田

鉄製。柄は桎製。

法量(cm) 全長99.3, (刃) 長29.9, 幅22.0, (柄) 長69.8, 径3.2, (把手)
長12.6, 径2.7

重量(g) 1200



101677 (672)

2-E-02-11

麦の土入れ機

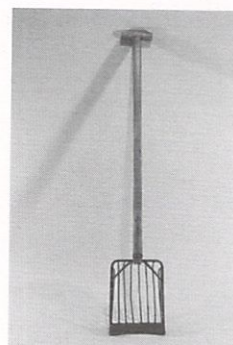
1点

野洲郡中主町下堤

鉄製。柄は桎製。焼印あり。

法量(cm) 全長113.5, (刃) 長26.0, 幅18.8, (柄) 長89.0, 径3.3, (把手)
長11.6, 径2.9

重量(g) 1000



101678 (349)

2-E-02-11

麦の土入機

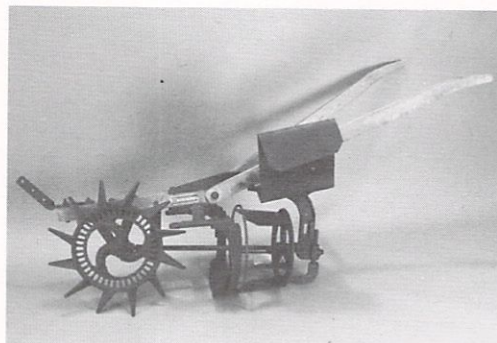
1点

八日市市建部上中町

鉄製。柄は木製。牛に曳かせて麦の土入れをする。昭和初期～30年頃まで使用。プレート「新案特許出願中 文明式富力麦土入機 制作元鹿兒島市郡元町八四二・文明農機株式会社」。印字「文明式土入機」。

法量(cm) 全長152.0, 幅60.0, 高78.0

重量(g) 26200



101679 (473)

2-E-02-12

フグセ (穴掘り棒)

1点

神崎郡能登川町伊庭

木製。折れた鋤の柄の先を削り、持ち手を付けた。菜種苗を移植するとき、片手にもって穴をあけながら植えて行った。

法量(cm) 全長36.0, 径3.0, (把手) 長17.0, 径3.5

重量(g) 260



101680

2-E-02-12

ホグセ (掘串)

1点

東浅井郡浅井町瓜生

木製。

法量(cm) 全長50.5, 径3.8, (把手) 長14.7, 径3.5

重量(g) 393



101681

(不詳) 〈掘串〉

2-E-02-12

1点

木製。焼印あり。

法量(cm) 全長67.5, 径3.4, (把手) 長12.6, 径3.0

重量(g) 525



101682 (139)

クツキボウ

2-E-02-12

1点

長浜市国友町

自家製。不要になったホリ(鋤)の櫛製の柄を使って作った。田の畦に豆を植える際に穴をあける道具。これで穴をあけて中に豆を入れ、その上に砂をかぶせる。昭和10年頃に製作。昭和25年頃まで使用。

法量(cm) 全長67.5, 径3.5, (把手) 長21.5, 径2.5

重量(g) 585



101683

(不詳) 〈掘串〉

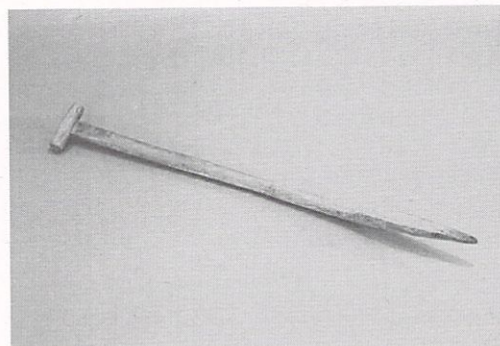
2-E-02-12

1点

木製。

法量(cm) 全長88.4, 径3.5, (把手) 長11.5, 径3.4

重量(g) 691



101684 (1422)

ツキボウ (突き棒)

2-E-02-12

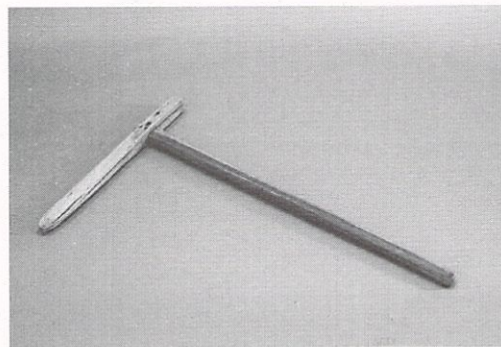
1点

伊香郡余呉町中之郷

木製。田の畔にこれで穴をあけ、そこに大豆や小豆の種を入れ、上に灰をかける。豆の植付用。大正時代まで使用。

法量(cm) 全長82.1, 長径3.0, 短径2.6, (先部) 長51.5, 幅3.5

重量(g) 729



101685 (451)

ドウビン

2-E-02-12

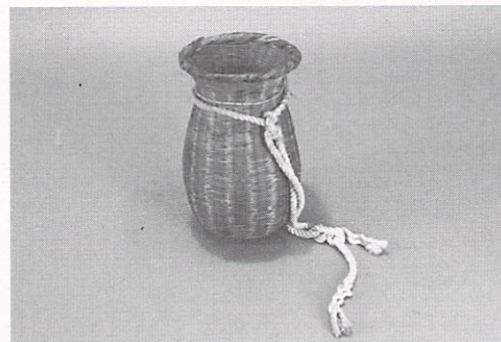
1点

高島郡新旭町薬園

竹製。この籠を腰に着け、中に大豆や小豆の種子を入れ、田の畦に播く。

法量(cm) 口径16.0, 高25.0

重量(g) 200



101686 (1434)

2-E-02-12

マメカゴ (豆籠)

1点

伊香郡余呉町奥川並

山でモミジ科の木を伐り、木質部を薄くはぎ取り編む。余呉町丹生北部独特のもの。豆の種子や小物を入れ腰にさげて仕事をする。大正時代まで使用。墨書あり。

法量(cm) 高23.5, (口) 長径13.0, 短径11.5, (底) 幅15.5

重量(g) 123



101687 (1700)

2-E-02-12

コシツケ (腰付け)

1点

東浅井郡浅井町小室

杉板製。畑の豆植えなどの際、腰につけて豆を入れた。この地方では一般に用いられる竹籠を使用することが少なく、木製のものが多かったという。昭和20年頃に製作。

法量(cm) 高15.6, (底) 一辺16.7

重量(g) 500



101688 (958)

2-E-03-01

水汲み桶

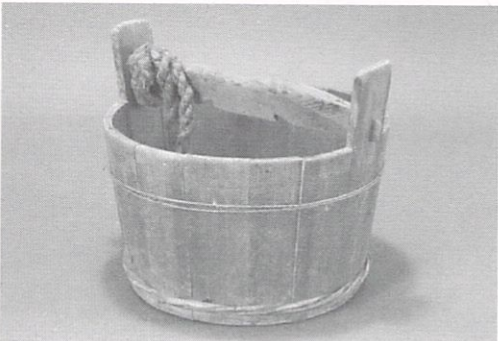
1点

蒲生郡日野町寺尻

木製。箍は竹製。麻紐付。田圃用水汲み桶。野井戸から跳ね釣瓶で水を汲み、田に入れる。水田に4寸の水が必要であった。大正10年頃に製作。昭和31年頃まで使用。

法量(cm) 口径26.0, 最大幅27.9, 高30.8

重量(g) 1600



101689 (1642)

2-E-03-01

水汲み桶

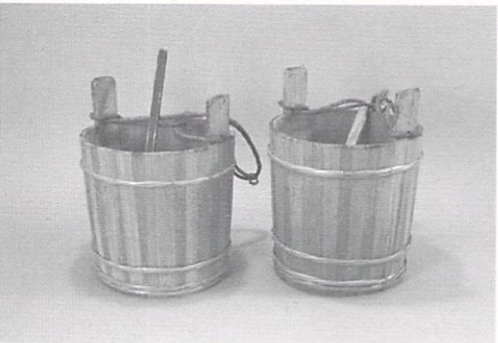
1点

神崎郡能登川町伊庭

木製。箍は竹製。棕櫚縄を付ける。夏期にタイモの水やりのため、田舟の上から桶を突っ込んで水をくみ、天秤でかついで水やりをした。中の棒をぬくと底から水が出る仕組み。水中ポンプが現れてすたれた。昭和30年代まで使用。

法量(cm) (左) 径33.0, 高42.8, (右) 径33.0, 高44.0

重量(g) (左) 2000, (右) 2000



101690 (102)

2-E-03-01

ミズモチションボケ (水持小便桶)

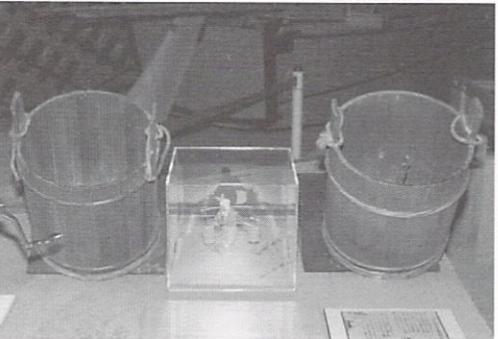
1点

坂田郡米原町磯

購入品。木製。箍は竹製。磯の桶屋で作ってもらった。縄の結び方はハヤオカケという。短い天秤棒で桶を担ぎ、両底を合わせるようにして桶を傾けて水を入れる。畑まで運び、桶のテを引いて底の栓をあけ、水を出す。テには糸をつけ、それに布裂をつけて、桶の端につけておく。昭和10年頃まで使用か。

法量(cm) 径34.0, 高45.5

重量(g) 2100



101691 (311)

2-E-03-01

ツノオケ (角桶)

1点

八日市市市辺町

木製。桶は竹製。水を汲み運搬する。大正時代初期に購入か。大正時代まで使用。焼印「滋賀□□」。

法量(cm) 径27.0, 高39.0

重量(g) 1100



101692 (311)

2-E-03-01

ツノオケ (角桶)

1点

八日市市市辺町

木製。桶は竹製。水を汲み運搬する。大正時代まで使用。墨書「明治四拾壹年 十一月十一日 代金参拾五□ 買□□ん」。焼印あり。

法量(cm) 径25.0, 高28.0

重量(g) 1000



101693 (311)

2-E-03-01

ツノオケ (角桶)

1点

八日市市市辺町

木製。桶は竹製。水を汲み運搬する。大正時代初期に購入か。大正時代まで使用。

法量(cm) 径22.7, 高28.0

重量(g) 675



101694 (576)

2-E-03-02

ジョウゴ

1点

長浜市新栄町

木製。田へ川の水を入れるのに使用。昭和20年以降は動力ポンプを使用するようになった。昭和初期に購入、使用。

法量(cm) 長140.3, 幅36.8~55.5, 高16.5

重量(g) 8100



101695 (780)

2-E-03-02

ゴイ

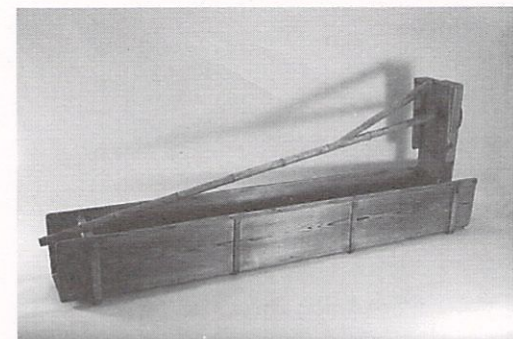
1点

野洲郡中主町井口

杉製。柄は竹製。一方を水につけ、もう一方の端を田面へ向けて、水をかき上げ田へ入れる。

法量(cm) 長188.0, 幅27.5, 高26.0, (水掻) 全長186.2, 板長45.0, 幅23.0, 柄径3.5

重量(g) 4800, (水掻) 1100



101696 (821)

2-E-03-02

ゴイ

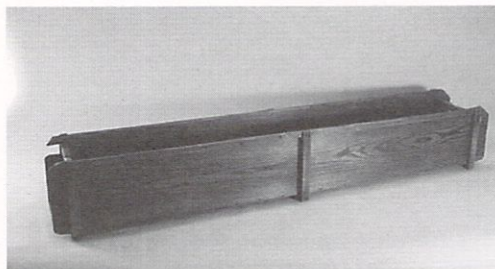
1点

野洲郡中主町六条

木製。

法量(cm) 長192.0, 幅31.5, 高30.0

重量(g) 8000



101697

2-E-03-02

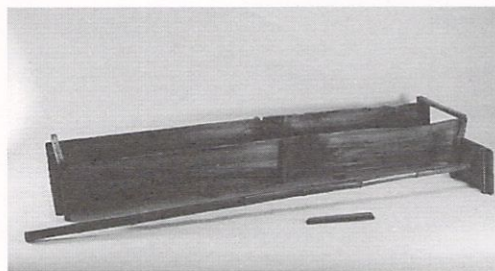
ゴイ

1点

木製。

法量(cm) 長188.5, 幅37.0, 高25.8, (水掻) 全長191.0, 板長20.5, 幅27.8, 柄径3.5

重量(g) 7200, (水掻) 1000



101698 (360)

2-E-03-02

ゴイ

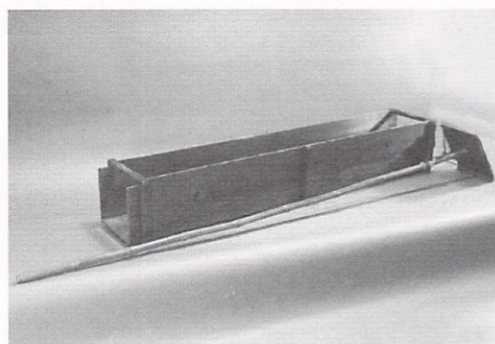
1点

八日市市建部瓦屋寺町

木製。水中に入れ、手で水を汲み上げ水田に入れる。明治時代中期～大正時代末期頃まで使用。

法量(cm) 長197.0, 幅35.0, 高32.3, (水掻) 全長264.8, 板長36.0, 幅26.3, 柄径3.2

重量(g) 10600, (水掻) 1300



101699

2-E-03-03

サザエガラ

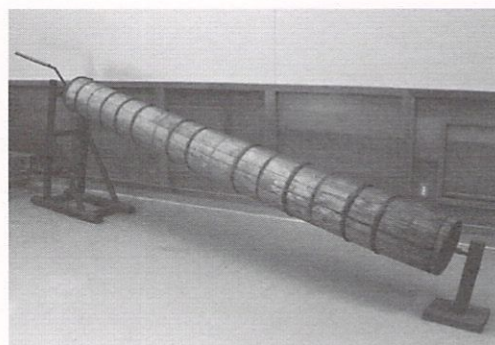
1点

高島郡高島町勝野

木製。箍は竹製。把手は鉄製。

法量(cm) 全長454.5, 径34.3, (把手) 径3.5, 長82.3, (桶) 長361.2

重量(g) 42700



101700 (489)

2-E-03-03

サザエ

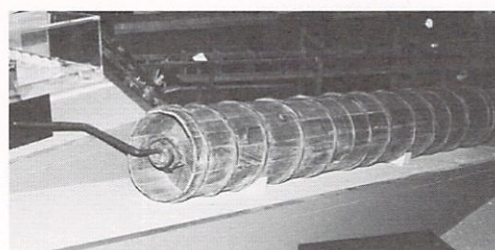
1点

高島郡今津町浜分

木製。箍は竹製。把手は鉄製。溜池から田へ水を汲み上げる。湧水の生簀に杭を打ち、台にして斜めに置き、手でまわす。また、築を作る際に溜まった水をかき出すのに使用。昭和30年まで使用。

法量(cm) 全長351.0, 径37.0, (把手) 径2.0, 長42.0, (桶) 長304.0

重量(g) 33200



101701 (476)

2-E-03-03

竜骨車

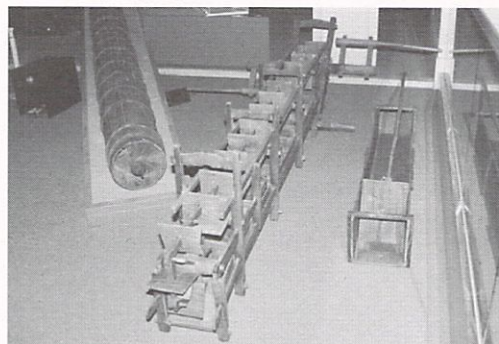
1点

野洲郡中主町吉川

木製。納置してあったのを動力が不足した戦中、戦後頃に一時使用した。

法量(cm) 全長341.0, 全幅90.5, 全高91.5, (把手) 径3.2, 長226.0

重量(g) 42400



101702 (114)

2-E-03-03

テングリ (竜骨車)

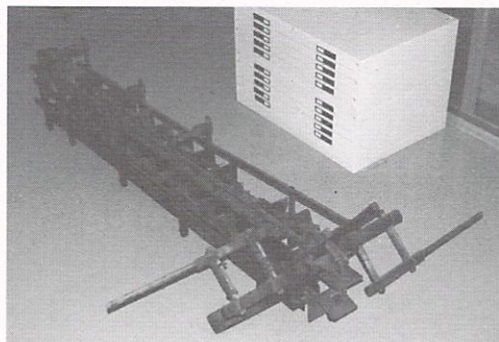
1点

八日市市建部瓦屋寺町

木製。

法量(cm) 全長355.7, 全幅94.7, 全高96.3, (把手) 径3.5, 長236.0

重量(g) 45500



101703 (371)

2-E-03-04

ジャグルマ (蛇車)

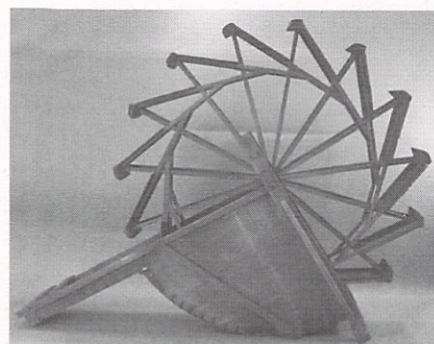
1点

八日市市建部瓦屋寺町

木製。今井川より水田に灌漑用水をあげるのに使用。パーチカルポンプが普及するまで使用した。明治時代初期に製作。昭和初期まで使用。墨書「六口」。焼印「請合 蒲生郡北之庄 蛇車屋 市良右衛門」。

法量(cm) (車) 径164.6, 羽根板長34.3, 幅24.1, (太鼓) 長161.8, 幅81.5, 高122.3

重量(g) 31400



101704 (111)

2-E-03-04

ジャグルマ (蛇車)

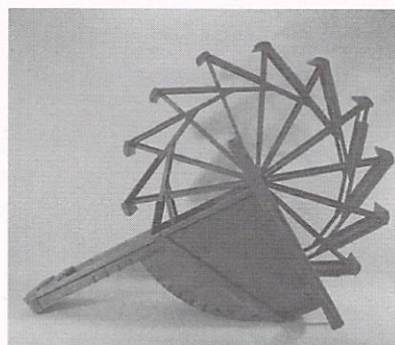
1点

八日市市建部瓦屋寺町

木製。焼印「請合 蒲生郡北之庄 蛇車屋 市良右衛門」。

法量(cm) (車) 径148.5, 羽根板長33.0, 幅23.5, (太鼓) 長148.7, 幅81.6, 高112.0

重量(g) 27100



101705 (391)

2-E-03-04

スイシャ (水車)

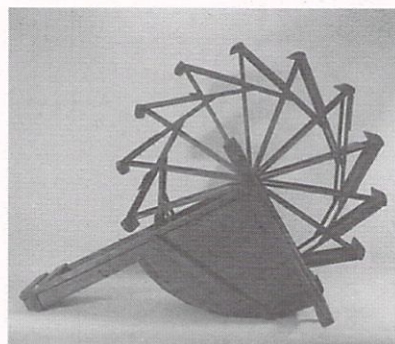
1点

神崎郡能登川町伊庭

木製。焼印「北之庄 請合蛇車屋 市良右衛門」。

法量(cm) (車) 径149.0, 羽根板長33.0, 幅23.7, (太鼓) 長150.7, 幅79.5, 高113.8

重量(g) 30100



101706 (1351)

2-E-03-04

ジャグルマ (蛇車)

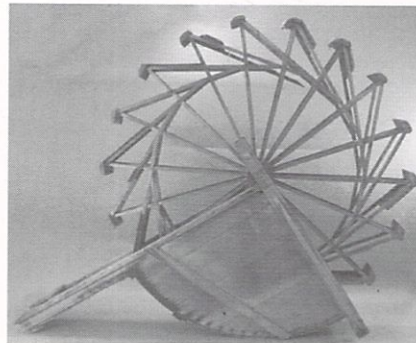
1点

長浜市南小足町

木製。大型で水量の多い地帯で使用。南小足町に10台くらいあったうちの1台。大正時代中期に購入。昭和中期の水路改修まで使用。焼印「請合 蒲生郡北之庄 蛇車屋 市良右衛門」。

法量(cm) (車) 径166.0, 羽根板長32.0, 幅23.0, (太鼓) 長173.4, 幅83.5, 高121.2

重量(g) 35000



101707 (400)

2-E-03-04

ジャグルマ (蛇車)

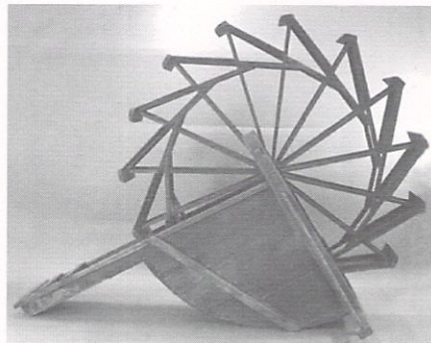
1点

神崎郡能登川町伊庭

木製。田の川の縁に杭を打ち、藁縄で水車を括って水を揚げた。在所(伊庭)から下でも一寸高い田は水が入りにくかった。明治時代まで使用。焼印「極上 請合」「八階 扇屋藤兵衛」。

法量(cm) (車) 径163.9, 羽根板長34.4, 幅24.4, (太鼓) 長169.6, 幅81.5, 高123.7

重量(g) 31700



101708 (100)

2-E-03-04

ミズグルマ (水車)

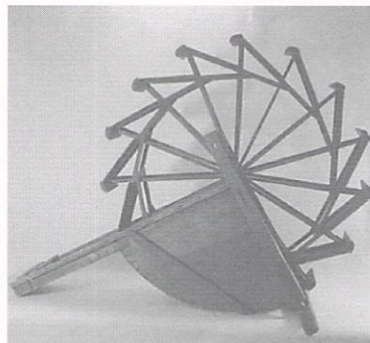
1点

坂田郡米原町朝妻筑摩

檜製。大正時代に米原町米原で使用されていたのを購入。水車は彦根市三津屋で作っていた。入江内湖の周辺、および西側など水源のない孤立した所で使用した。湖を埋め立てた所で水の便が悪かったので、琵琶湖の水を水車で汲み上げた。墨書「壹」。焼印「彦根 四十九町 金治」。

法量(cm) (車) 径164.1, 羽根板長34.0, 幅23.5, (太鼓) 長166.2, 幅82.2, 高117.9

重量(g) 36000



101709 (2433)

2-E-03-04

足踏式揚水機

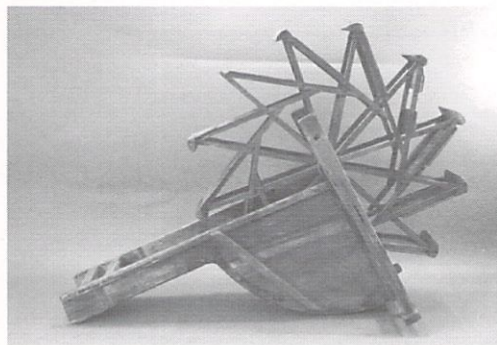
1点

高島郡マキノ町中庄

杉材製。農業用水を水田に汲み上げる時に使用。揚水機の両側に杭を打って固定し、羽根車の上に乗って歩くように足で一枚一枚踏んで回しながら水を汲み入れた。昭和初期に近所の人から購入。焼印「請合 高島郡青冷寺 三矢甚造」。

法量(cm) (車) 径120.0, 羽根板長32.5, 幅23.5, (太鼓) 長130.0, 幅73.0, 高92.0

重量(g) 20300



101710 (1165)

2-E-03-04

水車

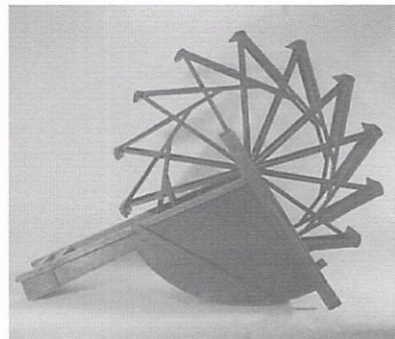
1点

高島郡新旭町針江

木製。低い川から高い所にある田へ水を揚げる道具。水車を足で踏み、水をあげる。明治時代～大正時代まで使用。焼印「請合 大善 船木」。

法量(cm) (車) 径151.5, 羽根板長34.5, 幅23.3, (太鼓) 長149.7, 幅79.0, 高111.8

重量(g) 32900



101711 (466)

2-E-03-04

ミスグルマ

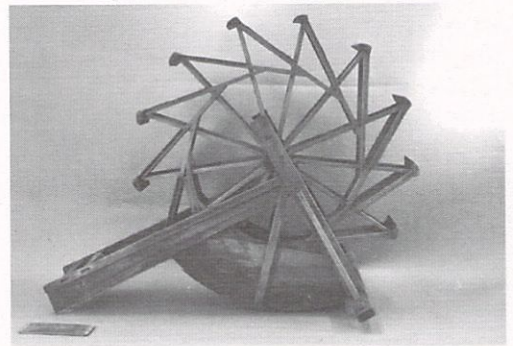
1点

高島郡新旭町太田

木製。低い川から高い田へ水を入れるのに使用。足踏式。大正時代に使用。焼印「□□ □□ 大善」。

法量(cm) (車) 径135.1, 羽根板長33.3, 幅25.6, (太鼓) 長133.1, 幅79.0, 高107.5

重量(g) 26900



101712 (99)

2-E-03-04

ミスグルマ (水車)

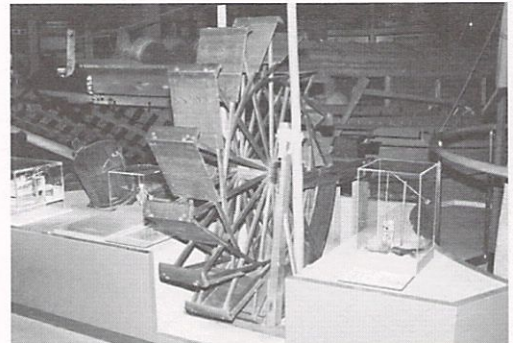
1点

守山市木浜町

木製。一枚の田に一つずつ水車を備えていた。昭和25年頃には苗代へは水車を使用し、他へは発動機で揚水した。杭を2本打ち、ツンバりを2本打って固定する。杭を持って踏む。水位が低いと2台で汲み上げた。柳の横に溜りを作り、水を一旦あげて、さらに上へあげる。焼印「湖西 堅田町 本家 大善 請合」。

法量(cm) (車) 径157.0, 羽根板長34.7, 幅25.5, (太鼓) 長147.5, 幅36.5, 高112.0

重量(g) -



101713

2-E-03-04

ジャグルマ

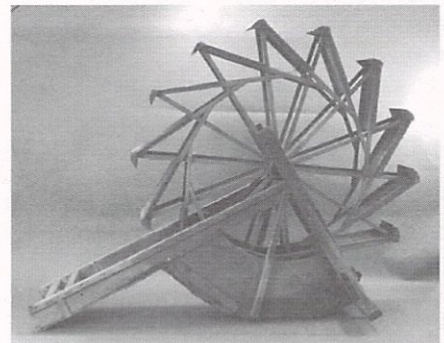
1点

野洲郡中主町吉川

木製。墨書「新調」「所有」など。

法量(cm) (車) 径151.0, 羽根板長35.2, 幅25.7, (太鼓) 長151.0, 幅78.0, 高113.5

重量(g) 24400



101714 (639)

2-E-03-04

ジャグルマ (蛇車)

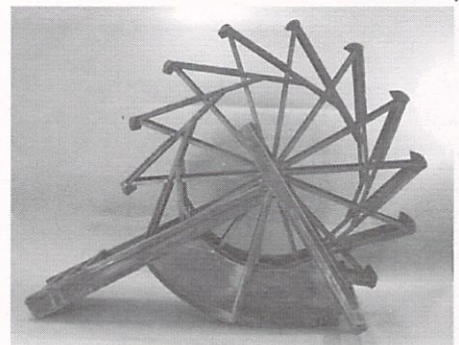
1点

野洲郡中主町比留田

木製。水車大工が製作。中主町域の揚水に使用。比留田、野田、安治、吉川、須原などの湖辺に接する地域で使用した。

法量(cm) (車) 径149.6, 羽根板長34.1, 幅25.3, (太鼓) 長145.2, 幅78.4, 高112.8

重量(g) 23100



101715

2-E-03-05

(不詳) 〈発動機〉

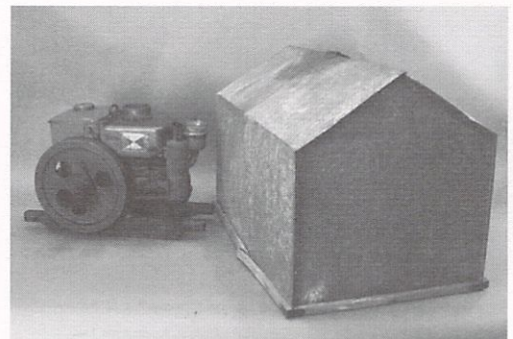
1点

近江八幡市牧町

水田の揚水に使うバーチカルポンプを動かすのに使用。

法量(cm) (本体) 縦43.0, 横67.5, 高45.0, (箱) 縦61.5, 横92.8, 高61.5

重量(g) (本体) -, (箱) 8100



101716

(不詳) 〈ポンプ〉

2-E-03-05

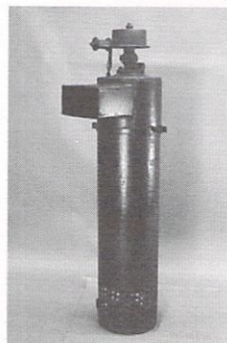
1点

近江八幡市牧町

水田の揚水に使うバーチカルポンプ。プレート「高級□□□□製作 大阪マルヤポンプ天満 合名会社丸矢機械工作所 電話北七〇六五番」

法量(cm) 高145.0, 径28.0

重量(g) 50500



101717

(不詳) 〈ポンプ〉

2-E-03-05

1点

近江八幡市牧町

水田の揚水に使うバーチカルポンプ。

法量(cm) 高143.5, 径17.5

重量(g) 26000



101718

(不詳) 〈ベルト〉

2-E-03-05

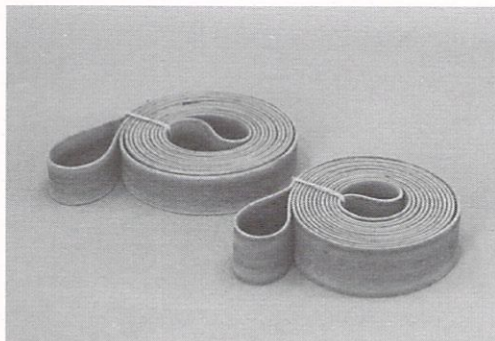
1点

近江八幡市牧町

水田の揚水に使うバーチカルポンプと共に使う。

法量(cm) 幅5.2, 長305.0

重量(g) 1800



101719

(不詳) 〈樋〉

2-E-03-05

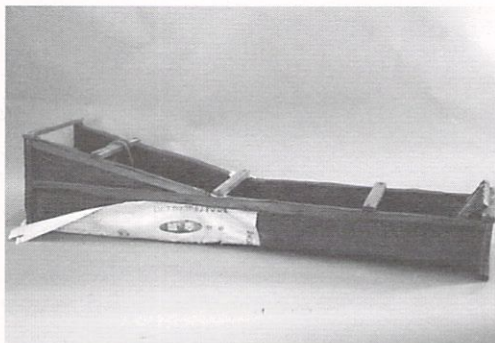
1点

近江八幡市牧町

水田の揚水に使うバーチカルポンプと共に使う。

法量(cm) 幅34.0, 長158.0, 高36.5

重量(g) 6100



101720 (246)

ニシンキリ (鯰切り)

2-E-03-06

1点

八日市市三津屋町

鉄製の刃に木製の柄を付ける。肥料用の鯰を切断する。昭和20年代以降、菜種の刈取りに使用した。刻印「三河弥」。

法量(cm) 長35.5, 径3.5, 刃渡15.6

重量(g) 760



101721 (298)

2-E-03-06

ニシンキリ (鯢切り)

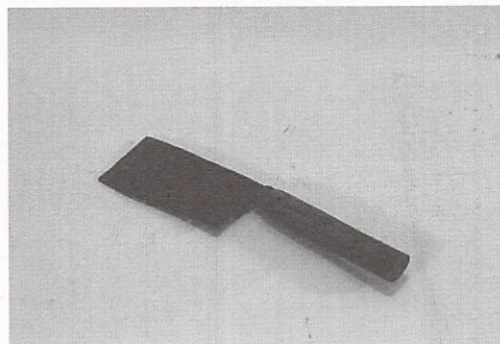
1点

八日市市建部日吉町

鉄製の刃に櫓製の柄を付ける。肥料用の鯢を切る。土用の頃、板に鯢をのせ約20cmに鉋で切る。鯢は竹籠に縦に入れて腰につけ、水田の稲の根元の土に差し込む。

法量(cm) 長35.0, 径3.5, 刃渡16.0

重量(g) 700



101722 (663)

2-E-03-06

豆粕削り

1点

野洲郡中主町野田

木製。一部鉄製。厚さ10cmくらいの円盤になっている豆粕を削るのに使用。焼印「完全無欵 東洋式」「製造 発賣 東洋商會」など。スタンブ「特製品」。

法量(cm) 長91.0, 幅30.8, 高70.2, (柄)長106.9, (把手)幅23.7, 厚5.2

重量(g) 13400



101723 (594)

2-E-03-06

豆粕割機

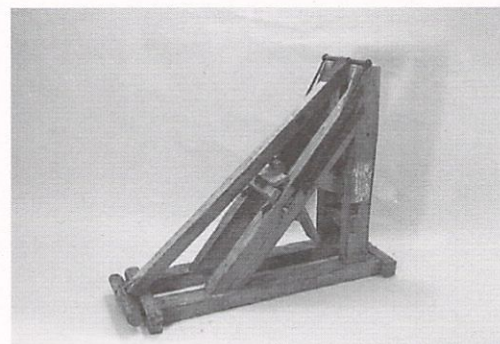
1点

野洲郡中主町比留田

木製。一部鉄製。焼印「完全無欵 東洋式」。シール「□□ 東洋式豆粕割機 製造發賣元 株式会社東洋商會」。

法量(cm) 長87.3, 幅31.7, 高71.5, (柄)長102.7, (把手)幅24.3, 厚5.8

重量(g) 12900



101724 (343)

2-E-03-06

豆粕碎機

1点

八日市市寺町

木製。一部鉄製。肥料用の大豆粕の円盤を砕くのに使用。明治時代末期～大正時代初期まで使用。焼印「完全無欵 東洋式」。

法量(cm) 長85.9, 幅31.3, 高70.0, (柄)長105.5, (把手)幅24.0, 厚3.8

重量(g) 14500



101725 (3342)

2-E-03-06

マメカスケズリキ (豆粕削機)

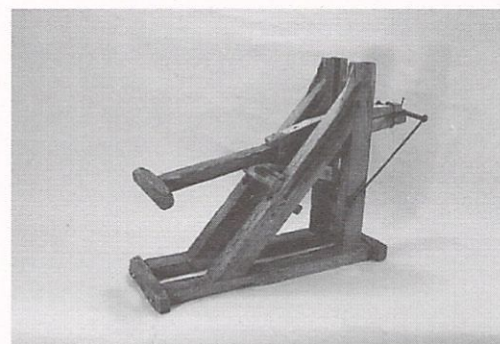
1点

滋賀郡志賀町北小松

木製。一部鉄製。円形の豆粕板の中心に穴をあけ、機械の芯棒にはめ込み、柄を上下させて豆粕板を削る。大正時代に天津市の農機具店より購入。昭和13年頃まで使用。シール「賞賛轟四海 □案東洋式豆粕削機 製造發賣元合資會社東洋商會」。

法量(cm) 長85.8, 幅30.4, 高70.0, (柄)長99.5, (把手)幅23.7, 厚4.4

重量(g) 13500



101726 (363)

2-E-03-06

肥桶

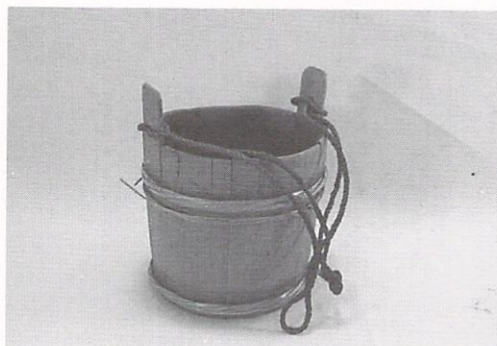
1点

八日市市建部日吉町

木製。箍は竹製。棕櫚縄を付ける。昭和初期～30年代まで使用。焼印あり。

法量(cm) 径34.8, 高42.5

重量(g) 2100



101727 (363)

2-E-03-06

肥桶

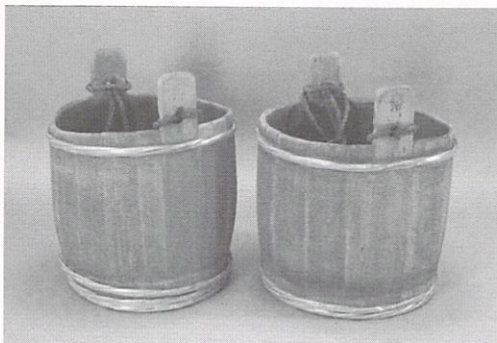
1点

八日市市建部日吉町

木製。箍は竹製。棕櫚縄を付ける。昭和初期～30年代まで使用。焼印あり。

法量(cm) (左) 径32.0, 高41.9, (右) 径33.4, 高40.8

重量(g) (左) 2100, (右) 2100



101728 (363)

2-E-03-06

肥桶

1点

八日市市建部日吉町

木製。箍は竹製。棕櫚縄を付ける。昭和初期～30年代まで使用。

法量(cm) 径32.0, 高52.0

重量(g) 2600



101729

2-E-03-06

シモゴエオケ (下肥桶)

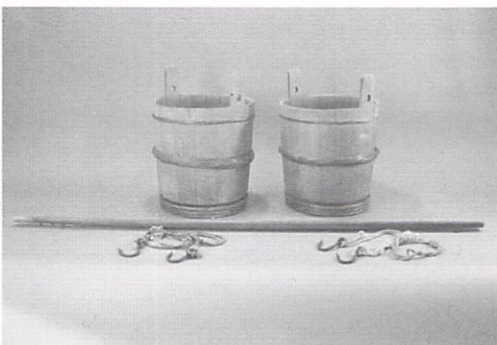
1点

草津市下物町

木製。箍は竹製。近くの桶屋で作ったもの。蓋は欠。肥を入れて運ぶ時はマキワラと蓋で密閉した。昭和30年頃まで船で大津まで運んでいた。天秤棒に「下松善」の焼印あり。

法量(cm) (桶) 径39.0, 高54.0, (棒) 長172.8, 幅5.0, (チンチョ) 長126.0

重量(g) (桶) 2600, (棒) 1500, (チンチョ) 200



101730 (1904)

2-E-03-07

草刈り籠

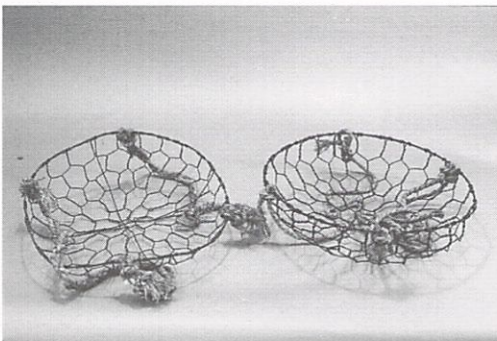
1点

東浅井郡浅井町

針金を六角形に編み、藁縄を付ける。

法量(cm) (左) 口径59.2, 高16.0, (右) 口径58.2, 高18.0

重量(g) (左) 1200, (右) 1000



101731 (1255)

2-E-03-07

草取り爪

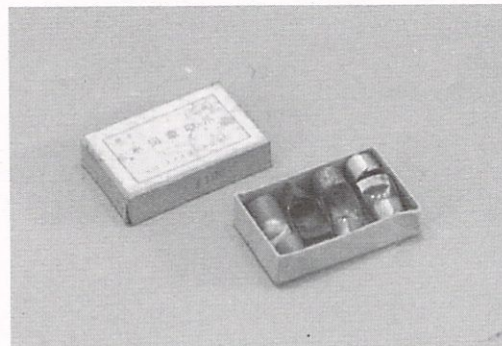
1点

滋賀郡志賀町北小松

金属製。購入品。箱に「袋形 甲品 水田草取爪 「八個一組」 製造元タキイ種苗株式会社」。

法量(cm) (箱) 縦5.7, 横9.1, 高2.4, (爪大) 長3.5, 幅1.8, (爪小) 長3.2, 幅1.5

重量(g) 計43



101732 (1880)

2-E-03-07

クサカリガマ (草刈鎌)

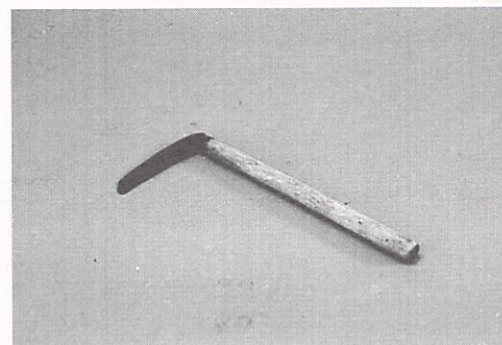
1点

大津市坂本本町

鉄製の刃先に木製の柄を付ける。柔らかい草を刈る。大正時代まで使用。

法量(cm) 全長35.0, (刃) 長14.0, 幅2.5, (柄) 長30.7, 径2.3

重量(g) 94



101733 (1881)

2-E-03-07

チュウガマ (中鎌)

1点

大津市坂本本町

鉄製の刃先に櫛製の柄を付ける。大正時代まで丈の長い草などややかたいものを切るのに使用した。

法量(cm) 全長43.5, (刃) 長17.0, 幅3.6, (柄) 長34.5, 長径3.2, 短径2.5

重量(g) 262



101734 (1882)

2-E-03-07

アツガマ (厚鎌)

1点

大津市坂本本町

鉄製の刃先に櫛製の柄を付ける。大正時代まで木や竹を切るのに使用した。刃に刻印「土口 請合」。

法量(cm) 全長36.7, (刃) 長14.1, 幅4.0, (柄) 長27.8, 径2.6

重量(g) 253



101735

2-E-03-07

カマ

1点

八日市市市辺町

鉄製の刃先に木製の柄を付ける。

法量(cm) 全長57.0, (刃) 長20.2, 幅6.7, (柄) 長49.4, 径3.1

重量(g) 337



101736 (1421)

2-E-03-07

ナガエのカマ (長柄の鎌)

1点

伊香郡余呉町中之郷

鉄製の刃先に木製の長い柄を付ける。土手などの草を立ったままで刈る。細い刃で横になぎ倒すものと山の下草刈用とがあるが、これは兼用のものである。刃に刻印「登録商標 特選」。シール「越前特産 保証 特級 □馬謹製」「四ッ馬」。

法量(cm) 全長108.1, (刃) 長17.2, 幅4.4, (柄) 長89.9, 径3.0

重量(g) 559



101737 (441)

2-E-03-07

ナギガマ

1点

高島郡新旭町堀川

鉄製の刃先に木製の柄を付ける。蓮華草を刈りとる時に使った。普通の鎌より大きく柄も長いので、草をなぎたおすように刈ったので、「ナギガマ」といった。大正時代～昭和初期まで使用。

法量(cm) 全長97.8, (刃) 長21.1, 幅3.7, (柄) 長88.3, 径2.8

重量(g) 372



101738

2-E-03-07

(不詳) 〈鎌〉

1点

鉄製。鎌の刃先。

法量(cm) (刃) 長14.0, 幅3.5

重量(g) 156



101739 (983)

2-E-03-07

テグワ (手鎌)

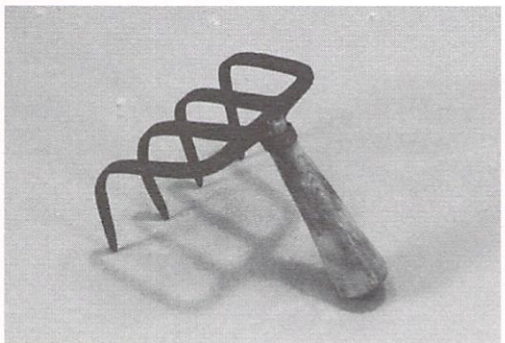
1点

神崎郡永源寺町市原野

鉄製の刃先に木製の柄を付ける。野鍛冶や農機具製作所で製作されたものを購入した。水田の除草、軟い畑の上草取り、その他片手で軽く作業の出来るところで使用されたもの。

法量(cm) 全長12.1, (刃) 長8.0, 幅11.6, (柄) 長9.8, 径3.4

重量(g) 227



101740 (983)

2-E-03-07

テグワ (手鎌)

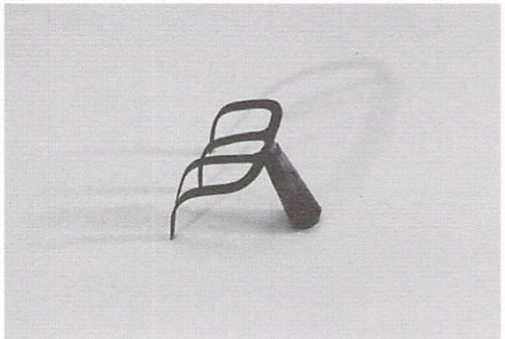
1点

神崎郡永源寺町市原野

鉄製の刃先に木製の柄を付ける。野鍛冶や農機具製作所で製作されたものを購入した。水田の除草、軟い畑の上草取り、その他片手で軽く作業の出来るところで使用されたもの。

法量(cm) 全長11.4, (刃) 長6.8, 幅13.1, (柄) 長10.0, 径3.3

重量(g) 190



101741 (957)

2-E-03-07

草取り四ツ鉾

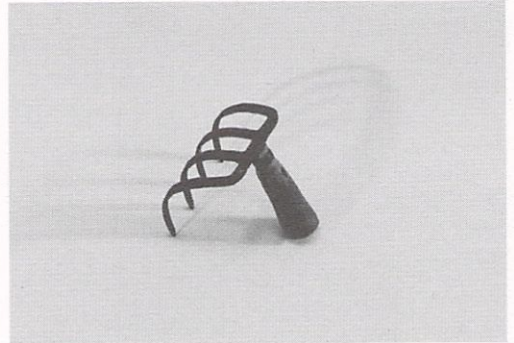
1点

蒲生郡日野町寺尻

鉄製の刃先に木製の柄を付ける。水田の稲株の間を四つばいになり、この草取り鉾を片手に持って、土の中を掘り進みつつ草を取る。明治時代中期～昭和初期まで使用。

法量(cm) 全長11.5, (刃) 長7.6, 幅12.0, (柄) 長9.1, 径3.7

重量(g) 246



101742 (3820)

2-E-03-07

ゲンゲカリカマ (鉾)

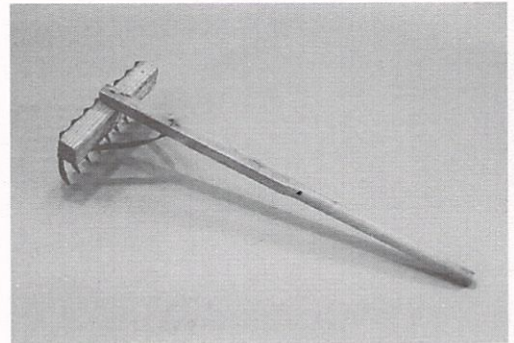
1点

坂田郡山東町野一色

4本の爪の出た歯を2枚並べて釘止めしたもの。柄は杉材。これで紫雲英(蓮華)を刈り集める。昭和20年代～30年代まで使用。

法量(cm) 全長77.5, (刃) 長14.2, 幅25.3, (柄) 径2.7

重量(g) 776



101743

2-E-03-07

レンゲグワ

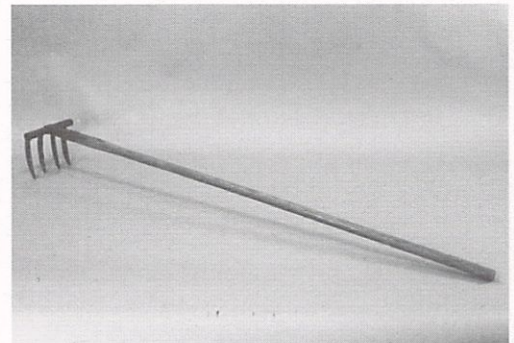
1点

近江八幡市牧町

木製の台に4本の鉄製の爪をつけ、桎製の柄を付ける。蓮華を刈るのに使用。オトコシ(男衆)が使用した。焼印あり。

法量(cm) 全長153.5, (刃) 長17.0, 幅21.7, (柄) 径2.7

重量(g) 1100



101744 (1062)

2-E-03-07

クサトリ (草取り)

1点

長浜市加田町

木製の台に4本の鉄製の爪をつけ、竹製の柄を付ける。爪は欠損。除草用。昭和40年代まで使用。

法量(cm) 全長183.5, 幅13.5, (柄) 径2.8

重量(g) 455



101745 (1062)

2-E-03-07

クサトリ (草取り)

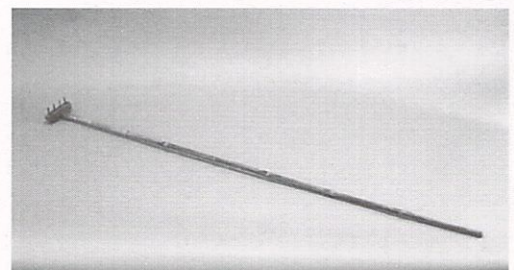
1点

長浜市加田町

木製の台に4本の鉄製の爪をつけ、竹製の柄を付ける。除草用。昭和40年代まで使用。

法量(cm) 全長180.5, 幅14.0, (刃) 長3.4, (柄) 径2.0

重量(g) 398



101746 (1062)

2-E-03-07

クサトリ (草取り)

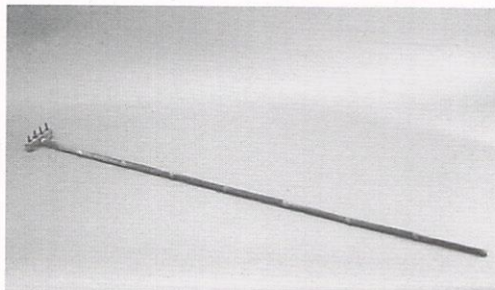
1点

長浜市加田町

木製の台に4本の鉄製の爪をつけ、竹製の柄を付ける。除草用。昭和40年代まで使用。

法量(cm) 全長176.3, 幅14.1, (刃) 長3.5, (柄) 径2.0

重量(g) 375



101747 (1062)

2-E-03-07

クサトリ (草取り)

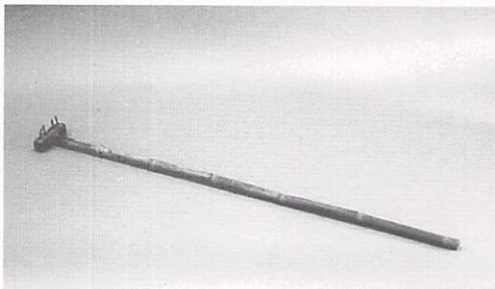
1点

長浜市加田町

木製の台に4本の鉄製の爪をつけ、竹製の柄を付ける。除草用。昭和40年代まで使用。

法量(cm) 全長142.1, 幅13.6, (刃) 長3.6, (柄) 径2.5

重量(g) 455



101748 (3819)

2-E-03-08

メンバ (除草機)

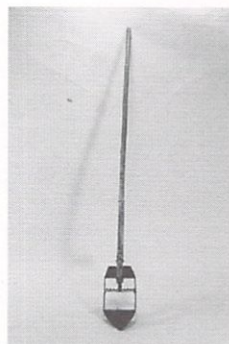
1点

坂田郡山東町野一色

鉄刃長さ3.3cmを裏に付ける。柄は竹製。田植え後、稲の株間をこれで掻き、除草する。

法量(cm) 全長152.0, (搔部) 長32.2, 幅14.3, (柄) 長130.5, 径2.1

重量(g) 650



101749 (1484)

2-E-03-08

草取機

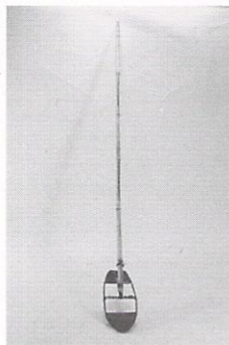
1点

坂田郡伊吹町寺林

木の台を金属で巻き、中央に鉄製の刃をつけたものに竹製の柄を付ける。戦前まで水田除草に使用した。

法量(cm) 全長172.5, (搔部) 長30.9, 幅15.8, (柄) 長154.3, 径2.1

重量(g) 705



101750 (843)

2-E-03-08

除草機

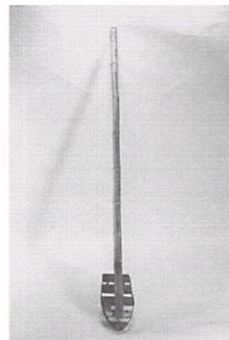
1点

八日市市蛇溝町

木で下駄の歯のように作り、帯金でまき、歯に鉄片を植え竹の手押棒を付ける。水田の除草に使う。水田に入れ、これを手で押して前進すると除草できる。一町半ほどの耕地があり除草に苦しんだため、提供者の父が考えて作ったもの。本邦最初の除草機と自慢のものであったという。明治時代末期頃に製作。昭和初期まで使用。

法量(cm) 全長168.9, (搔部) 長28.8, 幅15.0, (柄) 長163.2, 径3.7

重量(g) 1100



101751 (687)

2-E-03-08

除草機

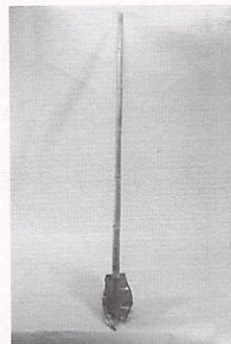
1点

八日市市蛇溝町

松材を1寸5分の板にして角を取り、四等分する。この板駒を鉄帯で巻く。駒には除草用の鉄歯を植える。この本体に手押棒を支柱入りで取りつけたもの。水田の除草用。水田の稲と稲の間にこの除草機を入れ、手で押して前進して除草する。大正4年頃に製作。昭和20年頃まで使用。

法量(cm) 全長185.9, (搔部) 長31.0, 幅14.4, (柄) 長179.7, 径3.5

重量(g) 1100



101752

2-E-03-08

(不詳) 〈除草機〉

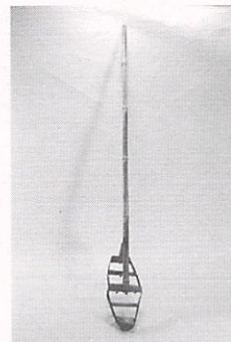
1点

野洲郡中主町六条

木の台に鉄の刃をつけ、金属で巻いたものに竹製の柄を付ける。

法量(cm) 全長164.4, (搔部) 長39.0, 幅18.0, (柄) 長147.6, 径3.2

重量(g) 861



101753 (1485)

2-E-03-08

草取機

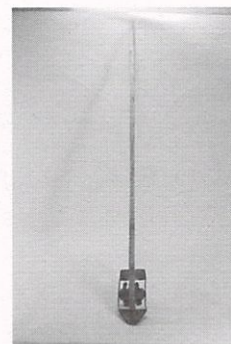
1点

坂田郡伊吹町寺林

木の台に帯金を巻き中央に鉄刃をつけた木製の回転軸を付ける。柄は木製。戦後、水田除草に使用した。墨書「昭和廿一年七月」「自作田」。

法量(cm) 全長178.2, (搔部) 長30.4, 幅14.0, (柄) 長175.6, 径3.0

重量(g) 1150



101754 (1225)

2-E-03-08

タカキ (田掻き)

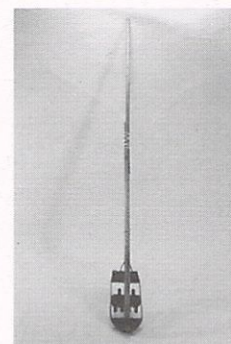
1点

長浜市布勢町

木の台に帯金を巻き中央に鉄刃をつけた木製の回転軸を付ける。柄は木製。焼印「日豊ノ玉□」「小谷鉄工所製」。

法量(cm) 全長169.8, (搔部) 長36.5, 幅14.7, (柄) 長168.1, 径3.0

重量(g) 1400



101755 (152)

2-E-03-08

クサトリキ (草取機)

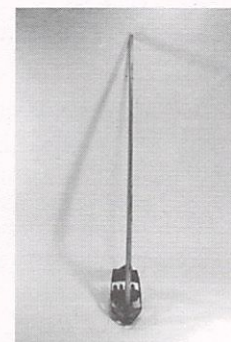
1点

長浜市国友町

コウゲウカシとも言う。木の台に帯金を巻き中央に鉄刃をつけた木製の回転軸をつける。設置面の先端は舟底形でその後部に爪付廻転刃がある。田の草取り用。稲の株と株の間を押したり引いたりして前進する。回転刃が土を攪拌して草を取りのぞく。

法量(cm) 全長154.0, (搔部) 長32.0, 幅15.0, (柄) 長150.0, 径3.0

重量(g) 1000



101756 (413)

2-E-03-08

クサトリ (草取り)

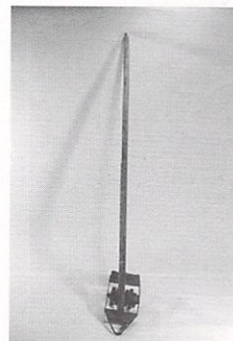
1点

神崎郡能登川町伊庭

木の台に帯金を巻き中央に鉄刃をつけた木製の回転軸を付ける。田の草取りに使用した。昭和初期～中期まで使用。

法量(cm) 全長170.8, (搔部) 長35.9, 幅15.3, (柄) 長163.8, 径3.0

重量(g) 1300



101757 (333)

2-E-03-08

除草機

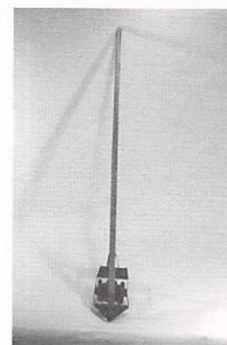
1点

八日市市寺町

木の台に帯金を巻き中央に鉄刃をつけた木製の回転軸を付ける。水稲田の雑草とり。除草機を両手で押し、株間の雑草を土の中にまき込む。昭和25年～30年頃まで使用。焼印あり。

法量(cm) 全長170.1, (搔部) 長34.0, 幅16.4, (柄) 長166.6, 径2.5

重量(g) 1300



101758

2-E-03-08

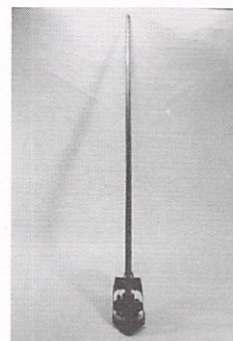
(不詳) 〈除草機〉

1点

木の台に帯金を巻き中央に鉄刃をつけた木製の回転軸を付ける。プレート「実用新案 カワベ式中耕除草機 河部農具製作所 □□□路市□□山」。

法量(cm) 全長175.9, (搔部) 長30.3, 幅14.3, (柄) 長174.3, 径2.5

重量(g) 1150



101759

2-E-03-08

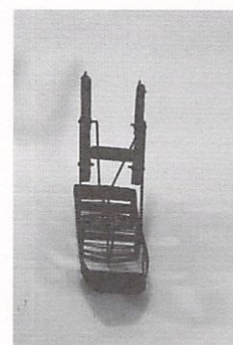
(不詳) 〈除草機〉

1点

鉄製。木製の柄を付ける。

法量(cm) (搔部) 長50.6, 幅16.2, (柄) 幅16.5, 厚3.0

重量(g) 3100



101760 (578)

2-E-03-08

除草機

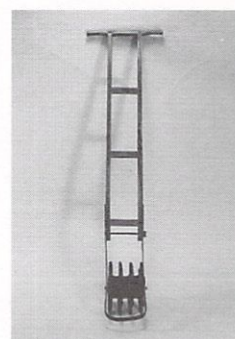
1点

長浜市春近町

鉄製。木製の柄を付ける。プレート「シバタ式中耕整地除草機 □□□合資会社」など。

法量(cm) 全長137.2, (搔部) 長23.0, 幅17.0, (把手) 長37.7, 径2.9, (柄) 長103.2, 幅16.7, 厚3.0

重量(g) 3400



101761 (410)

2-E-03-08

クサトリ (草取り)

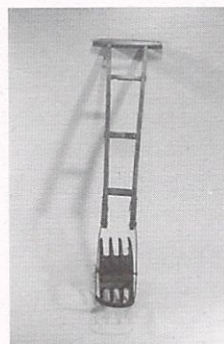
1点

神崎郡能登川町伊庭

鉄製。木製の柄を付ける。一番草といい、手で丁寧に草取りする前に使用した。農協で購入。大正時代～昭和まで使用。プレート「明治廿五年十月十三日 特許千七百廿六号 伯州桑郡中井益萩」。焼印「安澤製」。

法量(cm) 全長142.4, (搔部) 長36.8, 幅18.3, (把手) 長38.5, 長径2.9, 短径2.3, (柄) 長104.8, 幅22.8, 厚3.3

重量(g) 3850



101762 (805)

2-E-03-08

キカイ (田打車)

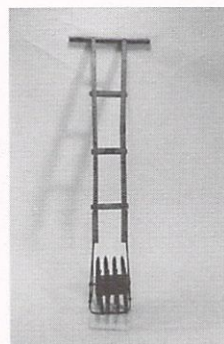
1点

野洲郡中主町吉川

鉄製。木製の柄を付ける。稲の株間を押していくと回転により中耕ができ、分蘖が促進される。プレート「特許 五五八〇 除草器豊年車 發明人高橋佐平」。

法量(cm) 全長133.9, (搔部) 長28.5, 幅17.3, (把手) 長40.8, 径2.7, (柄) 長103.5, 幅17.7, 厚3.1

重量(g) 3700



101763 (732)

2-E-03-08

除草機

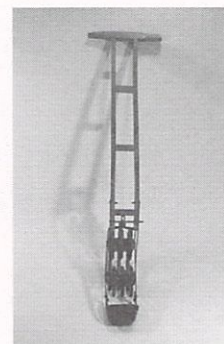
1点

東浅井郡湖北町尾上

鉄製。木製の柄を付ける。プレートあり。

法量(cm) 全長143.0, (搔部) 長53.0, 幅13.9, (把手) 長39.5, 径2.8, (柄) 長103.2, 幅13.5, 厚3.0

重量(g) 3900



101764 (433)

2-E-03-08

タカキグルマ (田搔車)

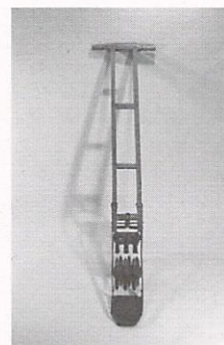
1点

東浅井郡びわ町早崎

鉄製。木製の柄を付ける。焼印「品質保証」「合號中耕除草器」など。プレートあり。

法量(cm) 全長149.0, (搔部) 長55.7, 幅15.0, (把手) 長36.4, 径2.7, (柄) 長104.9, 幅14.8, 厚2.9

重量(g) 4000



101765 (434)

2-E-03-08

タカキグルマ (田搔車)

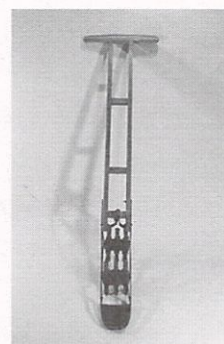
1点

東浅井郡びわ町早崎

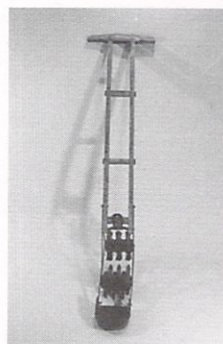
鉄製。木製の柄を付ける。

法量(cm) 全長142.1, (搔部) 長54.0, 幅13.6, (把手) 長39.0, 径2.7, (柄) 長100.0, 幅12.5, 厚3.0

重量(g) 3100



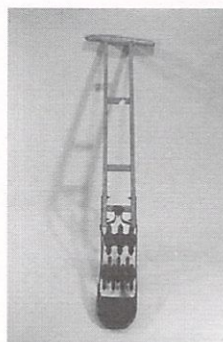
101766 (433) 2-E-03-08
 タカキグルマ (田掻車) 1点
 東浅井郡びわ町早崎
 鉄製。木製の柄を付ける。焼印「重佳」。プレート「登録商標 ヤマタ
 カ式 大阪 高木金属工業株式会社」。
 法量(cm) 全長147.1, (掻部) 長56.4, 幅14.8, (把手) 長36.5, 径2.6,
 (柄) 長104.2, 幅16.0, 厚2.8
 重量(g) 3900



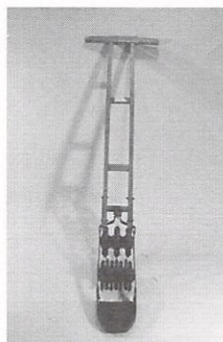
101767 (433) 2-E-03-08
 タカキグルマ (田掻車) 1点
 東浅井郡びわ町早崎
 鉄製。木製の柄を付ける。刃先に刻印「ASAI」。焼印「新案特許アサ
 イ式」など。プレート「新案特許□□□□文□ アサイ式文明除草機」
 など。
 法量(cm) 全長139.8, (掻部) 長50.7, 幅16.8, (把手) 長39.3, 径2.9,
 (柄) 長103.3, 幅15.3, 厚3.0
 重量(g) 4200



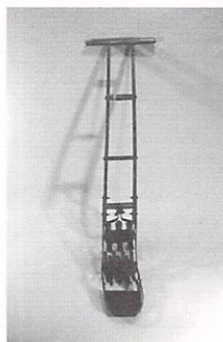
101768 (847) 2-E-03-08
 除草機 1点
 八日市市御園町
 鉄製。木製の柄を付ける。水田の除草に使用。水田の中で除草機を手で
 押して前進すると、雑草が泥の中に入り除草される。昭和30年頃まで使
 用。刃先に刻印「フクイ」。プレートあり。
 法量(cm) 全長145.0, (掻部) 長55.9, 幅17.2, (把手) 長37.3, 径2.6,
 (柄) 長100.8, 幅15.1, 厚3.0
 重量(g) 4000



101769 (847) 2-E-03-08
 除草機 1点
 八日市市御園町
 鉄製。木製の柄を付ける。水田の除草に使用。水田の中で除草機を手で
 押して前進すると、雑草が泥の中に入り除草される。昭和30年頃まで使
 用。刃先に刻印「フクイ」。プレートあり。
 法量(cm) 全長145.3, (掻部) 長58.0, 幅16.7, (把手) 長38.9, 径2.4,
 (柄) 長100.5, 幅13.6, 厚3.0
 重量(g) 4250



101770 (334) 2-E-03-08
 除草機 1点
 八日市市寺町
 鉄製。木製の柄を付ける。水田の雑草取りに使用。除草機を両手で押し、
 株間の雑草を土の中に巻き込む。昭和28年頃に購入。刃先に刻印「SF」。
 法量(cm) 全長145.5, (掻部) 長57.7, 幅17.0, (把手) 長39.0, 径2.8,
 (柄) 長103.2, 幅15.8, 厚2.7
 重量(g) 4400



101771 (369)

2-E-03-08

除草機

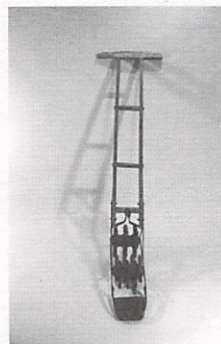
1点

八日市市建部日吉町

鉄製。木製の柄を付ける。水田の稲株の間を押し、雑草を巻き込んで、土の中に入れて除草する。昭和23年頃に購入。昭和20年代まで使用。

法量(cm) 全長145.5, (搔部) 長55.5, 幅16.8, (把手) 長39.3, 径2.9, (柄) 長102.5, 幅16.9, 厚2.7

重量(g) 4600



101772 (2086)

2-E-03-08

クサトリキ (草取機)

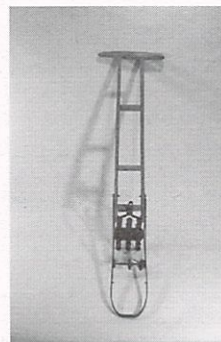
1点

八日市市建部瓦屋寺町

鉄製。木製の柄を付ける。この機を水田の稲の間に入れ、押しながら水田の中の草を取る。昭和30年頃に購入、使用。墨書「五三」など。

法量(cm) 全長145.4, (搔部) 長57.6, 幅16.9, (把手) 長39.4, 径2.8, (柄) 長99.9, 幅15.6, 厚2.9

重量(g) 4000



101773 (2086)

2-E-03-08

クサトリキ (草取機)

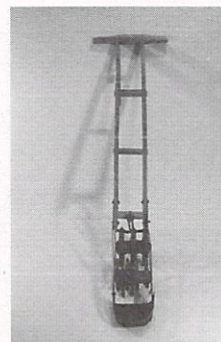
1点

八日市市建部瓦屋寺町

鉄製。木製の柄を付ける。この機を水田の稲の間に入れ、押しながら水田の中の草を取る。昭和30年頃に購入、使用。

法量(cm) 全長146.4, (搔部) 長54.6, 幅17.7, (把手) 長39.5, 径3.0, (柄) 長102.0, 幅16.8, 厚3.0

重量(g) 4100



101774 (591)

2-E-03-08

除草機

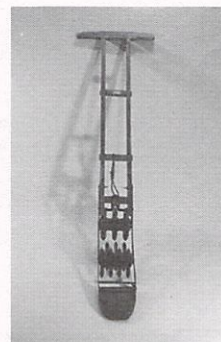
1点

野洲郡中主町比留田

鉄製。木製の柄を付ける。プレート「實用新案 イガハラ式中耕除草機 山陽線井河工場龍野駅前」。

法量(cm) 全長144.9, (搔部) 長57.7, 幅16.9, (把手) 長42.2, 径2.8, (柄) 長98.3, 幅16.8, 厚2.8

重量(g) 4550



101775 (3795)

2-E-03-08

クサトリグルマ (除草機)

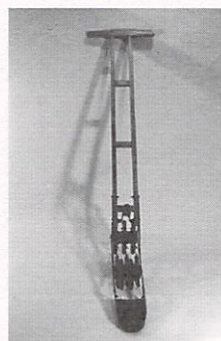
1点

滋賀郡志賀町北小松

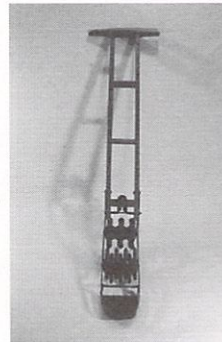
一連式で3本の爪が6カ所付いている車が2個取りつけてある。地元の農協で購入。手押しで田の雑草を除草するために使用。昭和40年代まで使用。刃に刻印「ビワ」。

法量(cm) 全長150.5, (搔部) 長60.0, 幅13.5, (把手) 長37.0, 径2.8, (柄) 長104.7, 幅12.0, 厚2.9

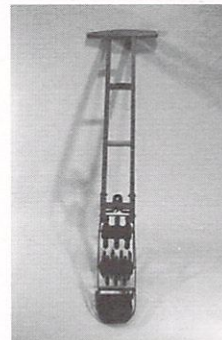
重量(g) 4000



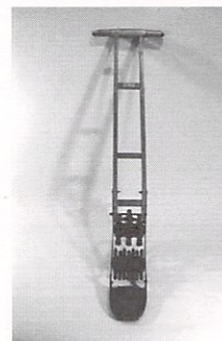
101776 (1951) 2-E-03-08
 クサトリ (草取り機) 1点
 神崎郡能登川町今
 鉄製。木製の柄を付ける。田植後、すぐに生える草をとる。昭和40年代
 まで使用。プレートあり。
 法量(cm) 全長147.5, (搔部) 長55.8, 幅16.7, (把手) 長38.8, 径2.8,
 (柄) 長102.5, 幅15.7, 厚3.1
 重量(g) 5100



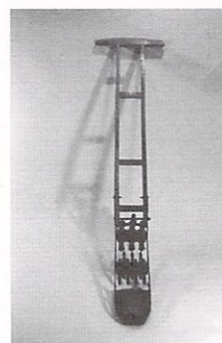
101777 (292) 2-E-03-08
 除草機 1点
 八日市市三津屋町
 鉄製。木製の柄を付ける。水稻の株間の雑草を差込み土中に入れる。昭
 和20年頃に購入。昭和30年頃まで使用。プレートあり。
 法量(cm) 全長148.0, (搔部) 長54.5, 幅17.5, (把手) 長38.9, 径2.8,
 (柄) 長102.7, 幅15.7, 厚3.2
 重量(g) 4600



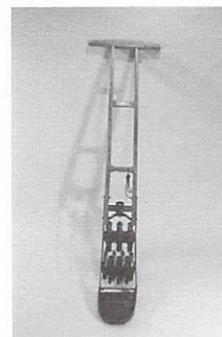
101778 (296) 2-E-03-08
 除草機 1点
 八日市市建部上中町
 鉄製。木製の柄を付ける。水稻の雑草取りに使用。稲株の間を両手で前
 方に押し歩き、雑草を巻き込み除草する。昭和25年頃に購入。昭和31年
 頃まで使用。刃に刻印「UDEKINKA」。プレート「鳥取県大正農工具
 株式会社 腕金貨印 中耕除草機」。焼印「五五型」。
 法量(cm) 全長149.7, (搔部) 長53.1, 幅16.6, (把手) 長40.6, 径3.0,
 (柄) 長105.5, 幅16.0, 厚3.1
 重量(g) 4900



101779 (3050) 2-E-03-08
 クサトリグルマ (除草機) 1点
 滋賀郡志賀町中浜
 鉄製。木製の柄を付ける。5~6月に早苗の株間の雑草を引き起こす。昭
 和40年頃に和邇農協で購入。刃に刻印あり。プレート「實用新案特許九
 権合成 腕金貨印優良農機具 鳥取縣米子市 大正農工具株式会社製造」。
 法量(cm) 全長150.0, (搔部) 長57.0, 幅16.5, (把手) 長39.7, 径3.1,
 (柄) 長105.3, 厚3.0
 重量(g) 4400



101780 (589) 2-E-03-08
 除草機 1点
 野洲郡中主町比留田
 鉄製。木製の柄を付ける。刃に刻印「シバタ」。プレート「シバタ式除
 草機 兵庫県上郡町柴田工業株式会社 大臣賞受領 脱穀機 発動機
 耕耘機」。
 法量(cm) 全長146.8, (搔部) 長56.7, 幅16.6, (把手) 長39.5, 径2.9,
 (柄) 長99.7, 幅15.4, 厚3.0
 重量(g) 4400



101781 (297)

2-E-03-08

除草機

1点

八日市市建部上中町

鉄製。木製の柄を付ける。並木植にした稲株間を除草するのに使用。昭和24年～30年頃まで使用。刃に刻印「シバタ」。プレート「連続大臣賞 受領シバタ除草機 柴田工業株式会社・兵庫県上郡町」。印刷「65型 (195ミリ)」。

法量(cm) 全長149.0, (搔部) 長61.5, 幅20.0, (把手) 長42.5, 径2.9, (柄) 長99.7, 幅18.4, 厚3.0

重量(g) 5250



101782 (357)

2-E-03-08

除草機

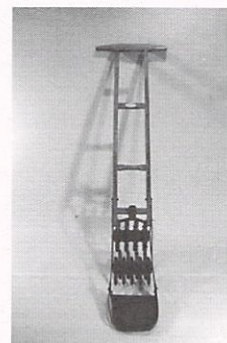
1点

八日市市建部日吉町

鉄製。木製の柄を付ける。水稻の除草用具。稲株間を両手で押し、巻き込んで除草する。昭和25年頃まで使用。刃に刻印「BIWA」。プレートあり。

法量(cm) 全長154.0, (搔部) 長63.2, 幅20.8, (把手) 長42.0, 径2.8, (柄) 長104.8, 幅19.6, 厚3.0

重量(g) 5250



101783

2-E-03-08

ナミキウエノツキ

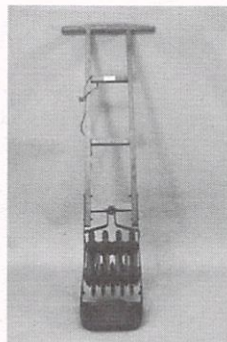
1点

近江八幡市牧町

鉄製。木製の柄を付ける。ナミキウエする田で使用。男性が使用した。刃に刻印「BIWA」。プレート「TRADEMARK 最高賞受賞 實用新案出願中 琵琶印除草機 滋賀県甲賀郡下田 上西産口株式会社」。焼印あり。

法量(cm) 全長153.5, (搔部) 長65.5, 幅24.0, (把手) 長46.8, 径3.0, (柄) 長101.5, 幅22.3, 厚2.5

重量(g) 6000



101784 (643)

2-E-03-08

カメ/ナデカキ

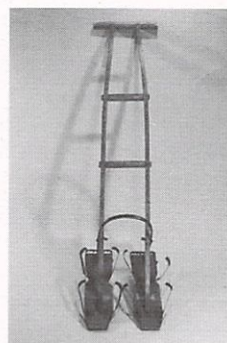
1点

野洲郡中主町比留田

鉄製。木製の柄を付ける。

法量(cm) 全長157.6, (搔部) 長42.2, 幅20.3, 全幅43.1, (把手) 長35.7, 径3.2, (柄) 長150.1, 幅25.8, 厚3.0

重量(g) 3200



101785 (806)

2-E-03-08

カメ

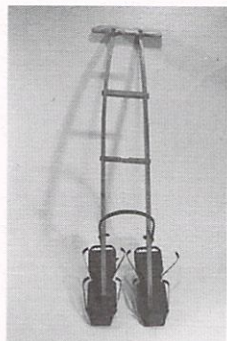
1点

野洲郡中主町吉川

鉄製。木製の柄を付ける。三番草に使用。形が似ているため、カメサンと呼んだ。田の株間を往復させながら泥を塗るようにして進む。印刷「小川式サンマー除草機」「兵庫県小川農具機製作所」「新案特許 第三五八一五八號 第三六二二三二號 第三五八一五九號 第三六三一九四號」「隼號」など。プレートあり。

法量(cm) 全長153.0, (搔部) 長43.1, 幅18.8, 全幅43.3, (把手) 長39.2, 径3.0, (柄) 長147.6, 幅25.2, 厚3.0

重量(g) 4000



101786 (590)

2-E-03-08

除草機

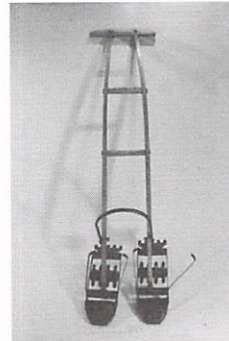
1点

野洲郡中主町比留田

鉄製。木製の柄を付ける。印刷「小川式サンマー除草機」「兵庫縣小川農具製作所」「新案特許 第三五八一五八號 第三六三二二號 第三五八一五九號 第三六三一九四號」「極樂號」など。プレート「小笠式サンマー除草機 株式会社小川農具製作所 兵庫縣加西郡泉町電話和泉6・66」。

法量(cm) 全長159.8, (搔部) 長43.8, 幅16.8, 全幅40.6, (把手) 長39.1, 径2.9, (柄) 長145.4, 幅24.3, 厚3.3

重量(g) 5200



101787 (592)

2-E-03-08

除草機

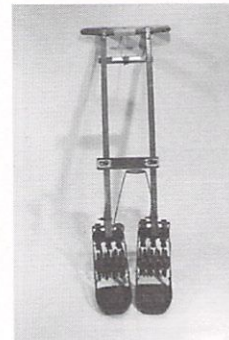
1点

野洲郡中主町比留田

鉄製。木製の柄を付ける。刃に刻印「UDEKINKA」。プレート「實用新案特許九權合成 腕金貨印中耕除草機 鳥取県米子市 大正農工具株式会社」など。

法量(cm) 全長152.1, (搔部) 長52.2, 幅16.5, 全幅42.2, (把手) 長51.1, 径3.0, (柄) 長116.0, 幅31.2, 厚4.7

重量(g) 8000



101788 (1701)

2-E-03-08

二連式草取機

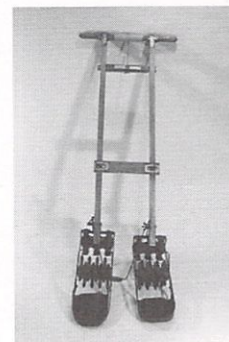
1点

東浅井郡浅井町野田

鉄製。木製の柄を付ける。刃に刻印「UDEKINKA」。プレート「腕金貨印 中耕除草機 鳥取県米子市 大正農工具株式会社」「クミアイ全購連」。

法量(cm) 全長143.3, (搔部) 長50.8, 幅16.4, 全幅42.5, (把手) 長51.8, 径2.9, (柄) 長109.9, 幅31.2, 厚4.6

重量(g) 7000



101789

2-E-03-08

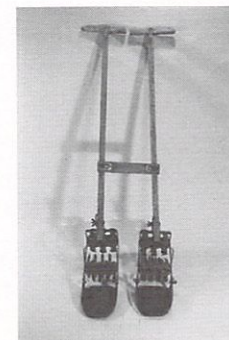
(不詳) 〈除草機〉

1点

鉄製。木製の柄を付ける。刃に刻印「UDEKINKA」。

法量(cm) 全長150.1, (搔部) 長50.1, 幅16.5, 全幅43.2, (把手) 長54.8, 径2.8, (柄) 長116.0, 幅31.0, 厚4.4

重量(g) 6500



101790 (572)

2-E-03-08

除草機

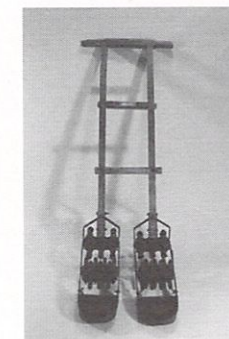
1点

野洲郡中主町比留田

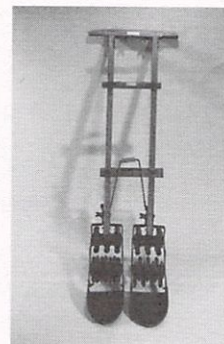
鉄製。木製の柄を付ける。刃に刻印「シバタ」。プレート「シバタ式除草器 動脱機 発動器 人脱機 耕耘機 兵庫縣上郡町 柴田工業株式会社」「各戸に一台の農家の宝」「四十年の歴史」。

法量(cm) 全長138.3, (搔部) 長51.3, 幅17.4, 全幅39.0, (把手) 長47.0, 径2.7, (柄) 長99.7, 幅30.3, 厚4.7

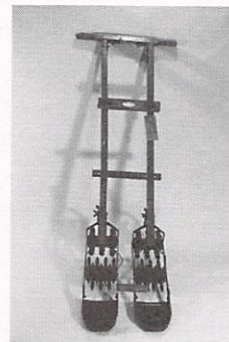
重量(g) 7000



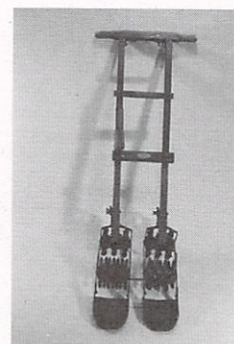
101791 (642) 2-E-03-08
キカイ (田打車) 1点
 野洲郡中主町比留田
 鉄製。木製の柄を付ける。刃に刻印「シバタ」。プレート「天覧大臣賞
 受領の発動機 連続金牌受領の脱穀機 高性能耕耘機」など。
 法量(cm) 全長155.6, (搔部) 長53.9, 幅16.9, 全幅37.0, (把手) 長
 51.4, 径2.9, (柄) 長113.4, 幅31.9, 厚4.9
 重量(g) 8200



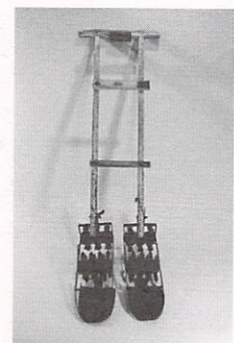
101792 (1369) 2-E-03-08
手押除草機 1点
 伊香郡高月町唐川
 鉄製。木製の柄を付ける。大正時代末から普及した。年々改良されたが、
 昭和30年頃に除草剤が開発されたため使用しなくなった。刃に刻印「B
 IWA」。プレート「最高賞牌受領 琵琶印中耕除草機 上西農機株式會
 社 滋賀縣水口町」。
 法量(cm) 全長140.7, (搔部) 長53.0, 幅15.0, 全幅37.2, (把手) 長
 52.5, 径2.8, (柄) 長105.8, 幅32.0, 厚4.0
 重量(g) 7600



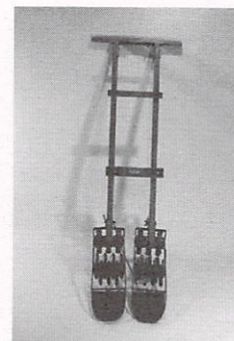
101793 (1951) 2-E-03-08
クサトリ (草取り機) 1点
 神崎郡能登川町今
 鉄製。木製の柄を付ける。田植え後、すぐ生える草をとる。昭和40年代
 まで使用。刃に刻印「BIWA」。プレート「最高賞牌受領 琵琶印中耕
 除草機 上西農機株式會社 滋賀縣水口町」。
 法量(cm) 全長142.7, (搔部) 長54.1, 幅15.2, 全幅36.1, (把手) 長
 51.8, 径3.0, (柄) 長105.6, 幅29.0, 厚4.3
 重量(g) 7700



101794 (153) 2-E-03-08
クサトリキ (草取機) 1点
 長浜市国友町
 鉄製。木製の柄を付ける。田植後、苗の生育とともに雑草が生えるため、
 除草に使用。株の間を30cmくらいずつ往復させながら前進する。昭和15
 年頃に購入。昭和20年頃～30年頃まで使用。刃に刻印「サシナミ」。プ
 レート「登録商標 サシナミ式中耕除草機 株式会社指浪製作所 愛知
 県音羽町赤坂」。スタンプ「55」。
 法量(cm) 全長161.0, (搔部) 長55.0, 幅17.0, 全幅39.3, (把手) 長
 44.0, 径3.1, (柄) 長114.0, 幅26.5, 厚2.8
 重量(g) 8600



101795 (3050) 2-E-03-08
クサトリグルマ (除草機) 1点
 滋賀郡志賀町中浜
 鉄製。木製の柄を付ける。手で押すと刃状の車が土を起こし、その中へ
 雑草を押し込む。5～6月に使用した。昭和40年頃に和邇農協で購入。刃
 に刻印「サシナミ」。プレート「登録商標 サシナミ式中耕除草機 株
 式会社指浪製作所 愛知県音羽町赤坂」。スタンプ「55」。
 法量(cm) 全長152.0, (搔部) 長53.0, 幅16.7, 全幅37.5, (把手) 長
 52.6, 径3.0, (柄) 長110.6, 幅30.0, 厚4.3
 重量(g) 8500



101796 (109)

草取り

神崎郡能登川町伊庭

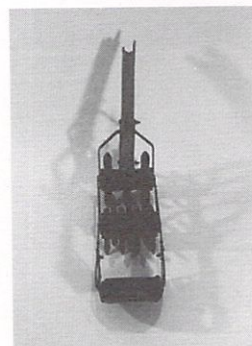
鉄製。木製の柄を付ける。刃に刻印「ビワ」。

法量(cm) 全長63.2, (搔部) 長52.8, 幅15.2

重量(g) 3200

2-E-03-08

1点



101797 (432)

除草機

東浅井郡びわ町早崎

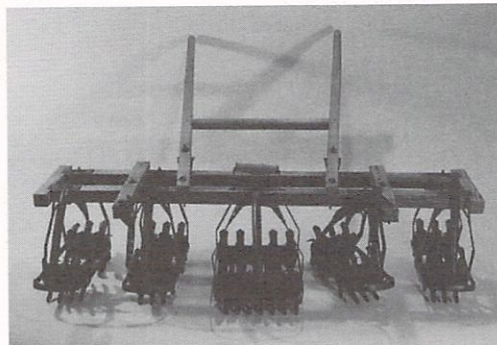
鉄製。木製の柄を付ける。

法量(cm) 全長100.0, 幅136.2, 高80.0

重量(g) 25500

2-E-03-08

1点



101798 (650)

除草機

野洲郡中主町比留田

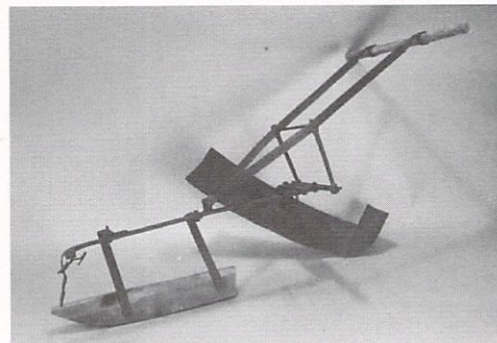
鉄製の部分は鍛冶屋で角度や太さなどを工夫して製作した。牛用。

法量(cm) 全長121.0, 幅60.3, 高71.5

重量(g) 11700

2-E-03-08

1点



101799 (877)

カンテラ

八日市市市辺町

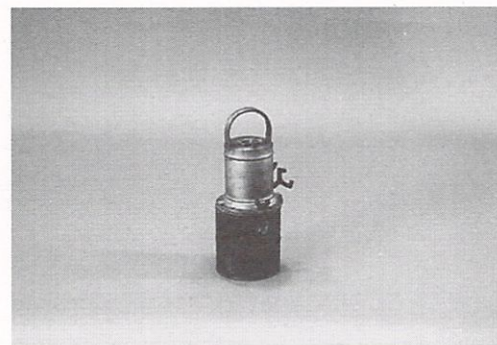
鉄。アルミ。水田の害虫防除のため、夜になると灯した。カンテラの中に生石炭を入れ、水を入れてアセチレンガスを発生させ、ノズルよりガスを出し点火して光を放つ。昭和10年～20年代頃に使用。

法量(cm) 底径12.0, 高29.8

重量(g) 631

2-E-03-09

1点



101800 (651)

噴霧機

野洲郡中主町比留田

薬剤は桶に入れ、そこに差して噴霧した。プレート「大川式」「強力噴霧器」「東京日本橋大川商店」。

法量(cm) 高57.8, 最大幅20.0, (ホース) 長129.4, 径1.5

重量(g) 2100

2-E-03-09

1点



101801 (12)

2-E-03-09

ムクラトリ

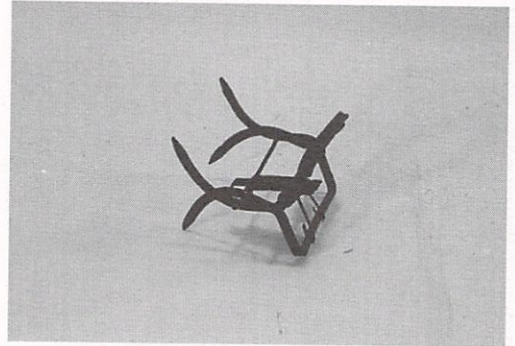
1点

伊香郡余呉町川並

鉄製。土竜の通った穴に仕掛けて、反対側から追い込み取る。

法量(cm) 縦11.2, 横11.2, 高12.0

重量(g) 200



101802 (3525)

2-E-03-09

モグラトリ (土龍取り)

1点

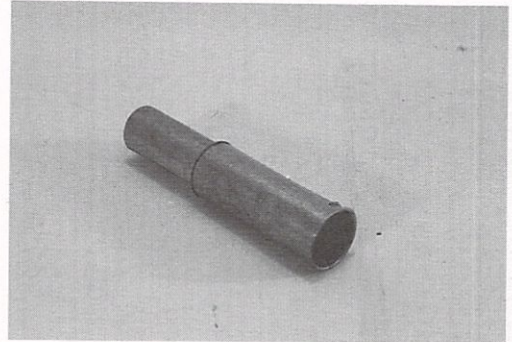
坂田郡近江町高溝

ブリキ製。モグラの穴に筒を設置し、餌にミミズや蝸牛を入れておく。

昭和60年頃まで使用。

法量(cm) 長24.3, 径4.5~5.8

重量(g) 250



101803 (256)

2-E-03-10

ドヤシ

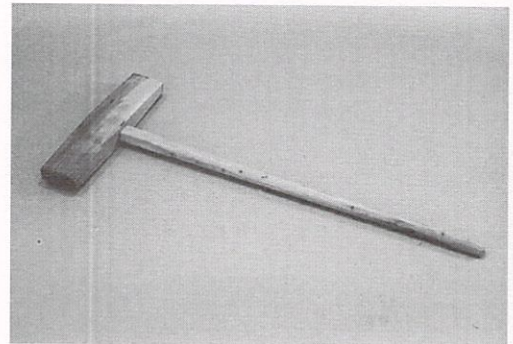
1点

八日市市三津屋町

檜製。水田の畔の土を打ち、水止めにする。昭和20年代頃まで使用。

法量(cm) (柄)長91.8, 径3.3, (槌)長39.6, 幅8.5, 奥行5.1

重量(g) 1400



101804 (694)

2-E-03-10

ナカサシ

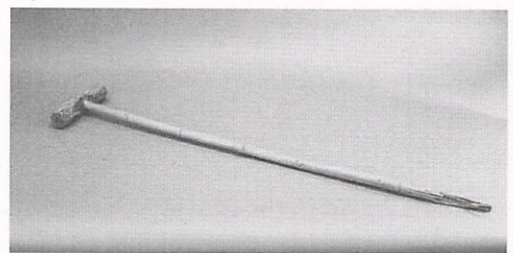
1点

八日市市蛇溝町

松の丸太をチョンナで削り、中央部に穴をあけ竹竿を通す。水田の漏水防止の畦土を固め打つ道具。畦脇を6尺掘り、粘土を採集して畦に盛り、上に荒笹を張る。上からナカサシで打って土を固めてる。当地は水利が悪く冬期に愛知川の水を水田に溜めておかななくては田植ができないため、このナカサシ打ちは百姓の命といわれた。明治15年~昭和10年頃まで使用。

法量(cm) (柄)現存長169.9, 径3.6, (槌)長30.4, 径7.2

重量(g) 991



101805

2-E-03-10

畦叩

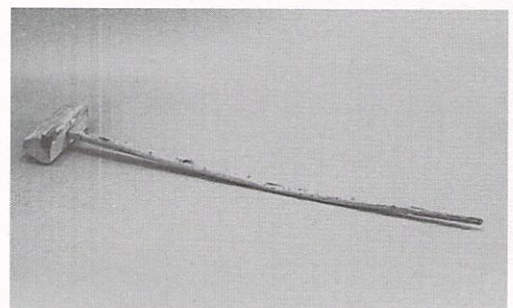
1点

蒲生郡日野町寺尻

木製。

法量(cm) (柄)長123.0, 径2.6, (槌)長23.2, 幅8.2, 奥行8.6

重量(g) 1400



101806 (1387)

2-E-03-10

アゼタタキ (畦叩き)

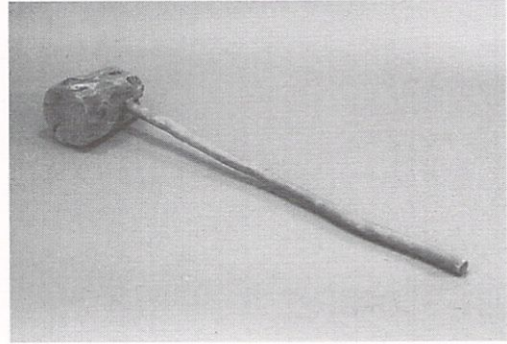
1点

神崎郡永源寺町山上

丸太に穴をあけ、木製の柄を付ける。水田に水を張り、苗代に仕上げる段階であぜを塗り固め、更に畦叩で強固に仕上げる。焼印「山上」「松屋」。

法量(cm) (柄) 長98.3, 径2.9, (槌) 長20.2, 径14.3

重量(g) 1600



101807 (725)

2-E-03-10

アゼツキアシガタ (畦付足型)

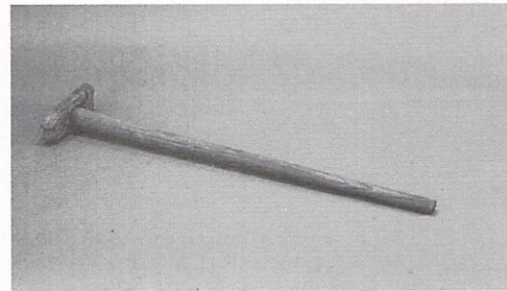
1点

東浅井郡湖北町尾上

杉板の両端に切れ目を入れる。柄は木製。

法量(cm) (柄) 長96.3, 径2.8, (槌) 長21.1, 幅3.4, 奥行7.9

重量(g) 751



101808 (3051)

2-E-04-01

イネカリキ (稲刈り機)

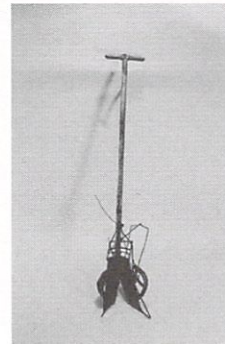
1点

滋賀郡志賀町中浜

刃先とレバーは鉄製。柄は木製。手元のレバーで稲束をはさみ、前へ押し出して鋸刃で刈取る。8株で1把となる。昭和40年～50年頃まで使用。焼印「㊤」。プレート「DNS ダイワ号刈取機 大和農機製作所 和歌山 橋本」。

法量(cm) 全長144.0, (刃先) 長37.0, 幅22.5, (柄) 長110.0, 径3.2, (握手) 長12.9, 径2.9

重量(g) 2400



101809 (649)

2-E-04-01

稲刈機

1点

野洲郡中主町比留田

刃先とレバーは鉄製。柄はアルミ製。シール「柴田工業株式会社」「兵庫県・上郡町」「TEL上郡51□□」。

法量(cm) 全長139.9, (刃先) 幅19.5, 長37.0, (柄) 長102.8, 径3.0, (握手) 長17.6, 径2.9

重量(g) 1700



101810 (799)

2-E-04-01

稲刈り機

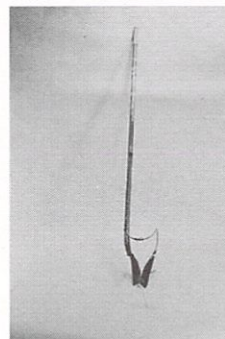
1点

野洲郡中主町吉川

刃は鉄製。柄は木にアルミを被せる。持手部分はプラスチック製。

法量(cm) 全長174.8, (刃先) 長21.5, 幅14.3, (柄) 長150.3, 径2.8

重量(g) 1100



101811 (3300)

2-E-04-01

テバサミ (鋏)

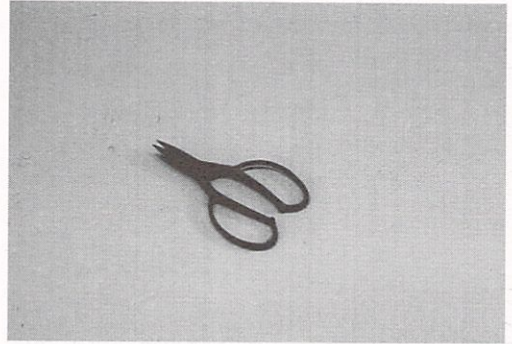
1点

坂田郡山東町野一色

鋼鉄製。昭和40年代頃、長浜市内の金物店で入手した。花、野菜、紐などを切る。昭和40年～50年頃まで使用。刻印「岡恒」。

法量(cm) 長21.2, 幅11.4, 刃渡5.3

重量(g) 230



101812 (1822)

2-E-04-02

センバ (千歯脱穀器)

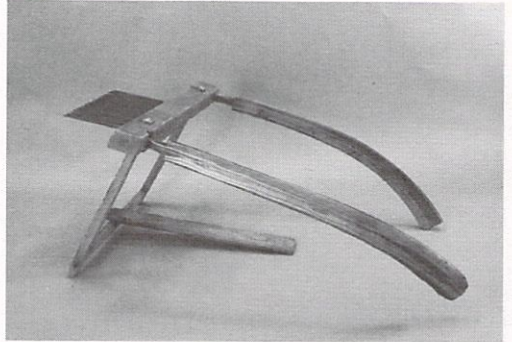
1点

長浜市八幡中山町

歯は鉄製。台、脚は杉材。苅り取った稲を一束ずつ歯の先端に添えて力強く手前に引く。尖った部分で籾がしごけて脱穀できる。脚の底部には踏板があり、しっかり踏みつけて稲穂を引きつける時に安定するように工夫されている。墨書「大極上正口稲扱十里鍛冶作」「式拾」「左」「口(右カ)」。

法量(cm) 長103.5, 幅60.5, 高40.8, (歯) 長20.0, 幅30.0

重量(g) 6000



101813 (206)

2-E-04-02

イネコキマンガ

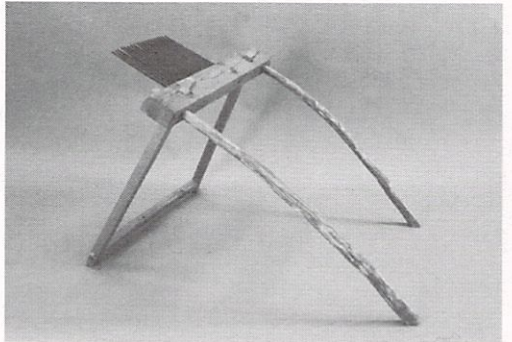
1点

伊香郡余呉町文室

歯は鉄製。台、脚は木製。足踏脱穀機が普及するまで稲扱きに使用。歯の間に稲の穂をさみ籾を引きおとす。歯の間が広いものは藁スグりに使用。明治時代～大正時代まで使用。墨書「文室善兵衛殿」。

法量(cm) 長87.5, 幅63.2, 高51.8, (歯) 長21.0, 幅27.5

重量(g) 4800



101814 (1905/1906)

2-E-04-02

千歯扱き

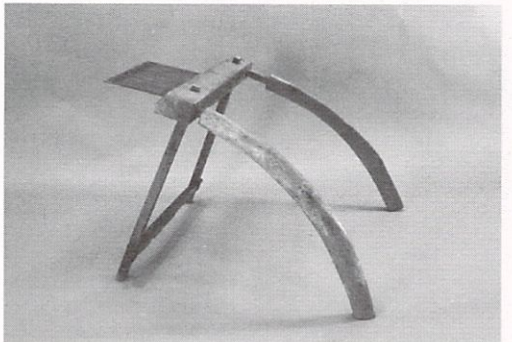
1点

東浅井郡浅井町

歯は鉄製。台、脚は木製。墨書「大極上無類鋼稲扱改請合草野鍛冶文太夫」「拾八」「本改」「戌」など。

法量(cm) 長74.5, 幅59.0, 高51.0, (歯) 長20.2, 幅29.7

重量(g) 6100



101815 (1688)

2-E-04-02

センバ (千歯扱き)

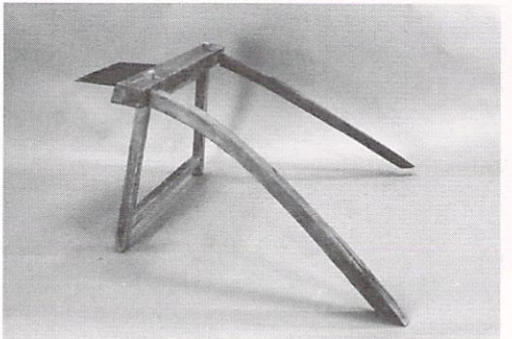
1点

東浅井郡浅井町瓜生

歯は鉄製。台、脚は木製。明治時代～昭和まで使用。墨書「大正六年口月新調」「大極上無類直稲扱請合草野鍛冶弥右エ門」「口上」「二拾」。

法量(cm) 長182.8, 幅74.2, 高49.2, (歯) 長20.1, 幅27.6

重量(g) 6500



101816

2-E-04-02

千歯

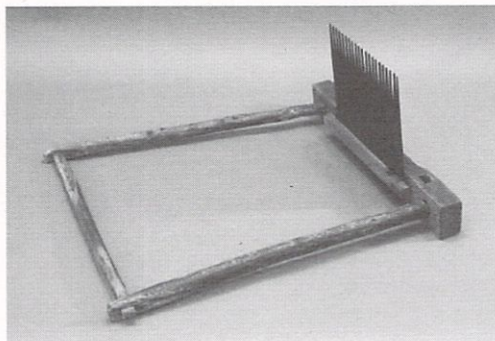
1点

八日市市緑町

歯は鉄製。台、脚は木製。日本刀の原料として愛知郡秦荘町から集められたもの。歯に刻印あり。墨書「ヤキタ」「富山源左衛門ノ直廿一本」「富山源左衛門様」「川口吉口」「盛」「平」。焼印「製造元」「改良」。

法量(cm) 幅66.2, 高5.3, 厚8.1, (歯)長22.2, 幅30.3

重量(g) 4800



101817 (674)

2-E-04-02

モミコキ (千歯)

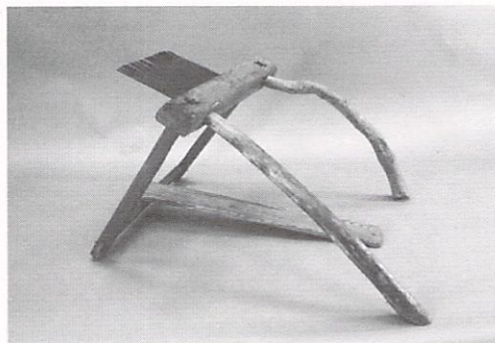
1点

野洲郡中主町下堤

歯は鉄製。台、脚は木製。焼印「江州 鍛冶口」「鋼請合」。墨書「大口口口鋼請合栗太郡口六石太鍛治市兵衛製造」。

法量(cm) 長83.3, 幅58.8, 高44.8, (歯)長20.3, 幅28.5

重量(g) 5900



101818 (1953)

2-E-04-02

センバ (千歯抜き)

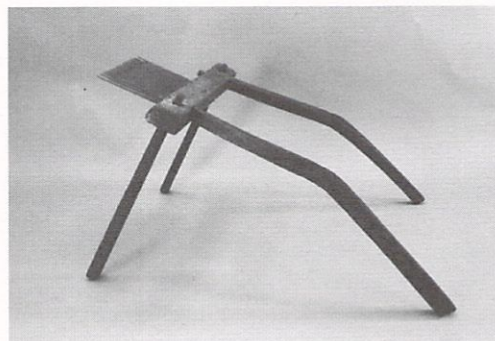
1点

神崎郡能登川町今

歯は鉄製。台、脚は木製。米や麦の脱穀に使用。これは下に足を置く板がないが、本来は支えの足に縄をはり、板を置き足で押さえ稲束をひっぱった。墨書「大極上吉鋼請合敦賀口口鍛冶」。焼印「ツルガ鍛冶七」など。

法量(cm) 長96.5, 幅71.8, 高50.0, (歯)長20.0, 幅28.8

重量(g) 6000



101819 (1227)

2-E-04-02

センバ (千歯)

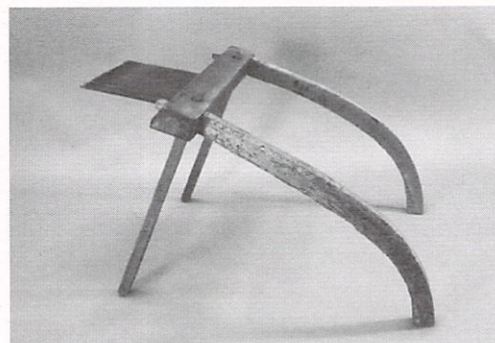
1点

長浜市布勢町

購入品。歯は鉄製。台、脚は木製。田で刈りとった稲から穂をとるのに使用。足踏脱穀機が現れる前に使われていた。昭和初期まで使用。墨書あり。

法量(cm) 長68.0, 幅61.5, 高44.3, (歯)長21.0, 幅28.4

重量(g) 5700



101820 (160)

2-E-04-02

センバ (千歯)

1点

長浜市国友町

歯は鉄製。台、脚は木製。金属部は鍛冶屋で作る。他は自家製稲の脱穀のときに使用。踏板を片足で踏み、刃先へ稲穂を押しあてて手前へ引く。刳は下へ落ち、藁が手もとに残るが、一度では全部の刳が取れないため4~5度くり返す。昭和初期に製作、使用。

法量(cm) 長72.8, 幅56.7, 高53.5, (歯)長23.0, 幅32.7, (筵)長58.1, 幅63.1

重量(g) 6800



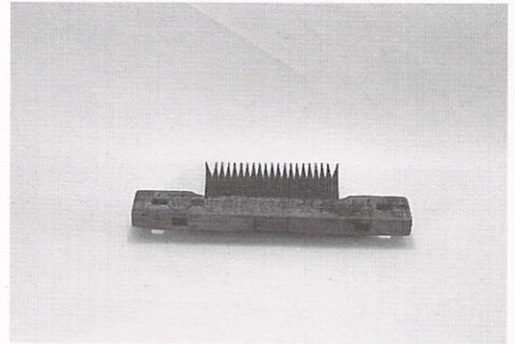
101821 (3573)
センバ (千歯抜き)

2-E-04-02
1点

大津市本堅田

歯は鉄製。台、脚は櫛製。刃の隙間狭くして稗や粟にも利用できるように設計して特注した。米、麦、稗、粟などの穀物の脱粒に使用。座って作業する。明治時代初期に真野の大西鍛冶店で製作。明治時代中期まで使用。歯に刻印「三十一年」など。墨書「保険精撰無比改良器」「堅田」「北又」など。焼印「撰製」「品名」など。

法量(cm) 幅60.6, 高4.8, 厚8.1, (歯)長21.5, 幅31.7
重量(g) 3900



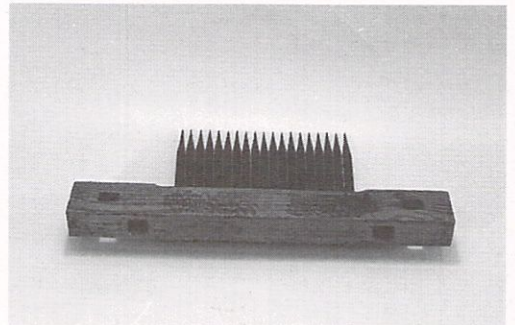
101822 (800)
センバ

2-E-04-02
1点

野洲郡中主町吉川

歯は鉄製。台、脚は木製。稲抜きに使用。明治時代中期に製作か。墨書「無類大口稲切 拾九 伽羅鋼請合」。焼印「特産 正鋼 稲抜所 請合」「請合」「産□」など。

法量(cm) 幅60.6, 高5.2, 厚8.0, (歯)長23.2, 幅31.3
重量(g) 3400



101823
千歯

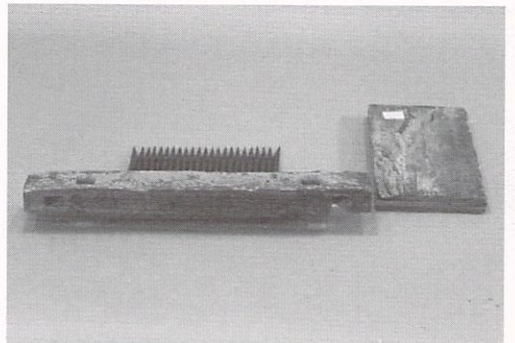
2-E-04-02
1点

八日市市緑町

歯は鉄製。台、脚は木製。歯に刻印「大上々」など。墨書「大極上無類鋼稲抜直改阿閉村稲抜屋重助」「明治二十四年寅ノ十二月日 神崎郡八幡射光寺村堤六七」「式拾」「三本」。

法量(cm) 幅61.7, 高5.3, 厚8.8, (歯)長20.6, 幅29.8, (蓋)長20.5, 幅23.4, 厚3.6

重量(g) 4200, (蓋) 760



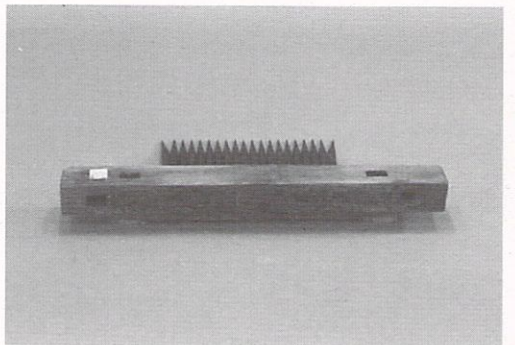
101824
千歯

2-E-04-02
1点

八日市市緑町

歯は鉄製。台、脚は木製。歯に刻印「改良」。焼印「愛知郡字石橋 森野直七」。墨書「大極別上々吉鋼請合愛知郡字石橋森野直七製」「明治四十一年申之年十月十日代價三円也 愛知郡秦川村大字竹原谷西川傳右衛門中持」など。

法量(cm) 幅60.5, 高5.4, 厚8.6, (歯)長20.5, 幅30.0
重量(g) 4100



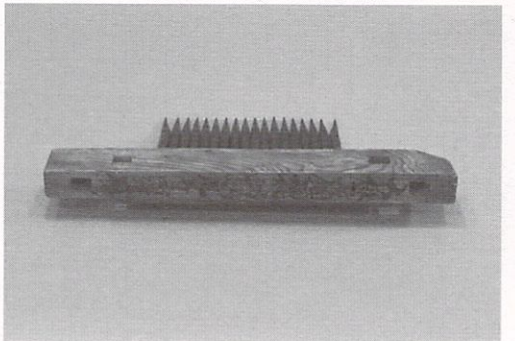
101825
千歯

2-E-04-02
1点

八日市市緑町

歯は鉄製。台、脚は木製。墨書「大正元九月日」「大極上々鋼稲抜犬上郡西甲良尼子安澤□シ」「秦川村字川原西川傳右エ門」「竹原西川傳右エ門」。

法量(cm) 幅60.3, 高4.9, 厚8.0, (歯)長19.9, 幅28.6
重量(g) 4000



101826 (1884)

2-E-04-02

センバコキ (千歯扱き)

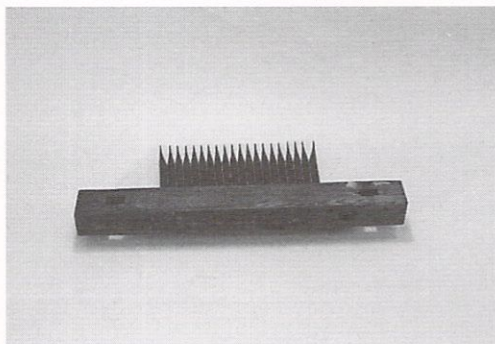
1点

大津市坂本町

歯は鉄製。台、脚は木製。稲の穂を扱く。大正時代まで使用。墨書「大極上吉鋼請合口賀鍛冶口口口」。焼印「ツルガ 鍛冶七」など。

法量(cm) 幅60.4, 高5.6, 厚8.4, (歯)長21.6, 幅32.8

重量(g) 4000



101827 (1263)

2-E-04-02

センバ (千歯)

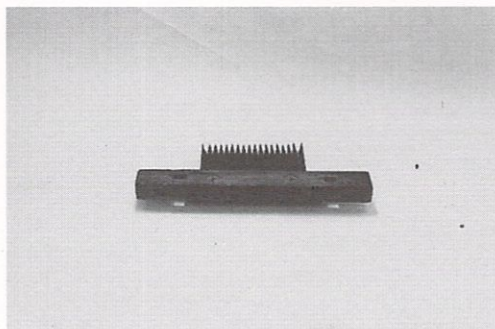
1点

八日市市御園町

歯は鉄製。台、脚は木製。稲穂の脱穀に使用。江戸時代末期～大正時代末期頃まで使用。墨書「大極上吉鋼請合口賀鍛冶七左衛門 口」。焼印「ツルカ 鍛冶七」。

法量(cm) 幅60.3, 高5.0, 厚8.3, (歯)長20.1, 幅29.4

重量(g) 4000



101828 (1600)

2-E-04-02

センバ (千歯)

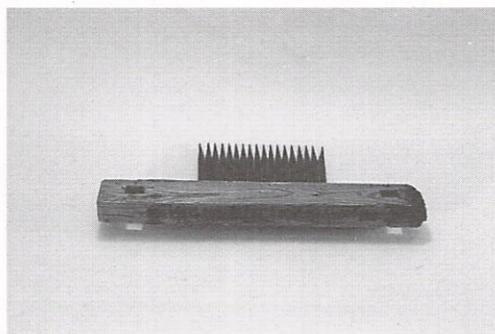
1点

八日市市市辺町

歯は鉄製。台、脚は木製。能登川町乙女浜の製作か。稲穂の脱穀に使用。明治時代初期に購入。明治時代初期～大正時代初期まで使用。墨書「大極上々吉鋼請合山路東屋口三次改」。焼印「ヲトメ 鍛冶常」「請合」。

法量(cm) 幅60.2, 高4.8, 厚7.6, (歯)長21.3, 幅26.0

重量(g) 3400



101829 (2124)

2-E-04-02

センバコキ (千歯扱き)

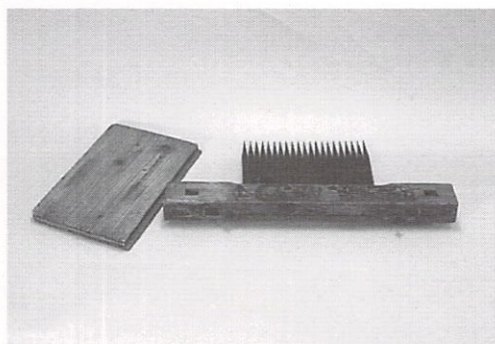
1点

高島郡今津町椋川

歯は鉄製。台、脚は木製。歯と歯の間に稲穂を細かく分けて入れ、引っぱってしごとと、粃だけがとれる。江戸時代末期～明治時代まで使用。歯に刻印「大日本無類」「倉吉涌島作」「明治四十年」「伯州口産」。墨書「椋川村」など。焼印「元祖 涌嶋製」「作処」「倉吉」「産物」。銅板「第八三六三号 伯州倉吉町 涌嶋元蔵 倉光亀蔵」。

法量(cm) 幅62.6, 高7.7, 厚5.1, (歯)長22.3, 幅30.0, (蓋)長24.9, 幅35.8, 厚2.2

重量(g) 4000, (蓋) 545



101830 (1953)

2-E-04-02

センバ (千歯扱き)

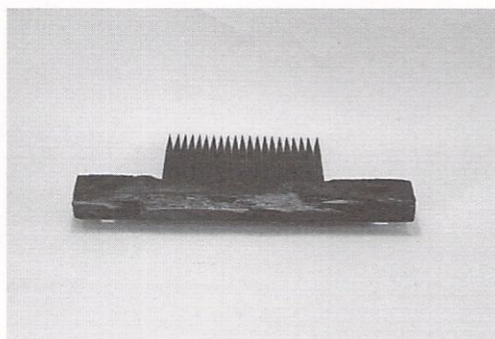
1点

神崎郡能登川町今

歯は鉄製。台、脚は桎製か。米や麦の脱穀に使用。これは下に足を置く板がないが、本来は支えの足に縄をはり、板を置き足で押さえ稲束をひっぱった。昭和初年まで使用。焼印「請口」など。

法量(cm) 幅66.9, 高5.2, 厚7.7, (歯)長23.2, 幅34.0

重量(g) 4400



101831

(不詳) 〈千歯扱〉

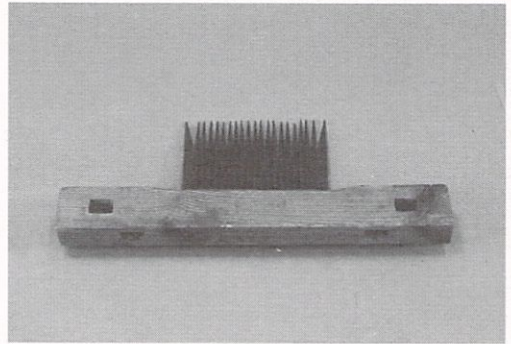
2-E-04-02

1点

歯は鉄製。台、脚は木製。墨書「明治廿九年五月□□」「□岡富山源左エ門」。

法量(cm) 幅60.3, 高5.1, 厚7.4, (歯)長20.6, 幅23.4

重量(g) 3000



101832

(不詳) 〈千歯扱〉

2-E-04-02

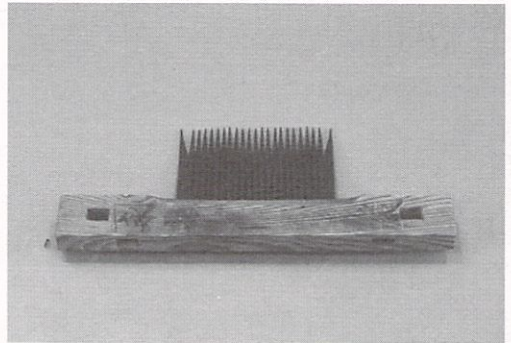
1点

歯は鉄製。台、脚は木製。焼印「伊賀 山田町 稲扱製造所 池永又蔵」。

墨書あり。

法量(cm) 幅60.5, 高4.3, 厚6.6, (歯)長20.1, 幅25.2

重量(g) 2900



101833 (390)

センバ (千歯)

2-E-04-02

1点

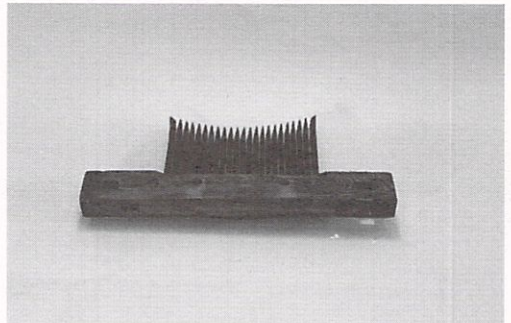
神崎郡能登川町北須田

歯は鉄製。台、脚は木製。米の脱穀用。歯に刻印「優等品」「特許」「検」。

焼印あり。

法量(cm) 幅60.1, 高5.0, 厚8.8, (歯)長28.0, 幅22.5

重量(g) 4700



101834 (1061)

センバ (千歯扱き)

2-E-04-02

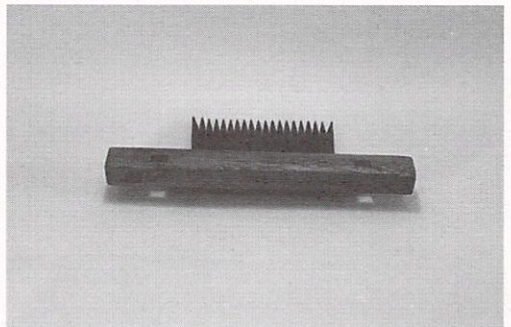
1点

長浜市加田町

歯は鉄製。台、脚は木製。稲の脱穀に使用。明治時代～大正時代まで使用。

法量(cm) 幅61.2, 高5.4, 厚9.4, (歯)長19.7, 幅31.8

重量(g) 4800



101835

(不詳) 〈千歯扱〉

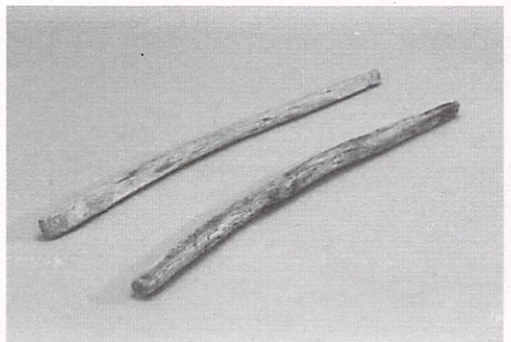
2-E-04-02

1点

木製。千歯扱の脚部。墨書「ギへ」「○」。

法量(cm) (左)長73.9, 幅3.1, (右)長74.0, 幅2.6

重量(g) 計705



101836

(不詳) 〈千歯扱〉

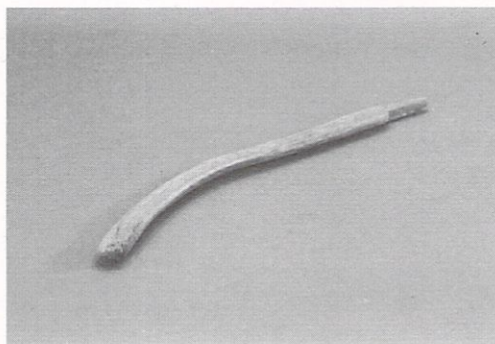
2-E-04-02

1点

木製。千歯扱の脚部。

法量(cm) 長72.4, 幅3.1

重量(g) 355



101837

(不詳) 〈千歯扱〉

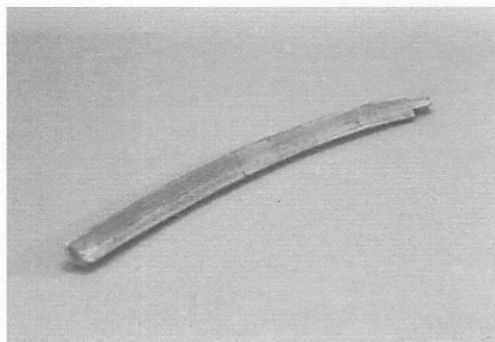
2-E-04-02

1点

木製。千歯扱の脚部。

法量(cm) 長71.6, 幅2.3

重量(g) 410



101838

千歯刃

八日市市緑町

鉄製。刻印「伯州産物」。

法量(cm) 長30.7, 幅1.3, 厚0.4

重量(g) 90

2-E-04-02

1点



101839

千歯刃

八日市市緑町

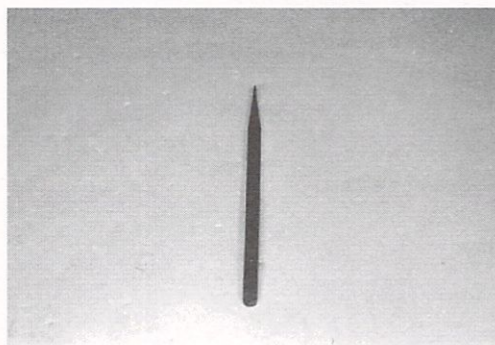
鉄製。刻印「倉吉作」「無類飛切十九」。

法量(cm) 長30.8, 幅1.4, 厚0.4

重量(g) 89

2-E-04-02

1点



101840

千歯刃

八日市市緑町

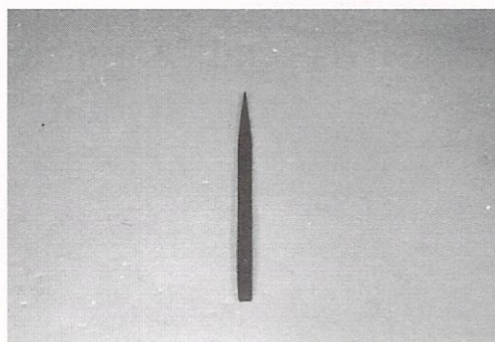
鉄製。刻印「倉吉△作」「無類飛切十九」。

法量(cm) 長28.0, 幅1.4, 厚0.4

重量(g) 90

2-E-04-02

1点



101841

千歯刃

八日市市緑町

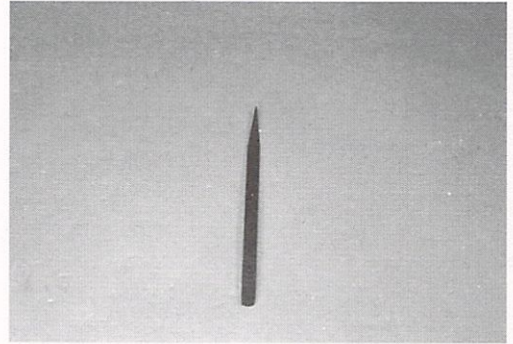
鉄製。刻印「明治十六年」。

法量(cm) 長29.2, 幅1.4, 厚0.4

重量(g) 110

2-E-04-02

1点



101842

千歯刃

八日市市緑町

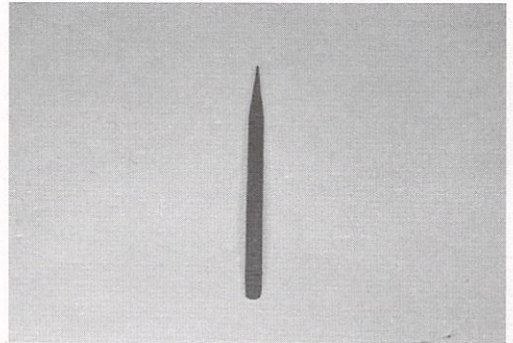
鉄製。刻印「明治廿七年」。

法量(cm) 長28.6, 幅1.4, 厚0.4

重量(g) 85

2-E-04-02

1点



101843

千歯刃

八日市市緑町

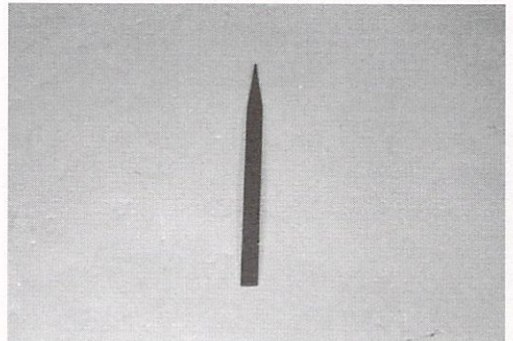
鉄製。刻印「明治卅五年製」。

法量(cm) 長30.2, 幅1.6, 厚0.5

重量(g) 120

2-E-04-02

1点



101844

千歯刃

八日市市緑町

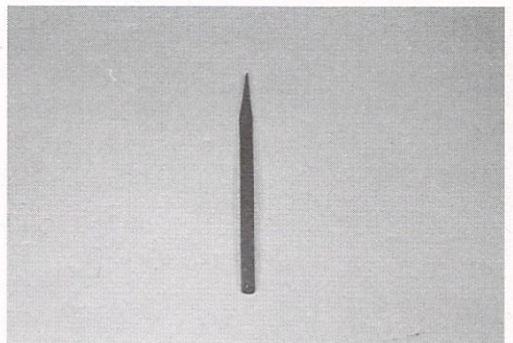
鉄製。刻印「明治四十三年」。

法量(cm) 長30.3, 幅1.3, 厚0.5

重量(g) 95

2-E-04-02

1点



101845

千歯刃

八日市市緑町

鉄製。刻印「大正七年」。

法量(cm) 長30.6, 幅1.2, 厚0.5

重量(g) 100

2-E-04-02

1点



101846

千歯刃

八日市市緑町

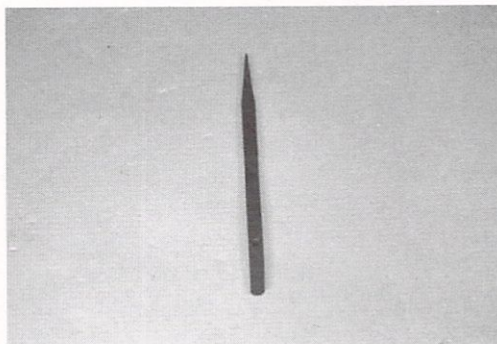
鉄製。刻印「大日本無類」など。

法量(cm) 長30.5, 幅1.2, 厚0.5

重量(g) 95

2-E-04-02

1点



101847

千歯刃

八日市市緑町

鉄製。刻印「正耳鋼巻請合」など。

法量(cm) 長30.4, 幅1.5, 厚0.4

重量(g) 110

2-E-04-02

1点



101848

千歯刃

八日市市緑町

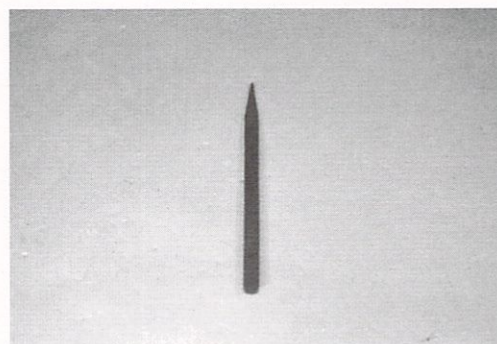
鉄製。刻印「正鋼請合」。

法量(cm) 長27.8, 幅1.4, 厚0.55

重量(g) 104

2-E-04-02

1点



101849

千歯刃

八日市市緑町

鉄製。刻印「改良品」。

法量(cm) 長27.2, 幅1.4, 厚0.8

重量(g) 125

2-E-04-02

1点



101850 (2572)

ガイコン (足踏脱穀機)

坂田郡山東町柏原

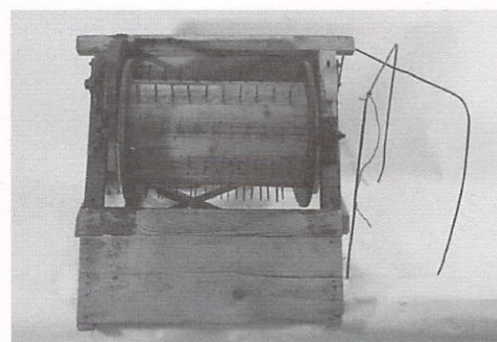
高さ4.9cmの釘を1列に10個打つ。稲、麦、大豆の脱穀に使用。また稲のハカマを取除く作業にも使用した。筵を数枚広げた上に脱穀機を置き、ホーロ(幌)掛用の穴に金具を差し込む。上から筵を2枚被せる。昭和30年~55年頃まで使用。プレート「稲岡式 諸機械製作工場 稲岡商會 和歌山県伊都郡妙寺町」。

法量(cm) 長69.8, 幅82.5, 高61.8, (回転部) 径40.5, 幅48.4, (幌) 長49.5, 幅51.5, 高98.5

重量(g) 34600

2-E-04-03

1点



101851 (696)

2-E-04-03

足踏脱穀機

1点

八日市市蛇溝町

高さ4.9cmの釘を1列に9個打つ。米、麦、菜種の脱穀に使用した。ペダルを片足で踏み、ドラムを回転させる。ドラムの上に材料をのせて脱穀した。昭和初期～35年頃まで使用。焼印「於平和博名誉銀牌受領 発明 元祖 特許機械製 新案特許 登録商標大王印 ミノル式 親玉號 神奈川縣橋樹郡生田村 細王舎第一工場製」。

法量(cm) 長72.0, 幅74.5, 高63.0, (回転部) 径36.0, 幅48.8

重量(g) 33600



101852 (2838)

2-E-04-03

イネコキカイ (脱穀機)

1点

伊香郡高月町落川

高さ5cmの釘を1列に10個打つ。ミノル式は有名で、映画で農村を巡回して販路を広めた。刈取った稲束を回転する針によって脱穀する。補助者があれば10アールの田で取れた稲束を2時間程度で脱穀できた。大正12年頃に購入。焼印「登録商標 大王印 ミノル式 親玉號 神奈川縣川崎市 細王舎第一工場」。

法量(cm) 長71.5, 幅72.9, 高65.0, (回転部) 径32.0, 幅43.3

重量(g) 31800



101853 (1265)

2-E-04-03

脱穀機

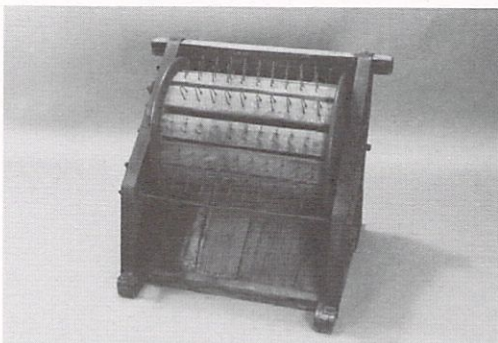
1点

八日市市御園町

高さ4.9cmの釘を1列に10個打つ。稲穂、大豆、小豆、胡麻、菜種等の脱穀に使用。昭和10年頃に購入。昭和30年代まで使用。プレート「新案特許 イネコキ元祖 名誉金牌受領 大王印 ミノル式 雄王號 製造元 神奈川縣 細王舎第一工場」。焼印「大王印」。

法量(cm) 長68.8, 幅74.0, 高64.3, (回転部) 径38.0, 幅48.2

重量(g) 36100



101854 (1400)

2-E-04-03

脱穀機

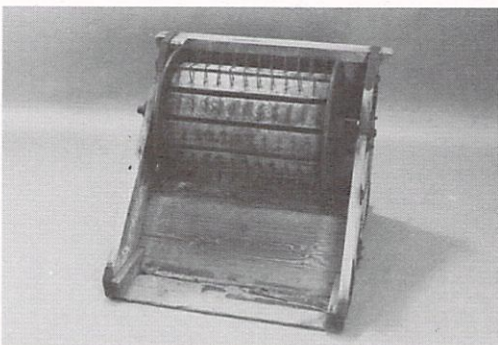
1点

神崎郡永源寺町山上

高さ4.9cmの釘を1列に11個打つ。大正時代末期～昭和30年代まで使用。焼印「堅早無比 金牌受領 ナカタ式 最高級 脱穀機 新案特許 名古屋山仲商会工場製造」など。

法量(cm) 長74.2, 幅76.2, 高63.5, (回転部) 径41.0, 幅49.2

重量(g) 36600



101855 (2420)

2-E-04-03

ガイコン (稲扱き)

1点

坂田郡山東町野一色

高さ5cmの釘を1列に12個打った板を12枚張り合わせる。稲の脱穀、大豆の脱粒、ワラスグリに使用。昭和30年代まで使用。焼印「特製 元祖 名誉大賞 金牌受領 農具界之覇王 大□式 稲麦扱機 愛知縣海部郡大治村 大竹農具製作所製造」「登録商標 OTAKESHIKI 松□印」。

法量(cm) 長66.0, 幅73.0, 高64.4, (回転部) 径42.0, 幅48.6

重量(g) 36200



101856

(不詳) 〈足踏脱穀機〉

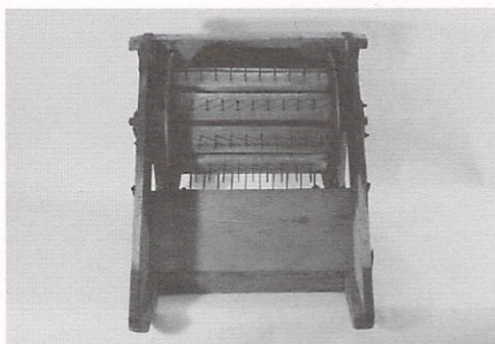
2-E-04-03

1点

高さ4.7cmの釘を1列に10個打つ。焼印「登録商標 OTAKESHIKI 松
□印」「特製 元祖 名誉大賞金牌受領 農具界之霸王 大竹式稲麦扱
機 愛知県海部郡大治村 大竹農具製作所製造」。

法量(cm) 長75.5, 幅71.4, 高64.3, (回転部) 径39.5, 幅44.4

重量(g) 32500



101857 (1438)

タッコッキ (脱穀機)

2-E-04-03

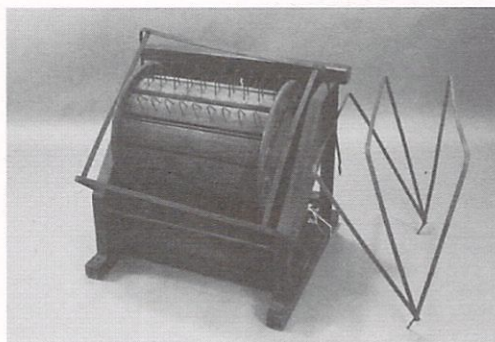
1点

東浅井郡浅井町内保

高さ4.7cmの釘を1列に10個打つ。足踏式ペダルがあり、ドラムを向こう
へ回転させる。刈り取った稲を穂先から静かにドラムの突起に当てると、
籾が前方へちぎれて飛ぶ。昭和20年～25年まで使用。プレート「名誉大
賞金牌受領 農林通産省御推奨 農機具界之霸王 大竹式最新型優勝號
名古屋市外大竹農具製作所謹製」。

法量(cm) 長69.5, 幅71.7, 高65.3, (回転部) 径42.0, 幅47.0, (幌) 長
42.5～59.2, 幅59.5～67.0, 全体高99.5

重量(g) 39000



101858

(不詳) 〈足踏脱穀機〉

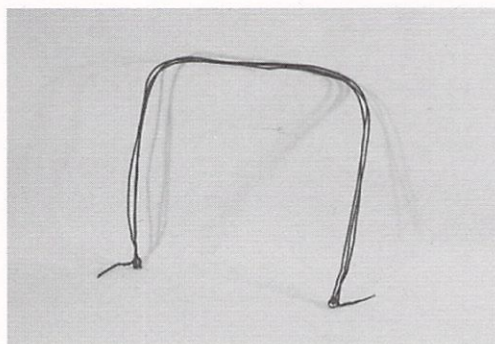
2-E-04-03

1点

鉄製。

法量(cm) 長66.8, 幅66.8

重量(g) 1100



101859 (1927)

発動機

2-E-04-03

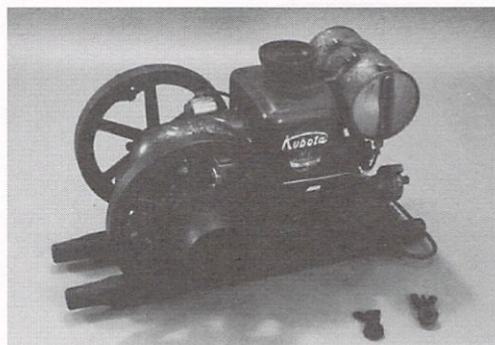
1点

八日市市市辺町

クボタ製発動機。脱穀機の動力として石油使用の発動機を田圃に運び込
み、脱穀機にベルトで結び、刈り取った稲の穂の脱穀に使用した。昭和
25年頃に購入。昭和35年頃まで使用。刻印「Kubota」。スタンプ「国家
審査最優秀」など。

法量(cm) 長55.0, 幅80.8, 高47.5, (回転部) 径35.0

重量(g) 73900



101860 (3816)

ヤタカチボウ (脱穀棒)

2-E-04-04

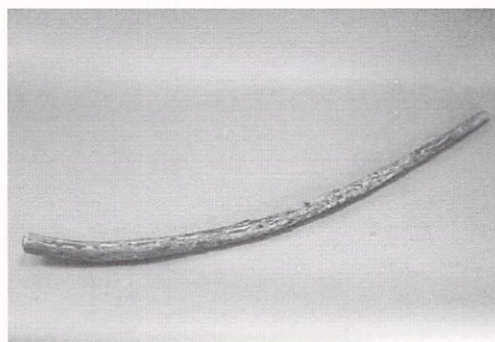
1点

坂田郡山東町野一色

自家製。檜材か。湾曲した材を利用。ヤタ (穂首からちぎれ落ちた穂先)
をこの棒で打ち脱粒する。昭和初年に製作。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 長135.5, 径2.8～4.4

重量(g) 1000



101861 (3816)

2-E-04-04

ヤタカチボウ (脱穀棒)

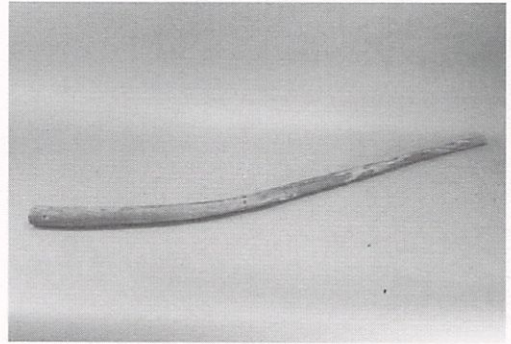
1点

坂田郡山東町野一色

自家製。楡材か。湾曲した材を利用。ヤタ (穂首からちぎれ落ちた穂先) をこの棒で打ち脱粒する。昭和初年に製作。

法量(cm) 長166.0, 径3.0~6.4

重量(g) 1100



101862 (129)

2-E-04-04

ヤタカチボウ

1点

長浜市国友町

自家製。松か杉。籾を叩いて不用物を取り除く。豆打ちにも使用。昭和初期に製作。

法量(cm) 長111.0, 径4.0~10.0

重量(g) 3000



101863 (3582)

2-E-04-04

ヤタカチ

1点

長浜市榎木町

自家製。曲がった幹を利用し、握り部は細く削る。栗材をよく用いた。大豆や小豆を皮付きのまま筵の上で天日干しする。乾いた頃に叩くと皮がこわれて豆と分離する。これを箕に入れ、高く持ち上げ少しずつ落とすと豆と皮が分けられる。昭和10年頃に製作。

法量(cm) 長113.7, 径5.0~13.5

重量(g) 4400



101864 (3582)

2-E-04-04

ヤタカチ

1点

長浜市榎木町

自家製。曲がった幹を利用し、握り部は細く削る。栗材をよく用いた。大豆や小豆を皮付きのまま筵の上で天日干しする。乾いた頃に叩くと皮がこわれて豆と分離する。これを箕に入れ、高く持ち上げ少しずつ落とすと豆と皮が分けられる。昭和10年頃に製作。

法量(cm) 長97.3, 径4.0~径9.3

重量(g) 1700



101865

2-E-04-04

ヤタ打ち棒

1点

長浜市加田町

木製。

法量(cm) 長106.2, 径3.0~8.3

重量(g) 1600



101866 (1015)

ヤタテボウ

東浅井郡浅井町寺師

杉材。ヤタから朶を落とすために叩く。

法量(cm) 長121.8, 径4.2~10.9

重量(g) 3000

2-E-04-04

1点



101867 (1907)

脱穀棒

東浅井郡浅井町

木製。

法量(cm) 長35.0, 径3.8~5.0

重量(g) 359

2-E-04-04

1点



101868 (14)

ヤタカチボウ

木製。

法量(cm) 長61.0, 径2.7~7.5

重量(g) 929

2-E-04-04

1点



101869 (963)

ヨコガチ (横搗ち)

蒲生郡日野町寺尻

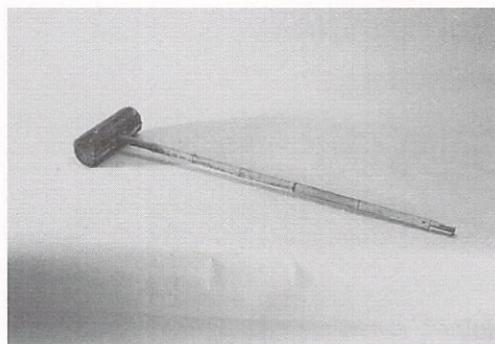
自家製。木に竹製の柄を付ける。豆類、麦、粟などを箆で天干乾燥し、種実をこれで打って取る。明治時代中期に製作。昭和10年頃まで使用。

法量(cm) 全長136.9, (打部) 長34.2, 径11.0, (柄) 径3.2

重量(g) 1500

2-E-04-04

1点



101870 (1386)

モミタタキ (朶叩き)

神崎郡永源寺町山上

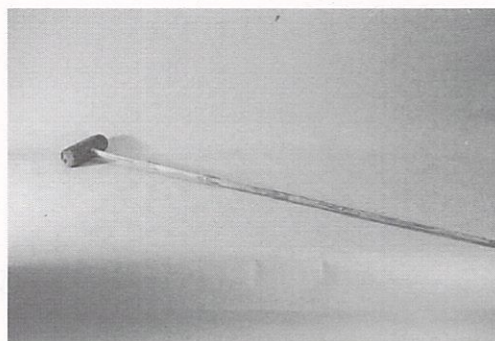
自家製。木に穴を開け竹製の柄を通す。脱穀後の朶を天日で乾燥し、朶叩きで叩いて朶を選別する。大正時代に製作。

法量(cm) 全長211.5, (打部) 長25.0, 径8.7, (柄) 径3.0

重量(g) 1100

2-E-04-04

1点



101871 (1386)

2-E-04-04

モミタタキ (粳叩き)

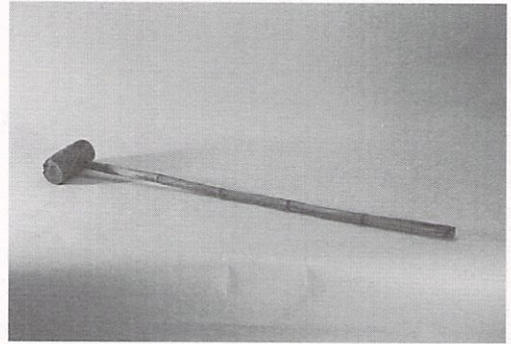
1点

神崎郡永源寺町山上

自家製。木に穴を開け竹製の柄を通す。脱穀後の粳を天日で乾燥し、粳叩きで叩いて粳を選別する。大正時代に製作。

法量(cm) 全長151.2, (打部) 長24.2, 径10.2, (柄) 径3.2

重量(g) 1600



101872 (1385)

2-E-04-04

ムギタタキ (麦叩き)

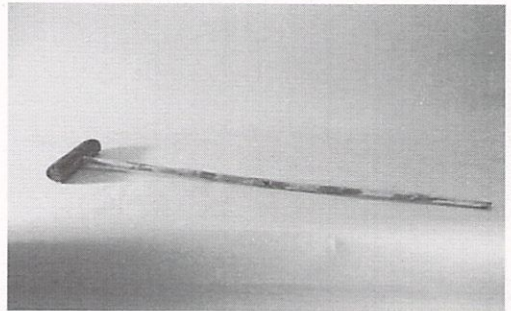
1点

神崎郡永源寺町山上

自家製。木に穴を開け竹製の柄を通す。脱穀した麦を叩いて精撰する用具。

法量(cm) 全長179.0, (打部) 長36.6, 径8.0, (柄) 径2.9

重量(g) 1100



101873 (1867)

2-E-04-04

ヤタウチ

1点

坂田郡山東町志賀谷

自家製。檜材に竹製の柄を付ける。ヤタ (穂についたままの粳)、サヤツキの大豆や菜種を打つために使用。手に持って振り上げ、筵の上で叩きつけると、粳や豆、菜種と殻が分かれる。大正7年頃に製作。昭和43年頃まで使用。

法量(cm) 全長97.0, (打部) 長33.8, 径7.1, (柄) 径2.4

重量(g) 920



101874 (1859)

2-E-04-04

ヤタウチ

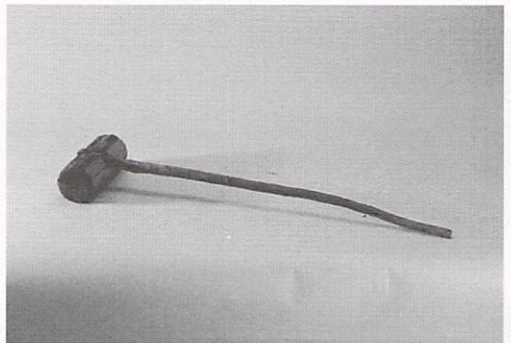
1点

坂田郡山東町柏原

自家製。檜材。柄は凹みを作って釘で打付ける。筵に広げたヤタ (穂のついた粳)、サヤに入った大豆を打って脱粒する。昭和23年頃に製作。昭和38年まで使用。

法量(cm) 全長113.0, (打部) 長28.0, 径11.0, (柄) 径2.5

重量(g) 1500



101875 (2003)

2-E-04-04

ナタネタタキ (菜種叩き)

1点

坂田郡山東町清滝

自家製。檜材に木製の柄を付ける。採集された菜種をサヤと粒に分離するための道具。刈取った菜種を筵の上に重ねて置き、持上げたナタネタタキで叩く。茎についたサヤが割れ、種子が飛び出し、筵の上に落ちる。幼い兄弟を背負って子守をしながら作業した。大正時代末期頃に製作。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 全長112.8, (打部) 長29.6, 径13.2, (柄) 径3.1

重量(g) 2100



101876 (3835)

2-E-04-04

モミウチ (粃打)

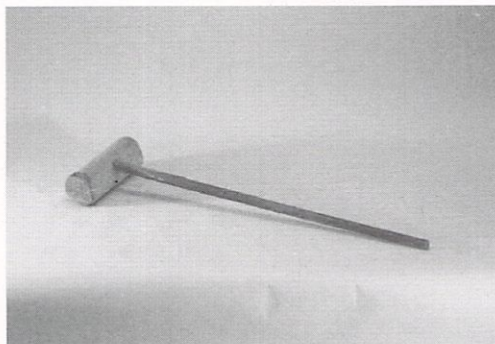
1点

高島郡今津町棕川

自家製。科の木に檜製の柄を付ける。稲粃の芒落とし用具。山間の山田では猪害を防ぐため、芒の長い品種を作付したので、脱穀と粃摺りの間に「粃打ち」という芒落としの作業を必要とした。脱穀直後の粃を土間に盛り、モミウチで叩き、芒を折る。大正時代に製作。戦前まで使用。

法量(cm) 全長118.0, (打部) 長33.5, 径11.2, (柄) 径2.6

重量(g) 1900



101877 (2135)

2-E-04-04

ヤタカチバイ (粃打杓)

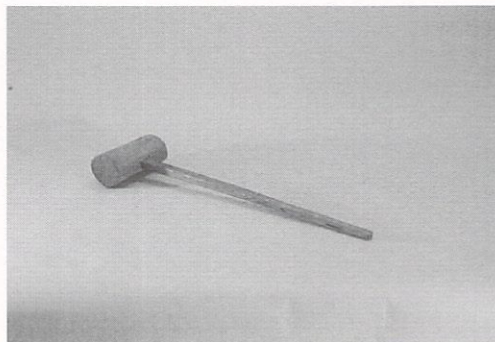
1点

高島郡今津町棕川

木製。脱穀した稲穂にまだ藁がついているもの(ヤタという)を叩くと、藁と粃が分離できる。明治時代～終戦まで使用。

法量(cm) 全長90.1, (打部) 長24.7, 径11.4, (柄) 長径3.1, 短径2.2

重量(g) 1000



101878

2-E-04-04

(不詳) 〈脱穀棒〉

1点

木製。

法量(cm) 全長100.2, (打部) 長33.8, 径9.3, (柄) 径3.1

重量(g) 2000



101879

2-E-04-04

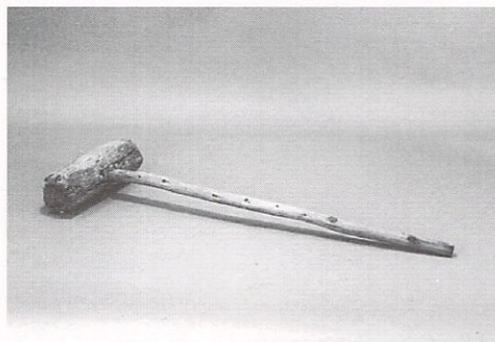
(不詳) 〈脱穀棒〉

1点

木製。

法量(cm) 全長99.7, (打部) 長32.3, 径11.7, (柄) 径3.6

重量(g) 2000



101880 (3792)

2-E-04-04

ヤタカチ (脱穀棒)

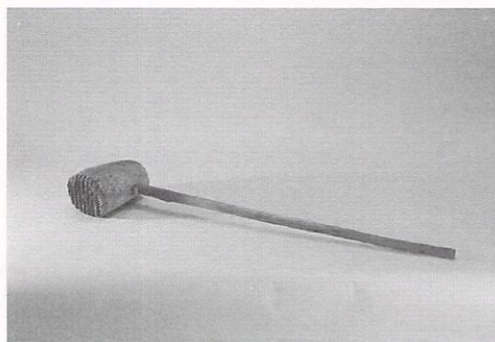
1点

滋賀郡志賀町北小松

自家製。杉製の打部に檜製の柄を付ける。自動脱穀機が使用されるまでは足踏脱穀機を使用していたが、その際に穂先についた粃(ヤタ)が多くできるため、筵に集めてヤタカチでヤタを打ち粃を落とした。大正時代初期に製作。昭和30年代後半まで使用。

法量(cm) 全長136.0, (打部) 長25.3, 径18.2, (柄) 径3.2

重量(g) 3100



101881 (1166)

2-E-04-04

ヤイタカチ

1点

高島郡新旭町針江

木製。柄は破損。落穂などを集め、この木槌で打ち、粃をとる。大正時代～昭和中期まで使用。

法量(cm) 全長64.5, (打部) 長24.6, 径14.8, (柄) 径3.0

重量(g) 2000



101882 (59)

2-E-04-04

脱穀棒

1点

八日市市瓜生津町

木製。竹製の柄を付ける。

法量(cm) 全長142.0, (打部) 長24.0, 径10.5, (柄) 径3.0

重量(g) 1600



101883 (1482)

2-E-04-04

モミオトシ (粃落し)

1点

坂田郡伊吹町寺林

木製。穂首のちぎれた粃を木臼に入れて搗き、粃を落とす。明治時代末期まで使用。

法量(cm) 全長89.0, (打部) 長41.3, 径9.8, (柄) 径3.0

重量(g) 2600



101884 (1027)

2-E-04-04

ヒエツキキネ (稗搗き杵)

1点

東浅井郡浅井町西村

木製。ヒエツキに使用か。江戸時代～明治時代まで使用。

法量(cm) 全長88.0, (打部) 長49.5, 径17.2, (柄) 径4.3

重量(g) 8100



101885 (693)

2-E-04-05

マメコギ (豆扱き)

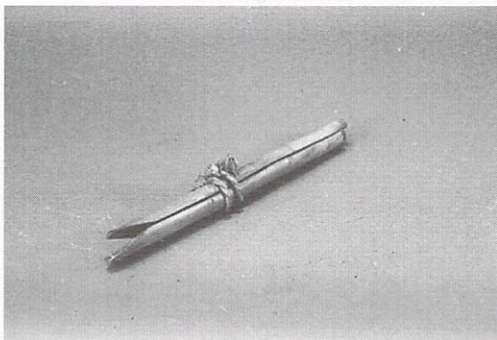
1点

八日市市蛇溝町

自家製。竹を二ツ割にし、元を薬縄でくくる。大豆など豆類の脱穀用具。割った竹の間に枝つきの豆をはさみ、根元を手前に引くと豆と枝が分離する。大正8年に製作。昭和30年まで使用。

法量(cm) 長51.7, 径4.5

重量(g) 335



101886 (1769)

2-E-04-05

マメコキ (豆抜き)

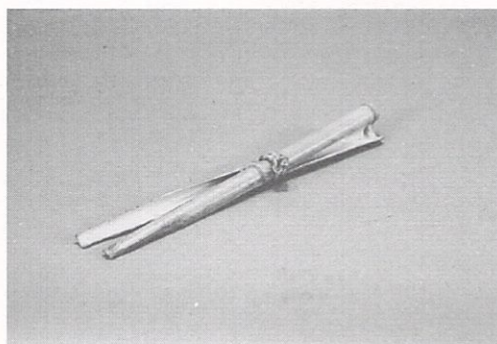
1点

八日市市大森町

自家製。竹を二ツ割にし、元を藁縄でくくる。豆の脱穀に使用。明治時代末期に製作。昭和40年代まで使用。

法量(cm) 長52.5, 径3.5

重量(g) 143



101887 (814)

2-E-04-05

マメコキセンバ (豆抜き千歯)

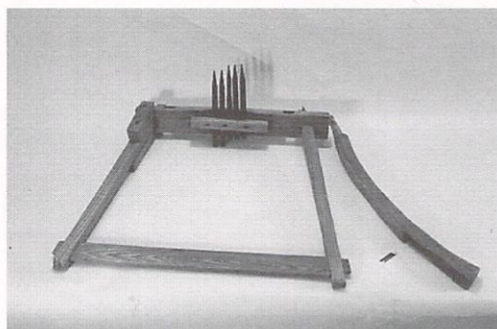
1点

野洲郡中主町六条

歯は鉄製。台、脚は木製。大豆用。

法量(cm) 長90.6, 幅78.5, 高56.1, (歯) 長17.3, 幅11.1

重量(g) 4500



101888 (801)

2-E-04-05

センバ

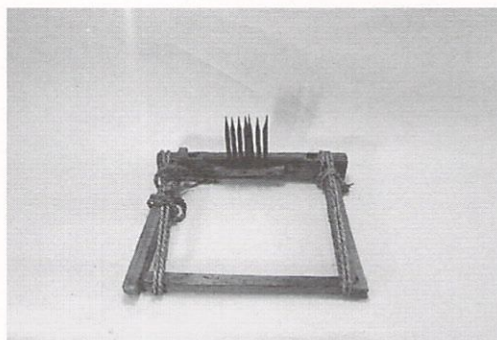
1点

野洲郡中主町吉川

歯は鉄製。台、脚は木製。大豆用。焼印あり。

法量(cm) 幅64.3, 高58.2, (歯) 長20.0, 幅12.8

重量(g) 3900



101889 (163)

2-E-04-05

マメウチ (豆打ち)

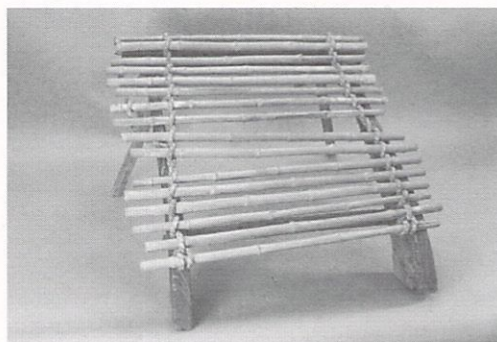
1点

長浜市国友町

自家製。台は松か杉。竹を藁縄で編む。大豆、小豆を枝ごと干して乾燥させる。乾燥したら、枝を竹の部分へ打ちつけ殻から実をはじき出す。昭和初年に製作。昭和50年代まで使用。

法量(cm) 長109.5, 幅84.0, 高54.5, (竹) 径2.7, 幅89.2, 長89.2

重量(g) 10200



101890 (382)

2-E-04-05

オサ

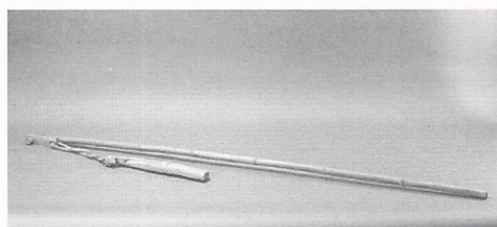
1点

八日市市三津屋町

自家製。木製の頭に竹製の柄を付ける。筵の上に乾かした大豆など穀類の皮を取るため、振り廻して頭を回転させ打ち落とす。昭和初期に製作。昭和20年頃まで使用。

法量(cm) 全長280.2, (打部) 長40.0, 径4.5, (柄) 長103.3, 径2.8

重量(g) 1000



101891 (697)

2-E-04-05

マイサオ (舞い棒)

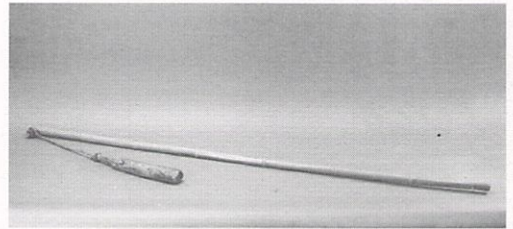
1点

八日市市蛇溝町

自家製。松の丸太を水滴型に鑿で削り、先端部に穴をあける。穴に麻縄を通し、竹竿の先に結える。豆類の脱穀用具。豆を箆の上に撒き、日光で乾かす。竿を上下に振ると先が円弧を描いて回り、豆に打ちつけて脱穀する。明治17年に製作。昭和13年まで使用。

法量(cm) 全長335.6, (打部) 長34.0, 径6.5, (柄) 長233.3, 径3.9

重量(g) 1300



101892 (1453)

2-E-04-06

麦打台

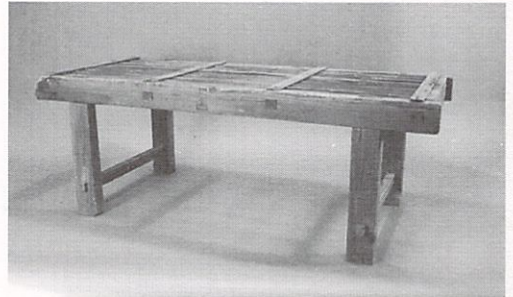
1点

守山市木浜町

木製の台の上部に竹をはめる。中の竹は年に1回程度交換した。古い蚊帳を吊り、その中で台に麦穂を打ちつけ脱穀する。焼印「木舟太」。

法量(cm) 長137.0, 幅57.0, 高49.0

重量(g) 12500



101893 (654)

2-E-04-06

麦打ち台

1点

野洲郡中主町比留田

木製の台の上部に竹をはめる。この台に叩きつけて麦の穂（主に大麦）を採る。墨書「明治十五年午五月」など。

法量(cm) 長132.0, 幅55.4, 高50.3

重量(g) 15000



101894 (261)

2-E-04-06

ムギウチ (麦打)

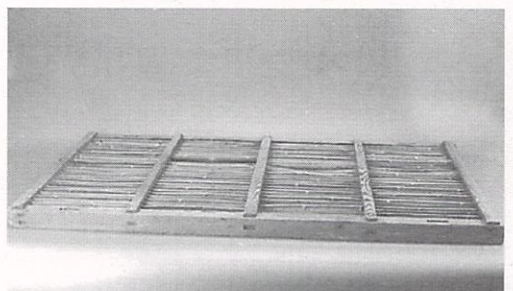
1点

八日市市三津屋町

木製の枠に竹をはめる。麦の脱穀に使用。5～6人が麦束を持ち麦の穂を打ち脱穀する。江戸時代末期～大正時代末期頃まで使用。墨書「蒲生郡市邊村大字三津屋」「明治廿八年五月新調」など。

法量(cm) 長187.9, 幅91.2, 高9.1

重量(g) 18000



101895 (485)

2-E-04-07

トウミ (唐箕)

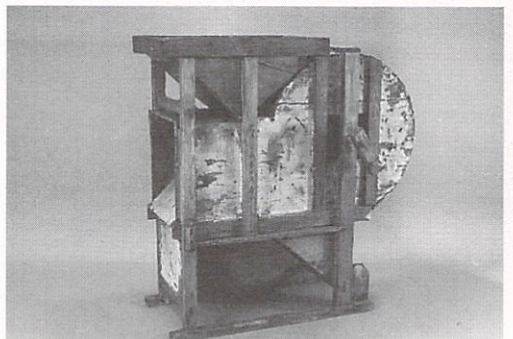
1点

八日市市市辺町

木製。紙貼。籾選別機。上部より籾を入れ、手で風車を回して風力により選別する。明治時代末期～昭和初期まで使用。墨書「大津金蔵吉田屋嘉七□」。

法量(cm) 長138.0, 幅38.0, 高103.0

重量(g) 23300



101896 (1604)

トウミ (唐箕)

2-E-04-07

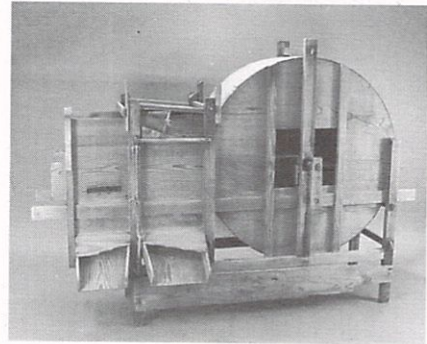
1点

伊香郡高月町唐川

木製。米、大豆など穀類のゴミの風選と粒選に使用。天保年間に購入か。墨書「黒田村唐箕屋重右衛門」。刻印「カリ八日 イ子コキ十六日 ヤ □タシ十八日 ミナシマイ」。

法量(cm) 長186.7, 幅45.0, 高131.8

重量(g) 25700



101897 (583)

トオミ

2-E-04-07

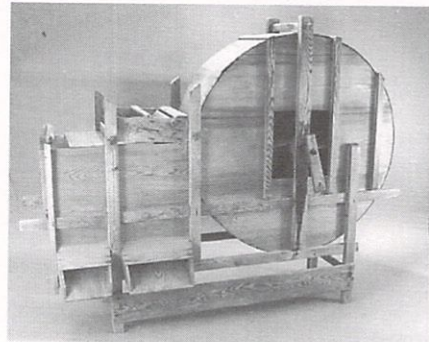
1点

長浜市春近町

木製。米の精選に使用。昭和初期に購入、使用。墨書「製造人 字本庄村 武田清一郎」。

法量(cm) 長184.0, 幅47.0, 高140.0

重量(g) 32600



101898 (3048)

トウミ (唐箕)

2-E-04-07

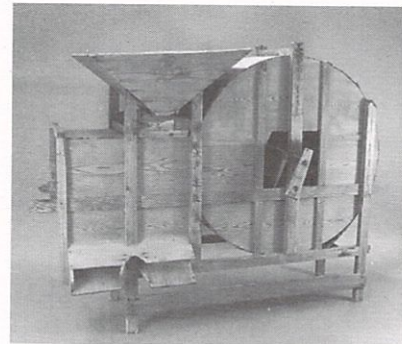
1点

滋賀郡志賀町中浜

木製。粳、玄米等の風選に使用。風車を手で回す。回転速度の調整には慣れが必要であった。昭和初期に購入。昭和30年代まで使用。墨書「大極定別誂江頭黒田與三松□」「取次所 泉庄」「前」など。

法量(cm) 長173.0, 幅45.0, 高130.8

重量(g) 34000



101899 (444)

トウミ (唐箕)

2-E-04-07

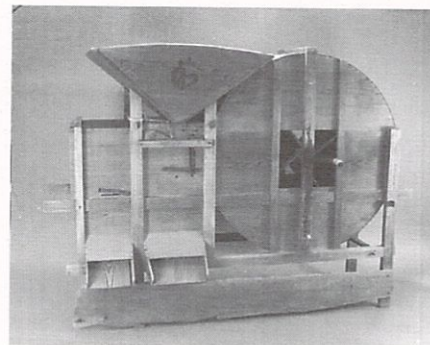
1点

高島郡新旭町薬園

木製。ハンドルは鉄製。粳の選別に使用。明治時代～昭和まで使用。墨書「専売特□□白井式唐箕 高島郡宮野□村製作所」「前」。金具に刻印「白井式」。

法量(cm) 長183.8, 幅49.2, 高133.5

重量(g) 34400



101900 (443)

トウミ (唐箕)

2-E-04-07

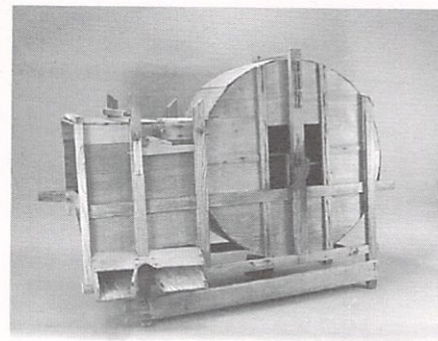
1点

高島郡新旭町堀川

木製。ハンドルは鉄製。粳の選別に使用。明治時代～昭和まで使用。焼印「滋賀縣宮下」「近江國蒲生郡第四區田中江村」「本家 和泉家製河村平兵衛」。金具に刻印「大仙特製」。

法量(cm) 長164.2, 幅45.3, 高123.4

重量(g) 28000



101901 (474)

2-E-04-07

トウミ (唐箕)

1点

野洲郡中主町吉川

木製。ハンドルは鉄製。印字「専賣特許白井式唐箕ノ一部 白井式農具製作工場 賜悠紀齋田御用之栄」「前」。金具に刻印「白井式」。墨書「治良左衛門」。

法量(cm) 長178.3, 幅50.1, 高134.0

重量(g) 33000



101902 (121)

2-E-04-07

トウミ (唐箕)

1点

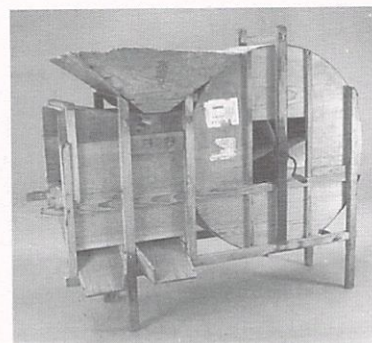
八日市市池田町

木製。ハンドルは鉄製。焼印「請合 江州山上 唐箕處 細井□三郎」。

印字「特許」「末廣式」。貼紙「新案特許末廣式唐箕」。

法量(cm) 長163.1, 幅45.0, 高131.0

重量(g) 28000



101903 (838)

2-E-04-07

トウツワ (唐蓑)

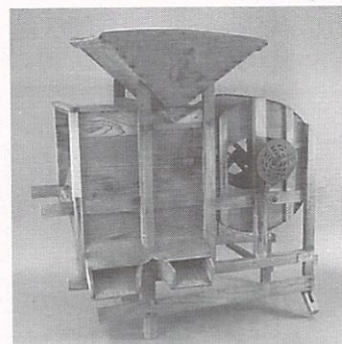
1点

野洲郡中主町井口

木製。ハンドルは鉄製。印字「白井式」「前」。

法量(cm) 長137.0, 幅51.5, 高132.9

重量(g) 31500



101904 (1266)

2-E-04-07

トウミ (唐箕)

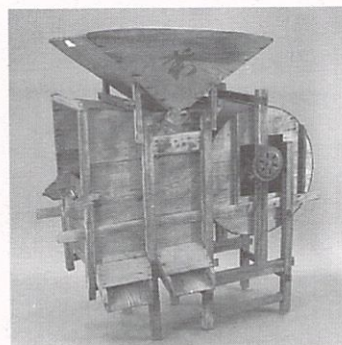
1点

八日市市御園町

木製。ハンドルは鉄製。脱穀した種子を上部より入れ、風を送り、種子とごみ等を選別するのに使用。明治時代初期～昭和30年代まで使用。金具に刻印「請合優良撰別」。墨書「前」。

法量(cm) 長132.2, 幅44.0, 高134.8

重量(g) 25400



101905 (2777)

2-E-04-07

トウミ (唐箕)

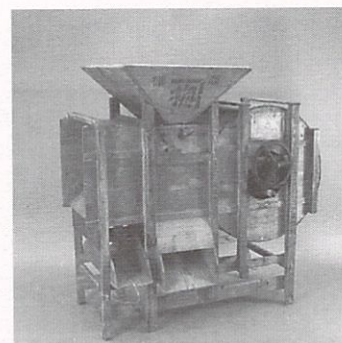
1点

坂田郡近江町高溝

木製。ハンドルは鉄製。粉、玄米、大豆、小豆などの風選に使用。昭和初年に購入。昭和50年頃まで使用。印字「大極上請合 大正式別製改良唐箕」「愛知鳴海 兄弟商會農具専門製作所」「商標」など。

法量(cm) 長125.0, 幅51.4, 高104.0

重量(g) 25300



101906 (577)

2-E-04-07

トオミ

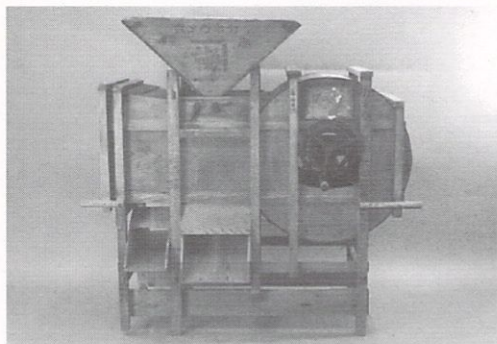
1点

長浜市春近町

木製。ハンドルは鉄製。米の精選に使用。昭和初期に購入、使用。印字「カネウメ式 兄弟農具製作所」「改良八型巾廣唐箕」「特製品滋賀縣扱」「366」「カネウメ式 商標」「389」など。焼印「検査済」など。

法量(cm) 長136.3, 幅50.8, 高128.9

重量(g) 26200



101907 (577)

2-E-04-07

トオミ

1点

長浜市春近町

木製。米の精選に使用。昭和初期に購入、使用。印字「サシナミ式」「指浪工場製造」など。

法量(cm) 縦50.7, 横66.7, 高21.8

重量(g) 1600



101908

2-E-04-07

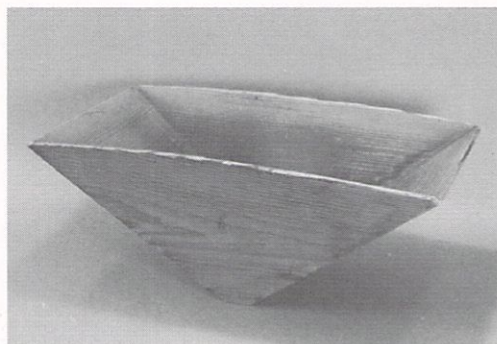
(不詳) 〈唐箕〉

1点

木製。墨書「前」。

法量(cm) 縦51.1, 横90.0, 高36.8

重量(g) 3100



101909 (611)

2-E-04-08

カナドウシ

1点

東浅井郡びわ町早崎

木製。焼印「本家 近江國浅井丁野村 籠屋幸八郎」「丁車幸」。墨書「明治四十三年九月新調」「竹生村大字早崎」。

法量(cm) 長161.0, 幅50.8, (脚)長124.0, 幅78.7

重量(g) 9500



101910 (749)

2-E-04-08

センゴクドオン

1点

伊香郡余呉町中之郷

木製。米の選別に使用。明治時代末期～昭和初期まで使用。墨書「大極上々□□掛」。焼印「本家 近江ノ國浅井丁野村 籠屋幸八郎」「丁車幸」。

法量(cm) 長162.0, 幅47.4, (脚)長124.6, 幅76.7, (漏斗)縦69.1, 横49.7, 高23.2

重量(g) 14800



101911 (1689)

2-E-04-08

モミトオシ (籾篩)

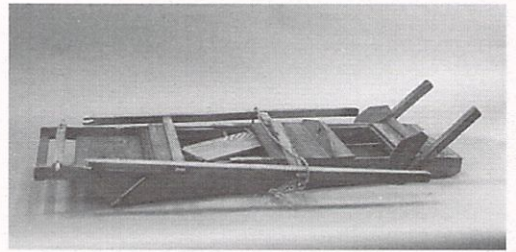
1点

東浅井郡浅井町瓜生

木製。脱穀した籾の選別に使用。焼印「本家 江州浅井郡丁野村宮前
脇坂徳兵衛」。

法量(cm) 長161.5, 幅49.5, (脚) 長123.8, 幅77.2

重量(g) 7900



101912 (1689)

2-E-04-08

モミトオシ (籾篩)

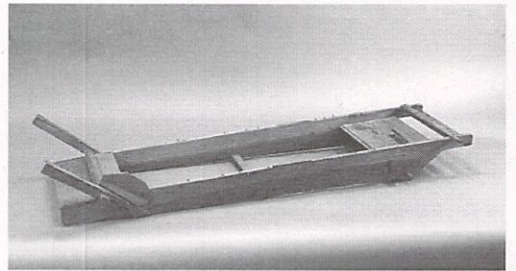
1点

東浅井郡浅井町瓜生

木製。脱穀した籾の選別に使用。墨書「庚之加永三年戊四月二日 丁野
□細工」。

法量(cm) 長161.6, 幅49.6, (脚) 長117.2, 幅78.3

重量(g) 7500



101913 (2049)

2-E-04-08

カナトウシ (万石篩)

1点

伊香郡木之本町赤尾

木製。網は金属製。米の選別に使用。墨書「赤尾村大島佐吉」「文化六
年七月 此機□□□米三百」。焼印「長濱□里や □左エ門」「永久寺村
十□□□」。

法量(cm) 長170.0, 幅39.9, (脚) 長121.1, 幅76.4

重量(g) 12900



101914 (1606)

2-E-04-08

カナドオシ (金篩)

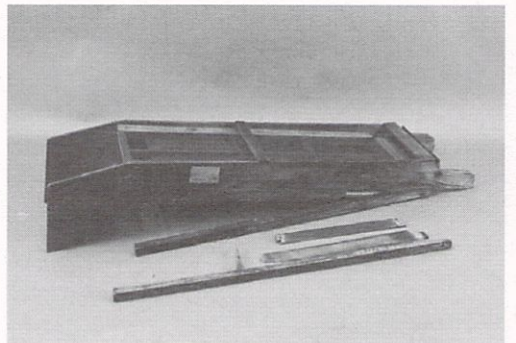
1点

伊香郡木之本町赤尾

木製。網は金属製。米専用。金網の目が米の大きさに合わせてある。墨
書「林喜九衛門」。

法量(cm) 長170.0, 幅42.5, (脚) 長120.5, 幅84.2

重量(g) 12200



101915 (1689)

2-E-04-08

モミトオシ (籾篩)

1点

東浅井郡浅井町瓜生

木製。脱穀した籾の選別に使用。焼印「大原 助右エ門」。

法量(cm) 長155.2, 幅53.9, (脚) 長124.0, 幅78.0

重量(g) 6000



101916 (2524)

2-E-04-08

カナドオシ (万石篩)

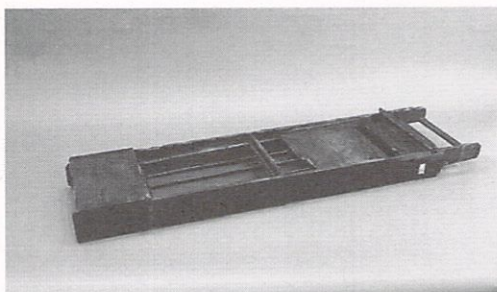
1点

坂田郡近江町宇賀野

木製。網目0.4×0.5cmの金網が張ってある。土臼で引いた玄米と粳穀の混合物をこれでふるい分けた。昭和初年まで使用。焼印「永」。

法量(cm) 長156.5, 幅39.5, (脚)長109.5, 幅73.5

重量(g) 5600



101917 (193)

2-E-04-08

トウシ (万石筵)

1点

伊香郡西浅井町大浦

檜製。網は真鍮製。金網の修理は湖北町丁野で行った。稲を扱き、乾燥した後、粳を摺る。摺った粳と米の仕分けをするために使用。男女共に使用し、2人程で組んで作業した。昭和30年頃まで使用。焼印「江州坂田 金生寺 宗助出」。焼印「永」。

法量(cm) 長155.0, 幅39.2, (脚)長101.0, 幅75.0, (漏斗)縦70.0, 横57.0, 高45.0

重量(g) 14200



101918 (1010)

2-E-04-08

カナドオシ

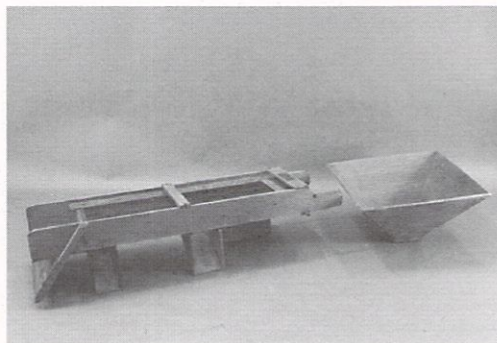
1点

長浜市鳥羽上南町

木製。粳摺りの終わった米を糠と米に選別する。上部から入れて少しずつ網の上を流れるように通すと米は前方へ、糠は下部へ落ちるようになっている。焼印「江州 坂田郡 宗助出 金生寺」「永」など。

法量(cm) 長155.5, 幅46.0, (漏斗)縦68.0, 横68.5, 高40.5

重量(g) 14000



101919

2-E-04-08

(不詳) 〈万石通〉

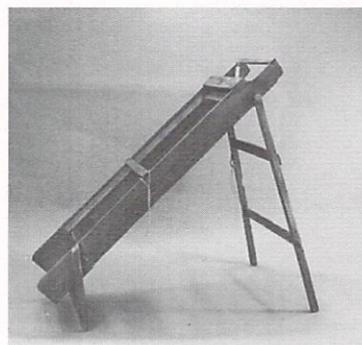
1点

長浜市鳥羽上南町

木製。墨書「明治参拾老年八月購求ス 代價四圓三拾銭 近江國坂田郡西黒田村大字鳥羽上 中尾藤三郎 所有主」。焼印「江州 坂田郡 宗助出 金生寺」。

法量(cm) 長156.5, 幅50.6, (脚)長116.3, 幅73.8

重量(g) 11200



101920 (585)

2-E-04-08

万石とおし

1点

長浜市榎木町

木製。「明治参拾六年拾月中旬代金550 清太天主」「エノキ清太夫持主」など。焼印「江州 坂田郡 宗助出 金生寺」。

法量(cm) 長156.3, 幅60.9, (脚)長117.6, 幅75.9, (漏斗)縦67.5, 横57.0, 高29.0, (小米受)縦37.9, 横43.7, 高10.5

重量(g) 18500



101921 (586)

2-E-04-08

万石とおしー式

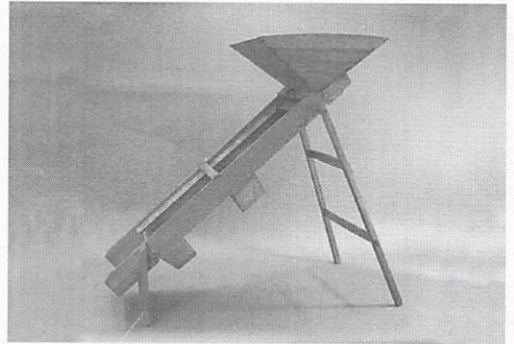
1点

長浜市榎木町

木製。墨書「第貳号」「大正四年七月式日代金560 第二号 大字榎木中川清太夫」。焼印「江州 坂田郡 宗助出 金生寺」「永」。

法量(cm) 長156.2, 幅53.8, (脚) 長117.3, 幅73.2, (漏斗) 縦68.3, 横57.8, 高29.0

重量(g) 15600



101922

2-E-04-08

(不詳) 〈万石通〉

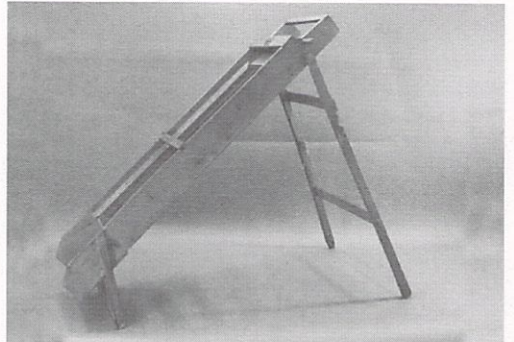
1点

坂田郡伊吹町上平寺

木製。焼印「請合 坂田郡樋口村 唐箕□□□ 樋口卯之吉」。

法量(cm) 長156.0, 幅57.6, (脚) 長120.4, 幅77.5

重量(g) 10500



101923 (269)

2-E-04-08

カナドオシ (金篩)

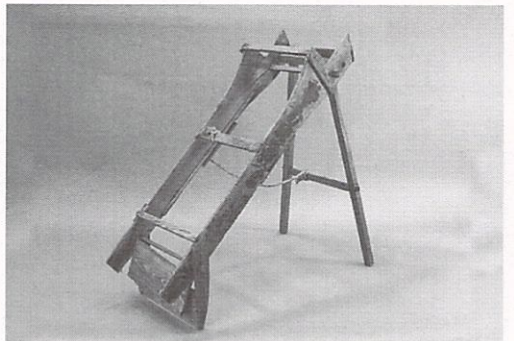
1点

八日市市三津屋町

木製。籾の選別に使用。江戸時代末期～大正時代中期頃まで使用。墨書「明治三十拾貳年十一月 三津屋 □□□代松持用」「□□□□ 蒲生郡鏡山村字須恵」。

法量(cm) 長130.9, 幅45.3, 高104.0, (脚) 長99.7, 幅59.3

重量(g) 5400



101924 (644)

2-E-04-08

マンゴク (万石)

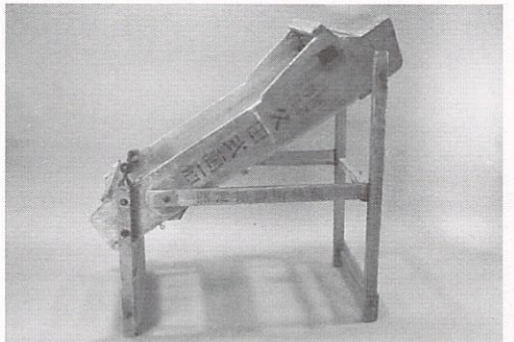
1点

野洲郡中主町比留田

木製。墨書「請合 蒲生郡大字須恵小林茂三郎製」。印字「新案特許久田式萬石」「久田農具製作所 賜悠紀二十一基齋田御採納榮」「農林省御指定器」。

法量(cm) 長124.5, 幅56.0, 高114.8

重量(g) 15600



101925 (1987)

2-E-04-08

米撰機

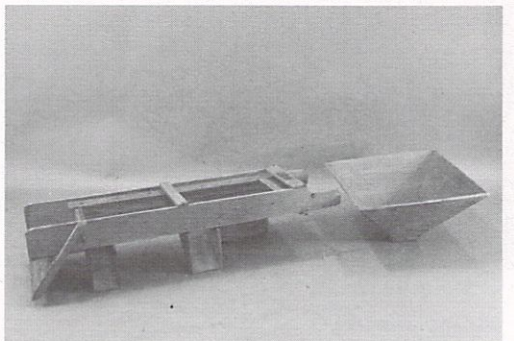
1点

坂田郡山東町柏原

木製。籾摺で米とユリコ (未熟米)、ミヨサ (未熟米の籾)、小石などを篩い分けるために使用。籾摺機から出る米をこの米撰機の漏斗部に受けて使う。昭和9年～35年頃まで使用。墨書「昭和九年十月新調 坂田郡柏原村」など。印字「指浪式米撰機」。

法量(cm) 長100.0, 幅58.8, (脚) 長83.0, (漏斗) 縦44.3, 横49.3, 高21.6

重量(g) 23100



101926

(不詳) 〈万石通〉

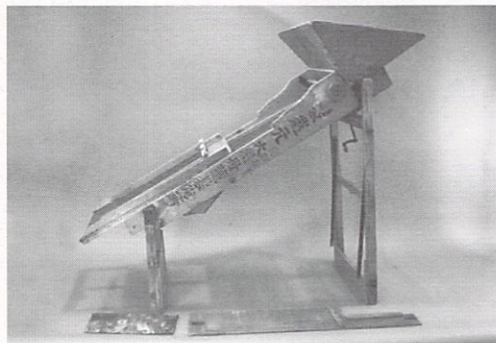
2-E-04-08

1点

木製。印字「製造元愛知県大屋丹藏製作所」「新案特許大屋式三重撰穀機」「一號」など。

法量(cm) 長133.6, 幅60.2, (脚) 長104.9, 幅62.5, (漏斗) 縦68.6, 横51.0, 高24.0

重量(g) 20900



101927

万石通

東浅井郡浅井町八島

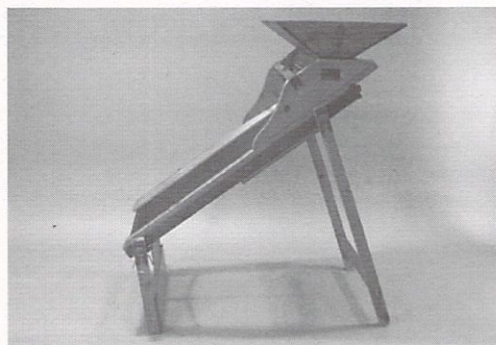
木製。印字「長澤式平面米撰機」「商標長澤式新型米撰機 特許二七〇二八〇號」。プレート「長澤農具製作所 新型米撰機 製作清水市上清水一六八 〇年〇月〇日TEL81・902」「静岡県 推奨農機具之證」。

法量(cm) 長101.8, 幅48.0, (脚) 長80.6, 幅52.5, (漏斗) 縦61.7, 横41.0, 高13.6

重量(g) 20700

2-E-04-08

1点



101928

(不詳) 〈万石通〉

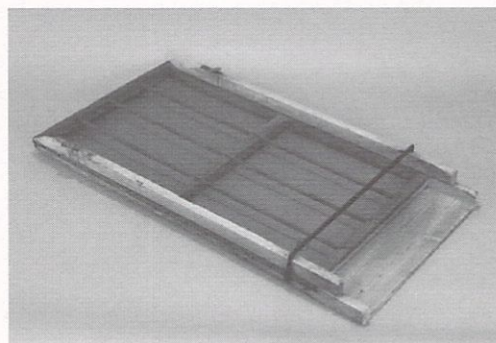
2-E-04-08

1点

木製。網は鉄製。

法量(cm) 長81.3, 幅42.0

重量(g) 1500



101929

(不詳) 〈万石通〉

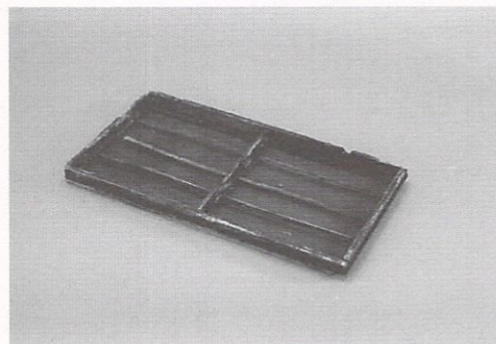
2-E-04-08

1点

木製。網は鉄製。

法量(cm) 長63.3, 幅23.0

重量(g) 790



101930

(不詳) 〈万石通〉

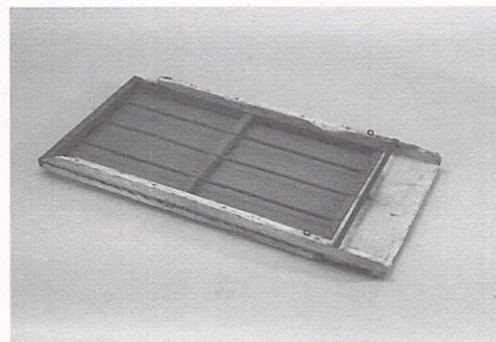
2-E-04-08

1点

木製。網は鉄製。

法量(cm) 長84.7, 幅41.9

重量(g) 1600



101931

(不詳) 〈万石通〉

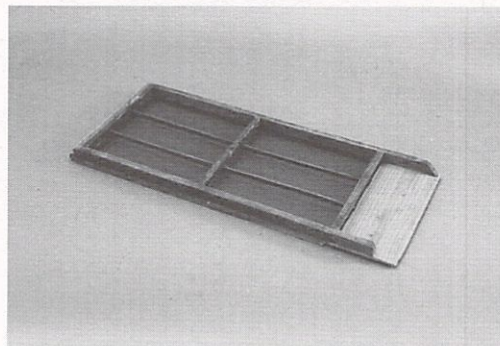
2-E-04-08

1点

木製。網は鉄製。

法量(cm) 長80.7, 幅33.0

重量(g) 1100



101932

(不詳) 〈万石通〉

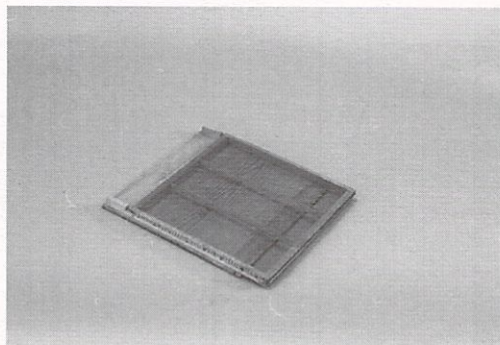
2-E-04-08

1点

木製。網は鉄製。

法量(cm) 長44.2, 幅36.0

重量(g) 915



101933

(不詳) 〈万石通〉

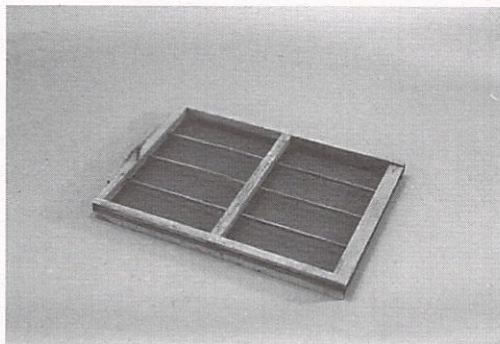
2-E-04-08

1点

木製。網は鉄製。

法量(cm) 長59.8, 幅42.2

重量(g) 925



101934 (251)

マンゴク (万石)

2-E-04-08

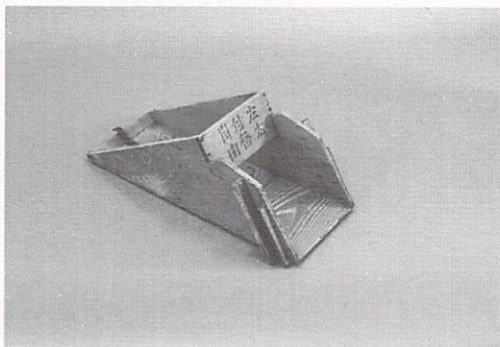
1点

八日市市三津屋町

木製。稲穂を脱穀後、稲粃を選別するのに使用。昭和8年に農機具店より購入。昭和22年まで使用。印字「左右付替自由」。

法量(cm) 長42.0, 幅27.6, 高30.5

重量(g) 1100



101935

(不詳) 〈万石通〉

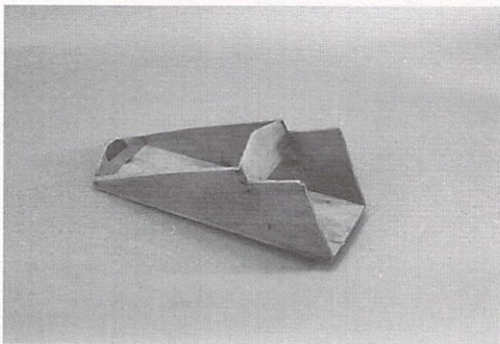
2-E-04-08

1点

木製。

法量(cm) 長55.0, 幅20.3, 高25.4

重量(g) 1300



101936

(不詳) 〈万石通〉

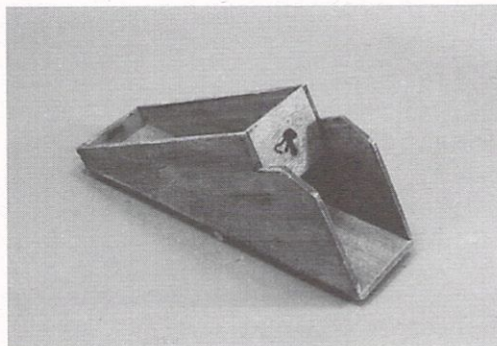
2-E-04-08

1点

木製。

法量(cm) 長51.0, 幅16.8, 高29.9

重量(g) 1900



101937

(不詳) 〈万石通〉

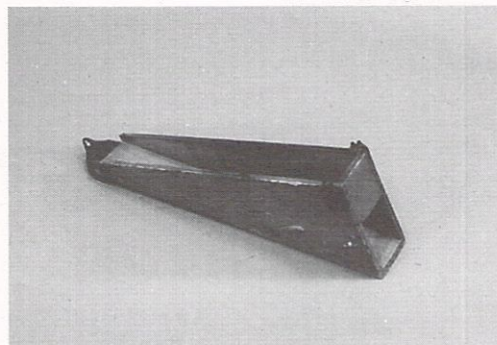
2-E-04-08

1点

木製。

法量(cm) 長56.2, 幅10.5, 高16.8

重量(g) 859



101938

(不詳) 〈万石通〉

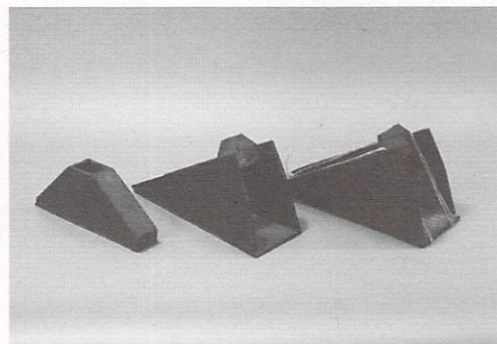
2-E-04-08

1点

木製。

法量(cm) (左) 長36.5, 幅6.4, 高14.3, (中) 長45.3, 幅15.2, 高22.3,
(右) 長45.1, 幅18.0, 高22.3

重量(g) (左) 480, (中) 835, (右) 1100



101939

(不詳) 〈万石通〉

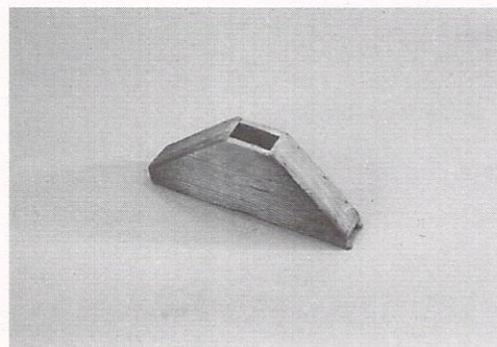
2-E-04-08

1点

木製。

法量(cm) 長38.3, 幅6.5, 高14.7

重量(g) 605



101940

(不詳) 〈万石通〉

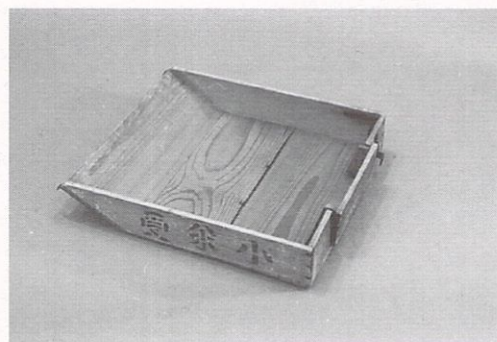
2-E-04-08

1点

木製。印字「小米受」。

法量(cm) 縦54.1, 横44.8, 高10.0

重量(g) 1600



101941

(不詳) 〈万石通〉

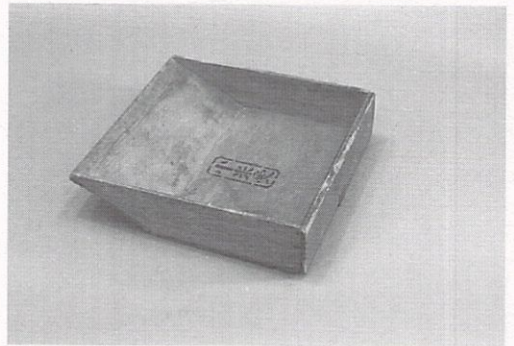
2-E-04-08

1点

木製。印字「小米受」。

法量(cm) 縦47.8, 横46.2, 高12.4

重量(g) 2100



101942

(不詳) 〈万石通〉

2-E-04-08

1点

木製。印字「久田式」。

法量(cm) 縦65.5, 横57.7, 高19.4

重量(g) 2400



101943

(不詳) 〈万石通〉

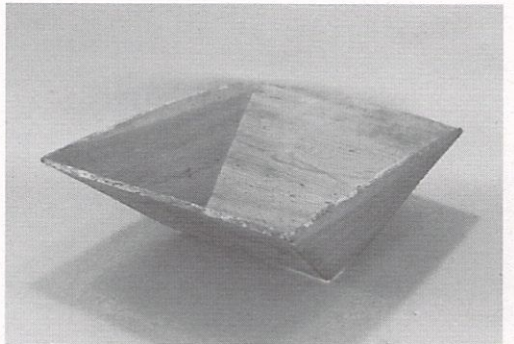
2-E-04-08

1点

木製。墨書「前」「陶」。

法量(cm) 縦66.5, 横51.1, 高23.0

重量(g) 2900



101944

(不詳) 〈万石通〉

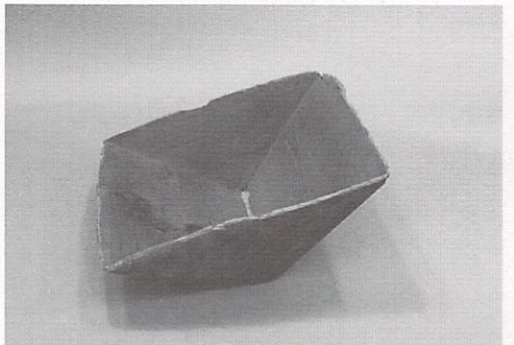
2-E-04-08

1点

木製。墨書あり。

法量(cm) 縦60.7, 横55.0, 高23.8

重量(g) 2500



101945

(不詳) 〈万石通〉

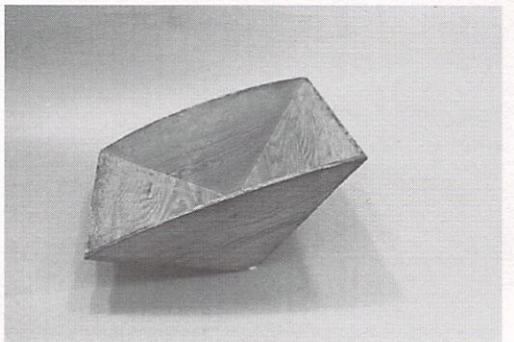
2-E-04-08

1点

木製。墨書「上」。焼印あり。

法量(cm) 縦71.7, 横60.3, 高30.0

重量(g) 4300



101946

(不詳) 〈万石通〉

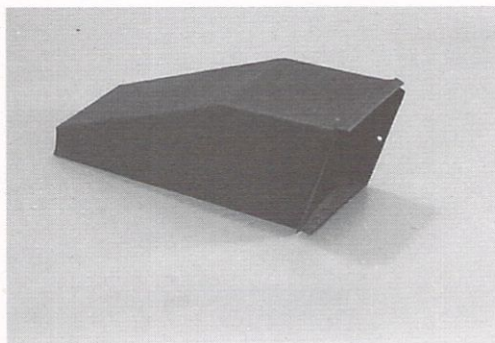
2-E-04-08

1点

鉄製。

法量(cm) 長58.8, 幅18.0, 高24.4

重量(g) 1400



101947

(不詳) 〈万石通〉

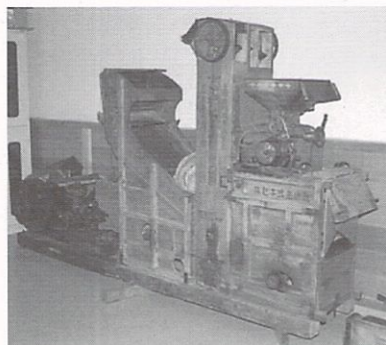
2-E-04-08

1点

木製。一部鉄製。印字「キセキ式自動萬石」「M2K型」「井関農機株式会社製造」「全国農機具最高審査」「第一位首席金牌受領」。

法量(cm) 長326.0, 幅74.0, 高176.0

重量(g) -



101948 (1850)

モミトリドウシ (籾篩)

2-E-04-09

1点

坂田郡山東町柏原

竹を芯にして藁を編む。網は麻製、柿渋を塗る。籾と米の選り分けに使用。カナドウシにかけた米をモミトリドウシで篩うと、籾が中央に集まる。昭和初期まで使用。

法量(cm) 口径43.0, 高6.5

重量(g) 250



101949 (1236)

コメドオシ (篩)

2-E-04-09

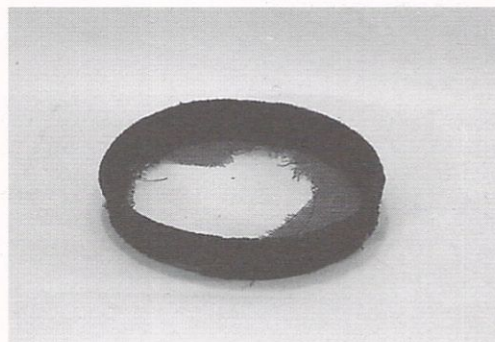
1点

長浜市布勢町

自家製。竹を芯にして藁を編む。網は麻製、柿渋を塗る。米や麦の選別に使用。この中に米や麦を入れ、両手に持ち前後左右に振って選別した。昭和初期に製作。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 口径38.5, 高7.2

重量(g) 281



101950 (1690)

トオシ (篩)

2-E-04-09

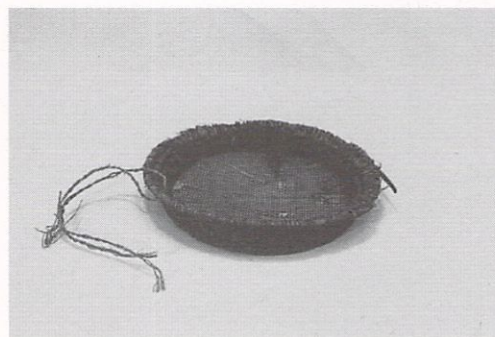
1点

東浅井郡浅井町瓜生

竹を芯にして藁を編む。網は麻製、柿渋を塗る。明治時代以前まで使用。

法量(cm) 口径43.0, 高7.0

重量(g) 310



101951 (2043)

2-E-04-09

コゴメトウシ (米篩)

1点

伊香郡高月町唐川

自家製。竹を芯にして藁を編む。網は麻製、柿渋を塗る。玄米を精白する際にコゴメ (割れ米) と糠を分ける時に使用。白米トウシともいう。また胡麻などにも使用。明治時代前期に製作。大正時代末期まで使用。

法量(cm) 口径37.0, 高7.0

重量(g) 272



101952 (2043)

2-E-04-09

コゴメトウシ (米篩)

1点

伊香郡高月町唐川

自家製。竹を芯にして藁を編む。網は麻製、柿渋を塗る。玄米を精白する際にコゴメ (割れ米) と糠を分ける時に使用。白米トウシともいう。また胡麻などにも使用。明治時代前期に製作。大正時代末期まで使用。

法量(cm) 口径37.0, 高6.0

重量(g) 291



101953 (961)

2-E-04-09

マメトオシ (豆とおし)

1点

蒲生郡日野町寺尻

檜製。曲物。網は藤蔓。大豆類をトウシにかける。大正時代末期～昭和20年頃まで使用。

法量(cm) 口径43.5, 高9.4

重量(g) 350



101954 (2529)

2-E-04-09

フルイ (篩)

1点

坂田郡近江町高溝

檜製。曲物。網は藤蔓。大豆、ナタネガラの分離に使用。昭和初年に製作。昭和初年～30年まで使用。墨書「高溝」など。

法量(cm) 口径41.0, 高9.9

重量(g) 380



101955 (1237)

2-E-04-09

フルイ (篩)

1点

長浜市布勢町

木製。曲物。網は藤蔓。米と粳の選別に使用。粳を入れて両手でトオシを前後左右に振って選別する。昭和初期に製作。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 口径43.8, 高8.5

重量(g) 392



101956 (157)

2-E-04-09

モミドオシ (篩)

1点

長浜市国友町

購入品。檜製。曲物。網は藤蔓。粃と藁等のごみの選り分けに使用。昭和初期に長浜市の近江屋で購入。昭和25年頃まで使用。

法量(cm) 口径44.0, 高7.0

重量(g) 315



101957 (2444)

2-E-04-09

トオシ (篩)

1点

大津市比叡辻

木製。曲物。針金止め。網は藤蔓。豆トオシ。昭和45年まで使用。

法量(cm) 口径44.0, 高10.0

重量(g) 705



101958 (2444)

2-E-04-09

トオシ (篩)

1点

大津市比叡辻

木製。曲物。網は金網。モミトオシ。昭和45年まで使用。墨書「大極上 □富□風」「滋賀郡下阪本村」など。

法量(cm) 口径33.0, 高9.5

重量(g) 325



101959 (2444)

2-E-04-09

トオシ (篩)

1点

大津市比叡辻

木製。曲物。網は金網。モミトオシ。昭和45年まで使用。墨書「大津市 下阪本比叡辻」など。

法量(cm) 口径33.5, 高8.5

重量(g) 371



101960 (960)

2-E-04-09

ハクマイドオシ (白米どおし)

1点

蒲生郡日野町寺尻

檜製。曲物。網は金網。精米したものを通す。大正時代末期頃～昭和20年頃まで使用。

法量(cm) 口径45.1, 高9.7

重量(g) 720



101961 (960)

2-E-04-09

ハクマイドオシ (白米どおし)

1点

蒲生郡日野町寺尻

檜製。曲物。網は金網。精米したものを品別するのに使用。昭和初期～10年頃まで使用。焼印あり。

法量(cm) 口径34.5, 高9.6

重量(g) 340



101962 (1277)

2-E-04-09

マメトオシ (篩)

1点

八日市市御園町

檜製。曲物。網は金網。大豆の選別に使用。昭和16年頃に八日市のトウシ屋で購入。昭和20年代まで使用。墨書あり。焼印「吉瀧」など。

法量(cm) 口径33.7, 高9.2

重量(g) 396



101963 (1954)

2-E-04-09

トオシ (篩)

1点

神崎郡能登川町今

木製。曲物。網は金網。米を篩にかける目の細かいコメドオシ。昭和40年代まで使用。

法量(cm) 口径34.7, 高9.4

重量(g) 390



101964 (1954)

2-E-04-09

トオシ (篩)

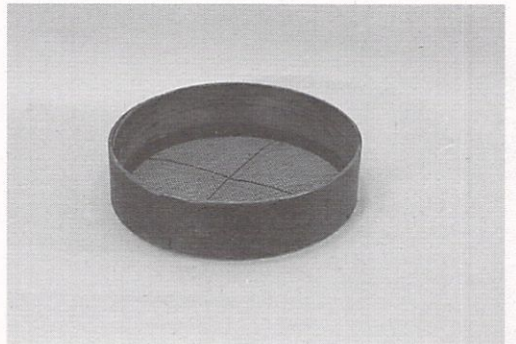
1点

神崎郡能登川町今

木製。曲物。網は金網。米を篩にかける目の細かいコメドオシ。昭和40年代まで使用。墨書「今村」など。焼印あり。

法量(cm) 口径34.2, 高8.7

重量(g) 365



101965 (1860)

2-E-04-09

コメドオシ (篩)

1点

坂田郡山東町柏原

檜製。曲物。網は金網。綿布で補修。米に混入した砂や破米などを選別する。使わなくなってから、モルタル用の砂漉しに転用したが、網が細かいため使えなかった。昭和30年頃～38年まで使用。

法量(cm) 口径35.5, 高9.0

重量(g) 336



101966 (158)

2-E-04-09

コメドオシ (篩)

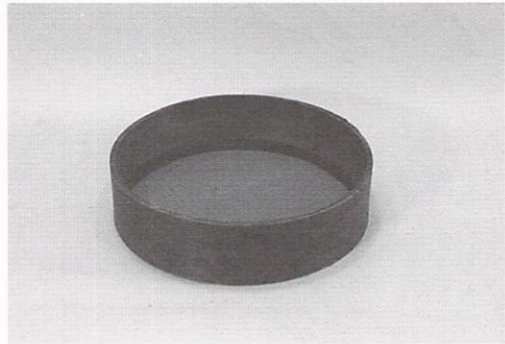
1点

長浜市国友町

檜製。曲物。網は金網。米と糠又はこめを選り分けるのに使用。昭和初期に長浜市の近江屋から購入。昭和25年頃まで使用。スタンプ「請合 斎口清区内宮司 製造所 田中商店」。墨書「十月」。

法量(cm) 口径35.5, 高9.0

重量(g) 392



101967 (3882)

2-E-04-09

コメトオシ (米箆し)

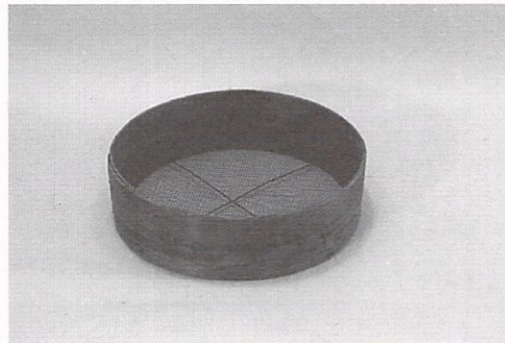
1点

高島郡今津町棕川

購入品。木製。曲物。網は金網。粳摺り後の玄米より粳や砕け粒を篩い分ける。大正元年に購入。昭和40年代まで使用。墨書「大正元年十月九日 買口」「田尾」「27」。

法量(cm) 口径33.2, 高9.3

重量(g) 294



101968 (1186)

2-E-04-09

トオシ (篩)

1点

守山市木浜町

檜製。曲物。網は金網。胡麻ドオシとして使用。焼印「木葺口」。

法量(cm) 口径24.5, 高10.2

重量(g) 240



101969 (1186)

2-E-04-09

トオシ (篩)

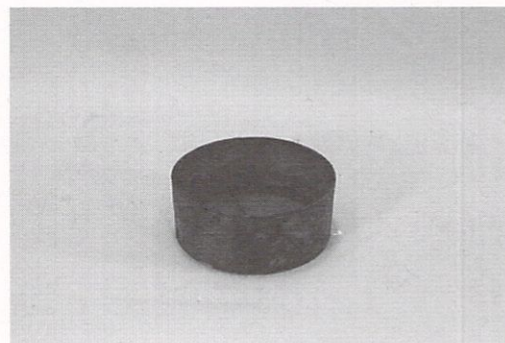
1点

守山市木浜町

檜製。曲物。網は金網。胡麻ドオシとして使用。焼印「江州木濱 魚竹商店」。

法量(cm) 口径21.5, 高8.7

重量(g) 166



101970 (1469)

2-E-04-09

ナタネドウシ (菜種篩)

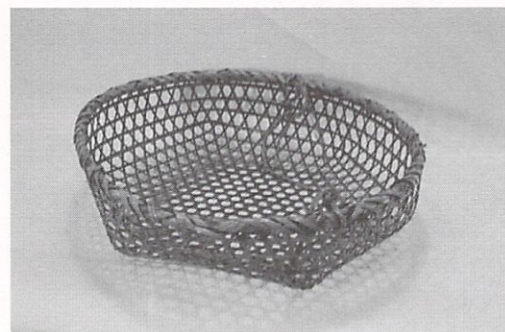
1点

坂田郡伊吹町寺林

竹製。採集した菜種を選り分ける篩。昭和20年代まで使用。

法量(cm) 口径64.6, 高18.0, 底一辺32.0

重量(g) 666



101971 (1823)

2-E-04-09

トオシ (菜種とおし)

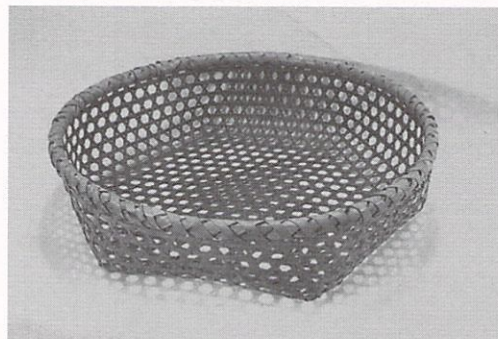
1点

長浜市八幡中山町

幅0.8cmぐらいの竹皮の表皮が外側になるよう六つ目に編む。収穫した菜種を筵の上でヤタカチ棒で枝や皮を叩く。枝や実の混合したものを「ザス」と言い、これをトオシに入れてとおすと種だけ下へ落ちる。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 口径72.0, 高20.0, 底一辺36.0

重量(g) 1200



101972 (140)

2-E-04-10

ニシヤマミ (箕)

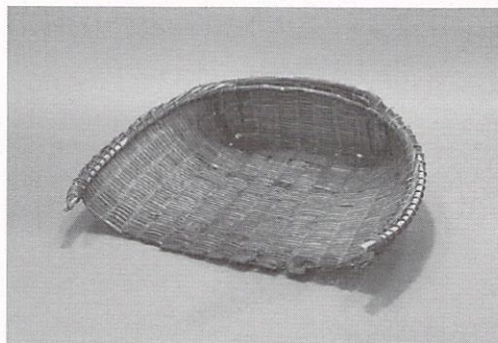
1点

長浜市国友町

桜の木の皮を竹で編む。ブリキの刃を付ける。取手の一部に藤蔓を巻く。扱いた粉と藁などの選り分けや米と糠の選り分けに使用。中に粉や米を入れ、上下に手で振り不要物を分ける。米のみに限らず、様々な選り分けに使われた。昭和初期に木之本町西山で製作されたものを購入。昭和20年頃まで使用。墨書「勘」。

法量(cm) 幅58.0, 長54.2, 高18.9

重量(g) 1037



101973 (854)

2-E-04-10

ミ (箕)

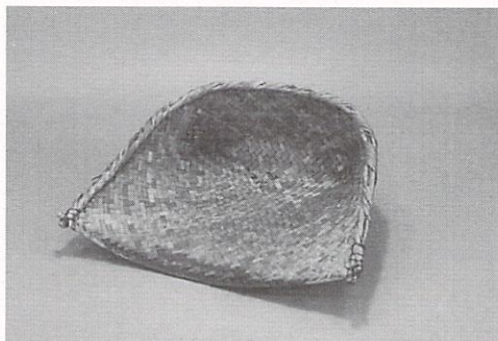
1点

八日市市御園町

竹製。鉄の刃を付ける。雑穀を選別する時に使用。また砂利の採集にも使用した。昭和30年頃~58年まで使用。墨書「昭和二十四年九月」など。

法量(cm) 幅60.2, 長48.1, 高23.2

重量(g) 830



101974 (1861)

2-E-04-10

ミ (箕)

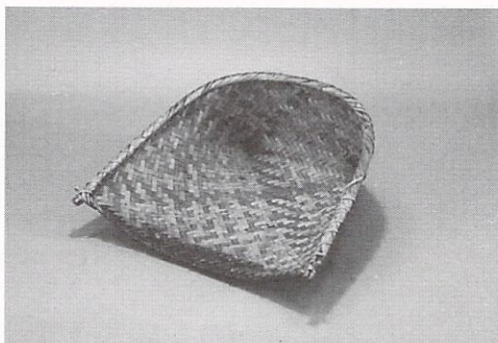
1点

坂田郡山東町柏原

竹製。鉄の刃を付ける。取手の一部に藤蔓を巻く。主に穀物を扱うために使用。また、穀物をヒダス（箕を上下させ、不純物を除く）、穀類や渋柿の皮、茄子の葉などを乾燥させるのに使用。頭上から中味を筵などへ少しづつ落しながら風を起し、唐箕のように使用。墨書「昭和廿六年一月 一松」。

法量(cm) 幅53.0, 長48.0, 高22.0

重量(g) 740



101975 (1861)

2-E-04-10

ミ (箕)

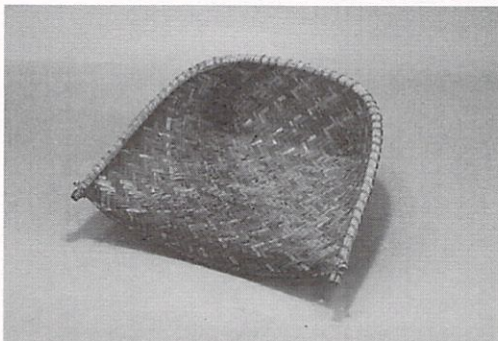
1点

坂田郡山東町柏原

竹製。鉄の刃を付ける。取手に藤蔓を巻く。主に穀物を扱うために使用。また、穀物をヒダス（箕を上下させ、不純物を除く）、穀類や渋柿の皮、茄子の葉などを乾燥させるのに使用。頭上から中味を筵などへ少しづつ落しながら風を起し、唐箕のように使用。墨書「昭和廿六年六月新調」など。

法量(cm) 幅55.0, 長50.0, 高23.0

重量(g) 839



101976 (2602)

2-E-04-10

ミ (箕)

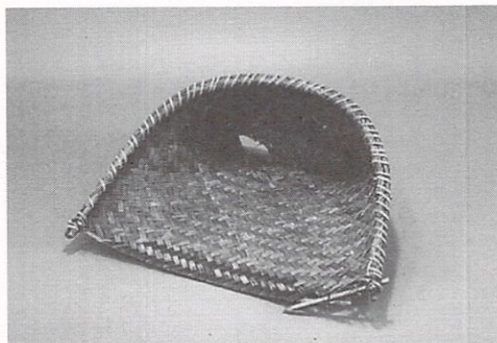
1点

坂田郡近江町高溝

竹製。鉄の刃を付ける。取手に藤蔓を巻く。粃や玄米を入れ、運ぶ時に使用。昭和30年～50年まで使用。

法量(cm) 幅64.0, 長46.8, 高22.0

重量(g) 725



101977 (964)

2-E-04-11

モミサガシ (粃さがし)

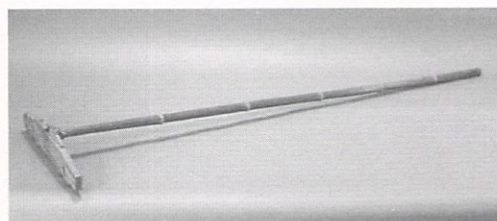
1点

蒲生郡日野町寺尻

自家製。松板に竹製の柄を付ける。天日に干すために筵に粃を広げるのに使用。大正時代初期に製作。昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 全長162.0, 幅47.0, 高9.3, (柄) 径2.5

重量(g) 479



101978 (695)

2-E-04-11

モミサガシ (粃さがし)

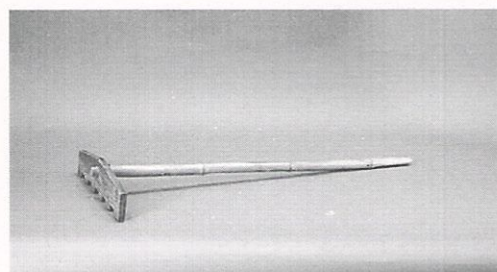
1点

八日市市蛇溝町

自家製。松板を波型に鋸で切り取り、中央に穴をあけ真竹を差し込む。家の前の庭に筵を敷き、稲扱した粃を薄く撒き日光で乾燥させる。表面の粃が乾くと、このモミサガシで粃の上を撫でて下の粃を表に出した。終日、数十回くり返した。昭和4年に製作。

法量(cm) 全長104.7, 幅49.0, 高11.0, (柄) 径2.9

重量(g) 526



101979

2-E-04-11

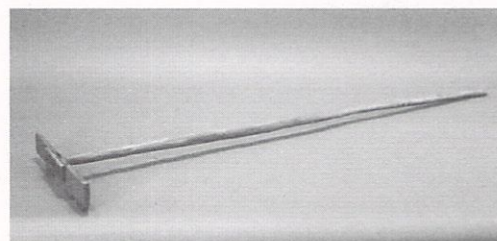
(不詳) 〈粃さがし〉

1点

板を波型に鋸で切り取り、中央に穴をあけ真竹を差し込む。

法量(cm) 全長143.2, 幅36.5, 高7.2, (柄) 径2.7

重量(g) 515



101980 (155)

2-E-04-11

モミマゼバイ

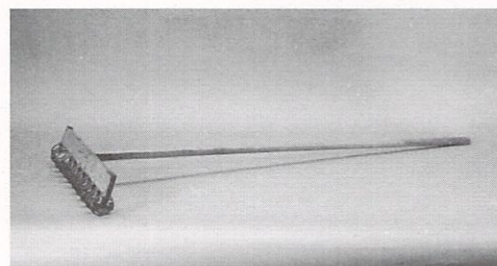
1点

長浜市国友町

板に針金を付け、木製の柄を付ける。モミホシ (粃を筵で干す) の際に粃をかき混ぜるのに使用。昭和20年頃に購入、使用。プレートあり。

法量(cm) 全長154.0, 幅65.0, 高13.0, (柄) 径3.0

重量(g) 1200



101981

(不詳) 〈扇風機〉

2-E-04-11

1点

ブリキ製。台は木製。焼印「深尾」「宗」。

法量(cm) (羽根) 長37.5, 幅12.3, (台) 高94.7, 横38.7, 縦39.1

重量(g) 6900



101982 (675)

筵の下敷き簀

2-E-04-11

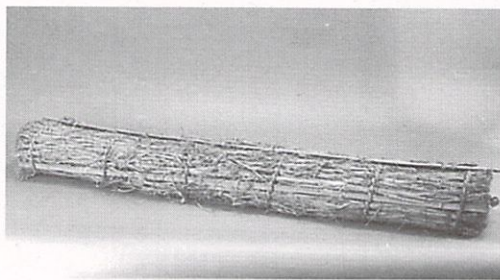
1点

野洲郡中主町下堤

粟か黍藁と割竹を藁縄で編む。脱穀した粳を秋の天日に2〜3日干す際に筵の下に引く。

法量(cm) 長273.5, 幅177.0

重量(g) 6500



101983

蒭

2-E-04-11

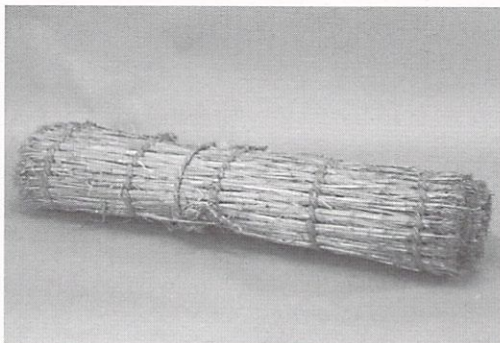
1点

近江八幡市牧町

粟を藁縄で編む。

法量(cm) 長280.0, 幅105.0

重量(g) 4300



101984

(不詳) 〈筵〉

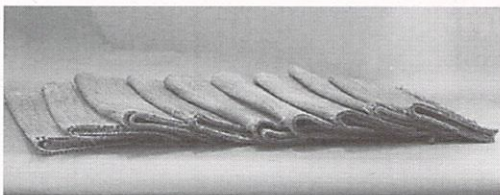
2-E-04-11

9点

藁製。

法量(cm) 長189.0, 幅94.0

重量(g) 2200〜2900



101985 (764)

カマス (叭)

2-E-04-11

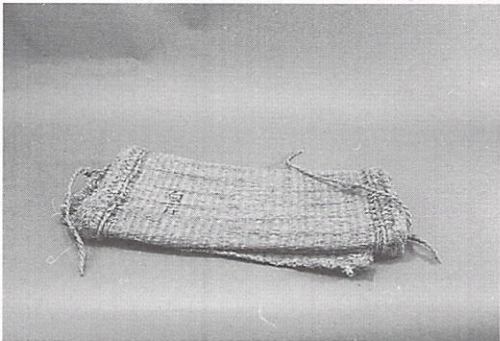
1点

伊香郡余呉町中之郷

自家製。藁製。筵を織り、二つ折にして二方を縄で編む。入口に縄を付ける。粳、米、芋など農作物を入れるのに使用。粳を入れる場合が最も多い。大正時代に製作。昭和初期まで使用。墨書「白圧」。

法量(cm) 縦93.0, 横81.0

重量(g) 2200



101986 (764)

2-E-04-11

カマス (呷)

1点

伊香郡余呉町中之郷

自家製。藁製。筵を織り、二つ折にして二方を縄で編む。入口に縄を付ける。粳、米、芋など農作物を入れるのに使用。粳を入れる場合が最も多い。大正時代に製作。昭和初期まで使用。

法量(cm) 縦104.0, 横78.0

重量(g) 2500



101987 (3303)

2-E-04-11

ダイ (台)

1点

坂田郡近江町宇賀野

木製。台の上で藁や梅干し、豆などを干した。昭和30年～50年代まで使用。

法量(cm) 長93.5, 幅101.8, 高110.2

重量(g) 10900



101988

2-E-04-11

クサタテ

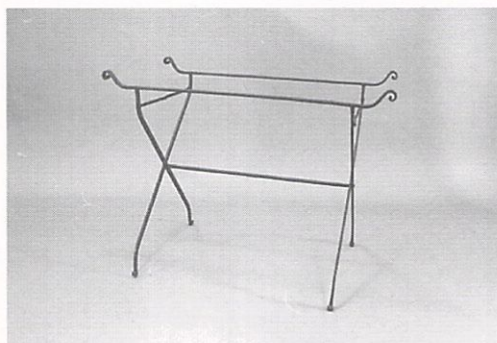
1点

守山市木浜町

鉄製。

法量(cm) 長73.8, 幅39.6, 高57.1

重量(g) 3100



101989 (750)

2-E-04-12

ドウス (土臼)

1点

伊香郡余呉町菅並

木で枠を作り円型に竹で籠に編む。中に赤土と石灰を入れて搗き固め、これに板の歯を白の線状にはめ込む。上下二つ作り、上を回す。中に粳を入れ、上の部分を廻転させ、粳殻を取る。明治時代～大正時代まで使用。

法量(cm) 上径45.5, 全高70.2, 最大幅94.7

重量(g) -



101990 (2050)

2-E-04-12

ドウス (土臼)

1点

伊香郡木之本町赤尾

丸臼型の上下に分かれ、胴張りは竹籠製で中に三和土をつめ、表面に石臼の様に刃を植える。刃はドンダリ、ホスなどの割片を用いる。粳をする。この越前臼の使用は江戸時代後期以降で、それ以前には木製の臼が使用された。大正時代に購入。

法量(cm) 口径43.8, 底径59.5, 高29.0, 最大幅70.4

重量(g) -



101991 (1056)

2-E-04-12

土臼

1点

東浅井郡浅井町寺師

木で枠を作り円型に竹で籠に編む。中に土を入れて搗き固める。脱穀に使用。大正時代～昭和初期まで使用。

法量(cm) 上径39.5, 全高72.7, 最大幅101.0

重量(g) -



101992 (2057)

2-E-04-12

改良臼

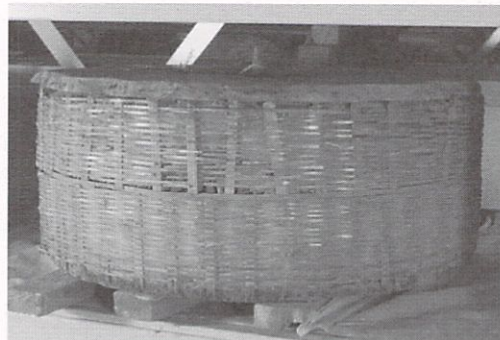
1点

伊香郡高月町唐川

胴張りは竹籠製で、中に三和土を入れる。全国的に発売された改良型。粳摺り専用。大正10年頃に購入。

法量(cm) 上部径58.1, 高10.9, 下部径58.5, 高11.7, 全高30.1

重量(g) -



101993 (1013)

2-E-04-12

ドウス (土臼)

1点

長浜市鳥羽上町

竹ひごで周囲を巻き、中の土をかため、溝を作る。粳すり用として使用。上部ハンドルの中央に粳を入れる口があり、上の円板と下の円板の間で摩擦されて玄米になる。すり終わった米は周囲へ流れ出て来る。明治時代～昭和初年まで使用。

法量(cm) 臼径56.7, 高17.4, 全高30.6, 最大幅76.0

重量(g) -



101994 (2523)

2-E-04-12

ドウス (土臼)

1点

坂田郡近江町宇賀野

改良臼。粳摺り用。昭和初年に購入。戦前まで使用。シール「太陽式キング号臼摺機」。印字「製造元 栃木県栃木町 太陽社」「キング號」。

法量(cm) 全体長79.7, 最大幅59.2, 高101.0, (漏斗) 縦59.2, 横59.2, 高18.0, (臼) 径54.0, 高33.7

重量(g) -



101995 (478)

2-E-04-12

モミスリウス

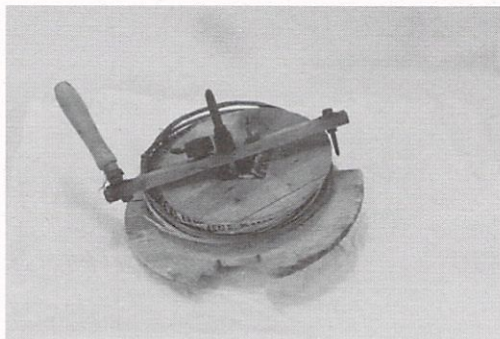
1点

八日市市市辺町

臼の上に粳入桶をのせ桶の上に漏斗を置く。中心鉄棒を基点に上部桶を回す。粳摺りまたは漢方薬用の草根摺り。鉄板製漏斗の中に粳や草根を入れて手で柄を静かに回す。桶の中より下部の土臼に落として脱穀する。明治初期頃まで使用。

法量(cm) 最大径37.0, 全高15.0

重量(g) 8000



101996 (803)

2-E-04-12

臼磨り漏斗

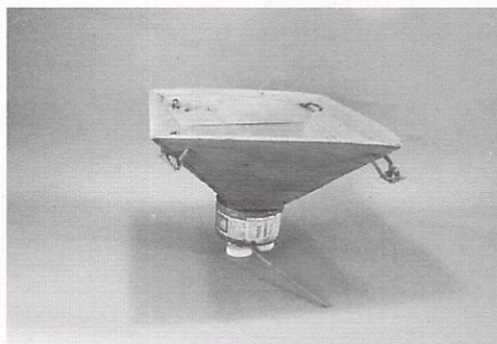
1点

野洲郡中主町吉川

木製の漏斗にブリキ缶を付ける。焼印「農商務省 特許第五七七七号」。
シール「臼掛漏斗 山口縣玖珂郡神代村 業賣本部秀成館」「四等賞
明治四十三年六月五日」「銅牌 明治三十七年十二月八日」など。

法量(cm) 縦70.0, 横68.4, 高46.5, (竹) 64.8

重量(g) 3900



101997 (1909)

2-E-04-12

土臼の柄

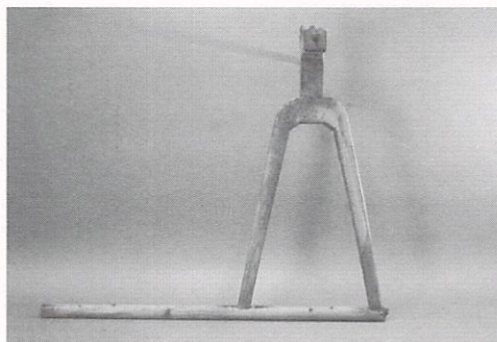
1点

東浅井郡浅井町

木製。芯は鉄製。

法量(cm) 長107.5, 幅128.7, 高59.5, 横木径4.7

重量(g) 6800



101998 (1626)

2-E-04-12

土臼の柄

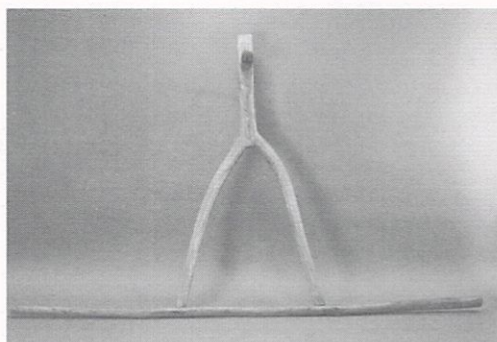
1点

八日市市大森町

自家製。木製。芯は鉄製。土臼の穴に芯棒を入れ、押木の腕を2〜3人で
持ち、土臼を回して中に入れた稲穂を脱皮して玄米にするのに使用。土
臼は円形で、中に板を植え込み、この木製の歯によって脱皮した。明治
45年頃〜昭和10年頃まで使用。

法量(cm) 長135.9, 幅214.0, 高41.0, 横木径4.3

重量(g) 6450



101999 (1626)

2-E-04-12

土臼の柄

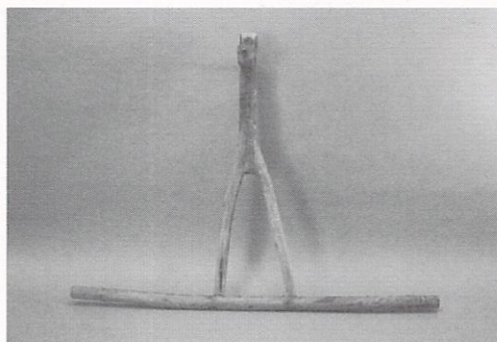
1式点

八日市市大森町

自家製。木製。芯は鉄製。土臼の穴に芯棒を入れ、押木の腕を2〜3人で
持ち、土臼を回して中に入れた稲穂を脱皮して玄米にするのに使用。土
臼は円形で、中に板を植え込み、この木製の歯によって脱皮した。明治
45年頃〜昭和10年頃まで使用。

法量(cm) 長103.5, 幅135.7, 高33.3, 横木径5.3

重量(g) 3550



102000

2-E-04-12

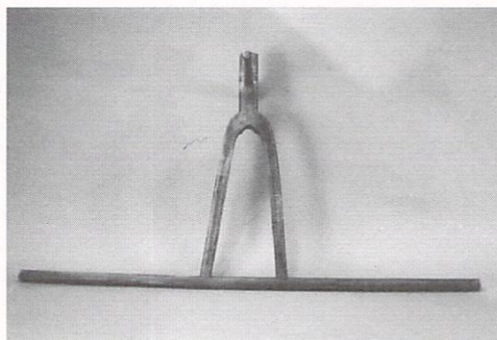
(不詳) 〈土臼〉

1点

木製。墨書「□カノ □□」。

法量(cm) 長91.0, 幅175.3, 高55.4, 横木径4.3

重量(g) 5250



102001

(不詳) 〈土臼〉

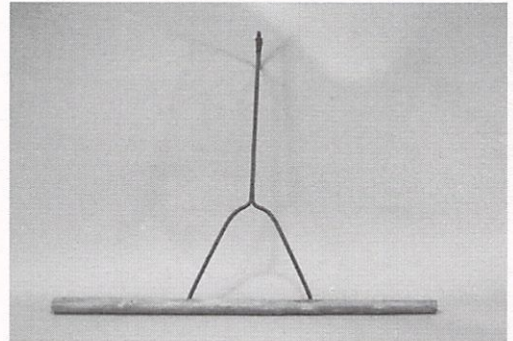
2-E-04-12

1点

鉄製。横木は木製。

法量(cm) 長91.2, 幅125.0, 高29.6, 横木径5.1

重量(g) 2800



102002 (1691)

米搗き臼

2-E-04-13

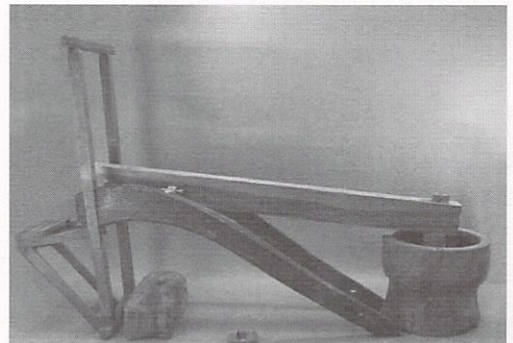
1点

東浅井郡浅井町瓜生

木製。家の廃材などを転用することが多かった。米を精白する。明治時代まで使用。

法量(cm) 全長239.0, 幅70.0, 高151.0, (臼) 口径57.0, 高46.5

重量(g) 22600, (臼) 40500



102003 (2088)

コメツキ (米搗き)

2-E-04-13

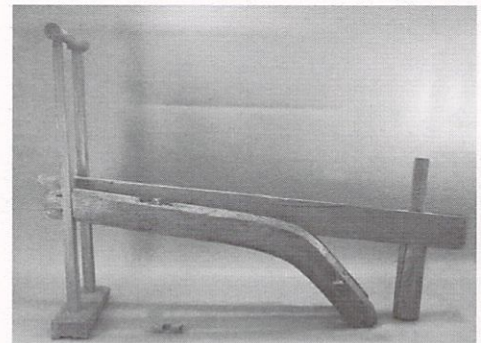
1点

八日市市建部瓦屋寺町

木製。玄米を精白するのに使用。石臼の中に玄米(黒米という)を約1斗入れ、杵で搗き精白する。足で踏み、杵を上下させる。明治時代初期～昭和24年頃まで使用。

法量(cm) 全長219.0, 幅63.0, 高146.5

重量(g) 計50652



102004 (584)

唐臼

2-E-04-13

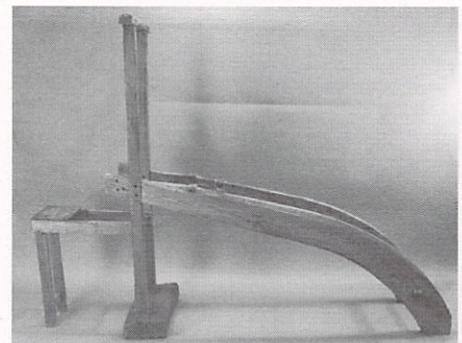
1点

長浜市榎木町

木製。

法量(cm) 全長165.0, 幅59.0, 高148.0

重量(g) 計28700



102005 (659)

カラウス (唐臼)・キネ (杵)

2-E-04-13

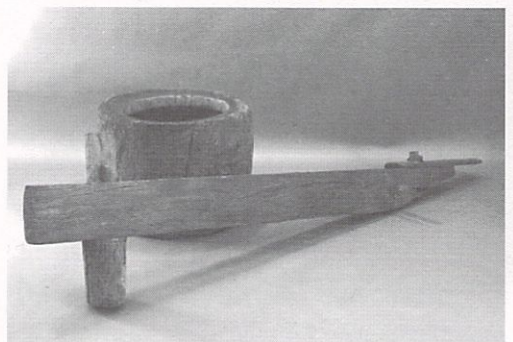
1点

野洲郡中主町野田

木製。精米に使用。

法量(cm) (臼) 口径69.5, 高54.0, (杵) 径13.5, 長255.0, 高63.2

重量(g) (臼) 98000, (杵) 32800



102006

(不詳) 〈杵〉

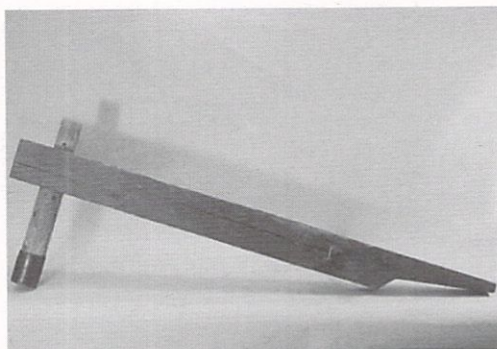
2-E-04-13

1点

木製。

法量(cm) 径11.5, 長214.0, 高74.3

重量(g) 24700



102007 (2525)

コメツキウス (米搗き臼)

2-E-04-13

1点

坂田郡近江町宇賀野

木臼の中に、直径27.3cmの石を埋め込んである。玄米を精白米にする時に使用。

法量(cm) 口径54.2, 高50.0

重量(g) 73200



102008 (504)

唐臼

2-E-04-13

1点

高島郡安曇川町北船木

花崗岩。踏臼。家のニワ (土間) に設置してあった。戦時中は隣家からも借りに来た。

法量(cm) 口径58.2, 高33.7

重量(g) 130000



102009 (504)

唐臼

2-E-04-13

1点

高島郡安曇川町北船木

花崗岩。杵の台石。家のニワ (土間) に設置してあった。戦時中は隣家からも借りに来た。

法量(cm) 長93.5, 幅16.8, 高24.3

重量(g) -



102010 (857)

石臼

2-E-04-13

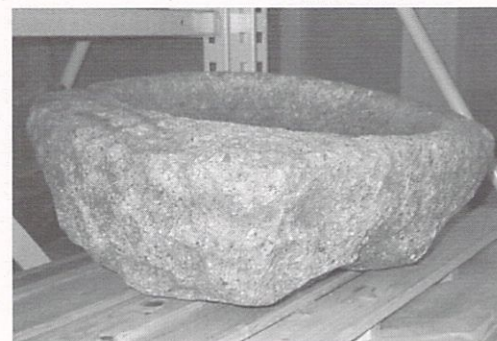
1点

八日市市御園町

花崗岩。玄米を精白する時に使う。江戸時代末期～明治時代末期頃まで使用。

法量(cm) 長径52.5, 短径44.5, 高22.0

重量(g) -



102011 (3844)

2-E-04-13

コメツギギネ (杵)

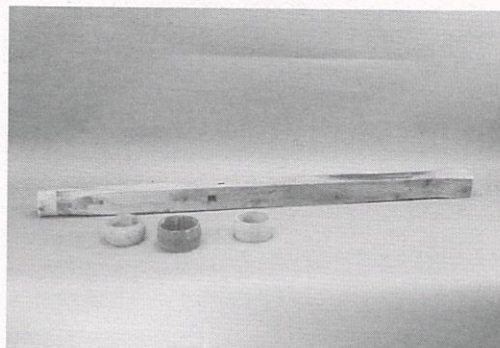
1点

高島郡朽木村麻生

自家製。檜材。先端はシナ、ホウ、ミズキ等の軟質材を取替え使用。水車に連動させ精米する杵。下に輪を入れ米がうまくかきまざるようにする。昭和10年代に製作。昭和38年まで使用。墨書「カシラ木下ヨリ 二尺五寸六分 付木四一分」。

法量(cm) (杵) 長198.5, 縦10.7, 横10.6, 径10.5, (輪) 径16.2~17.3, 幅8.1~9.0

重量(g) (杵) 10800, (輪) 210~265



102012 (408)

2-E-04-13

精米壺

1点

神崎郡能登川町伊庭

陶器。信楽焼。米屋で購入。自宅の裏に共同精米所があり、そこで精米用の壺として使っていた。動力は電気であった。戦後まで使用。刻印「石信作」。

法量(cm) 口径50.6, 高42.0

重量(g) 32800



102013 (927)

2-E-04-14

キジバチ (木鉢鉢)

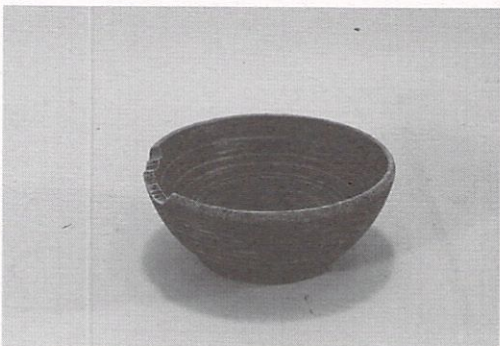
1点

蒲生郡日野町寺尻

木製。明治時代末頃まで臼で精米する際に米を臼に入れるのに使用した。日野碗の前身のものと伝えられる。墨書「忠次 有持」「大工□□□□」「八十六日買□□」。

法量(cm) 口径19.9, 高8.1

重量(g) 330



102014 (1631)

2-E-04-14

木鉢

1点

神崎郡能登川町伊庭

木製。銅線と鉄線で補修。墨書「西市」。

法量(cm) 口径19.9, 高7.3

重量(g) 164



102015 (756)

2-E-04-14

キジバチ (木鉢鉢)

1点

伊香郡余呉町奥川並

トチ、ブナ、ケヤキか。初摺りの際に粉を臼の中に入れるのに使用する。また、米を搗く際に臼の中から米を掻き出すのに使用。江戸時代末期~明治初期頃に製作。大正時代まで使用。

法量(cm) 口径18.0, 高8.4

重量(g) 216



102016 (3904)

2-E-04-14

モミスリバチ (舂摺り鉢)

1点

高島郡朽木村麻生

栃製。鉄線で補修。土臼で舂摺りをするとき、舂を掬うのに使用。昭和初年に轆轤師が製作。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 口径21.2, 高7.1

重量(g) 204



102017 (3903)

2-E-04-14

カラウスバチ (唐臼鉢)

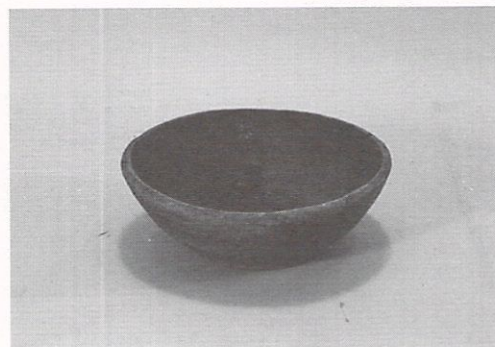
1点

高島郡朽木村麻生

栃製。鉄線で補修。水車の石臼から白米を掬う時に使用。昭和初年に轆轤師が製作。昭和38年に電灯が点き、精米機を購入したので水車と共に使用しなくなった。

法量(cm) 口径21.4, 高7.6

重量(g) 234



102018 (638)

2-E-04-15

ガス燈 (カーバイト)

1点

野洲郡中主町比留田

アルミ製。夜明けから稲を脱穀する時に使用する照明。

法量(cm) 底径12.0, 高30.0

重量(g) 794



102019 (965)

2-E-05-01

オオカゴ (大籠)

1点

蒲生郡日野町寺尻

竹製。茶摘の際に生葉を運搬するのに使用。大正時代に使用。墨書「大正六年八月 風袋」「寺尻」など。

法量(cm) 口径49.0, 底辺43.0, 高47.4

重量(g) 2000



102020 (819)

2-E-05-01

フゴの蓋

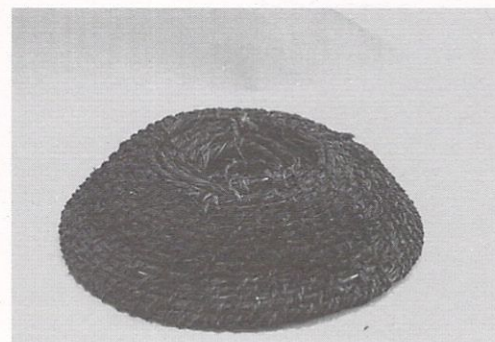
1点

野洲郡中主町六条

自家製。藁製。茶を蒸す際に使用。

法量(cm) 口径59.5, 高15.5

重量(g) 1060



102021 (1777)

セイロ (蒸籠)

八日市市大森町

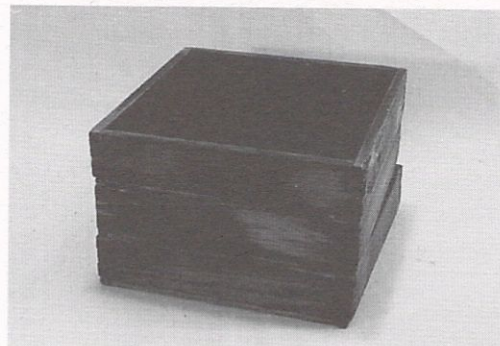
木枠に金網をはる。明治時代中期～大正時代末期まで使用。

法量(cm) 縦37.0, 横36.5, 高8.0, (網目) 0.5

重量(g) 900

2-E-05-01

1点



102022 (1654)

蒸籠と台

神崎郡永源寺町箕川

購入品。木製。大釜に熱湯を沸かし、その上にセイロ台を布地などで蒸気がもれないように固定する。茶の青葉をセイロに入れて二段重ねに積み、強火で青葉を蒸し上げる。明治時代～昭和30年代まで使用。

法量(cm) (蒸籠) 縦50.8, 横53.3, 高44.8, (台) 縦67.4, 横66.7, 高6.6

重量(g) 9800

2-E-05-01

1点



102023 (934)

セイロ (蒸籠)

蒲生郡日野町寺尻

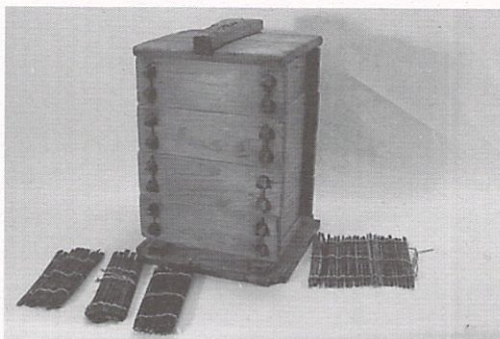
木製。簀子は竹製。茶葉を蒸すのに使用。江戸時代末期～明治時代中期頃まで使用。

法量(cm) (蒸籠) 縦34.7, 横34.5, 高54.5, (簀子) 長24.0, 幅24.5, (台) 縦37.9, 横37.9, 高4.0

重量(g) 7900

2-E-05-01

1点



102024 (938)

アゲダイ (揚げ台)

蒲生郡日野町寺尻

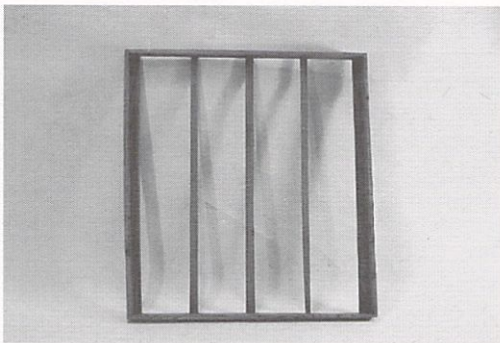
木製。製茶した熱い茶葉を上げておく台に使用。明治22年～明治時代中期頃まで使用。墨書「明治廿二年七月新調養蚕用箔」「甲賀水口字新城」など。

法量(cm) 縦84.6, 横78.0, 高5.0

重量(g) 1090

2-E-05-01

1点



102025 (1011)

ロウバコ (焙炉)

長浜市鳥羽上町

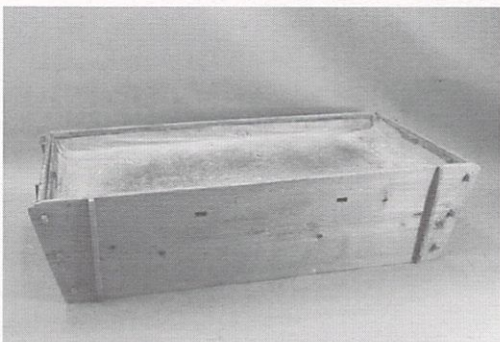
板4枚で保温箱を作り、その上にトタンで船を作り、上部に渋紙を貼る。保温箱の中に鉄鍋に炭火を入れたものを1、2個置き、船型のろう箱を乗せる。蒸し終った茶葉をこの上へ並べ揉み捻りながら手返しして乾燥させる。明治35年5月に製作。昭和30年まで使用。墨書「明治三十五年五月中□新調」「大工清水精九郎 大字鳥羽上北村源平主」。

法量(cm) 縦186.0, 横98.0, 高51.0

重量(g) 32700

2-E-05-01

1点



102026 (2097)

2-E-05-01

ホイロ

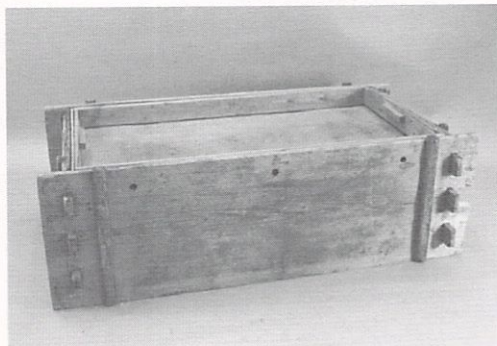
1点

東浅井郡浅井町尊野

木製。ぶ厚い板で作られている。また木枠にトタン板が張られている。
製茶時、蒸した茶を乾燥する目的で使用。炉内には炭火を用いた。昭和
40年頃まで使用。墨書「金□□ 明治十八年」。

法量(cm) 縦173.0, 横97.0, 高56.1

重量(g) 36900



102027

2-E-05-01

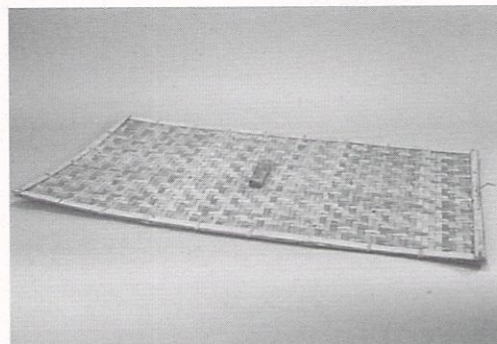
(不詳) 〈焙炉〉

1点

竹製。

法量(cm) 縦110.9, 横60.0, 高3.1

重量(g) 1060



102028 (1011)

2-E-05-01

ロウバコ (焙炉)

1点

長浜市鳥羽上町

木製。

法量(cm) 幅125.6, 高114.0

重量(g) 14000



102029 (1653)

2-E-05-01

製茶機

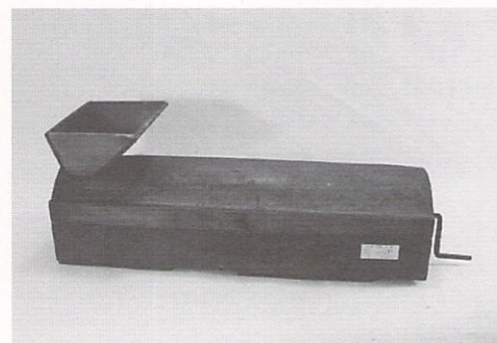
1点

神崎郡永源寺町箕川

板で長方形の箱を作り、ブリキの蓋をのせ、漏斗を付ける。受口から蒸籠で蒸した青葉を送り込み、ハンドルを回転しながら揉み合わせる。大正時代に購入か。昭和初期に使用。墨書「茶蒸器械」「特製丸田式」。焼印「新案特許五二九一」「発明人静岡県磐田郡西浅羽村丸田常吉印」。

法量(cm) 長105.0, 幅27.3, 高35.3

重量(g) 9600



102030 (1770)

2-E-05-01

製茶機

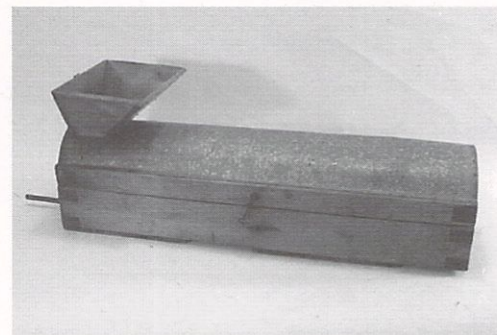
1点

八日市市大森町

板で長方形の箱を作り、ブリキの蓋をのせ、漏斗を付ける。生茶葉を製茶するのに使用。上の口から生茶葉を入れ、下の口から蒸気を箱の中に送り、ハンドルを回転させると蒸しあがり、揉まれた茶葉が箱の下の口から出る。ここにハリコの籠をおき、落下した茶葉をさらに手で揉み製茶する。大正7年～昭和23年頃まで使用。

法量(cm) 長106.3, 幅25.8, 高34.5

重量(g) 8300



102031 (935)

2-E-05-01

トオシ

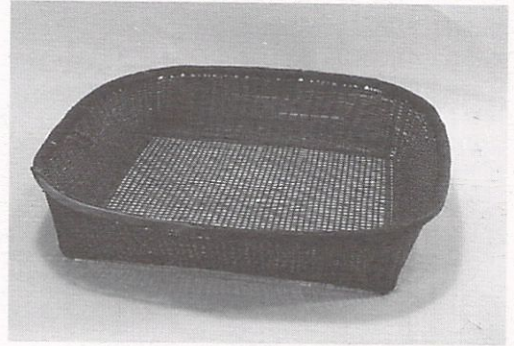
1点

蒲生郡日野町寺尻

竹製。底は藤蔓。茶完成品をトウシにかけて品別にする。江戸時代末期～明治時代中期頃まで使用。

法量(cm) 縦60.2, 横59.5, 高11.8

重量(g) 530



102032 (935)

2-E-05-01

トオシ

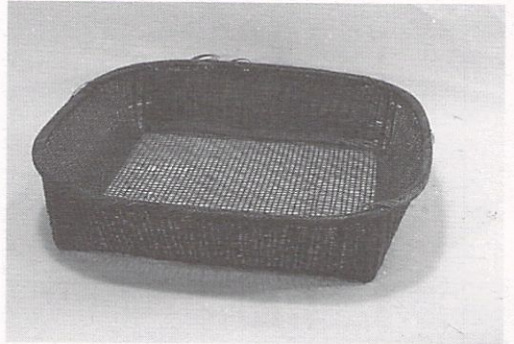
1点

蒲生郡日野町寺尻

竹製。底は藤蔓。茶完成品をトウシにかけて品別にする。江戸時代末期～明治時代中期頃まで使用。

法量(cm) 縦57.1, 横57.4, 高12.0

重量(g) 415



102033 (935)

2-E-05-01

トオシ

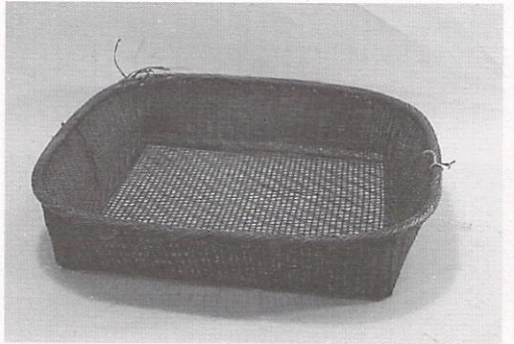
1点

蒲生郡日野町寺尻

竹製。底は藤蔓。茶完成品をトウシにかけて品別にする。江戸時代末期～明治時代中期頃まで使用。

法量(cm) 縦60.4, 横60.0, 高13.0

重量(g) 586



102034 (991)

2-E-05-01

チャトオシ(茶篩)

1点

神崎郡永源寺町山上

購入品。竹製。底は藤蔓。葉の選別に使用。本来は半製品の茶を少量入れて軸木や粉茶を通し、良品のみを選び分けるために使用するものであった。軽く丈夫で使いやすいため、種々の用途に使用された。明治時代～大正時代に製作。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 縦53.8, 横53.5, 高10.8

重量(g) 494



102035 (991)

2-E-05-01

チャトオシ(茶篩)

1点

神崎郡永源寺町山上

購入品。竹製。一部藤蔓を使用。葉の選別に使用。本来は半製品の茶を少量入れて軸木や粉茶を通し、良品のみを選び分けるために使用するものであった。軽く丈夫で使いやすいため、種々の用途に使用された。明治時代～大正時代に製作。昭和30年代まで使用。墨書「正一分」「山上」など。

法量(cm) 縦56.5, 横56.4, 高10.0

重量(g) 432



102036 (1134)

2-E-05-01

チャトオシ (茶篩)

1点

神崎郡永源寺町山上

購入品。竹製。一部藤蔓を使用。葉の選別に使用。本来は半製品の茶を少量入れて軸木や粉茶を通し、良品のみを選び分けるために使用するものであった。軽く丈夫で使いやすいため、種々の用途に使用された。明治時代～大正時代に製作。昭和30年代まで使用。墨書「荖分五厘」「山上」など。

法量(cm) 縦58.6, 横58.0, 高11.5

重量(g) 509



102037 (937)

2-E-05-01

仕上り籠

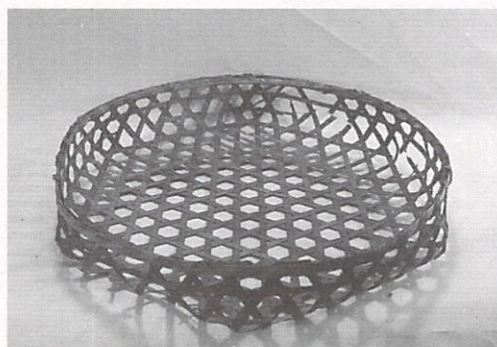
1点

蒲生郡日野町寺尻

竹を六ツ目に編む。製茶の仕上げに使用。江戸時代末期～明治時代中期頃に製作、使用。

法量(cm) 口径78.0, 高15.0, 底一辺41.0

重量(g) 641



102038 (937)

2-E-05-01

仕上り籠

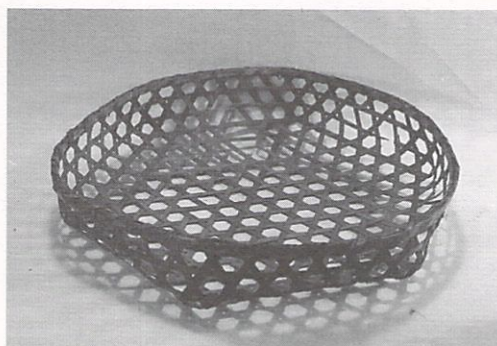
1点

蒲生郡日野町寺尻

竹を六ツ目に編む。製茶の仕上げに使用。江戸時代末期～明治時代中期頃に製作、使用。

法量(cm) 口径73.0, 高16.7, 底一辺37.0

重量(g) 558



102039 (1344)

2-E-05-01

チャトオシ (茶篩)

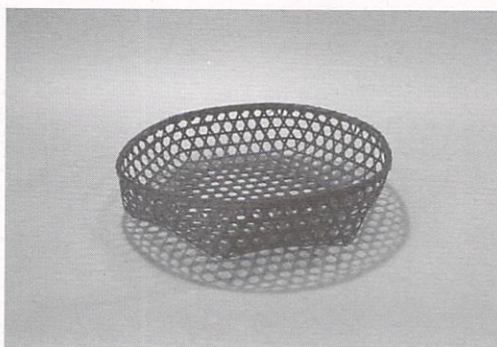
1点

伊香郡高月町片山

竹を六ツ目に編む。自家製茶に使用。生茶を篩い、ゴミ、古茶をとる。仕上った茶を篩にかけ、変形、十分に揉めていない開いた葉など選別する。俗に「仕上げふるい」という作業に用いるものと生葉のみを篩うものがある。幅50cm以上の大型は生葉用である。大正時代に竹細工職人(カゴヤ)が製作。

法量(cm) 口径47.0, 高10.8, 底一辺24.0

重量(g) 211



102040 (937)

2-E-05-01

仕上り籠

1点

蒲生郡日野町寺尻

竹を六ツ目に編み、上から和紙を貼る。製茶の仕上げに使用。江戸時代末期～明治時代初期頃に製作、使用。

法量(cm) 口径80.0, 高16.5, 底一辺41.5

重量(g) 1200



102041 (1772)

2-E-05-01

ハリコ (張り子)

1点

八日市市大森町

割竹で骨組を編み、和紙を貼り合わせ、渋を塗る。冬期の間に製作する。ハリコ張りは妻の仕事であった。製茶に使用。中に茶を入れ選別する。明治時代末期に製作。昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 口径76.0, 高8.0

重量(g) 1500



102042 (1772)

2-E-05-01

ハリコ (張り子)

1点

八日市市大森町

割竹で骨組を編み、和紙を貼り合わせ、渋を塗る。冬期の間に製作する。ハリコ張りは妻の仕事であった。製茶に使用。中に茶を入れ選別する。明治時代末期に製作。昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 口径65.0, 高8.0

重量(g) 1200



102043 (1772)

2-E-05-01

ハリコ (張り子)

1点

八日市市大森町

割竹で骨組を編み、和紙を貼り合わせ、渋を塗る。冬期の間に製作する。ハリコ張りは妻の仕事であった。製茶に使用。中に茶を入れ選別する。明治時代末期に製作。昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 口径51.0, 高14.0

重量(g) 700



102044 (1772)

2-E-05-01

ハリコ (張り子)

1点

八日市市大森町

割竹で骨組を編み、和紙を貼り合わせ、渋を塗る。冬期の間に製作する。ハリコ張りは妻の仕事であった。製茶に使用。中に茶を入れ選別する。明治時代末期に製作。昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 口径49.0, 高14.0

重量(g) 700



102045 (1772)

2-E-05-01

ハリコ (張り子)、

1点

八日市市大森町

割竹で骨組を編み、和紙を貼り合わせ、渋を塗る。冬期の間に製作する。ハリコ張りは妻の仕事であった。製茶に使用。中に茶を入れ選別する。明治時代末期に製作。昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 口径41.0, 高14.0

重量(g) 600



102046 (1773)

2-E-05-01

ハリコ (張り子)

1点

八日市市大森町

割竹で骨組を編み、和紙を貼り合わせ、渋を塗る。冬期の間に製作する。ハリコ張りは妻の仕事であった。製茶に使用。中に茶を入れ選別する。明治時代末期に製作。昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 縦34.0, 横34.0, 高9.0

重量(g) 600



102047 (1773)

2-E-05-01

ハリコ (張り子)

1点

八日市市大森町

割竹で骨組を編み、和紙を貼り合わせ、渋を塗る。冬期の間に製作する。ハリコ張りは妻の仕事であった。製茶に使用。中に茶を入れ選別する。明治時代末期に製作。昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 縦27.0, 横31.5, 高8.5

重量(g) 500



102048 (1774)

2-E-05-01

ハリコ (張り子)

1点

八日市市大森町

割竹で骨組を編み、和紙を貼り合わせ、渋を塗る。冬期の間に製作する。ハリコ張りは妻の仕事であった。製茶に使用。中に茶を入れ選別する。明治時代末期に製作。昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 口径33.0, 底辺26.0, 高23.0

重量(g) 1100



102049 (1774)

2-E-05-01

ハリコ (張り子)

1点

八日市市大森町

割竹で骨組を編み、和紙を貼り合わせ、渋を塗る。冬期の間に製作する。ハリコ張りは妻の仕事であった。製茶に使用。中に茶を入れ選別する。明治時代末期に製作。昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 口径35.5, 底辺25.0, 高22.0

重量(g) 700



102050 (1774)

2-E-05-01

ハリコ (張り子)

1点

八日市市大森町

割竹で骨組を編み、和紙を貼り合わせ、渋を塗る。冬期の間に製作する。ハリコ張りは妻の仕事であった。製茶に使用。中に茶を入れ選別する。明治時代末期に製作。昭和35年頃まで使用。墨書「大惣」。

法量(cm) 口径25.5, 底辺18.0, 高18.0

重量(g) 500



102051 (975)

ミー (箕)

2-E-05-01

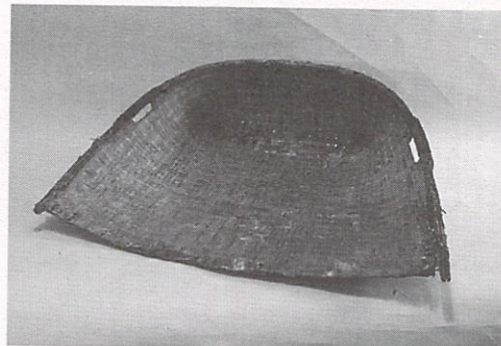
1点

神崎郡永源寺町山上

竹製。上から和紙を貼る。製品となった荒茶を少量ずつ大型の箕に入れ、粉末の茶や軽いゴミなどを風で飛ばし選別した。軽量のものなら他のものにも使用した。但し、粳や麦は重いため使用しなかった。明治時代～昭和40年代まで使用。墨書「山上大惣」。

法量(cm) 長57.0, 幅81.2, 高22.5

重量(g) 875



102052 (1652)

オオミ (大箕)

2-E-05-01

1点

神崎郡永源寺町箕川

購入品。製茶組合などの斡旋により購入したものか。多少の破損は和紙を張り重ねて修繕した。揉み上った荒茶を大箕に適宜入れ、上下に箕を振りながら、重い上茶を底に残し、軽い粗悪部分や粉末を集め別容器に入れて選別する。大正時代に製作。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 長58.0, 幅87.0, 高25.4

重量(g) 870



102053 (1771)

ハリコ (張り子)

2-E-05-01

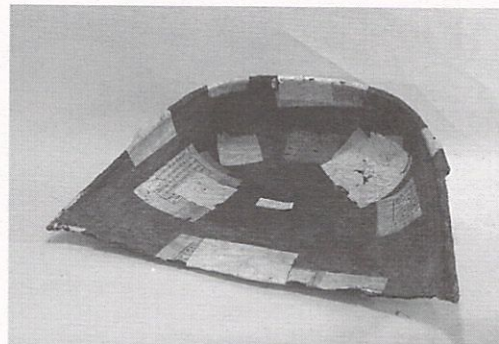
1点

八日市市大森町

竹で骨組みを編み、和紙を貼り合わせ、渋を塗る。冬期の間に製作する。ハリコ張りは妻の仕事であった。製茶に使用。中に茶を入れ選別する。明治時代末期に製作。昭和35年頃まで使用。墨書「茶」。

法量(cm) 長54.0, 幅84.0, 高26.0

重量(g) 900



102054 (314)

ミ (箕)

2-E-05-01

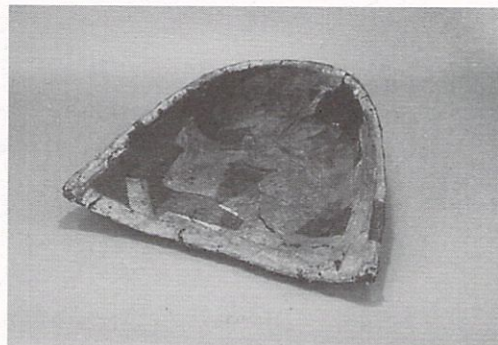
1点

八日市市市辺町

竹製。上から和紙を貼る。茶を選別する。明治時代～昭和初期に製作、使用。墨書「明治十八年五月」。

法量(cm) 長55.5, 幅71.0, 高23.3

重量(g) 1500



102055 (314)

ミ (箕)

2-E-05-01

1点

八日市市市辺町

竹製。上から和紙を貼る。茶を選別する。大正時代～昭和初期に製作、使用。

法量(cm) 長24.0, 幅32.0, 高18.3

重量(g) 131



102056 (314)

2-E-05-01

ミ (箕)

1点

八日市市市辺町

竹製。上から和紙を貼る。茶を選別する。大正時代～昭和初期に製作、使用。

法量(cm) 長19.2, 幅27.5, 高3.1

重量(g) 58



102057 (1775)

2-E-05-01

ハリコ (ジョウゴ)

1点

八日市市大森町

竹骨に和紙を張り、柿渋をつける。明治時代末期～昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 口径36.0, 底径15.0, 高26.0

重量(g) 600



102058 (1775)

2-E-05-01

ハリコ (ジョウゴ)

1点

八日市市大森町

竹骨に和紙を張り、柿渋をつける。明治時代末期～昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 口径34.0, 底径6.0, 高29.0

重量(g) 400



102059 (1620)

2-E-05-01

茶壺

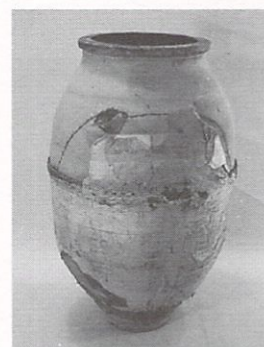
1点

八日市市大森町

陶器。製茶した緑茶を入れて保存する。江戸時代中期～昭和30年代まで使用。

法量(cm) 口径33.7, 高81.7, 最大径50.0

重量(g) 22200



102060 (417)

2-E-05-01

チャツボ (茶壺)

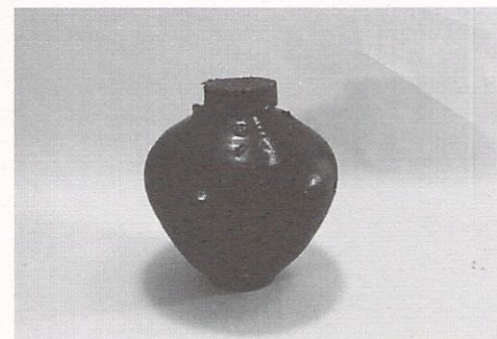
1点

東浅井郡びわ町早崎

陶器。蓋は木製。

法量(cm) 口径12.0, 高36.9, 最大径34.0, (蓋) 径12.7, 高4.0, 全高38.0

重量(g) 6200, (蓋) 50



102061 (636)

チャツボ (茶壺)

野洲郡中主町比留田

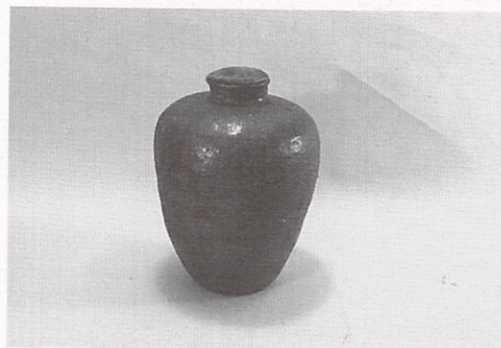
陶器。蓋は木製。自家製の茶を保存する。

法量(cm) 口径11.7, 高41.5, 最大径31.3, (蓋) 径11.0, 高3.3, 全高42.0

重量(g) 7300, (蓋) 80

2-E-05-01

1点



102062 (1613)

茶壺

八日市市大森町

木製。茶壺の蓋。陶器の壺は欠損。江戸時代末期～昭和40年頃まで使用。

法量(cm) 径20.4, 高6.7

重量(g) 135

2-E-05-01

1点



102063 (1776)

チャビツ (茶櫃)

八日市市大森町

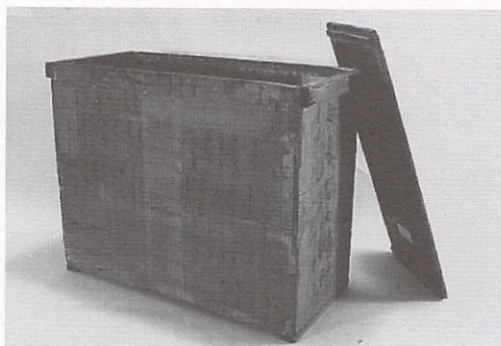
木箱に反古を貼る。収穫した茶を保存する。大森は茶の生産地であり、最上藩の財源であった。大森村、尻無村、上大森村の3ヶ所で茶切手(紙幣)が発行されていた。江戸時代中期～昭和12年まで使用。墨書「日永惣七持□」。

法量(cm) 縦77.0, 横34.0, 高60.0

重量(g) 7000

2-E-05-01

1点



102064 (765)

ナッタ (鉈)

伊香郡余呉町中之郷

鉄製。木製の柄を付ける。山の木を伐ったり、薪作りに使用。木の根元を切る時に先が出ているため、刃が直接石や岩に当るのを防ぐ。昭和初期～50年頃まで使用。刃に刻印「土佐 上 登録商標 盛國 特級品」。

法量(cm) 全長41.2, 刃渡16.0, 刃幅6.0, (柄) 長23.1, 径3.2

重量(g) 570

2-F-03-01

1点



102065 (766)

ナツカゴ

伊香郡余呉町中之郷

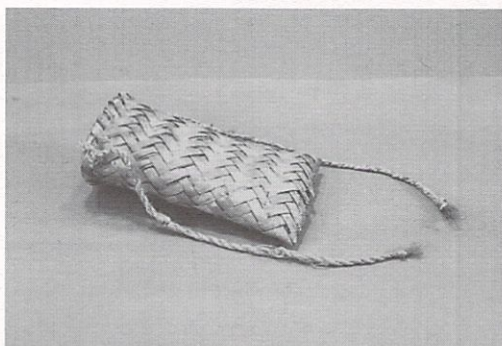
モミジ科の木を薄く切り籠に編む。小原籠。鉈を入れて腰にくくりつけ、山仕事に行く。昭和初期～50年頃まで使用。

法量(cm) 長径14.2, 短径10.5, 高28.0, (紐) 長48.0, 径0.7, 長56.0, 径0.5

重量(g) 172

2-F-03-01

1点



102066 (1675)

2-F-03-01

カマナタ (鎌鉈)

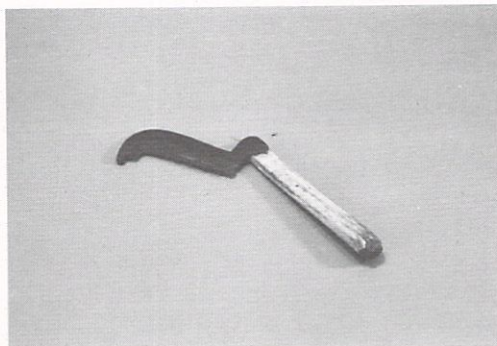
1点

高島郡朽木村村井

刃は高知の職人に依頼。柄は自家製。枝うちや木を細かくさいたりするの
に使用。昭和48年頃まで使用。刻印「土佐正光特製」「140」「520」。

法量(cm) 全長43.0, 刃渡15.0, 刃幅6.0, (柄)長29.5, 径3.8

重量(g) 665



102067 (1583)

2-F-03-01

キガマ (木鎌)

1点

神崎郡永源寺町山上

鉄製。柄は木製。山林の下刈りや荒地の手入れなどに使用。明治時代～
大正時代まで使用。

法量(cm) 全長38.6, 刃渡7.3, 刃幅4.0, (柄)長32.0, 径3.0

重量(g) 254



102068 (1887)

2-F-03-01

シモカリガマ (下刈鎌)

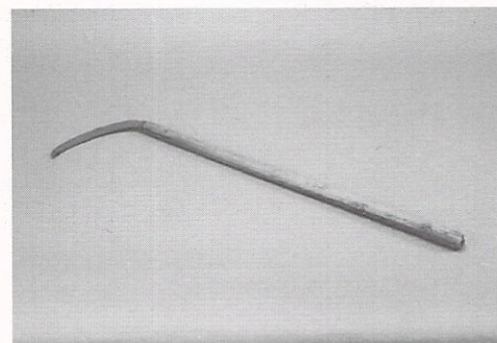
1点

大津市坂本本町

鉄製。柄は木製。山で下刈りに使用。大正時代まで使用。刻印あり。

法量(cm) 全長85.3, 刃渡21.0, 刃幅3.3, (柄)長74.0, 径3.8

重量(g) 355



102069 (1267)

2-F-03-01

ノコ (木挽鋸)

1点

八日市市御園町

鉄製。柄は木製。木材採集、薪刈りなどの山仕事に使用。江戸時代末期
～大正初期頃まで使用。

法量(cm) 全長58.7, 刃渡38.4, 刃幅6.1, (柄)長12.4, 径3.0

重量(g) 289



102070 (1407)

2-F-03-01

ガンド (鋸)

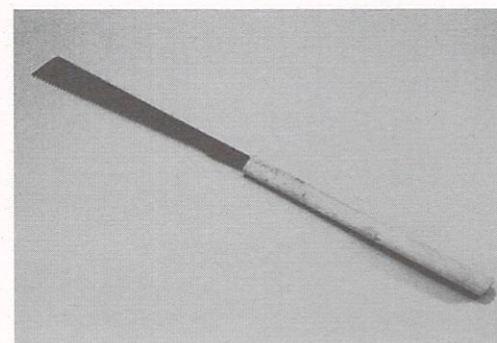
1点

伊香郡余呉町柳ヶ瀬

鉄製。柄は木製。木の伐採や切断に使用。何度も目立てをして使用する
ので、このガンドは減って細くなってしまった。明治時代から使用。刻
印「□□□□治助仁」。

法量(cm) 全長99.3, 刃渡43.4, 刃幅7.6, (柄)長47.7, 径4.0

重量(g) 419



102071 (1886)

2-F-03-01

ノコギリ (鋸)

1点

大津市坂本町

鉄製。柄は木製。枝切り、細木など切るなどの山仕事に使用。大津の友定という農具屋から購入。大正時代まで使用。

法量(cm) 全長26.7, 刃渡11.8, 刃幅2.8, (柄)長10.5, 長径3.0, 短径2.6
重量(g) 84



102072 (1886)

2-F-03-01

ノコギリ (鋸)

1点

大津市坂本町

鉄製。柄は木製。枝切り、細木を切るなどの山仕事に使用。大津の友定という農具屋から購入。大正時代まで使用。

法量(cm) 全長35.2, 刃渡26.8, 刃幅4.3, (柄)長12.3, 長径3.6, 短径2.6
重量(g) 102



102073 (1886)

2-F-03-01

ノコギリ (鋸)

1点

大津市坂本町

鉄製。柄は木製。枝切り、細木を切るなどの山仕事に使用。大津の友定という農具屋から購入。大正時代まで使用。刻印「特注品」。

法量(cm) 全長63.7, 刃渡27.0, 刃幅4.0, (柄)長14.8, 長径3.4, 短径2.5
重量(g) 185



102074 (1886)

2-F-03-01

ノコギリ (鋸)

1点

大津市坂本町

鉄製。柄は木製。枝切り、細木を切るなどの山仕事に使用。大津の友定という農具屋から購入。大正時代まで使用。刻印「土佐本□ □□□□」など。

法量(cm) 全長50.0, 刃渡38.2, 刃幅8.5, (柄)長15.5, 長径3.5, 短径2.6
重量(g) 269



102075 (1995)

2-F-03-01

鋸

1点

坂田郡山東町柏原

鉄製。柄は杉材で自家製。立木を伐採、または燃料にする材木を適当な長さに切るための道具。木材に歯の部分をあてがい力を入れて引く。この動作を繰り返すことにより木材を伐る。使用頻度により「目立て」と称し、目立てヤスリでしたり、目立屋に出し切れ味を良くする。昭和27年頃～35年頃まで使用。

法量(cm) 全長84.2, 刃渡42.3, 刃幅9.0, (柄)長39.4, 径3.0
重量(g) 359



102076 (1373)

2-F-03-01

コマデ (熊手)

1点

伊香郡高月町唐川

真竹を火で先を曲げて組み立てる。山林の落葉をかき集めるのに使用。長柄のついたコマデは山林では用いない。大正時代に製作か。

法量(cm) 長42.5, 幅19.6, 高5.6

重量(g) 140



102077 (3884)

2-F-03-01

カヤスグリ (萱すぐり)

1点

高島郡今津町椋川

鉄の爪は野鍛冶に作らせ、栗材の柄は自家ですげる。秋、萱を刈取るとき、束ねて根元部の茎を包む葉や雑草類を梳いて除去する。昭和40年代まで使用。

法量(cm) 全長40.8, (爪) 長8.5, 幅9.3, (柄) 長34.1, 径3.0

重量(g) 286



102078

2-F-03-02

(不詳) 〈斧〉

1点

鉄製。木製の柄を付ける。

法量(cm) 全長72.2, 刃渡8.6, (柄) 長径3.5, 短径2.6

重量(g) 1400



102079 (1005)

2-F-03-02

両挽き

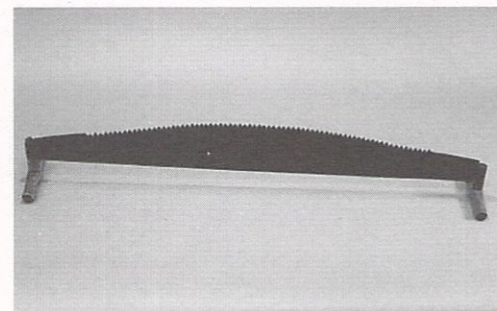
1点

長浜市十里町

鉄製。両端に丸棒をT字型に付け、両手で引く際の握り手とする。山林から切り出された原木を運搬や製材用に適する長さに切断する。横倒しの原木を輪切りにする用具で、二人が対座して押したり引いたり動作をくり返す。60~70cmの直径の原木を切るのに約1時間かかった。昭和15年頃~22年まで使用。刻印「虎」。

法量(cm) 全長128.4, 刃渡93.4, 高19.9, (柄) 長22.7, 径3.0

重量(g) 2800



102080 (1221)

2-F-03-02

タテノコ (鋸)

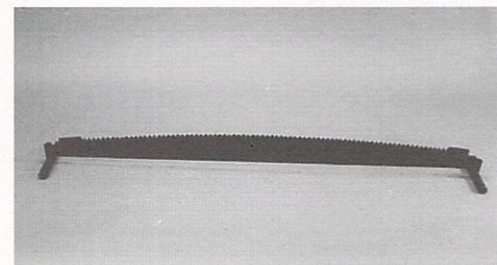
1点

長浜市布勢町

鉄製。山で太い木を切りたおす際に両方を2人で持ち、息を合わせて挽いた。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 全長147.8, 刃渡122.1, 高14.2, (柄) 長20.8, 径2.7

重量(g) 2600



102081 (744)

2-F-03-02

オーガ (大鋸)

1点

東浅井郡湖北町海老江

鉄製。柄は木製。材木を切り倒して製材するのに使用。この鋸は板挽き用である。明治時代後期～昭和初期まで使用。刻印「別鋼 東□ 元祖 登録商標」。

法量(cm) 全長80.5, 刃渡49.8, 幅28.2, (柄)長16.3, 径5.2

重量(g) 2400



102082 (892)

2-F-03-02

鋸

1点

八日市市市辺町

鉄製。柄は木製。大木を切る時に使用。一人挽用。また、丸太や木を切るのに使用した。江戸時代末期～大正時代末期頃まで使用。浮彫「極」。

法量(cm) 全長82.3, 刃渡52.5, 幅34.8, (柄)長16.7, 径4.5, (蓋)長54.5, 幅4.5, 厚1.5

重量(g) 3200



102083 (1226)

2-F-03-02

木挽きノコ (鋸)

1点

長浜市布勢町

鉄製。柄は木製。山で倒した木を挽くのに使用。板や柱も作った。チェーンソーが出来るまで使用した。昭和30年頃まで使用。刻印「本家 別改」「金□」など。

法量(cm) 全長83.4, 刃渡53.8, 刃幅31.7, (柄)長17.2, 径5.3

重量(g) 2500



102084 (1478)

2-F-03-02

オガ (大鋸)

1点

坂田郡伊吹町寺林

鉄製。柄は木製。木挽き用。明治時代まで使用。

法量(cm) 全長77.8, 刃渡51.9, 幅23.8, (柄)長20.6, 径4.8

重量(g) 2000



102085 (2054)

2-F-03-02

オオビキカンド (大引鋸)

1点

伊香郡高月町横山

鉄製。柄は木製。柄に幅3cmの金輪が入っている。太い材木の切断や、タテ引きに用いる。刻印「シヲ丁」。浮彫「作」。

法量(cm) 全長81.0, 刃渡52.3, 幅26.7, (柄)長18.4, 径5.0

重量(g) 2500



102086 (1004)

2-F-03-02

ガンド

1点

長浜市十里町

鉄製。柄は木製。刃は荒い。頭が魚に似ているため鯖（サバ）ともいう。十数回の目立砥ぎをして、幅は半分位に減ったとか。原木の枝切り用、または梢の細い部分を輪切りにする時に使用。昭和5年頃～昭和22年まで使用。刻印「谷口清士」。

法量(cm) 全長86.5, 刃渡44.0, 刃幅4.0, (柄)長42.2, 径2.3

重量(g) 331



102087 (1137)

2-F-03-02

オオノコ（大鋸）

1点

神崎郡永源寺町山上

鉄製。柄は木製。特に太い木材には前引鋸を使用するので、その中くらいの木材の縦引、横引に使用。左右均等に目出しされた鋸を均衡に挽いて使用することが重要であった。明治時代～大正時代に製作か。刻印「谷口清」。

法量(cm) 全長100.0, 刃渡40.0, 刃幅9.5, (柄)長52.0, 長径3.5, 短径3.0

重量(g) 700



102088 (3883)

2-F-03-02

カワハギ（皮剥ぎ）

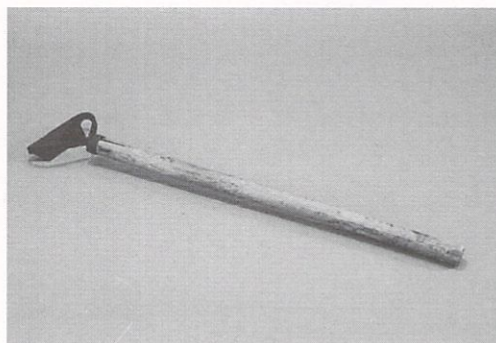
1点

高島郡今津町棕川

鉄製。朽木村市場の野鍛冶から購入。柄は自家製。杉皮の表皮の荒目を削る。瓦屋根下地材料として販売したり、萱葺屋根の棟や庇用に自家消費した。また、冬期に伐採した杉や檜の丸太の樹皮を削る。昭和10年代に購入。昭和20年代まで使用。

法量(cm) 全長75.8, 刃渡10.4, 幅4.4, (柄)長65.4, 径3.1

重量(g) 791



102089 (3864)

2-F-03-03

カケヤ（掛矢）

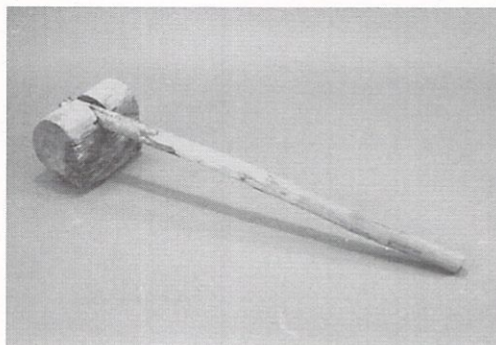
1点

高島郡朽木村麻生

自家製。炭材の桎丸太を玉切りにして頭部とし、蟻差しにし割り楔で科の柄をとめる。炭焼き窯で大径の原材を割る（芯部まで炭火を促進する）とき、これで金矢や楔を打ち込む。杭を打つ掛矢（木口を利用する堅槌）では割れやすく炭割りには使えない。昭和30年代に製作。平成まで使用。

法量(cm) 全長89.7, (槌)長20.8, 長径18.5, 短径13.0, (柄)径3.5

重量(g) 3300



102090 (1138)

2-F-03-03

炭俵

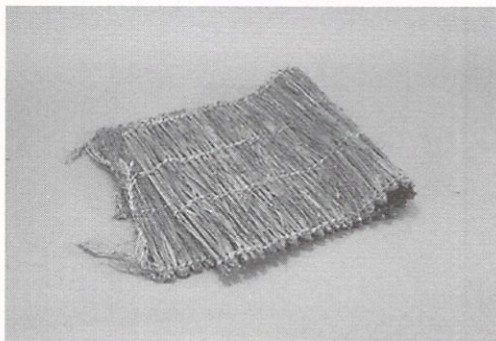
1点

神崎郡永源寺町山上

山の平に自生する萱を秋に刈り取り、自然乾燥させたものを貯蔵しておく。炭焼きの合間に依編機を使用し、藁縄で編む。木炭を規格寸法に切断し、同一方向に炭俵に詰め込んで提供するために使用。

法量(cm) 長121.5, 幅57.0

重量(g) 1004



102091 (1138)

2-F-03-03

炭俵

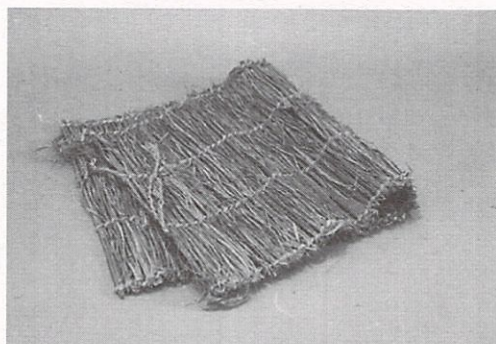
1点

神崎郡永源寺町山上

山の平に自生する萱を秋に刈り取り、自然乾燥させたものを貯蔵しておく。炭焼きの合間に俵編機を使用し、藁縄で編む。木炭を規格寸法に切断し、同一方向に炭俵に詰め込んで提供するために使用。

法量(cm) 長111.5, 幅56.9

重量(g) 715



102092 (1138)

2-F-03-03

炭俵

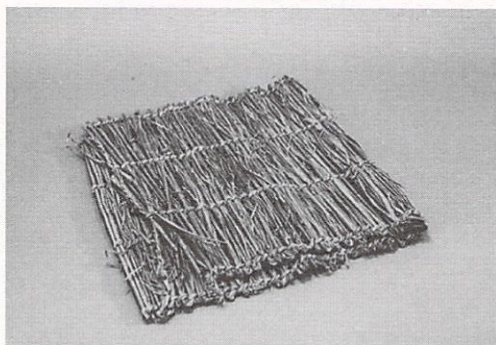
1点

神崎郡永源寺町山上

山の平に自生する萱を秋に刈り取り、自然乾燥させたものを貯蔵しておく。炭焼きの合間に俵編機を使用し、藁縄で編む。木炭を規格寸法に切断し、同一方向に炭俵に詰め込んで提供するために使用。

法量(cm) 長107.5, 幅57.7

重量(g) 605



102093 (1673)

2-F-05-01

ツル (鶴口)

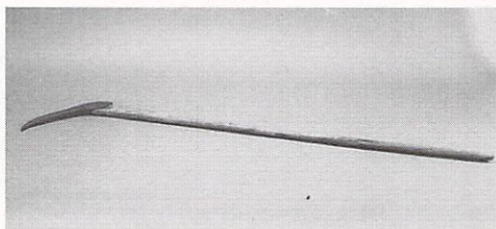
1点

高島郡朽木村村井

刃は高知の職人に依頼。柄は自家製。原木等の切り出しの際にひっかけてひきずり降ろす。昭和43年まで使用。刻印「二七一〇」「朽木□金」など。

法量(cm) 全長173.5, 刃渡28.0, (柄) 長158.0, 径5.2

重量(g) 2900



102094 (1673)

2-F-05-01

ツル (鶴口)

1点

高島郡朽木村村井

刃は高知の職人に依頼。柄は自家製。原木等の切り出しの際にひっかけてひきずり降ろす。昭和43年まで使用。刻印「改良マエダ鳶」「第402904号」など。

法量(cm) 全長124.0, 刃渡19.0, (柄) 長116.0, 径5.6

重量(g) 2000



102095 (1674)

2-F-05-01

トビ (鳶口)

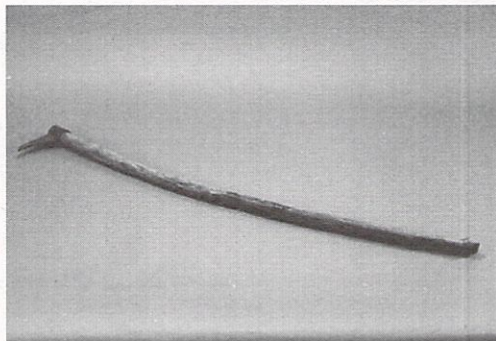
1点

高島郡朽木村村井

刃は高知の職人に依頼。柄は自家製。原木等の切り出しの際にひっかけてひきずり降ろす。昭和43年まで使用。刻印「土佐□□□」。

法量(cm) 全長118.0, 刃渡12.0, (柄) 径4.0

重量(g) 1900



102096 (2440)

2-F-05-01

キンマ (木馬)

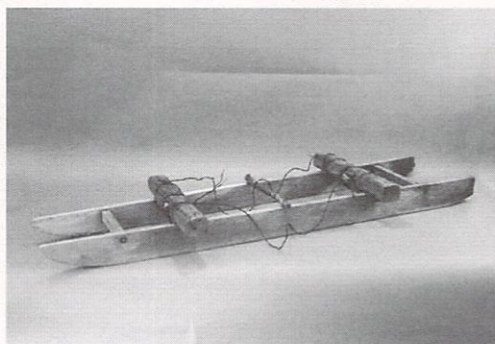
1点

高島郡今津町保坂

自家製。ソリの部分はシラカシ、他は杉。奥山から切り出した材木を運搬するときに使用。雪の無い期間に使用。山の谷あいには2尺〜2尺5寸の間隔に雑木を横にして線路の枕木のように並べ、種油か廃油をぬってよく滑るようにしておいて、その上にキンマを滑らせた。昭和50年に製作。昭和56年まで使用。

法量(cm) 長217.0, 幅67.0, 高19.5

重量(g) 22800



102097 (2117)

2-F-05-01

ソリ (雪橇)

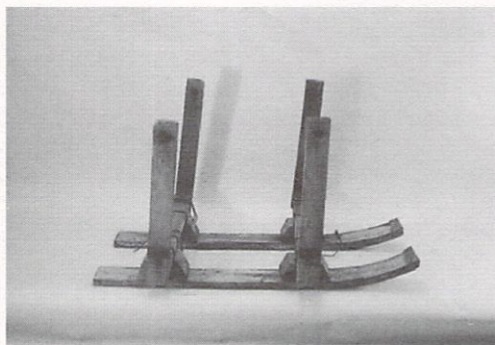
1点

高島郡今津町保坂

自家製。杉、栗材。鉄製のボルトで止める。秋に伐採したシイタケのホダ木を冬に奥山から積み出す時にこれに乗せて運ぶ。何人かの人で押しながら雪で固めた道を運ぶ。昭和30年頃に製作。

法量(cm) 長123.2, 幅39.4, 高68.6

重量(g) 17000



102098 (2146)

2-F-05-01

ソリ (雪橇)

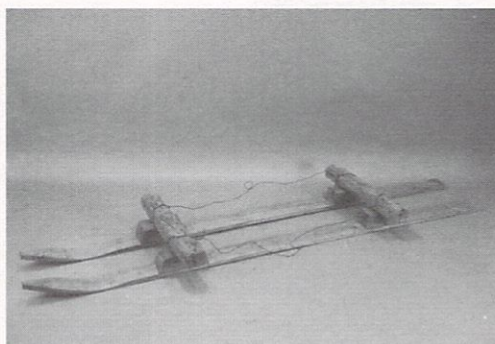
1点

高島郡今津町棕川

自家製。杉、桜材。冬期積雪の多い時期に、奥山から木材を積み出すのに、これに丸太を乗せ、ワイヤーロープでしばり、馬か人が引く。昭和40年頃に製作。昭和50年まで使用。

法量(cm) 長271.4, 幅72.7, 高28.9

重量(g) 19900



102099 (3850)

2-F-05-01

メクリヨキ (斧)

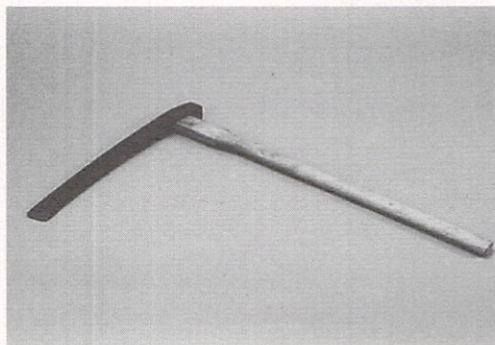
1点

高島郡朽木村麻生

地元の鍛冶屋に打たせた刃に自分で柄をすげる。猿流し(単木で流すこと)で集まった丸太を筏に組むとき、ネソを通すため繋ぎ目のサルコに穴をあけるのに使用。昭和初年に製作。昭和20年代まで使用。

法量(cm) (刃) 長42.3, 幅3.7, (柄) 長65.5, 長径3.0, 短径2.0

重量(g) 2100



102100 (3863)

2-F-05-01

イカダサオ (筏竿)

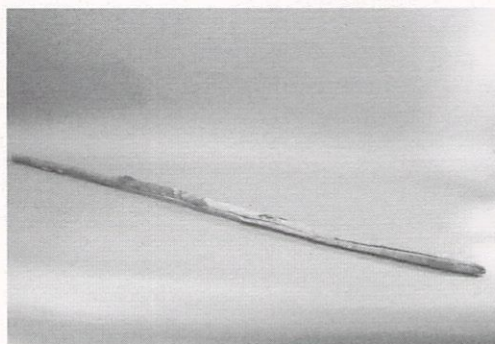
1点

高島郡朽木村麻生

自家製。山に自生する辛夷の木を伐って仕立てた。後に先端部1mほどを切って農具の柄に使った。小型の筏流しや猿流しに丸太に乗って操作したときの竿。昭和10年代に製作。昭和20年まで使用。

法量(cm) 長214.5, 径3.5

重量(g) 1800



102101 (1655)

2-F-05-01

連尺と金具

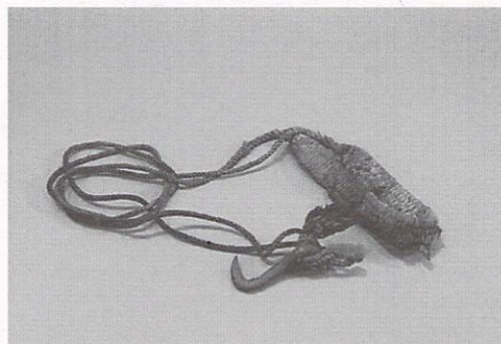
1点

神崎郡永源寺町箕川

自家製。綿糸を束ねたものを経糸とし、綿布を緯糸にして編み、鉄製の鉤を付ける。数年使用すると摩耗するため修繕した。倒伐し枝を取り去った丸太に鋸などを打ち込み、山中より荷車に積む場所まで引き出した。また荷車を曳くのにも使用した。大正時代に製作か。昭和58年まで使用。

法量(cm) 全長217.5, (肩当) 長62.1, 幅4.9, (鉤) 長13.3, 径1.5, 幅6.5, (縄) 径0.9

重量(g) 572



102102 (1844)

2-J-02-01

ヒナワ (火縄)

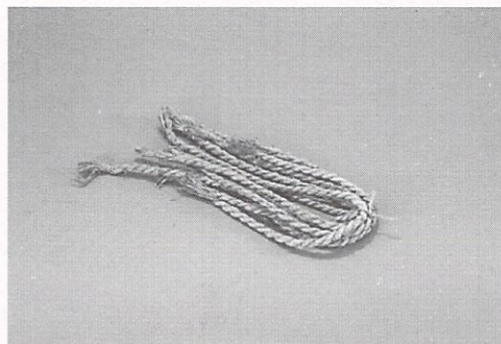
6点

坂田郡山東町柏原

藤の白味の表皮を米の研ぎ汁で炊き、木槌で打って表皮と内皮と分離し乾燥する。使用前に木槌で打ち縄に絞う。火縄銃に使用。火をつけて持ち歩いた。明治時代中期頃に製作か。

法量(cm) 長70.0, 径1.5

重量(g) 計200



102103 (2737)

2-J-02-01

兎獲り網

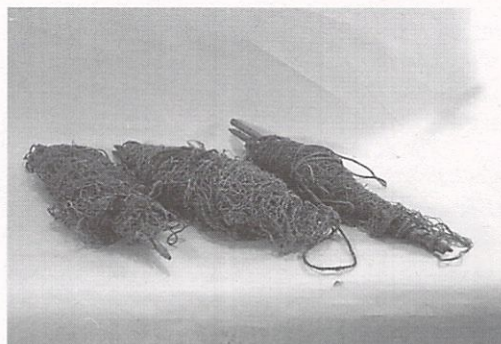
3点

蒲生郡蒲生町鈴

自家製。麻糸網。日野川の川原や鈴の山で、冬期に三方に網を張って、兎をその中に追い込む。昭和40年頃まで使用。

法量(cm) (左) 長722.0, 杭長61.7, 径2.3, (中) 長830.0, 杭長71.0, 径2.5, (右) 長625.0, 杭長75.7, 径2.3

重量(g) 1300



102104 (2629)

2-J-02-01

シシヤリ (猪槍)

1点

八日市市緑町

鉄製。鍛造。田畑を荒らす猪を捕獲する時に使用。山の谷畑に猪追い込み場をつくり、柵の中に入った猪をこの槍で突いて捕獲する。江戸時代中期～昭和初期まで使用。刻印「若狭大掾藤原冬廣三郎兵衛」。

法量(cm) 長64.0, 幅4.3, (刃) 長20.3

重量(g) 1000



102105 (795)

2-J-02-01

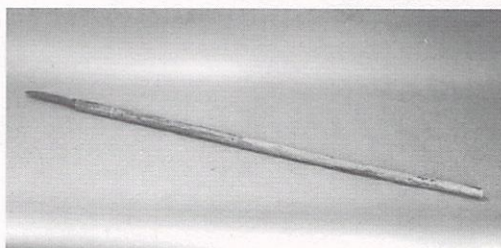
(不詳) 〈猪槍〉

1点

鉄製。木製の柄を付ける。

法量(cm) 全長181.0, 径4.3, (刃) 長22.0, 幅4.5

重量(g) 2000



102106 (2793)

2-K-01-01

桑切り鉋

1点

長浜市名越町

鉄製。柄部は木製。桑の枝を刈るのに使用。農業高校の実習で昭和40年代まで使用。刻印あり。

法量(cm) 全長64.0, 刃渡8.0, 最大開き6.0, (柄)長42.3, 径3.0

重量(g) 1100



102107 (3353)

2-K-01-01

クワカリガマ (鎌)

1点

坂田郡近江町高溝

鉄製の刃に木製の柄を付ける。柄の握り部分は細く削る。桑の枝の刈り取り、落葉後の整枝に使用。昭和40年頃まで使用。焼印「蚕」。

法量(cm) 全長27.4, 刃渡8.1, 刃幅2.7, (柄)長24.3, 径2.8

重量(g) 122



102108 (2549)

2-K-01-01

摘桑爪

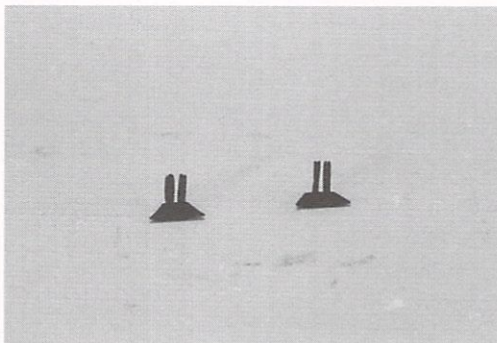
2点

長浜市名越町

台形の鉄板に針金を巻いた指貫きをつける。桑の葉を枝からかき落とすのに使用。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 刃長3.6, 高1.8, 長径2.2, 短径1.8

重量(g) (左) 6, (右) 5



102109 (551)

2-K-01-01

バックンキ (抜根機)

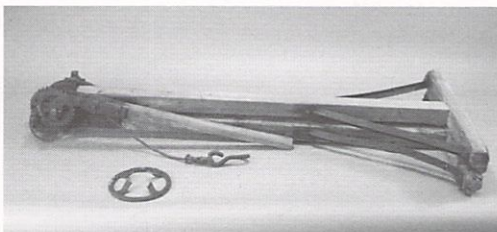
1点

八日市市中小路町

鉄製。柄は木製。桑の根を起こすのに使用。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 幅69.5, 高162.0

重量(g) 30640



102110 (2794)

2-K-01-01

貯桑籠

1点

長浜市名越町

竹を四ツ目に編む。摘んだ桑の葉を一時貯蔵する時に使用。昭和30年代に製作、使用。

法量(cm) 縦73.0, 横99.0, 高19.8

重量(g) 2500



102111 (795)

2-K-01-01

マイカゴ

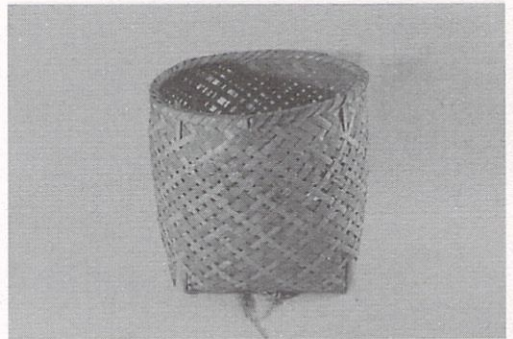
1点

野洲郡中主町吉川

竹を四ツ目に編む。上簇までは桑採取に使用。繭は上品を布袋に入れて籠に入れる。約10貫入。平均20〜30貫収繭したので2荷4個ほどの養蚕家にも所有した。この荷を吉川汽船で堅田港へ、堅田からは第一、第二太湖丸に積み、途中、一泊して翌朝、長浜の市場に行った。

法量(cm) 底縦49.7, 横50.3, 高57.8, 口径61.0

重量(g) 3500



102112

2-K-01-01

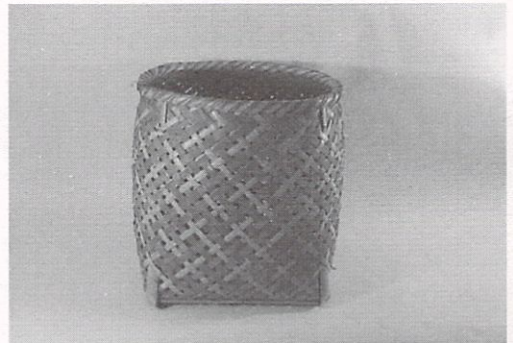
桑籠

1点

竹を四ツ目に編む。

法量(cm) 底縦50.5, 横50.0, 高57.8, 口径55.9

重量(g) 3000



102113 (1628)

2-K-01-01

桑摘み籠

1点

八日市市市辺町

真竹を四ツ目に編む。桑の葉を摘み、自宅の養蚕室まで天秤棒で運搬する。繭を八日市の集荷場に運ぶ時にも使用した。大正15年5月に製作。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 底縦51.0, 横51.0, 高53.0, 口径51.0

重量(g) 2400



102114 (1839)

2-K-01-01

クワカゴ (桑籠)

1点

坂田郡山東町柏原

竹を四ツ目に編む。桑の葉の採集に使用。繭の出荷にも使用した。荷車に乗せて運搬する。昭和8年に籠屋が製作。昭和11年頃まで使用。

法量(cm) 底縦54.0, 横54.0, 高64.0, 口径55.0

重量(g) 2500



102115 (1470)

2-K-01-01

クワカゴ (桑籠)

1点

坂田郡伊吹町寺林

竹を四ツ目に編む。養蚕の桑摘み用。昭和40年代まで使用。

法量(cm) 底縦32.0, 横31.0, 高42.3, 口径35.8

重量(g) 880



102116 (503)

2-K-01-01

クワカゴ

1点

高島郡安曇川町北船木

竹を四ツ目に編む。桑を摘んで入れるのに使用。

法量(cm) 底縦52.0, 横52.0, 高58.0, 口径56.0

重量(g) 3300



102117 (2791)

2-K-01-01

摘桑籠

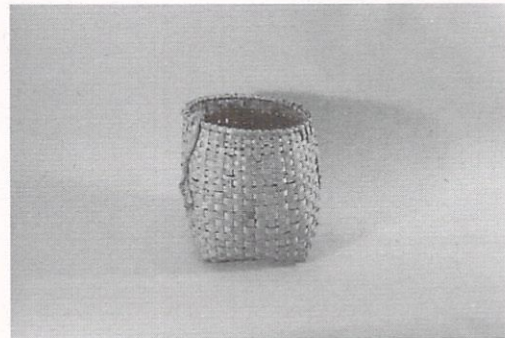
1点

長浜市名越町

ハゼの木を裂いて作る。桑の葉を摘んで運搬する時に使用。昭和30年頃に製作。農業高校の実習で昭和30年代まで使用。

法量(cm) 底縦27.5, 横27.5, 高36.5, 口径33.0

重量(g) 714



102118

2-K-01-01

桑籠

1点

伊香郡木之本町黒田

木製。養蚕用の桑の葉を摘み入れておく。墨書「明治三十年」「黒田」など。

法量(cm) 底縦28.0, 横28.0, 高32.5, 口径33.3

重量(g) 875



102119 (767)

2-K-01-01

ツボカゴ

1点

伊香郡余呉町中之郷

モミジ科の植物の木質部を薄くはぎ、籠を編む。口に紐をつけ背負う。余呉町丹生谷北部のみで生産、特に小原部落の冬の仕事として生産した。桑の葉摘みなどに腰につけて行き、摘んだ葉を入れる。茶摘にも使用。昭和50年代まで使用。墨書「昭二一、五」など。

法量(cm) 口径32.5, (底)長辺27.6, 短辺26.0, 高32.9, (紐)長26.0, 径1.3

重量(g) 668



102120 (1888)

2-K-01-02

ホウチョウ (包丁)

1点

大津市坂本本町

鉄製の刃に木製の柄を付ける。養蚕の桑の葉を重ねて切る。明治時代～大正時代まで使用。焼印あり。

法量(cm) 全長44.9, 刃渡25.6, 刃幅7.3, (柄)長13.0, 長径3.3, 短径2.5

重量(g) 199



102121 (2547)

2-K-01-02

桑切り包丁

1点

長浜市名越町

桑の葉を細かく刻む。昭和30年～40年まで使用。刃に刻印「登録政一手打」。

法量(cm) 全長42.1, 刃渡24.0, 刃幅8.1, (柄)長16.1, 長径3.4, 短径2.5

重量(g) 250



102122 (1289)

2-K-01-02

マナイタ (俎板)

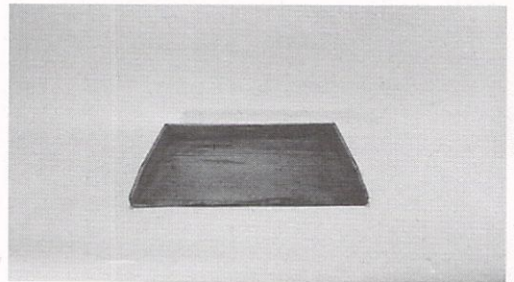
1点

八日市市市辺町

木製。蚕に与える桑葉を刻む俎板。昭和27年頃に養蚕は廃止した。昭和22年頃に製作。昭和27年頃まで使用。

法量(cm) 長34.3, 幅74.0, 高7.0

重量(g) 1400



102123 (1894)

2-K-01-02

桑切り板

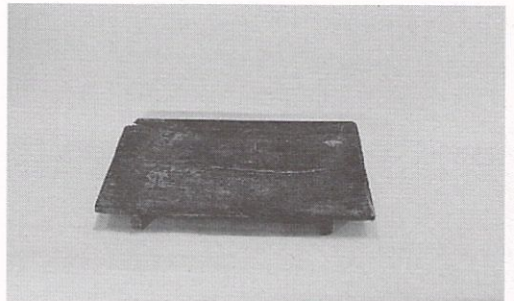
1点

東浅井郡浅井町八島

木製。

法量(cm) 長47.4, 幅81.9, 高8.0

重量(g) 5600



102124 (3886)

2-K-01-02

キリバン (切り板)

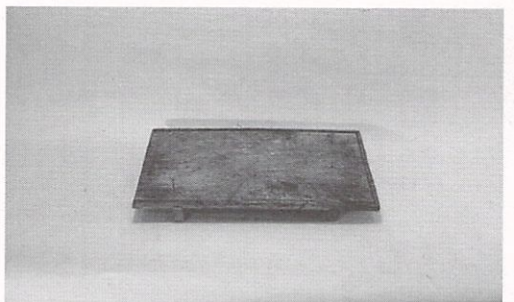
1点

高島郡今津町棕川

持山の杉の株板で冬期に自作。表面に水滴を集める溝を削り、反り止めに蟻差しの棧をはめる。幼齢の蚕に給桑する際に桑の葉を刻んだ。水滴と塩分が禁物だったため専用の俎板を使用。養蚕をやめた後、人寄せごとの調理時に利用。大正時代まで使用。

法量(cm) 長75.0, 幅39.7, 高7.0

重量(g) 4000



102125 (2546)

2-K-01-02

桑切り台

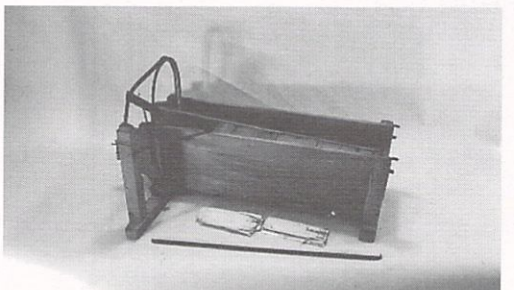
1点

長浜市今川町

刃は鉄製。台は木製。スタンプ「専賣特許 □器 発明製造元 群馬県藤間町 福□鉄物本店」「日本農民会優等□賞受賞 発明品博覧会銅牌受□」。プレート「専賣特許」。

法量(cm) 長145.0, 幅27.2, 高41.0

重量(g) 14200



102126 (516)

クワキリ (桑切り)

高島郡安曇川町北船木

刃は鉄製。台は木製。桑の葉を切るのに使用。印字「東亜式BANKOK UKI」。

法量(cm) 長78.0, 幅129.6, 高75.7

重量(g) -

2-K-01-02

1点



102127 (2792)

給桑台

長浜市名越町

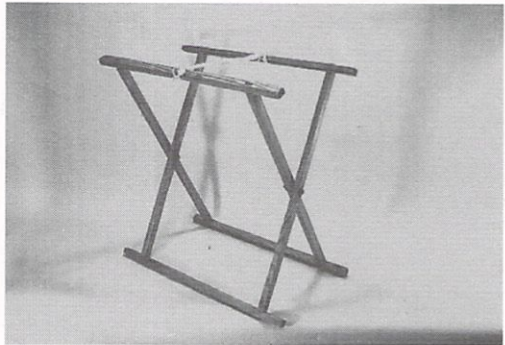
木製。組立式。この台の上で蚕に桑の葉を与えた。農業高校の実習で昭和30年代まで使用。

法量(cm) 長80.0, 幅47.0, 高74.3

重量(g) 3200

2-K-01-02

1点



102128 (582)

蚕飼育台

長浜市春近町

木製。養蚕に使用。昭和初期に製作。昭和25年頃まで使用。

法量(cm) 長62.3, 幅49.5, 高81.2

重量(g) 1400

2-K-01-02

1点



102129 (2545)

蚕揚げ用盆

長浜市名越町

金属製。稚蚕等を桑の枝からとりあげる時に使用。農業高校の実習で昭和30年代まで使用。

法量(cm) 口径40.4, 高3.6

重量(g) 490

2-K-01-03

2点



102130 (2795)

給桑用カルトン

長浜市名越町

ブリキ製。塗装。細かく刻んだ桑の葉を、この盆に盛って稚蚕に給桑した。農業高校の実習で昭和20年代に製作、使用。

法量(cm) 口径40.3, 高3.0

重量(g) (左) 502, (右) 598

2-K-01-03

2点



102131 (967)

2-K-01-03

カイコカゴ (蚕籠)

1点

蒲生郡日野町寺尻

竹を四ツ目に編む。蚕の飼育に使用。大正時代初期～昭和初期まで使用。

法量(cm) (左) 縦75.5, 横55.3, 高15.2, (右) 縦75.4, 横53.7, 高13.7

重量(g) (左) 946, (右) 966



102132 (179)

2-K-01-03

カイコのムシロ

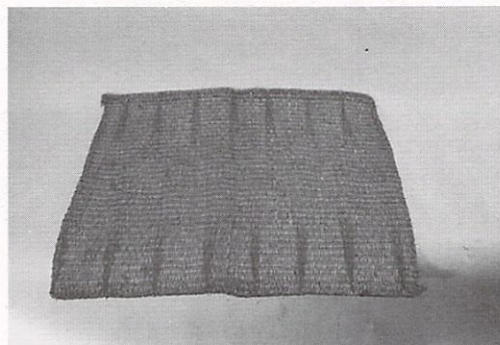
1点

長浜市国友町

藁製。養蚕の時、カイコのジュウを一番下におき、上に筵をしき、更に上に網を敷いて蚕を飼う。昭和17年～18年頃に製作、使用。

法量(cm) 縦80.0, 横95.0

重量(g) 1100



102133 (966)

2-K-01-03

カイコダナ (蚕棚)

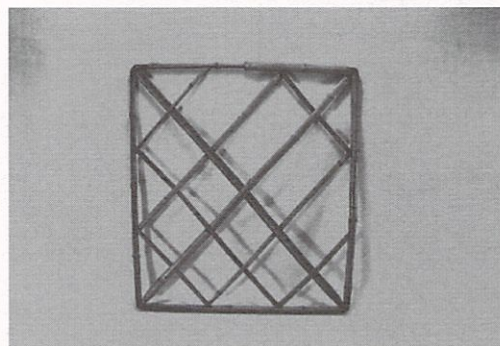
1点

蒲生郡日野町寺尻

竹製。蚕を飼育するときに使用。明治時代中期～大正時代中期頃まで使用。

法量(cm) 縦93.8, 横86.0

重量(g) 1076



102134 (1629)

2-K-01-03

カイコダナ (蚕棚)

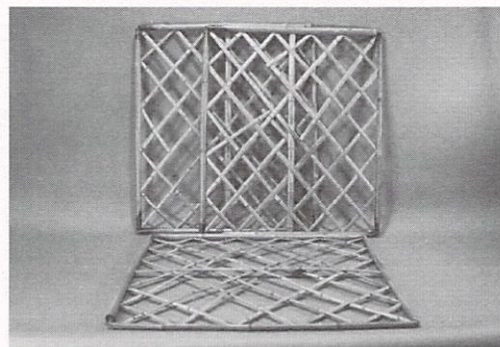
3点

八日市市市辺町

真竹製。蚕を飼育する時、この上に渋紙を敷いて桑の葉を置き、蚕を入れて繭を作る寸前まで飼育する。大正14年～昭和30年代まで使用。墨書「西九」。

法量(cm) 縦97.0, 横83.1

重量(g) 1300



102135 (359)

2-K-01-03

カイコダナ (繭棚)

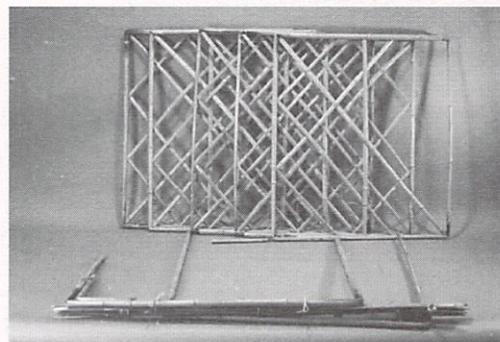
7点

八日市市建部瓦屋寺町

竹製。墨書あり。

法量(cm) 縦98.0, 横86.0～縦97.5, 横86.3

重量(g) 600～1100



102136 (1910)

2-K-01-03

蚕座

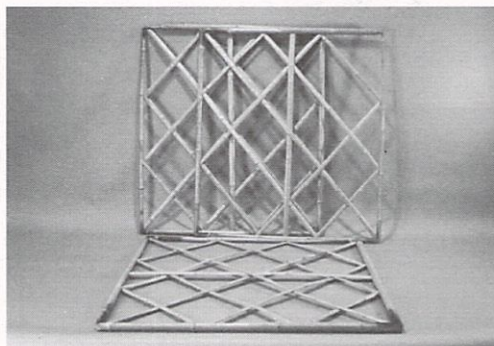
3点

東浅井郡浅井町

竹製。

法量(cm) 縦98.0, 横86.0~縦97.5, 横88.0

重量(g) 900~1100



102137 (174)

2-K-01-03

カイコジュウ

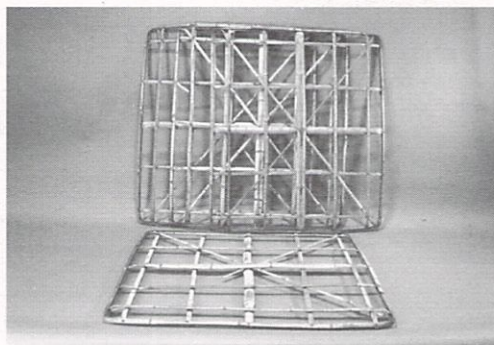
4点

長浜市国友町

竹製。この上に筵をのせて蚕を飼う。昭和10年頃に木原商店で購入。昭和20年頃まで使用。墨書「平吉」。

法量(cm) 縦96.0, 横82.0~縦97.0, 横83.5

重量(g) 700~900



102138 (1170)

2-K-01-03

蚕座

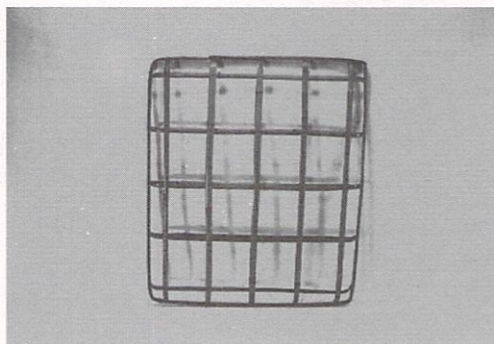
1点

高島郡新旭町饗庭

竹製。蚕を飼育するもので、竹の網の上に筵を敷き、上に蚕を並べる。更にその上から網をかけ、桑の葉をおいて給餌した。明治時代末期~昭和初期まで使用。

法量(cm) 縦94.0, 横81.5

重量(g) 905



102139 (3821)

2-K-01-03

ツリナワ (縄)

5点

坂田郡山東町野一色

藁製。一方の端に丸い輪を2つ作る。蚕座をのせる棚に使用。昭和初年頃に製作、使用。

法量(cm) 長530.0, 径2.2, (先端)長32.0~長730.0, 径4.0, (先端)長25.0

重量(g) 676~2100



102140 (177)

2-K-01-04

カイコのイアミ

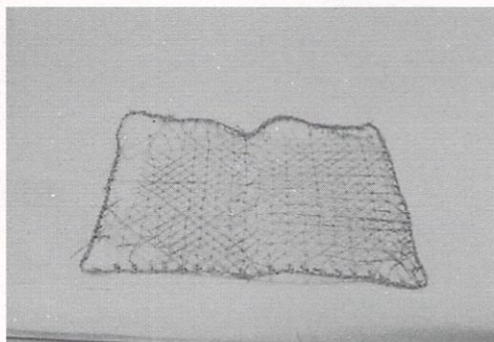
1点

長浜市国友町

蘭草製。土産用の蚕飼の用具の一種。カイコのジュウの上にをのせる。昭和17年~18年頃に木原商店で購入、使用。

法量(cm) 縦69.0, 横81.0, (網目) 3.1

重量(g) 200



102141 (178)

2-K-01-04

カイコアミ

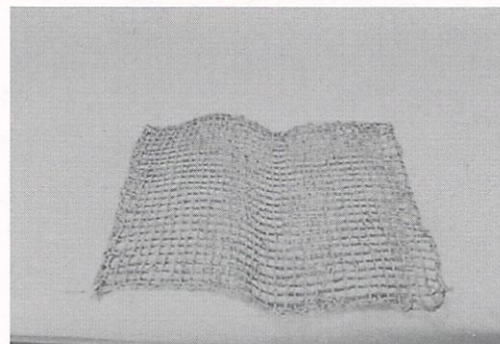
1点

長浜市国友町

自家製。藁製。壮産の蚕を上のにせて飼う。蚕をのせ、桑の葉をのせる。昭和17年～18年頃に製作。

法量(cm) 縦66.0, 横83.0, (網目) 縦2.7, 横2.2

重量(g) 400



102142 (2801)

2-K-01-04

仕蚕用の縄網

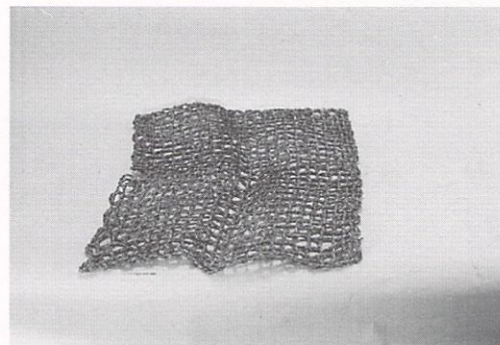
1点

長浜市名越町

藁縄を編む。大きく成長した蚕のしりかえに使用する。昭和20年代まで使用。

法量(cm) 縦66.0, 横73.0, (網目) 2.5

重量(g) 500



102143 (176)

2-K-01-04

カイコアミ (蚕網)

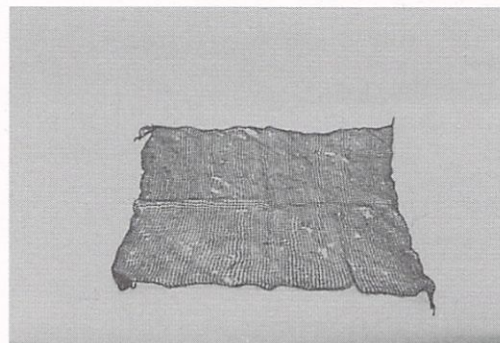
1点

長浜市国友町

自家製。綿。渋を塗る。蚕の糞をとるのに使用。藁製の蚕網の上のにせ、上に蚕桑をのせる。蚕網には、稚産用、中産用、壮産用の3種類があり、稚産・中産用の網は縄と木綿、麻で作られ、壮産用の網は縄と藤蔓で作った。昭和10年頃に製作。昭和20年頃まで使用。

法量(cm) 縦64.0, 横78.0, (網目) 1.0

重量(g) 300



102144 (2065)

2-K-01-04

カイコアミ (簇網)

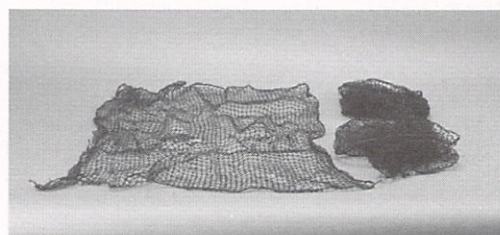
3点

東浅井郡びわ町

麻糸で網を編み、数回柿渋につけて乾燥させる。大正時代初期の養蚕飼育法は、蚕座の上に切桑をおき、蚕が食べ終るとこの網をおき、上に切桑を散布、蚕は網目より新しい桑に移る。このとき他の座に移し、古い残桑と糞を捨てる。網目は1～2齢、3～4齢と目が広がる。現品は最終の3～4齢使用のもの。大正時代初期に製作。

法量(cm) 縦90.0, 横100.0, (網目) 1.2

重量(g) 400



102145 (883)

2-K-01-04

カイコアミ (蚕網)

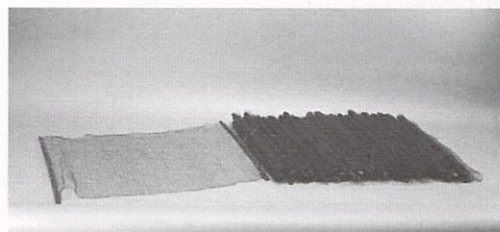
44点

八日市市市辺町

綿。柿渋塗。網の両側に竹を付ける。蚕の飼育に使用。昭和初期～20年代頃まで使用。

法量(cm) 縦86.0, 横66.6, (網目) 縦1.0, 横0.8

重量(g) 61



102146 (1780)

2-K-01-04

アミ (蚕網)

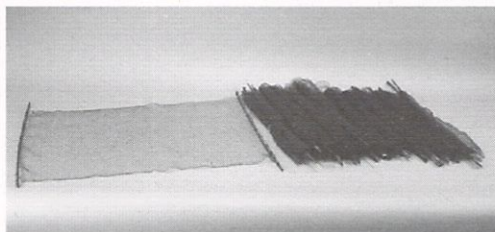
19点

八日市市大森町

綿。柿渋塗。網の両側に竹を付ける。蚕の幼令期に使用。この網の上に桑葉を刻んで置き、蚕の食事場とする。大正時代初期～昭和10年代まで使用。

法量(cm) 縦85.3, 横75.5, (網目) 縦0.5, 横0.6

重量(g) 55



102147 (1658)

2-K-01-04

カイコアミ (蚕網)

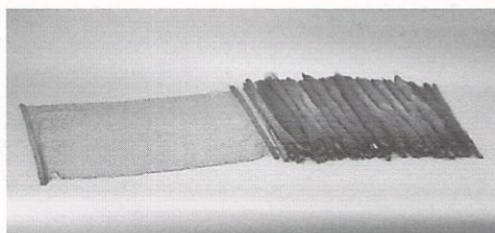
33点

神崎郡永源寺町箕川

綿。柿渋塗。網の両側に竹を付ける。薬笥の上に油紙を敷き、その上に網を拡げる。上から桑の葉を一面に散布し、最後に蚕虫を乗せる。蚕の成育に合せ、一日に何度か網を持ち上げ、蚕の糞を除去する。昭和初期に購入か。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 縦85.8, 横66.3, (網目) 縦0.7, 横0.9

重量(g) 61



102148 (2548)

2-K-01-04

稚蚕用網

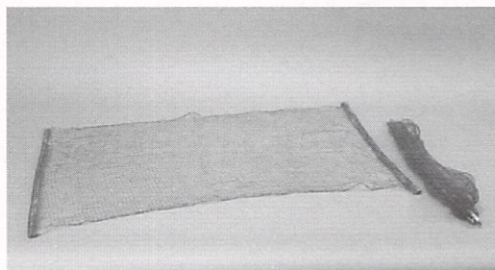
2点

長浜市名越町

綿。柿渋塗。網の両側に竹を付ける。農業高校での蚕の飼育用。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 縦65.7, 横90.0, (網目) 縦0.9, 横0.7

重量(g) 100



102149 (2800)

2-K-01-04

稚蚕用の糸網

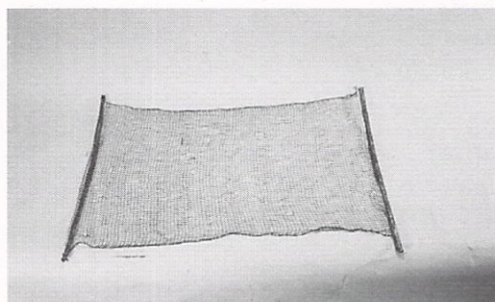
1点

長浜市名越町

綿。柿渋塗。網の両側に竹を付ける。農業高校の実習で稚蚕を飼う時に使用。蚕のシリカエをする時に使用する。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 縦66.5, 横86.0, (網目) 縦1.0, 横0.7

重量(g) 100



102150 (1399)

2-K-01-05

暖炉

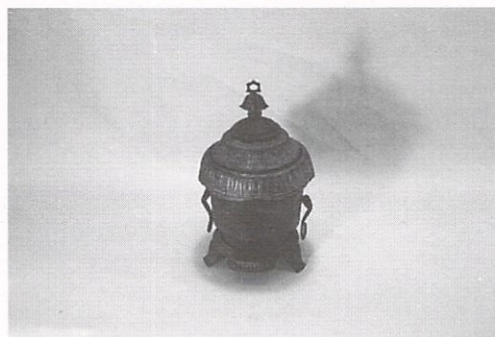
1点

神崎郡永源寺町山上

鉄製。鋳物。養蚕時、特に春繭（ハルコ）生産のため室温上昇の必要から木炭で加温した。大正時代～昭和20年代まで使用。

法量(cm) 最大径29.3, 高47.8

重量(g) 9300



102151 (846)

2-K-01-05

煉炭ストーブ

1点

長浜市布勢町

鉄製。鋳物。蚕を飼う時、温度を一定に保つのに使用。長時間暖房する必要から中の練炭も特製の大きなものを使用した。蚕を飼う部屋にいていた。大正時代～昭和初期まで使用。

法量(cm) 最大径30.0, 高49.4

重量(g) 15500



102152 (2454)

2-K-01-05

ダンロ (暖炉)

1点

坂田郡近江町高溝

鉄製。胴部二重になっており、車輪3個、蓋付。中に炭を入れ、飼育中の蚕の暖房に用いる。昭和初年～20年まで使用。

法量(cm) 口径42.6, 高40.5

重量(g) 2400



102153 (2544)

2-K-01-05

モノサシ (物差し)

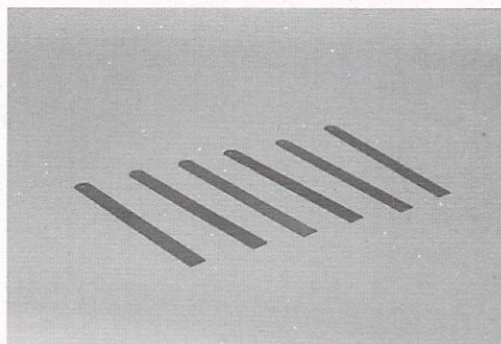
6点

長浜市名越町

金属製。片側cm、片側尺。農業高校で蚕の体長測定に使用。30cm差し。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 長33.4, 幅2.8

重量(g) 計450



102154 (322)

2-K-01-06

蚕のスゴシ (簇織機)

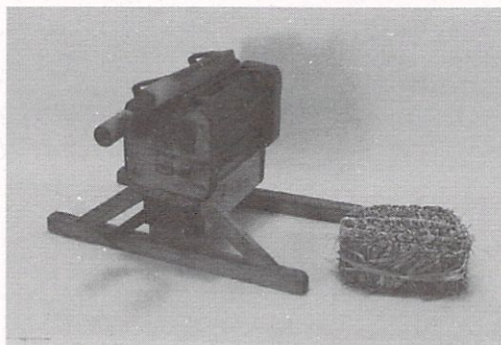
1点

八日市市川合寺町

金属製。台座は木製。蚕が繭を作るときに使用する簇を作る。繭を上の方から縦に差し込み、ハンドルを回すと両側に開いた器具が開閉し、中央に渡した横葉と縦葉が編み込まれて下の口から出る。大正時代中期～昭和初期まで使用。焼印「登録新案 □利者 三州豊川」「柙」「八幡」など。墨書「大正元年六月吉日 共同者氏名」。

法量(cm) 長54.7, 幅43.1, 高31.3, (簇) 長径23.0, 短径20.5, 高8.0

重量(g) 6000, (簇) 320



102155 (1335)

2-K-01-06

スゴシ

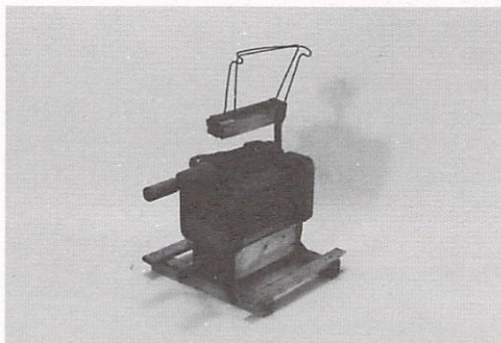
1点

神崎郡永源寺町山上

金属製。台座は木製。繭を入れると、階段状に左右交互に圧力をかけて簇ができる。そのまま結束して多数製作しておく。大正時代～昭和30年代まで使用。焼印「専賣特□ 實用新案 第三一七〇五號 第三三一七四號 第二五八五六號 第二七九五四號 第五〇三四〇號」。墨書「大正拾四年 七月求メ 代四円三十□」など。

法量(cm) 長47.0, 幅43.5, 高57.0

重量(g) 6000



102156 (1779)

2-K-01-06

スゴシキ (簇編機)

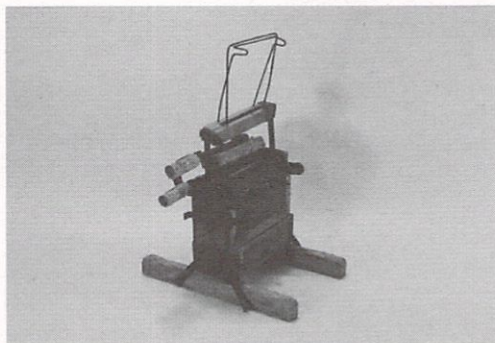
1点

八日市市大森町

金属製。台座は木製。蚕の繭を作るためのスゴを作るのに使用。稲藁を機械の上から差込み、両側のハンドルを交互にして蚕のスゴシを織る。大正時代末期頃に八日市で購入。昭和23年頃まで使用。焼印「大森式改良藁折器」新案特許第三三五〇一號 新案特許第四二二二九號。

法量(cm) 長45.4, 幅42.8, 高62.7

重量(g) 7000



102157 (1200)

2-K-01-06

シクオリ (簇織り)

1点

坂田郡伊吹町寺林

金属製。台座は木製。養蚕のシクを作る用具。昭和10年～49年まで使用。焼印「皆戸式製簇器 實用新案登録第三七九七三號 第三八七九三號」。

法量(cm) 長58.7, 幅41.3, 高75.6

重量(g) 8400



102158 (1471)

2-K-01-06

シクオリ (簇織り)

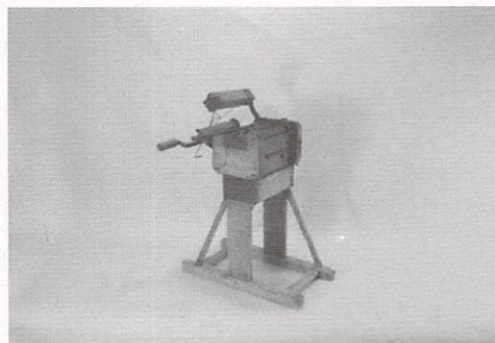
1点

坂田郡伊吹町寺林

金属製。台座は木製。養蚕用。昭和初年～20年代まで使用。焼印「新案特許 第八一六二六號 第四五四一八號」など。

法量(cm) 長53.8, 幅42.9, 高81.5

重量(g) 8100



102159 (1693)

2-K-01-06

シクオリ (簇織り機)

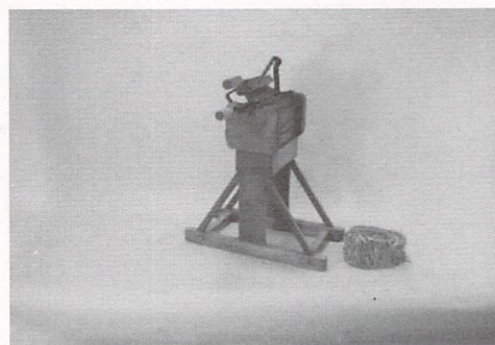
1点

東浅井郡浅井町瓜生

金属製。台座は木製。蚕の繭作りのためのシクを織る。焼印「福助印改メ ミナト式製簇器 實用新案登録 第三七九七三號 第三八七九三號」
「福助印改メ 皆戸式 製造元石田増次郎」「瓜梅市」など。

法量(cm) 長59.0, 幅44.0, 高71.5, (簇) 長径22.0, 短径16.5, 高12.0

重量(g) 7600, (簇) 205



102160 (1911)

2-K-01-06

簇編機

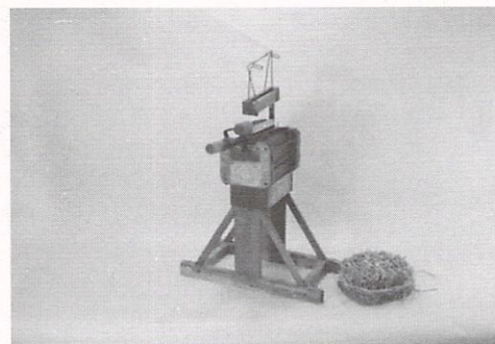
1点

東浅井郡浅井町

金属製。台座は木製。蚕の繭作りのための簇を織る。焼印「皆戸式製簇器 實用新案登録 第三七九三七號 第三八七九三號」。印字「三寸五分」。プレート「滋賀縣長濱町 鍋徳商店 農蠶機部」。

法量(cm) 長59.0, 幅43.0, 高87.0, (簇) 長径27.0, 短径22.0, 高10.0

重量(g) 8200, (簇) 380



102161 (1171)

2-K-01-06

シクアミ (簇編み機)

1点

高島郡新旭町饗庭

金属製。台座は木製。上簇の時、繭を作らせるマムシを作る道具。大正時代末期～昭和初期まで使用。焼印「石田式改メ ミナト式製簇器 實用新案登録 第三七九七二号 第三八七九二号」「石田式改メ 皆戸式 製造元石田増次郎」「滋賀縣 鍋徳」。

法量(cm) 長59.0, 幅42.0, 高87.6

重量(g) 8400



102162 (2143)

2-K-01-06

オリワラオリキ (簇織機)

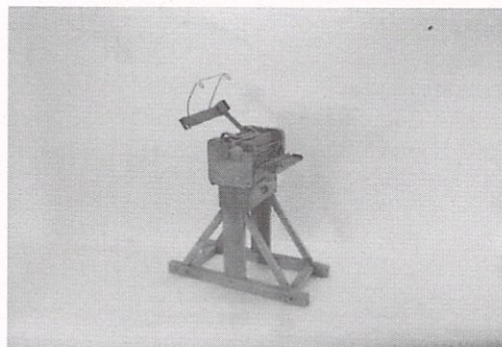
1点

高島郡今津町棕川

金属製。台座は木製。蚕のネドコであるオリワラを編む機械。大正時代に使用。焼印「愛□□ 大日本愛知縣倉知合名會社」。

法量(cm) 長60.5, 幅28.0, 高57.9

重量(g) 8000



102163 (185)

2-K-01-06

ヤデシ

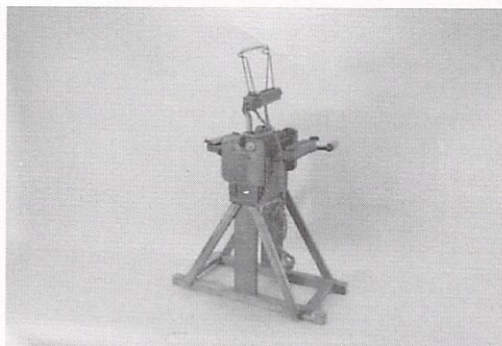
1点

伊香郡西浅井町大浦

金属製。台座は木製。養蚕用。蚕の「ぞく」(稚い蚕を飼うため薬で編んだもの)を作る。昭和15～16年頃まで使用。紙「二角式産出簇折 登録商標二角式 製造元共榮社 林總吉」。焼印「長濱 みのや」。

法量(cm) 長65.0, 幅42.0, 高93.5

重量(g) 8600



102164

2-K-01-06

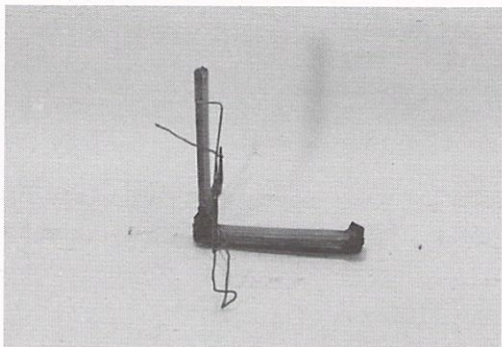
(不詳) 〈簇折機〉

1点

金属製。台座は木製。

法量(cm) 長15.0, 幅30.0, 高47.0

重量(g) 860



102165 (1657)

2-K-01-06

スゴ (簇)

1点

神崎郡永源寺町箕川

藁製。材料の藁は吟味し、揃ったものを木槌で打ち柔らかくした。蚕が大きく成長し、下腹部が半透明の青緑色に変色し、桑の葉を食べなくなると蚕が「上った」という。急いでスゴを簀の上に広げ、繭を作らせる。昭和初期に製作。

法量(cm) 長径23.5, 短径19.5, 高9.5

重量(g) 290



102166 (1657)

2-K-01-06

スゴ (簇)

1点

神崎郡永源寺町箕川

藁製。材料の藁は吟味し、揃ったものを木槌で打ち柔らかくした。蚕が大きく成長し、下腹部が半透明の青緑色に変色し、桑の葉を食べなくなると蚕が「上った」という。急いでスゴを筵の上に広げ、繭を作らせる。昭和初期に製作。

法量(cm) 長径23.5, 短径19.0, 高9.8

重量(g) 300



102167 (1397)

2-K-01-06

スゴ

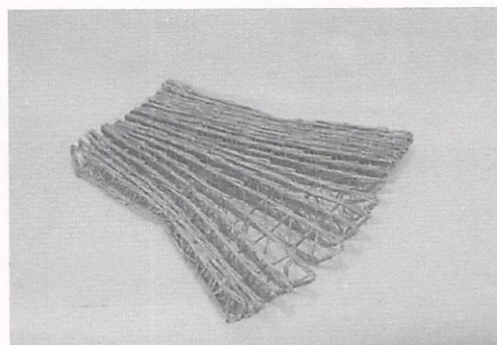
1点

神崎郡永源寺町山上

藁製。精選した藁を揃え、折たたみ機を用いて製作する。養蚕時、蚕の最終段階にスゴに移し、繭を作らせる。大正時代～昭和まで使用。

法量(cm) 長39.5, 幅72.0, 高7.0

重量(g) 483



102168 (1397)

2-K-01-06

スゴ

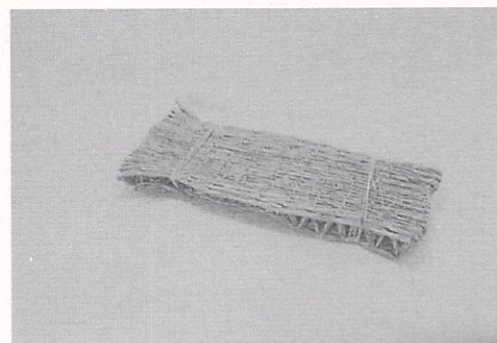
1点

神崎郡永源寺町山上

藁製。精選した藁を揃え、折たたみ機を用いて製作する。養蚕時、蚕の最終段階にスゴに移し、繭を作らせる。大正時代～昭和まで使用。

法量(cm) 長30.0, 幅76.0, 高7.3

重量(g) 560



102169 (175)

2-K-01-06

シク (簇)

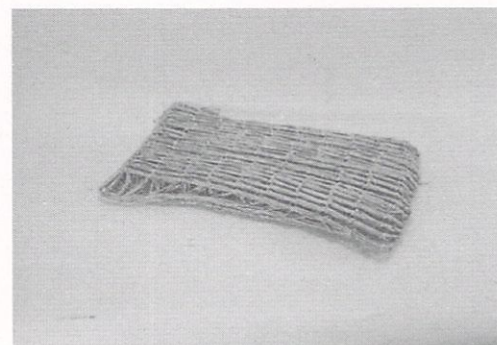
1点

長浜市国友町

藁製。蚕が繭を作るようになると、筵の上にこれをおき、蚕をのぼらせるところで繭になる。一枚のシクに大体200匁位の繭ができた。昭和17～18年頃まで使用。

法量(cm) 長41.5, 幅73.0, 高6.0

重量(g) 616



102170 (211)

2-K-01-06

繭のシク (簇)

1点

東浅井郡湖北町丁野

藁製。戦前に製作。蚕が繭を作る時に使用。昭和20年代まで使用。

法量(cm) 長30.0, 幅75.0, 高7.5

重量(g) 484



102171 (2796)

回転まぶし

長浜市名越町

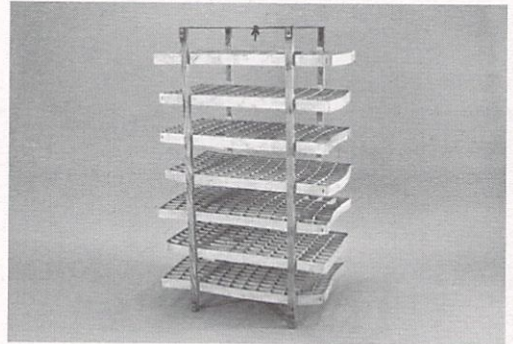
ボール紙。枠は木と金具。棚は7段。この紙の中で繭を作らせる。農業高校の実習で使用。昭和40年頃に製作。昭和40年代まで使用。

法量(cm) 縦33.2, 横34.5, 高89.7, (簇) 縦54.2, 横30.1, 高3.1

重量(g) 3500, (簇) 266

2-K-01-06

1点



102172

回転簇

東浅井郡湖北町南速水

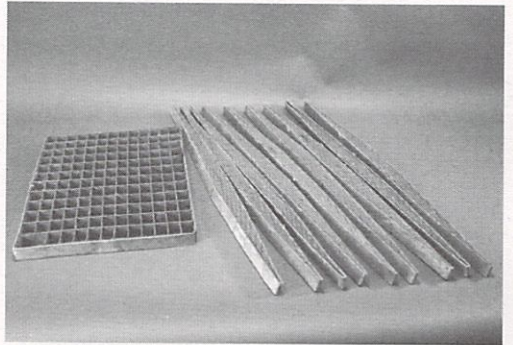
ボール紙。

法量(cm) 縦54.4, 横39.3, 高3.4

重量(g) 345

2-K-01-06

10点



102173 (2797)

回転まぶしの枠

長浜市名越町

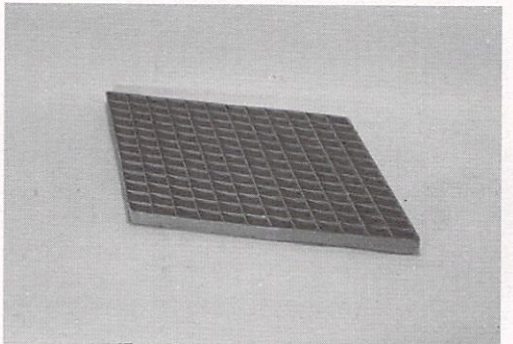
ボール紙を格子に組み、縦12列、横13列の長方形の枠を作る。枠の中に繭を作らせる。農業高校の実習で使用。昭和40年頃に製作。昭和40年代まで使用。

法量(cm) 縦39.5, 横54.3, 高3.0

重量(g) 304

2-K-01-06

1点



102174 (2799)

改良まぶし

長浜市名越町

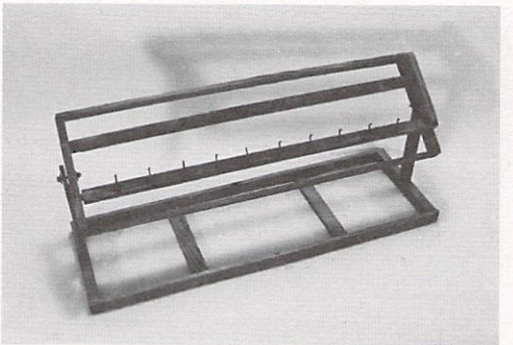
木枠に針金の突起を10本ずつ付ける。蚕に繭を作らせる時に使用。農業高校の実習で使用。昭和10年～20年頃に製作、使用。

法量(cm) 長88.0, 幅29.0, 高33.0

重量(g) 2200

2-K-01-06

1点



102175 (1396)

繭枠

神崎郡永源寺町山上

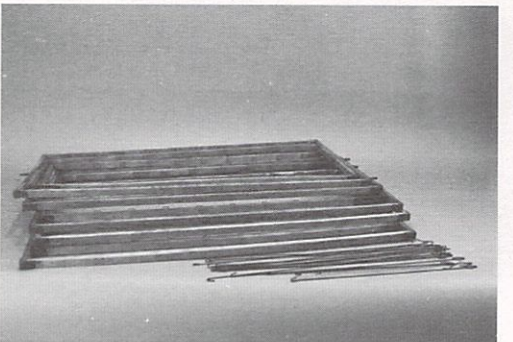
木枠に針金の突起を10本ずつ付ける。枠を棚に並べ油紙を敷き、その上に桑の葉を全面に広げて蚕を移し育成する。大正時代～昭和20年代まで使用。

法量(cm) 縦58.0, 横42.7, 高118.8

重量(g) 1600

2-K-01-06

1点



102176 (2798)

2-K-01-06

回転まぶし用自在金

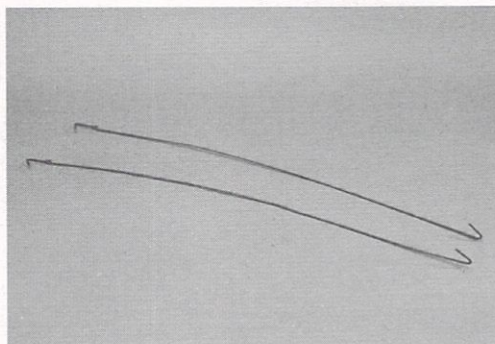
2点

長浜市名越町

針金。回転まぶしを吊り下げるのに使用。農業高校の実習用。昭和30年代～40年代に製作、使用。

法量(cm) 長73.5, 径0.2

重量(g) 計150



102177 (2802)

2-K-02-01

収繭器のくし

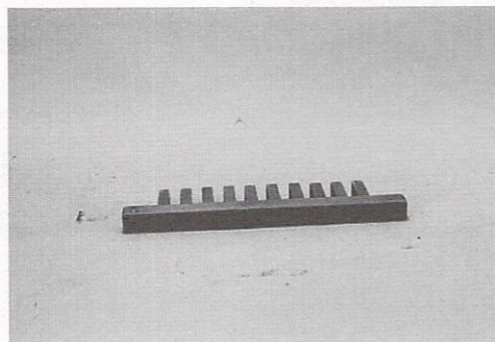
1点

長浜市名越町

木製。歯10本。まぶしの中へ作らせた繭をこの櫛で押し出す。昭和40年頃に製作。昭和40年代まで使用。

法量(cm) 長37.7, 幅2.8, 高8.7

重量(g) 210



102178 (210)

2-K-02-01

ケバトリキ

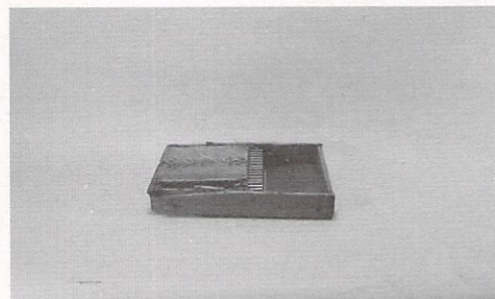
1点

東浅井郡湖北町丁野

木製。蚕が繭をつくる時足場として最初に張った糸をとる。昭和20年代まで使用。印刷「八寸十六枚入」。

法量(cm) 長50.7, 幅33.7, 高8.9

重量(g) 1500



102179 (2004)

2-K-02-01

製繭器

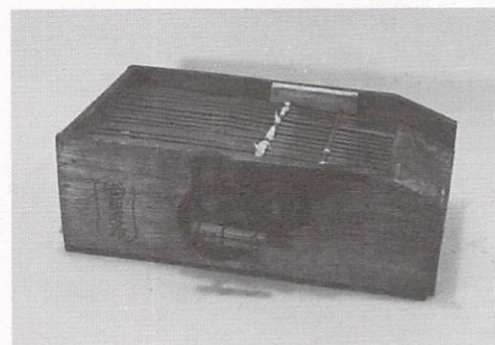
1点

坂田郡山東町清滝

木製。歯車は金属製。一部竹。竹の上に繭玉を沢山のせ、ハンドルを回転させ、繭の外側の汚れをとる。大正時代中期に購入。昭和10年頃まで使用。焼印「製繭器 新案登録七十六號」「製造之印」など。紙「改良□川式製繭器 製造□□□福益舎」。墨書「大正十年八月吉日 滋賀縣坂田郡柏原村 大字清瀧」など。

法量(cm) 長53.9, 幅43.5, 高18.4

重量(g) 3700



102180 (2004)

2-K-02-01

製繭器

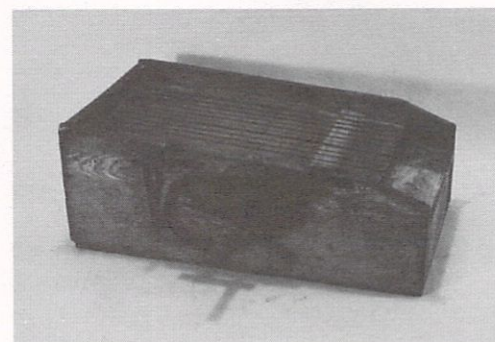
1点

坂田郡山東町清滝

木製。歯車は金属製。一部竹。竹の上に繭玉を沢山のせ、ハンドルを回転させ、繭の外側の汚れをとる。大正時代中期に購入。昭和10年頃まで使用。紙「新案特許 登録商標 製造元 愛知縣國寶社」「國立蠶種製造所 □御買上之光榮 帝國發明品展覽會 壹等賞金牌受領 □國發明共進會 □賞金牌受領」。

法量(cm) 長52.8, 幅40.8, 高19.3

重量(g) 3000



102181 (1778)

2-K-02-01

ケバトリ

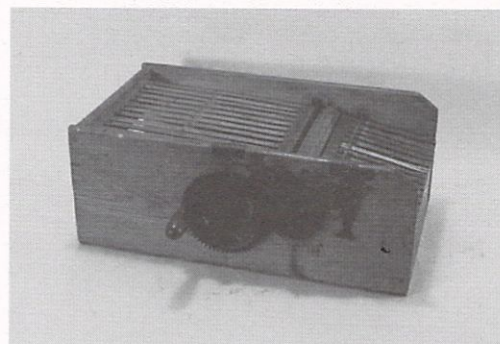
1点

八日市市大森町

木製。歯車は金属製。大正時代末期に八日市で購入。昭和15年頃まで使用。

法量(cm) 長50.9, 幅43.3, 高20.0

重量(g) 4600



102182 (323)

2-K-02-01

ケバリトキ

1点

八日市市川合寺町

木製。歯車は金属製。繭についたゴミや糸くずを取るために使用。繭を竹ミゾラの上に乗せ、ハンドルを回すと繭が転がり、ゴミがとれて下に落ちる。大正時代中期～昭和初期まで使用。印刷「田矢式毛羽取器 イガ河合 田矢農蚕具製作所製造」など。

法量(cm) 長53.0, 幅32.0, 高17.0

重量(g) 3200



102183

2-K-02-01

毛羽取機

1点

金属製。一部木製。紙「報國□動型」。

法量(cm) 長88.9, 幅53.5, 高37.5

重量(g) 12700



102184

2-K-02-01

毛羽取機

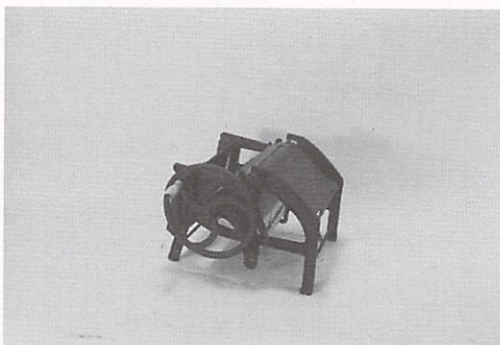
1点

東浅井郡湖北町南速水

金属製。

法量(cm) 長59.0, 幅42.0, 高31.2

重量(g) 10000



102185 (2803)

2-K-02-01

ケバトリキ (毛羽取り器)

1点

長浜市名越町

鉄製。一部木製。特殊三枚ベルト付。繭の外側についているケバをこれで取り除く。昭和40年代まで使用。印刷「特殊三枚ベルト付」「最高審査 銀牌 四日市博」。プレート「特急型」。

法量(cm) 長52.8, 幅40.1, 高79.5

重量(g) 15000



102186 (1334)

ケバトリ (毛羽取り)

神崎郡永源寺町山上

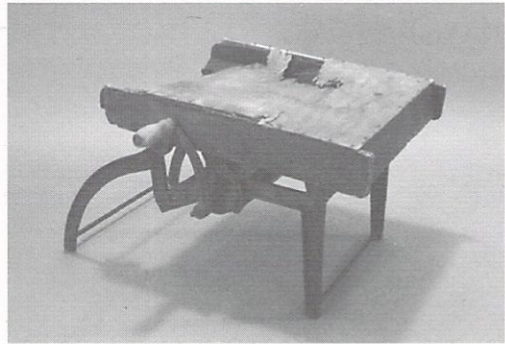
鉄製の骨組に木や竹の部材をつける。繭はそのままでは製糸等が困難のため、本機により不用の毛羽を取り除く。大正時代～昭和30年代まで使用。

法量(cm) 長84.7, 幅48.5, 高34.0

重量(g) 12200

2-K-02-01

1点



102187 (2595)

ケバトリキ (毛羽取り器)

長浜市新庄町

鉄製の骨組に木や竹の部材をつける。繭の毛羽をとる道具。昭和20～30年まで使用。プレート「義士号繭毛羽取り器 姫路市青山老千番地 河部農具株式会社」。

法量(cm) 長77.5, 幅31.4, 高36.9

重量(g) 12400

2-K-02-01

1点



102188 (200)

マユザル (繭簀)

伊香郡余呉町中之郷

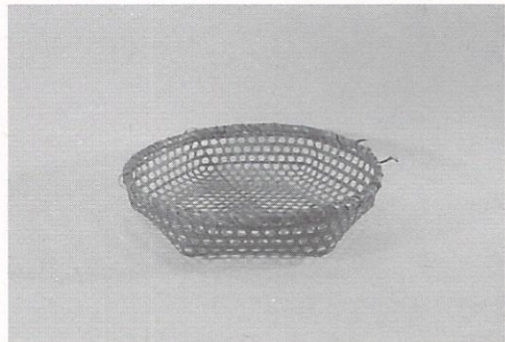
竹を六ツ目に編む。繭の選別に使用。大正時代まで使用。

法量(cm) 口径50.0, 高12.0, 底一辺25.0

重量(g) 285

2-K-02-01

1点



102189 (739)

マユカゴ (繭籠)

東浅井郡湖北町尾上

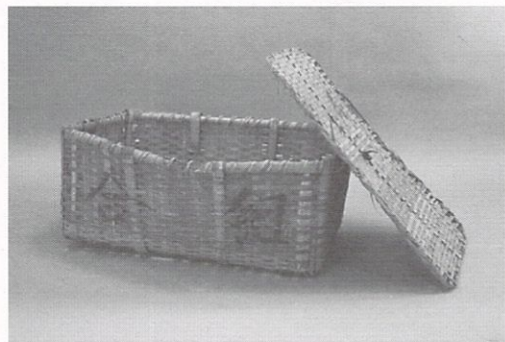
竹製。昭和5、6年頃に養蚕が盛んとなり、収穫量が増えたため使用するようになった。籠1個に蓋1個付。通常は中に布袋を入れる。籠の横には各区の字名を書き、反対側には組合、縦のところには1連番号を書く。各戸2個あった。戦前まで使用。墨書「尾上」「組合」「口中」「65」「尾上五号」。

法量(cm) 縦45.0, 横80.0, 高34.0

重量(g) 2700

2-K-02-01

1点



102190 (1838)

マユカゴ (繭籠)

坂田郡山東町柏原

竹を四ツ目に編む。口縁を藤で16か所くくる。蚕の繭玉を入れて運搬した。マユカゴを一荷にして担棒で担いで集荷場まで運んだ。昭和初期に籠屋が製作。昭和12年頃まで使用。

法量(cm) 底縦50.0, 横50.0, 高65.0, 口径55.0, (紙) 縦76.2, 横88.0～縦198.3, 横136.5, (布) 縦128.0, 横166.0

重量(g) 2700, (紙) 95～341, (布) 452

2-K-02-01

1点



102191 (1692)

2-K-02-01

マユカゴ (蔀籠)

1点

東浅井郡浅井町瓜生

竹を四ツ目に編む。蔀の集荷に使用。墨書「昭和□一年」「瓜生」「六月吉日」など。

法量(cm) 底縦46.0, 横46.0, 高60.0, 口径57.0

重量(g) 1700



102192 (1349)

2-K-02-01

オオカゴ (大籠)

1点

伊香郡高月町片山

竹を四ツ目に編む。蚕繭の運搬に使用。未使用か。

法量(cm) 底縦50.8, 横50.8, 高63.0, 口径60.3

重量(g) 1500



102193 (249)

2-L-01-01

牛のトナベ (斗鍋)

1点

八日市市三津屋町

鉄製。牛の飼料である藁や豆を煮る。また味噌豆を煮る鍋に使用。明治時代中期～昭和40年まで使用。

法量(cm) 口径69.8, 高30.7

重量(g) 14500



102194 (1601)

2-L-01-01

オシギリ (押切)

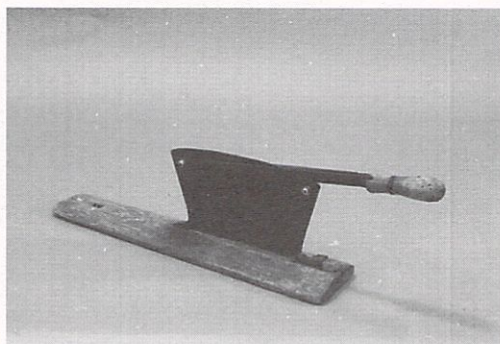
1点

八日市市市辺町

鉄製。台は木製。牛の飼料の稲藁を20cmほどに切断するのに使用。明治時代中期～昭和30年代に製作、使用。

法量(cm) 長76.3, 幅13.5, 高21.3, (刃部) 長29.7, 高16.2, (柄) 長12.6, 径3.7

重量(g) 2500



102195 (1332)

2-L-01-01

オシギリ (押し切り)

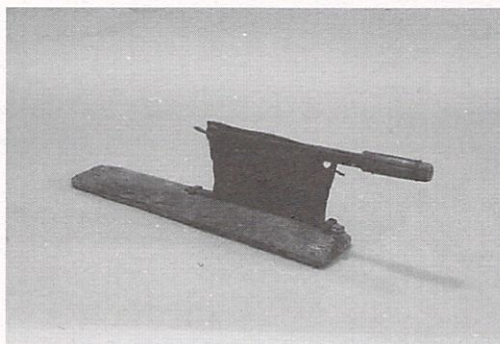
1点

神崎郡永源寺町山上

鉄製。台は木製。牛の飼料用の藁、野草等を切断する。また、縄などの切断にも使用した。明治時代に製作か。

法量(cm) 全長77.5, 幅11.8, 高20.6, (刃部) 長27.6, 高15.1, (柄) 長11.9, 径3.0

重量(g) 2600



102196 (1893)

2-L-01-01

押切り

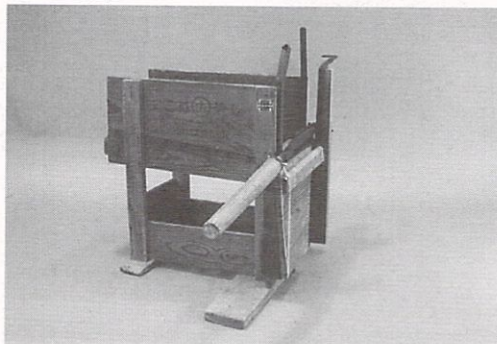
1点

東浅井郡浅井町八島

鉄製。台は木製。焼印「こばやし 山口県徳山市富岡 小林工業株式会社」。プレート「責任保証 こばやし 小林工業株式会社 山口県徳山市富岡」など。

法量(cm) 横58.5, 縦92.0, 高71.5, 刃渡42.0

重量(g) 12200



102197 (3847)

2-L-01-01

カイバキリ (飼葉切)

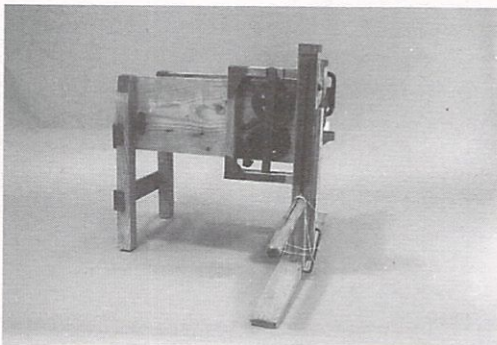
1点

高島郡朽木村麻生

鉄製。台は木製。牛の飼料として一定の長さに藁を切り揃える。操作は簡便で危険が少なく、在来押切りよりも効率的である。昭和初期に農機具商から購入。昭和30年代まで使用。印字「登録商標 本長正式」。

法量(cm) 縦73.0, 横63.5, 高67.0, 刃渡25.5

重量(g) 14000



102198 (3024)

2-L-01-01

カイバオケ (飼馬桶)

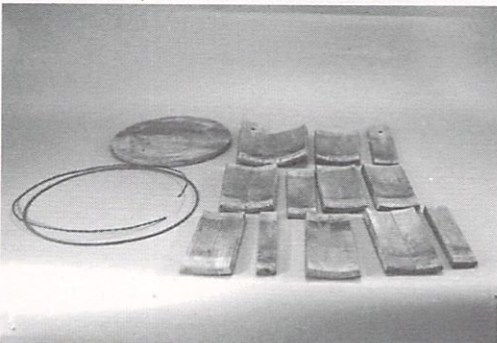
1点

草津市北山田町

木製。針金の箍3本。牛馬のカイバ桶か。湖中で採集されたもの。

法量(cm) 底径41.1, 高35.4

重量(g) 6200



102199 (1783)

2-L-01-01

カイバオケ (飼馬桶)

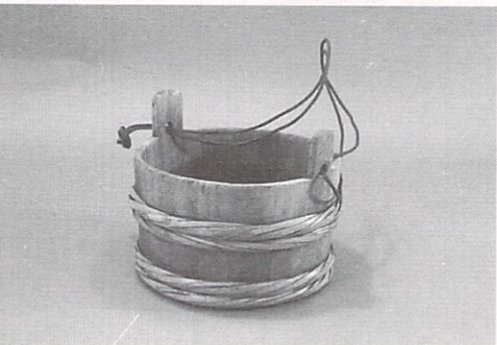
1点

八日市市大森町

木製。箍は竹製。煮た飼料を入れ、牛に食べさせる。大正時代末期～昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 口径37.0, 高30.0

重量(g) 3400



102200 (581)

2-L-01-01

カイバ桶

1点

長浜市春近町

木製。箍は竹製。牛で農耕する時に牛に与える草を入れる。大正時代に製作、使用。

法量(cm) 口径40.5, 高36.7

重量(g) 3100



102201 (987)

2-L-01-01

飼馬桶

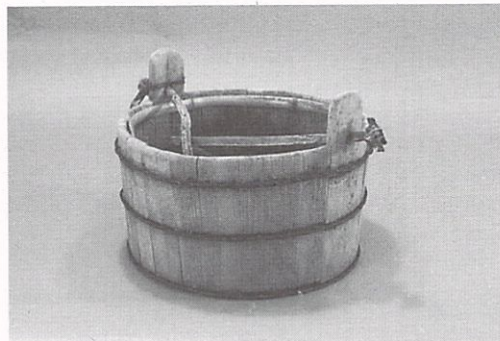
1点

神崎郡永源寺町市原野

木製。箍は針金。大鍋で炊いた飼料を入れて牛に与える。農家にとって牛は家族の一員といえ、飼料も十分吟味され、桶も頑丈なものを使用した。明治時代～昭和30年代まで使用。

法量(cm) 口径44.0, 高33.9

重量(g) 4200



102202 (3865)

2-L-01-01

ウシノモンオケ (飼馬桶)

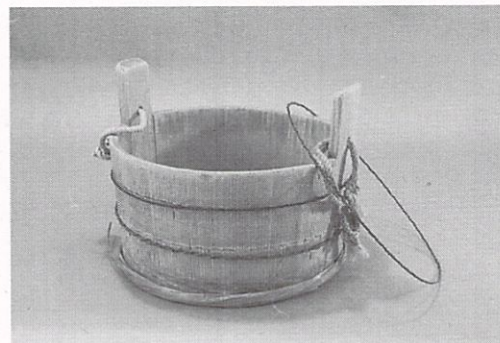
1点

高島郡朽木村麻生

自家の杉と真竹とで桶職人に作らせた。後に修理したときに鉄の番線に替えた。マニラ麻のロープと科の綱を付ける。母屋の棟続きに設置した既の戸前に置き、牛に飼料である乾草、藁、糠、緑草、野菜屑、残飯などを与えるのに使用した。昭和初期～30年代まで使用。

法量(cm) 口径47.9, 高37.5

重量(g) 4200



102203 (1895)

2-L-01-01

飼馬桶

1点

東浅井郡浅井町八島

木製。箍は竹と鉄。鉄製の手を付ける。

法量(cm) 口径49.0, 高27.0

重量(g) 5500



102204 (869)

2-L-01-01

牛のブラシ

1点

八日市市市辺町

牛の毛を洗うのに使用。昭和25年頃～32年頃まで使用。

法量(cm) 長19.5, 幅8.6, 高4.2

重量(g) 140



102205 (870)

2-L-01-01

牛のブラシ

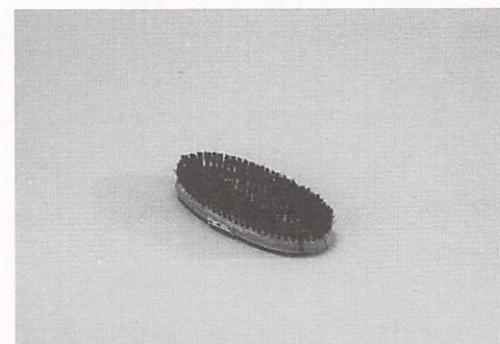
1点

八日市市市辺町

牛の毛を洗うのに使用。昭和25年頃～32年頃まで使用。

法量(cm) 長21.0, 幅9.8, 高2.8

重量(g) 122



102206 (3848)

ウシバケ (牛刷毛)

高島郡朽木村麻生

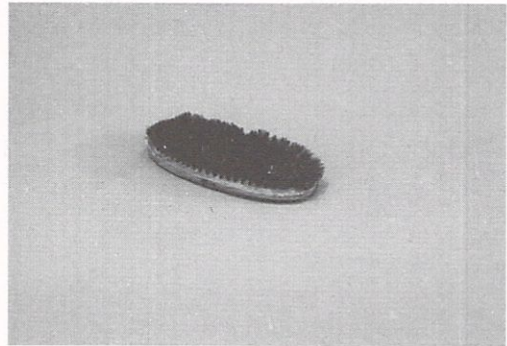
購入品。鉄製。飼育する牛の手入れ用。好天の日に馬屋から出して、毛梳は肌を掻き糞など異物を除き、刷毛は毛並みに光沢を出す。昭和10年代に購入。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 長20.7, 幅9.4, 高3.5

重量(g) 124

2-L-01-01

1点



102207 (871)

牛のカネブラシ

八日市市市辺町

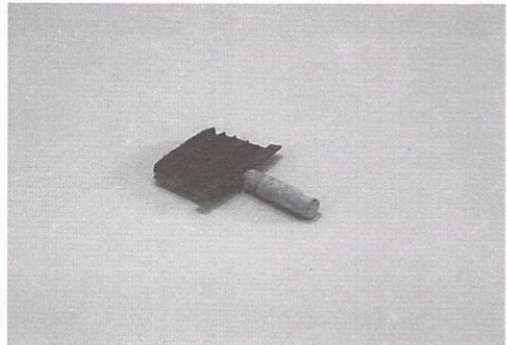
牛の毛を洗うのに使用。昭和25年頃～32年頃まで使用。

法量(cm) 長17.8, 幅14.1, 高1.3, (柄)長8.9, 径2.4

重量(g) 195

2-L-01-01

1点



102208 (3848)

ウシバケ (牛刷毛)

高島郡朽木村麻生

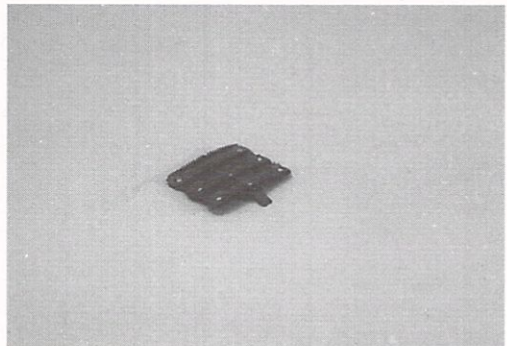
購入品。鉄製。飼育する牛の手入れ用。好天の日に馬屋から出して、毛梳は肌を掻き糞など異物を除き、刷毛は毛並みに光沢を出す。昭和10年代に購入。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 長8.8, 幅11.9, 高1.2, (柄)長2.0

重量(g) 71

2-L-01-01

1点



102209 (613)

マヤウチワ

神崎郡永源寺町山上

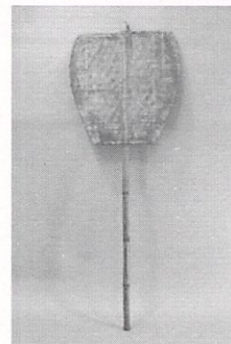
秋から初冬の乾燥日の続く日に真竹を伐採し、1.0～1.2mに切って割る。交互に組合わせて柄を付ける。乾燥したら両面に反故紙を貼り、柿渋を2～3度塗り込む。夏期に蚊と蠅を駆除するため、青草と枯枝を混ぜて点火し、煙を牛小屋に送り込んだ。江戸時代～明治時代に製作か。大正時代まで使用。

法量(cm) 長220.0, 幅80.0, (柄)径4.1

重量(g) 1400

2-L-01-01

1点



102210 (954)

マヤダシグワ (馬屋出し鍬)

蒲生郡日野町寺尻

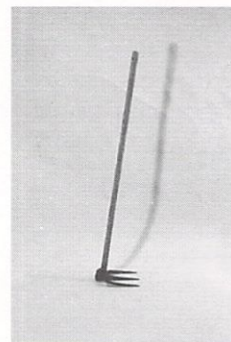
鉄製。木製の柄を付ける。牛舎内の堆肥を取り出すのに使用。明治時代中期～昭和10年頃まで使用。焼印あり。

法量(cm) 長117.4, (鍬部)幅14.0, 長23.5, (柄)長径2.7, 短径2.2

重量(g) 1300

2-L-01-01

1点



102211

2-L-01-01

フォーク

1点

近江八幡市牧町

鉄製。櫛製の柄を付ける。馬屋の堆肥を出すのに使用。焼印あり。

法量(cm) 全長110.3, (鍬部) 幅22.5, 長30.3, (柄) 径3.7, (握手) 幅11.5

重量(g) 1500



102212 (241)

2-L-01-02

クラ (鞍)

1点

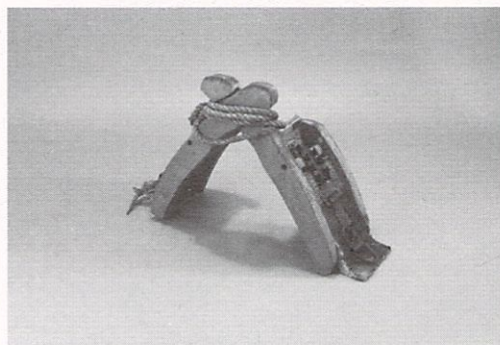
八日市市三津屋町

木製。農耕に使用。明治時代中期～大正時代中期まで使用。スタンプ

「農業 〇門木工株式会社」。

法量(cm) 縦17.3, 横45.0, 高36.3

重量(g) 3100



102213 (3845)

2-L-01-02

タグラ (田鞍)

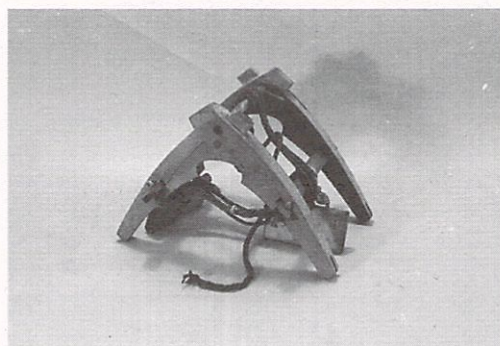
1点

高島郡朽木村麻生

購入品。木製。綱などの付属品は自作する。役牛に犁、荷車、櫓、丸太材などの重量物を引かせるとき牛の背にのせる。農耕に使用するため田鞍と呼んだ。炭俵や穀俵などの荷を載せる鞍は荷鞍といい、やや大型である。昭和初期～30年代まで使用。

法量(cm) 縦25.3, 横46.5, 高30.3

重量(g) 2100



102214 (173)

2-L-01-02

クラ (鞍)

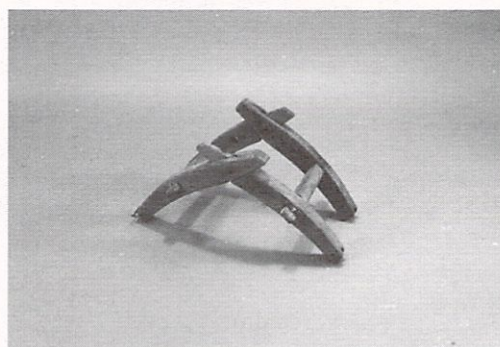
1点

長浜市国友町

櫛製。田を鋤く時に使用。鞍を乗せて牛の体に固定し、鋤を引っぱる綱をかける。昭和20年頃に製作。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 縦26.0, 横49.0, 高26.0

重量(g) 1200



102215 (241)

2-L-01-02

クラ (鞍)

1点

八日市市三津屋町

木製。農耕用に使用。明治時代中期～大正時代中期まで使用。

法量(cm) 縦29.0, 横40.0, 高29.0

重量(g) 1000



102216 (326)

2-L-01-02

牛のクラ (鞍)

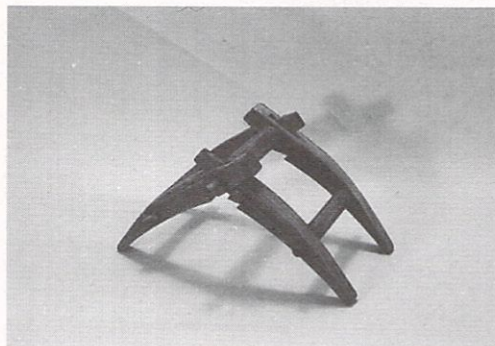
1点

八日市市川合寺町

木製。農耕用。牛の背に鞍下の藁で作った矩形のものを振り分けにのせ、その上に鞍をのせる。鞍の足に追い綱を通す。

法量(cm) 縦32.3, 横40.0, 高28.4

重量(g) 1300



102217 (344)

2-L-01-02

牛のクラ (鞍)

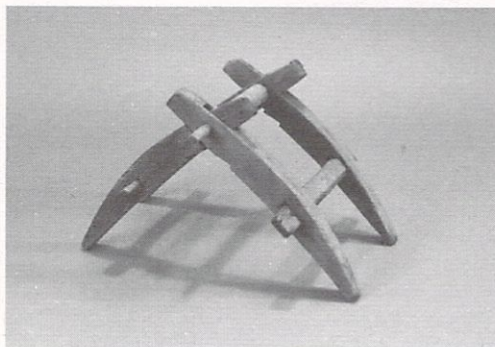
1点

八日市市寺町

木製。昭和20年頃まで使用。

法量(cm) 縦30.3, 横41.4, 高25.5

重量(g) 1200



102218 (593)

2-L-01-02

牛の鞍

1点

野洲郡中主町比留田

鞍、首木、尻木は木製。鞍下、腹帯は藁製。首木に焼印「登録商標意匠」「安楽首木」「近江甲賀郡土山」「丸田興業株式会社」「中型」「前」。鞍に焼印「儀」。

法量(cm) (鞍) 縦23.5, 横44.5, 高33.0, (首木) 長63.1, 幅5.6, 径4.2, 高17.0, (尻木) 長71.3, 径6.3, (袋大) 縦93.0, 横80.0, (袋小) 縦98.8, 横56.4

重量(g) (鞍) 3700, (首木) 805, (尻木) 847, (袋大) 1200, (袋小) 290



102219 (588)

2-L-01-02

牛の鞍

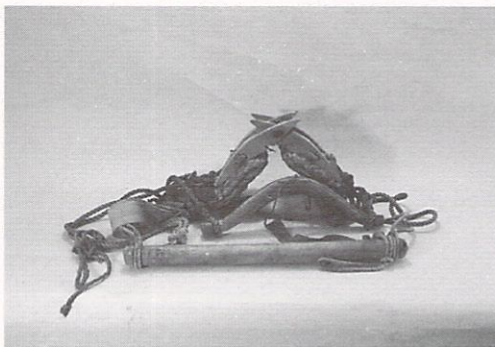
1点

野洲郡中主町比留田

鞍、首木、尻木は木製。鞍下、腹帯は藁製。首木に焼印「登録商標牛曰く極楽首木」「近江甲賀郡山内」「實用新案登録」「登録商標」「□型」「前」「九□□部」。

法量(cm) (鞍) 縦25.4, 横43.0, 高29.5, (首木) 長55.4, 幅4.9, 長径4.1, 短径3.7, 高17.8, (尻木) 長77.2, 径5.5

重量(g) (鞍) 3900, (首木) 815, (尻木) 900



102220 (1922)

2-L-01-02

クラ (鞍)

1点

八日市市市辺町

木製。藁。農耕に使用。牛で水田を耕作する。昭和24年～25年頃に製作。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 縦32.0, 横41.6, 高23.4

重量(g) 2800



102221 (481/482/483)

牛のハラオビ/牛のクラシタ/牛のクラ

八日市市市辺町

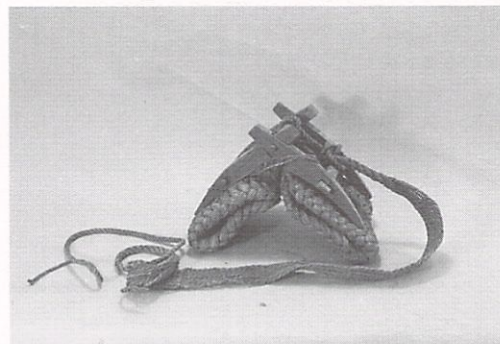
鞍は木製。鞍下と腹帯は藁製。農耕用に牛を使う時に使用。昭和初期～30年まで使用。

法量(cm) (鞍) 縦31.0, 横44.5, 高34.2

重量(g) 2700

2-L-01-02

1点



102222 (240)

牛のクラ (鞍)

八日市市三津屋町

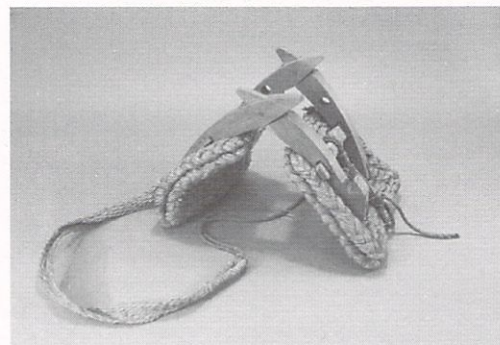
鞍は木製。鞍下は藁製。大名の中山道道中の助郷人足として出勤した際に牛を引き荷物を運搬した。江戸時代末期～明治時代初期まで使用。

法量(cm) (鞍) 縦32.8, 横48.0, 高34.0

重量(g) 3000

2-L-01-02

1点



102223 (274)

クラ (鞍)

八日市市三津屋町

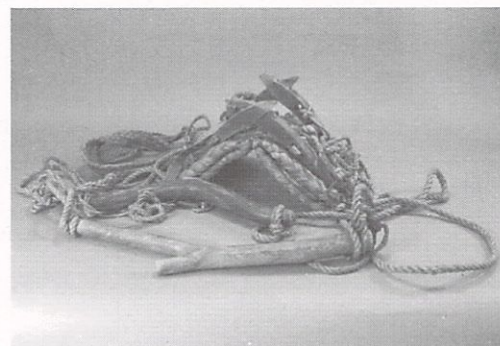
鞍、首木、尻木は木製。鞍下、腹帯は藁製。牛の農耕用。昭和初期～30年頃まで使用。首木に焼印「牛曰く極楽首木」「近江甲賀山内村」「實用新案□□□」「中型」「特製」など。

法量(cm) (鞍) 縦34.0, 横52.0, 高33.0, (首木) 長63.0, 幅6.3, 径4.6, 高20.0, (尻木) 長79.7, 高19.4, 径5.0

重量(g) (鞍) 4800, (首木) 900, (尻木) 820

2-L-01-02

1点



102224

牛の首掛け

近江八幡市牧町

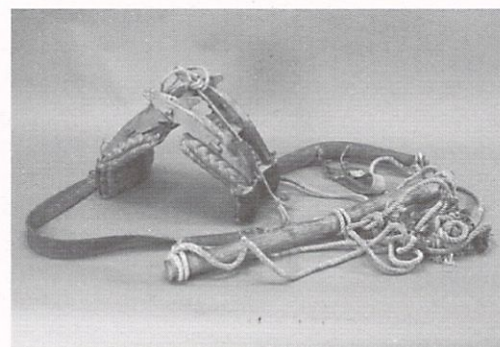
鞍、首木、尻木は木製。鞍下は藁製。首木に焼印「牛曰く極楽首木」「前」。

法量(cm) (鞍) 縦24.0, 横42.0, 高35.0, (首木) 長54.0, 幅3.5～5.5, 高21.0, (尻木) 長86.5, 径5.0

重量(g) (鞍) 3600, (首木・尻木) 3000

2-L-01-02

1点



102225 (978)

牛の首掛け

神崎郡永源寺町山上

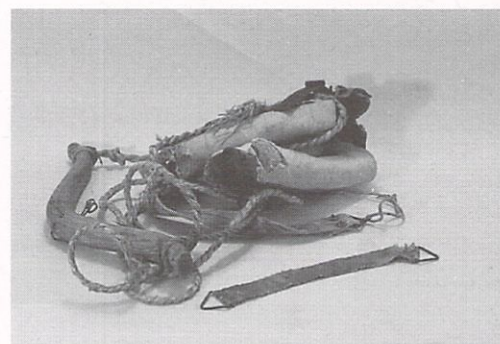
牛を農家で使役する際に牛の肩に取り付ける。荷車や唐鋤などを曳かせた。大正時代～昭和30年代まで使用。首木に焼印「登録商標牛曰く極楽首木」「近江甲賀郡山内」「丸田興業株式会社」「實用新案登録」「中型」「前」。

法量(cm) (鞍) 縦18.5, 横47.0, 高35.5, (首木) 長63.8, 幅5.0, 径3.7～4.6, 高18.8, (帯) 長47.7, 幅4.7

重量(g) (鞍) 4100, (首木) 600, (帯) 72

2-L-01-02

1点



102226

2-L-01-02

牛の鞍

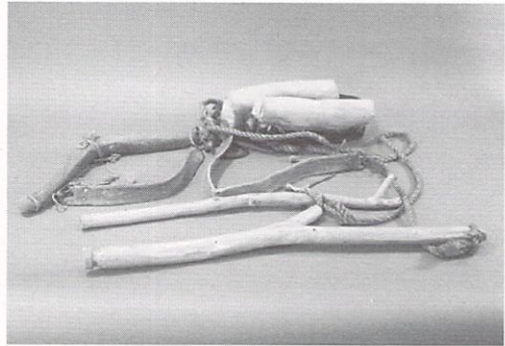
1点

八日市市建部上中町

鞍は革製。首木、尻木は木製。首木金具に刻印あり。焼印「牛曰く極楽首木」「登録商標」「新案特許」。

法量(cm) (鞍) 縦17.3, 横45.0, 高46.3, (首木) 長62.2, 幅6.4, 径3.6, 高19.1, (尻木) 長90.5, 径4.7, 高19.8~長80.0, 径3.4, 高8.9

重量(g) (鞍) 3500, (首木) 800, (尻木) 860, 275



102227 (1781)

2-L-01-02

牛の鞍、軛一式

1点

八日市市大森町

鞍は革製。首木は木製。麻袋付。大正時代初期~昭和30年代まで使用。プレート「實用新案登録 第三七三六一八號 第三九一六五〇號 水田式 牛馬鞍」。首木に焼印「牛曰く極楽首木」「近江甲賀郡山内」「丸田興業株式会社」「實用新案登録」「中型」など。袋に「金星化成」「1号 神代鍬印 正味37.5kg入 多木製肥所」など。

法量(cm) (鞍) 縦16.3, 横46.0, 高47.5, (首木) 長63.8, 幅5.5, 高17.9, 径3.5~4.6, (鎖) 長42.0, 幅4.4, (袋) 縦80.5, 横47.4, 縦70.2, 横54.0

重量(g) (鞍) 4600, (首木) 915, (鎖) 374, (袋) 364, 687



102228 (896)

2-L-01-02

牛の鞍

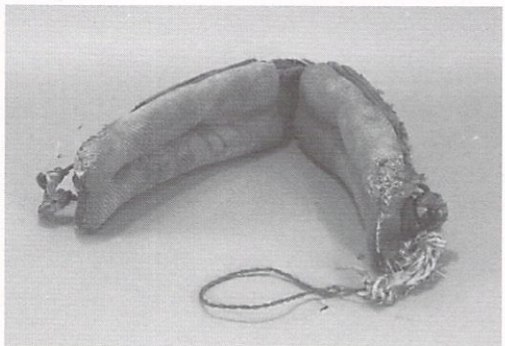
1点

八日市市市辺町

古タイヤを利用。牛の背に乗せる鞍。昭和初期に製作か。昭和4年頃~30年頃まで使用。タイヤに刻印「28×」。

法量(cm) 縦13.0, 横45.8, 高42.5

重量(g) 2700



102229 (1923)

2-L-01-02

クラ(鞍)

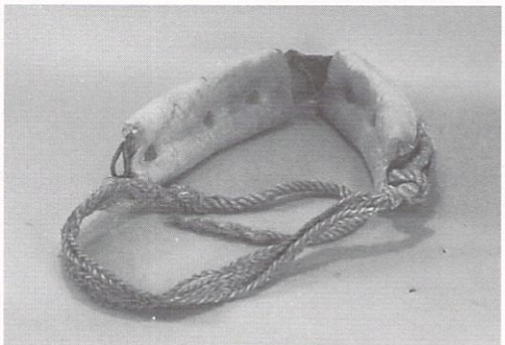
1点

八日市市市辺町

古タイヤを利用。農耕に使用。牛で水田を耕作する。昭和24年~30年頃まで使用。タイヤに刻印「CAPELLA TYPE」。「實用新案登録 第三七三六一八號 第三九一六五〇號 水田式 牛馬鞍」。

法量(cm) 縦14.5, 横51.0, 高46.5

重量(g) 4000



102230 (344)

2-L-01-02

牛のクラ(鞍)

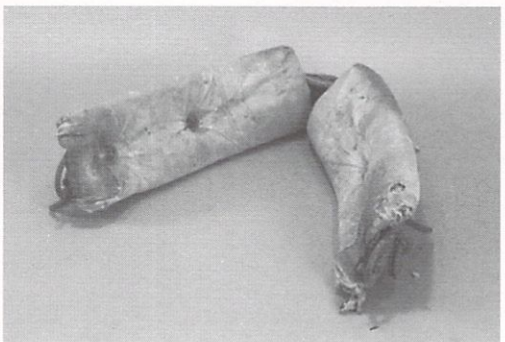
1点

八日市市寺町

革製。昭和20年頃まで使用。

法量(cm) 縦13.4, 横51.0, 高47.0

重量(g) 3600



102231 (274)

クラ (鞍)

八日市市三津屋町

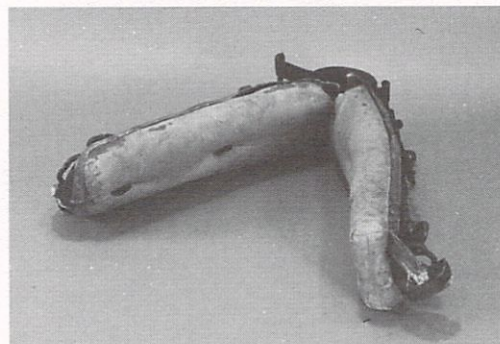
革製。牛の農耕用。昭和初期～30年頃まで使用。

法量(cm) 縦16.4, 横59.5, 高45.5

重量(g) 4900

2-L-01-02

1点



102232 (173)

クラ (鞍)

長浜市国友町

古タイヤを利用。一部手を加えて自己流に改造している。田を鋤く時に使用。鞍を乗せて牛の体に固定し、鋤を引っばる綱をかける。昭和20年頃に製作。昭和30年頃まで使用。ゴムに刻印「28」。金属プレート「實用新案登録 第三七三六一八號 第三九一六五〇號 水田式 牛馬鞍」。

法量(cm) 縦14.0, 横49.0, 高45.0

重量(g) 3900

2-L-01-02

1点



102233 (252)

クラ (鞍)

八日市市三津屋町

木製。鉄。綿。農耕用。大正初期～昭和30年まで使用。首木に焼印「牛曰く極楽首木」「近江甲賀郡山内」「丸田興業株式会社」「實用新案登録」「登録商標」「中型」「前」。プレート「登録商標牛曰く極楽首木」。

法量(cm) (首木) 長63.9, 幅5.0, 径4.3, 高7.5, (尻木) 長81.3, 径4.9, 高19.7

重量(g) (首木) 700, (尻木) 778

2-L-01-02

1点



102234 (289)

牛のクラ (鞍)

八日市市三津屋町

木製。耕作用の牛の鞍。昭和30年頃まで使用。首木に焼印「登録商標牛曰く極楽首木」「九工藝部」「新案特許」「前」。

法量(cm) (首木) 長62.3, 径4.7, 幅6.7, 高7.3, (尻木) 長78.7, 径5.0, 高20.1

重量(g) (首木) 1200, (尻木) 1200

2-L-01-02

1点



102235 (1392)

引綱具

神崎郡永源寺町山上

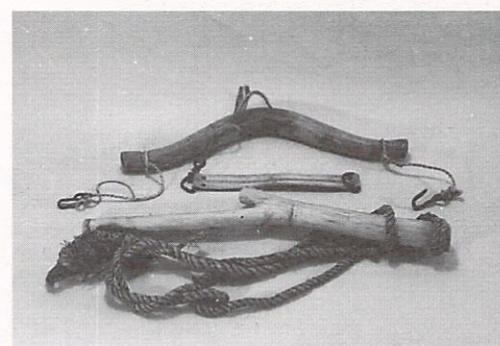
自家製。木製。農耕用。大正時代に製作。大正時代～昭和30年代まで使用。首木に焼印「牛曰く極楽首木」「實用新案登録」「登録商標」「前」。

法量(cm) (首木) 長66.0, 径4.5, 幅5.5, 高18.0, (尻木) 長74.3, 径5.7, 高6.3

重量(g) (首木) 927, (尻木) 1100

2-L-01-02

1点



102236 (278)

クビキ (軛)

2-L-01-02

1点

八日市市三津屋町

木製。牛の首につけ、農耕機を取り付ける。昭和初期～30年頃まで使用。

首木に焼印「登録商標 牛曰く極楽首木」「近江甲賀山内村」「□工芸部」「新案特許」「中型」「前」。

法量(cm) (首木) 長61.4, 幅5.9, 径4.1, 高18.0, (帯) 長68.0, 幅4.8

重量(g) (首木) 820, (帯) 179



102237 (479)

牛のクビキ

2-L-01-02

1点

八日市市市辺町

木製。牛の首の上部につける。昭和初期～30年まで使用。首木に焼印「登録商標 牛曰く極楽首木」「實用新案登録」「特製」「前」。

法量(cm) 長62.0, 幅6.0, 径4.0～6.0, 高19.3

重量(g) 1000



102238

(不詳) (首木)

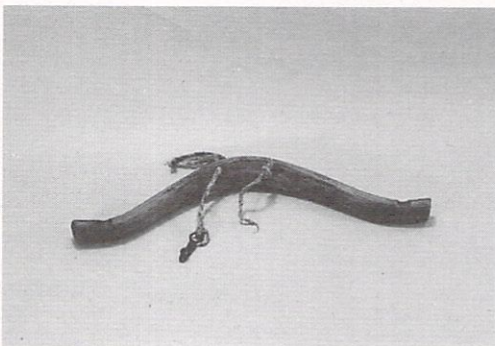
2-L-01-02

1点

木製。焼印「牛曰く極楽首木」「近江甲賀郡山内」「丸田興業株式会社」「實用新案登録」「登録商標」「中型」「前」。

法量(cm) 長64.2, 幅5.0, 径4.4, 高18.1

重量(g) 557



102239

(不詳) (首木)

2-L-01-02

1点

木製。焼印「牛曰く極楽首木」「丸田興業株式会社」「實用新案登録」「登録商標」「中型」「前」。

法量(cm) 長63.6, 幅5.7, 径4.8, 高18.8

重量(g) 908



102240 (344)

牛のクラ (鞍)

2-L-01-02

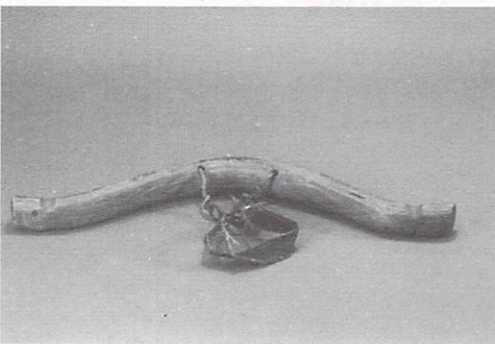
1点

八日市市寺町

木製。昭和20年頃まで使用。首木に焼印「登録商標牛曰く極楽首木」「近江甲賀郡山内」「丸田興業株式会社」「實用新案登録」「中型」「前」。

法量(cm) 長64.2, 幅4.7, 径3.6～4.9, 高18.0

重量(g) 714



102241 (1924)
(不詳) 〈首木〉

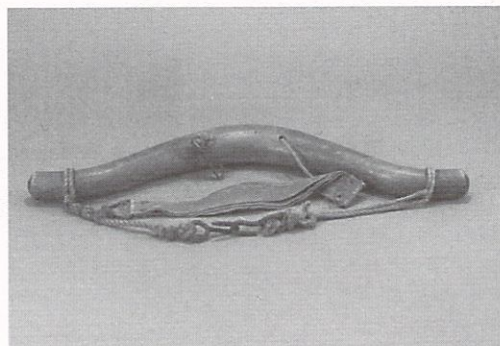
2-L-01-02
1点

八日市市市辺町

木製。農耕に使用。牛で水田を耕作する。昭和24年～30年頃まで使用。
首木に焼印「登録商標安楽首木」「近江甲賀郡山内」「丸田興業株式会社」
「登録意匠」「中型」「前」。

法量(cm) 長64.2, 幅5.4, 径4.1, 高16.3

重量(g) 860



102242 (2142)
牛のクビキ (頸木)

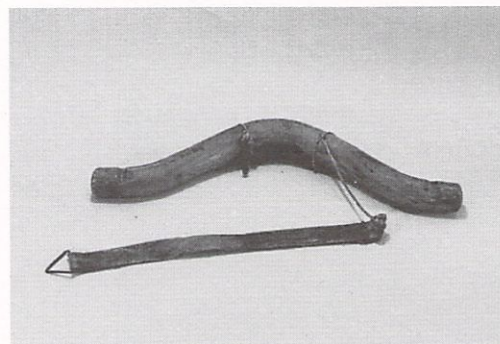
2-L-01-02
1点

高島郡今津町棕川

木製。布製のベルトが付く。大正時代～昭和初期まで使用。焼印「安楽
首木」「近江甲賀郡土山」「丸田興業株式会社」「登録商標意匠」「特大型」
「前」。

法量(cm) (首木) 長73.5, 幅7.4, 径5.0～7.3, 高22.8, (帯) 長58.9, 幅
5.0

重量(g) 計1900



102243 (897)
牛の腹帯

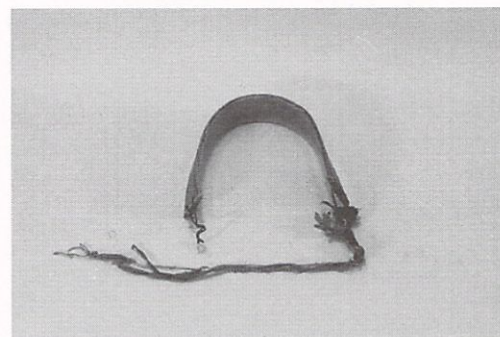
2-L-01-02
1点

八日市市市辺町

布製。機械用ベルト。牛の腹に巻いて鞍とつなぐ。昭和23年～30年まで
使用。

法量(cm) 長76.6, 幅5.7

重量(g) 353



102244 (1926)
ハラオビ (腹帯)

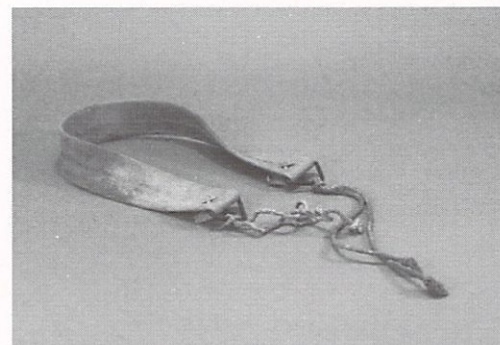
2-L-01-02
1点

八日市市市辺町

布製。昭和24年～30年頃まで使用。

法量(cm) 長92.6, 幅6.9

重量(g) 363



102245 (898)
牛のカイボウ (尻掛棒)

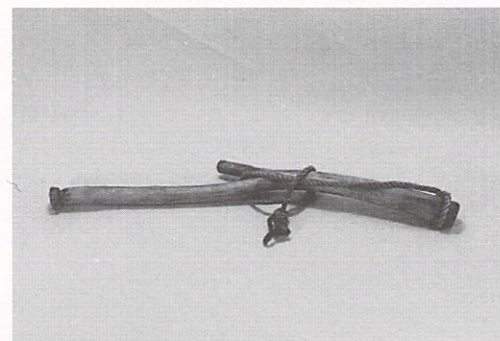
2-L-01-02
1点

八日市市市辺町

自家製。百日紅製。麻紐を付け、鉄製の鉤を付ける。牛の尻に掛けて耕
作用具をつける。昭和18年頃に製作。昭和18年～30年頃まで使用。

法量(cm) 長98.0, 径6.2, 高20.7

重量(g) 1200



102246 (898)

牛のカイボウ (尻掛棒)

八日市市市辺町

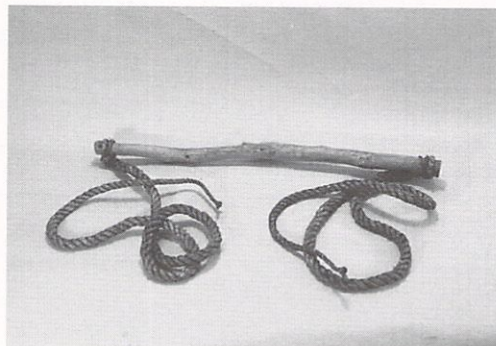
自家製。百日紅製。藁縄を付ける。牛の尻に掛け、耕作用具をつける。
昭和20年頃に製作。未使用。

法量(cm) 長95.8, 径4.9, 高15.5

重量(g) 1600

2-L-01-02

1点



102247 (898)

牛のカイボウ (尻掛棒)

八日市市市辺町

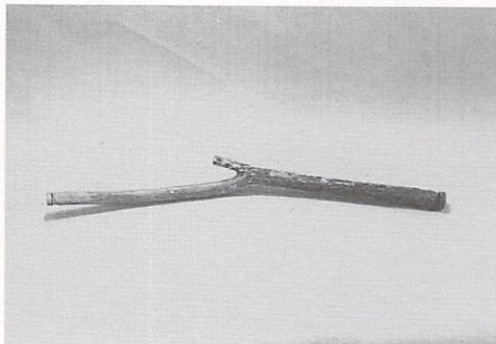
自家製。百日紅製。牛の尻に掛け、耕作用具をつける。昭和20年頃に製作。未使用。

法量(cm) 長105.3, 径4.6, 高16.7

重量(g) 674

2-L-01-02

1点



102248 (898)

牛のカイボウ (尻掛棒)

八日市市市辺町

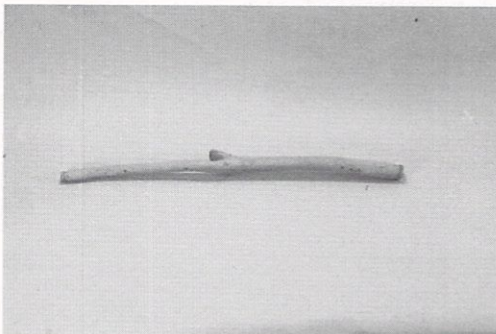
自家製。百日紅製。牛の尻に掛け、耕作用具をつける。昭和20年頃に製作。未使用。

法量(cm) 長90.0, 径4.4, 高11.5

重量(g) 530

2-L-01-02

1点



102249 (1925)

シリギ (尻木)

八日市市市辺町

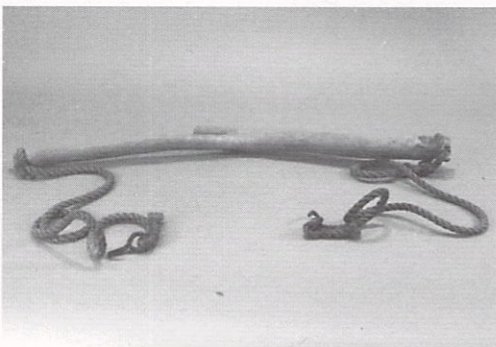
木製。昭和24年～30年頃まで使用。

法量(cm) 長97.8, 径5.6, 高22.3

重量(g) 1200

2-L-01-02

1点



102250 (1925)

牛の道具

八日市市市辺町

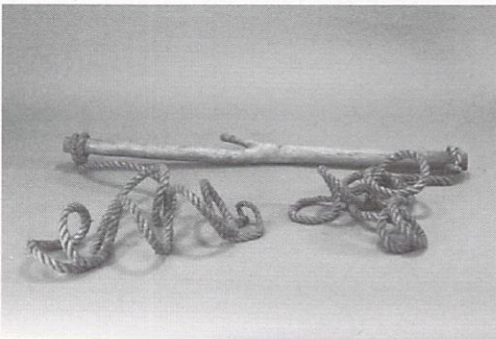
木製。昭和24年～30年頃まで使用。

法量(cm) 長96.2, 径4.6, 高16.0

重量(g) 1400

2-L-01-02

・ 1点



102251 (344)

牛のクラ（鞍）

八日市市寺町

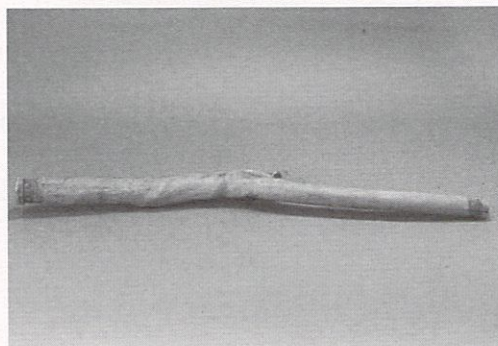
木製。昭和20年頃まで使用。

法量(cm) 長95.4, 径5.7, 高7.3

重量(g) 1100

2-L-01-02

1点



102252 (1390)

牛の尻棒

神崎郡永源寺町山上

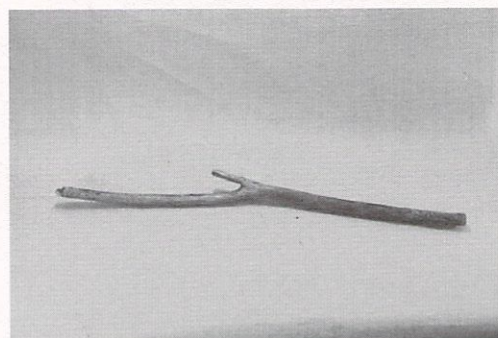
木製。農耕用。大正時代に製作。

法量(cm) 長130.3, 径4.5, 高15.8

重量(g) 837

2-L-01-02

1点



102253 (1390)

牛の尻棒

神崎郡永源寺町山上

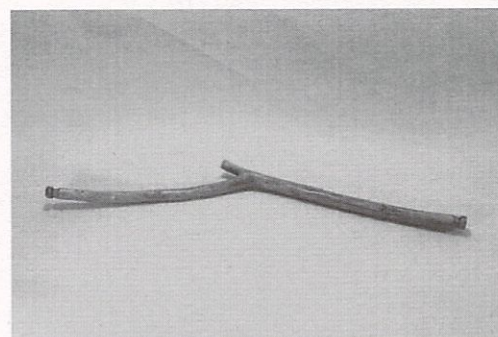
木製。農耕用。大正時代に製作。

法量(cm) 長105.1, 径3.5, 高20.0

重量(g) 464

2-L-01-02

1点



102254 (1390)

牛の尻棒

神崎郡永源寺町山上

木製。農耕用。大正時代に製作。

法量(cm) 長86.0, 径5.6, 高16.0

重量(g) 826

2-L-01-02

1点



102255 (977)

牛の尻棒

神崎郡永源寺町山上

自家製。木製。牛に牛車や犁などを牽引させる際に使用。牛の首掛具から麻綱と金具により、尻棒の両側に曳綱を取り付ける。更に尻棒の中央から牽引する物に一本の曳綱を結んで牽引した。大正時代に製作。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 長76.0, 径5.8, 高22.4

重量(g) 1100

2-L-01-02

1点



102256 (988)

2-L-01-02

牛の尻棒

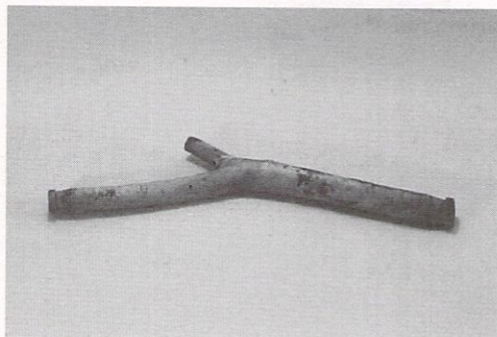
1点

神崎郡永源寺町市原野

自家製。山林や庭木を切り、両側を削る。牛の首木から麻縄と金具で尻棒の両端を結び、尻棒の中央から麻紐で荷車や犁などにつなぐ。昭和40年代まで使用。

法量(cm) 長70.0, 径5.2, 高21.2

重量(g) 737



102257 (988)

2-L-01-02

牛の尻棒

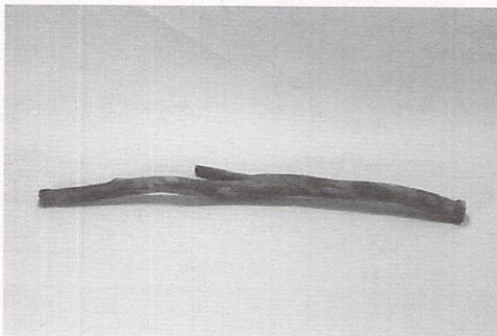
1点

神崎郡永源寺町市原野

自家製。山林や庭木を切り、両側を削る。牛の首木から麻縄と金具で尻棒の両端を結び、尻棒の中央から麻紐で荷車や犁などにつなぐ。昭和40年代まで使用。

法量(cm) 長93.5, 径5.0, 高15.2

重量(g) 1000



102258 (2136)

2-L-01-02

マルカセ (丸枷)

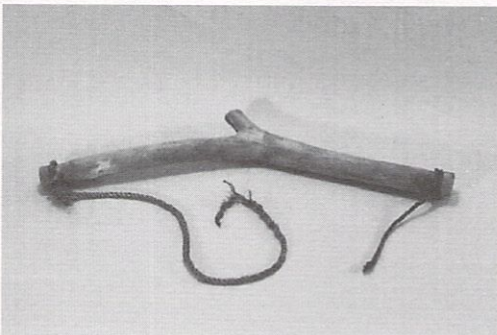
1点

高島郡今津町椋川

自然木を加工して作る。牛の鞍につなぎ、マルカセにカラスキや牛車を固定する。昭和初期まで使用。

法量(cm) 長84.5, 径5.5, 高22.2

重量(g) 1150



102259 (285)

2-L-01-03

牛のクチフサギ

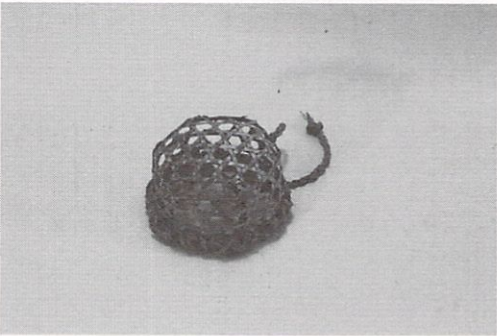
1点

八日市市三津屋町

竹製。藁紐付。耕作時に牛が草を食べないように牛の口に取り付ける。昭和初期～30年頃まで使用。

法量(cm) 口径22.3, 高14.5

重量(g) 132



102260 (885)

2-L-01-03

牛のクチカゴ (口籠)

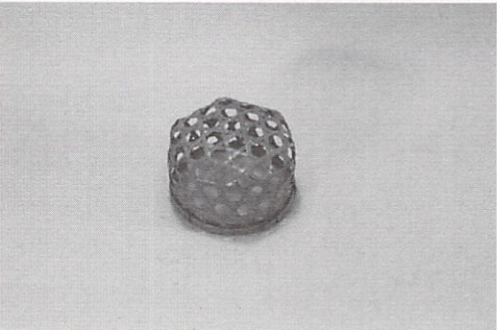
1点

八日市市市辺町

竹製。針金で留める。耕作時に牛が草を食べないように牛の口に取り付ける。大正時代末期～昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 口径21.0, 高14.2

重量(g) 103



102261 (1389)

2-L-01-03

クチカゴ (口籠)

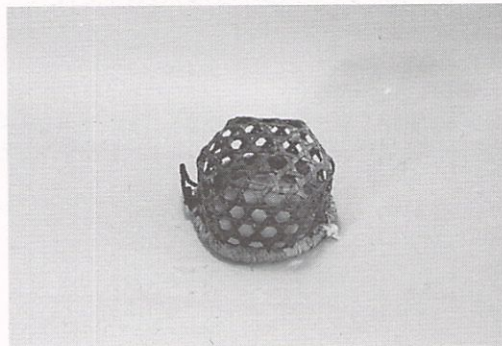
1点

神崎郡永源寺町山上

竹製。耕作時に牛が草を食べないように牛の口に取り付ける。大正時代に製作。

法量(cm) 口径23.5, 高16.3

重量(g) 174



102262 (1389)

2-L-01-03

クチカゴ (口籠)

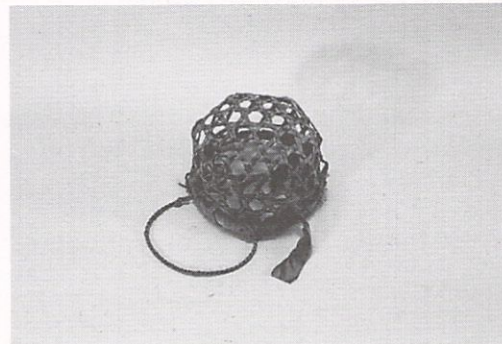
1点

神崎郡永源寺町山上

竹製。耕作時に牛が草を食べないように牛の口に取り付ける。大正時代に製作。

法量(cm) 口径23.3, 高15.6

重量(g) 145



102263 (3846)

2-L-01-03

クチノコ (口籠)

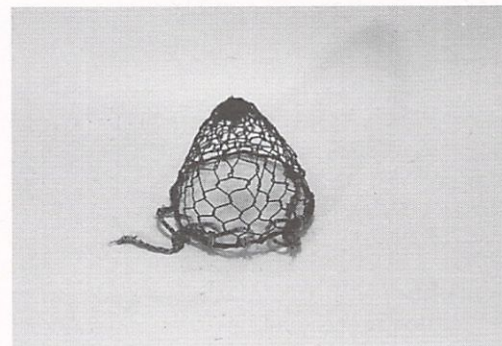
1点

高島郡朽木村麻生

自家製。金網。成牛や仔牛の口の大きさに合わせて作る。牛が野良や土手の草を食べて動かなくなるのを防ぐため口を塞ぐ。戦後に製作。昭和20年代～30年代まで使用。

法量(cm) 口径23.3, 高20.2

重量(g) 404



102264 (3846)

2-L-01-03

クチノコ (口籠)

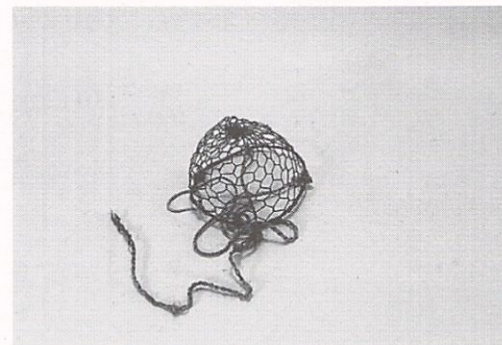
1点

高島郡朽木村麻生

自家製。金網。成牛や仔牛の口の大きさに合わせて作る。牛が野良や土手の草を食べて動かなくなるのを防ぐため口を塞ぐ。戦後に製作。昭和20年代～30年代まで使用。

法量(cm) 口径20.5, 高13.5

重量(g) 129



102265 (631)

2-L-01-03

牛のクツロゴ

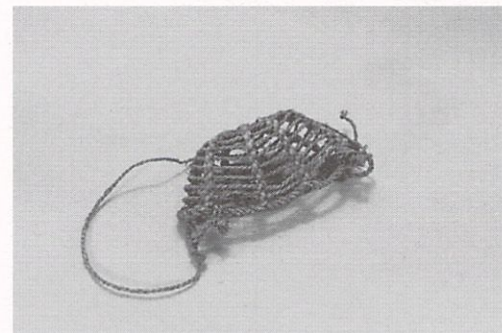
1点

八日市市川合寺町

薬製。

法量(cm) 口径25.3, 高14.8

重量(g) 177



102266

牛の口塞ぎ

八日市市三津屋町

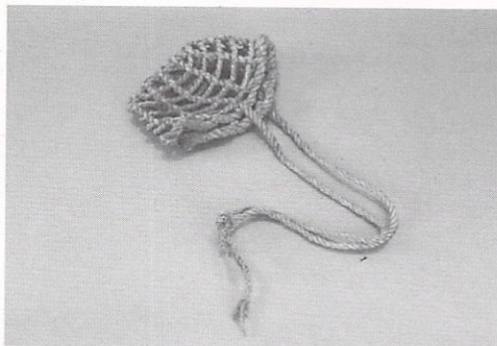
藁製。

法量(cm) 口径24.0, 高17.5

重量(g) 228

2-L-01-03

1点



102267 (327)

牛のオイツナ (追い綱)

八日市市川合寺町

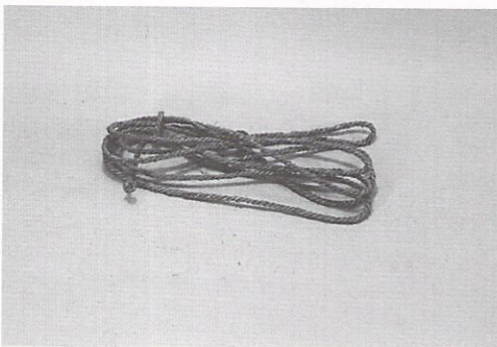
藁製。牛に対する命令伝達用具。牛の鼻木に追い綱をくくり、鞍を通して牛の後ろより、人がこの綱を持ち、この綱を牛の胴に打つようにしながら「シイシイ」というと牛は進み、この綱を左後方に引きながら「オーオー」というと牛は止まる。

法量(cm) 長576.0, 径1.0

重量(g) 135

2-L-01-03

1点



102268

(不詳) 〈追い綱〉

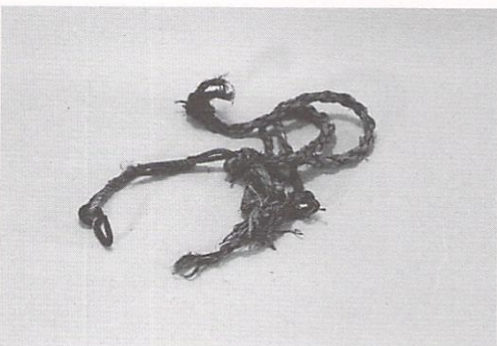
藁製。先に金具を付ける。

法量(cm) 長120.0, 径2.0, 金具長9.4, 幅1.0, 輪径4.1

重量(g) 251

2-L-01-03

1点



102269 (280)

牛のミノ (蓑)

八日市市三津屋町

自家製。竹製。棕櫚。雨天の牛の外出の際に牛の背にのせる雨具。昭和10年頃に製作。昭和10年～30年頃まで使用。

法量(cm) 長74.0, 幅52.5

重量(g) 766

2-L-01-03

1点



102270 (283)

牛のクツ (沓)

八日市市三津屋町

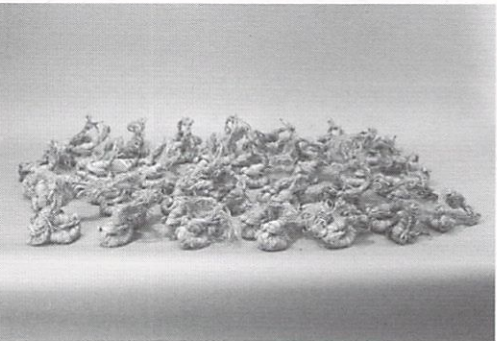
自家製。藁製。牛を野外に出すときに履かせる。別名牛のワラジ。昭和初期に製作。昭和30年まで使用。

法量(cm) 縦10.3, 横8.5, 高7.5

重量(g) 計4015

2-L-01-03

57点



102271 (328)

牛のワラジ (草鞋)

八日市市川合寺町

藁製。牛の足に履かせる。昭和24年頃に製作。

法量(cm) (左) 縦13.3, 横10.2, 高11.4, (右) 縦12.0, 横9.8, 高12.0

重量(g) (左) 108, (右) 92

2-L-01-03

1点



102272 (471)

牛のワラジ

坂田郡伊吹町甲津原

藁製。未使用。

法量(cm) 縦11.0, 横6.8, 高9.2

重量(g) 計83

2-L-01-03

1点



102273 (273)

牛のクツ (沓)

八日市市三津屋町

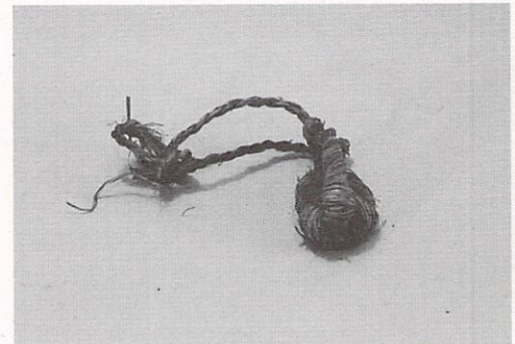
自家製。藁製。牛の蹄を保護するために歩行中に使用。昭和30年頃に製作、使用。

法量(cm) 縦13.5, 横9.3, 高10.0

重量(g) 104

2-L-01-03

1点



102274 (1782)

トリカゴ (鳥籠)

八日市市大森町

竹を六ツ目に編む。鶏を飼育する時に使用。また、籠の下に箱火鉢を置き、乳児のオムツや衣類を乾燥させる。別称オムツホシ。昭和17年~20年頃まで使用。

法量(cm) 口径83.0, 高62.0

重量(g) 1600

2-L-01-04

1点



102275

トリカゴ

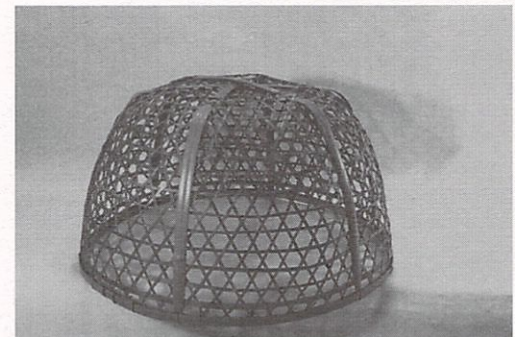
竹を六ツ目に編む。

法量(cm) 口径90.0, 高52.5

重量(g) 1800

2-L-01-04

1点



102276 (882)

2-L-01-04

鶏の水呑器 (ダルマ)

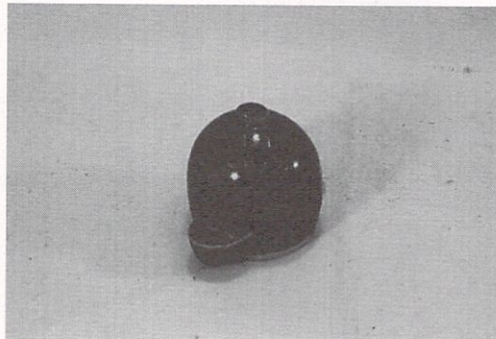
1点

八日市市市辺町

陶器製。水を入れて鶏小屋の中に入れておくと鶏が水を飲む。昭和20年頃～55年頃まで使用。

法量(cm) 底径11.5, 高12.8, 最大幅14.6

重量(g) 493



102277 (2596)

2-L-01-05

分蜜機

1点

長浜市名越町

外側はブリキ製。岐阜市下竹町の松原喜八総本場で製作されたもの。蜜蜂の巣を入れ、ハンドルを回すことで遠心力により蜜を取り出す。戦後まで使用。プレート「養蜂機具 ク井一ン巢機製作元 松原喜八総本場 岐阜市下竹町」など。

法量(cm) 直径49.0, (箱) 縦52.5, 横43.0, 全高109.6

重量(g) 2140



102278 (1077)

2-M-01-01

オ (苧)

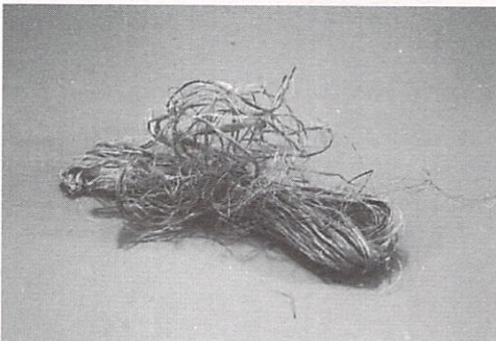
1点

滋賀郡志賀町栗原

麻は土用の風を三日吹かせたら刈り、よく干してから水に漬け、皮を剥いて煮る。煮た皮を台の上で扱く。この段階を苧(オ)といい、これを紡ぐと麻糸になる。明治時代に製作。戦前まで使用。

法量(cm) 長43.5, 幅11.0

重量(g) 70



102279 (2064)

2-M-01-01

オタバ (苧束)

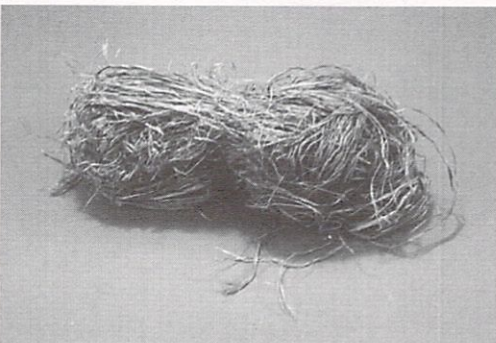
1点

伊香郡余呉町上丹生

麻の種を春に播き、土用～8月の開花前に刈り取る。刈り取った麻を束にし、筵をかぶせて水をかけて蒸す。皮を剥ぎ、表面の緑皮をそぎ取る。河川で水にさらし、束にして日に干す。紡糸して織糸の原料とする。高島地方では茎を長桶に入れて蒸し、皮を剥く方法もあるが、このほうが繊維が白く仕上がる。大正時代末期に製作。

法量(cm) 長42.0, 幅17.0

重量(g) 252



102280 (3897)

2-M-01-01

ヲ (苧)

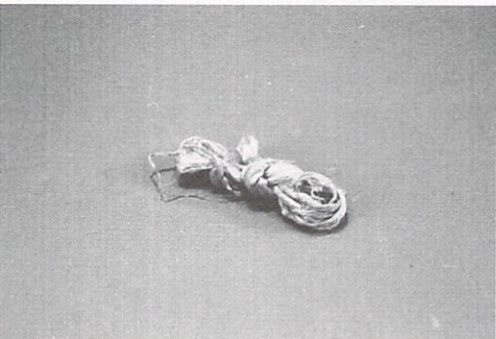
1点

高島郡今津町椋川

麻皮の繊維。織り糸用に績む。また薬細工の編紐に使用する。昭和10年代に製作。

法量(cm) 全長210.0, 幅5.0

重量(g) 16



102281 (2140)

2-M-01-01

フジの繊維

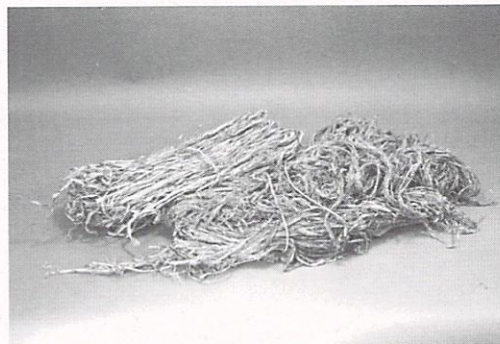
1点

高島郡今津町椋川

フジから採る。この繊維から糸を作って、コンナシなどの着物を織った。
昭和初期に製作。

法量(cm) (左) 長78.0, 幅27.0, (右) 長107.0, 幅58.0

重量(g) (左) 875, (右) 2100



102282 (1703)

2-M-01-01

漁網

1点

東浅井郡浅井町郷野

絹。柿渋を塗る。漁網。網織紬の材料。

法量(cm) 縦76.0, 横31.0

重量(g) 149



102283 (3866)

2-M-01-02

ムシブタ (鍋蓋)

1点

高島郡朽木村麻生

杉の株板を斧などで削って作る。頂点部に孔をあけ薬縄を通す。屋外の
臨時竈で大麻皮、三俣、油桐の実などを蒸したり煮た大鍋の蓋か。大正
時代まで使用。

法量(cm) 長径58.0, 短径54.5, 高15.0

重量(g) 2400



102284 (1706)

2-M-02-01

糸取り機

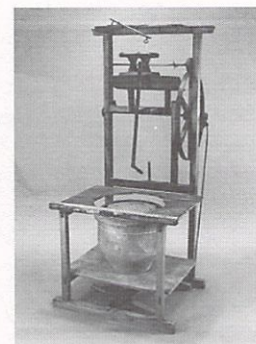
1点

坂田郡伊吹町寺林

鍋をかけ、熱湯の中で煮た繭から糸を取る。焼印「滋賀縣」「認検」な
ど。

法量(cm) 縦79.0, 横65.0, 高139.5, (甕) 口径38.0, 高32.0

重量(g) 計37500



102285 (429)

2-M-02-01

イトヒキダルマ

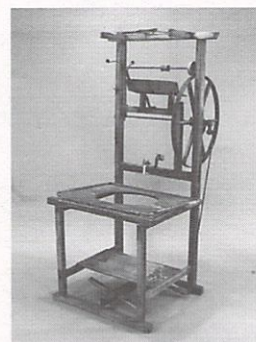
1点

東浅井郡びわ町早崎

木製。一部鉄製。焼印「滋賀縣」「本□ 請合 近江坂田郡大原村字板
戸」「認印」。

法量(cm) 縦82.5, 横63.8, 高140.5

重量(g) 10800



102286 (324)

2-M-02-01

繭の糸出し釜

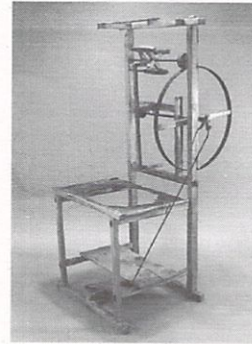
1点

八日市市川合寺町

木製。一部鉄製。繭の糸をとるのに使用。土鍋に湯を沸かして繭を入れ、糸口を取る。上の糸車にかけ、糸巻に絹糸をまく。明治時代初期～大正時代初期まで使用。

法量(cm) 縦83.0, 横63.0, 高144.3

重量(g) 9900



102287

2-M-02-01

(不詳) 〈繭すくい〉

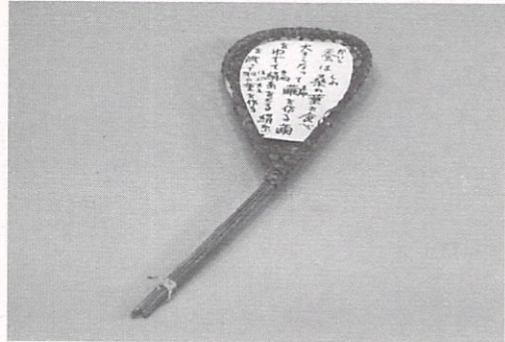
1点

彦根市武奈町

竹製。柄は木製。繭をすくうのに使用か。

法量(cm) 幅23.5, 長62.0

重量(g) 100



102288 (968)

2-M-02-01

糸入れ桶

1点

蒲生郡日野町寺尻

檜製。桜の皮で留める。麻を裂いて糸に績んで桶に入れる。江戸時代末期～明治時代初期まで使用。

法量(cm) 口径26.2, 高8.4

重量(g) 364



102289 (3851)

2-M-02-01

ウミオケ (学桶)

1点

高島郡朽木村麻生

杉板製。桜の皮、竹釘で留める。冬期、女性が機織りする糸を績むとき、ごみが付着しないよう専用の桶を使用した。囲炉裏の焚き火の傍らで行う老婆の手仕事であった。明治時代～昭和初期まで使用。

法量(cm) 口径26.0, 高19.2

重量(g) 566, (学) 97



102290 (376)

2-M-02-01

イトクリダイ (糸繰台)

1点

八日市市建部日吉町

木製。明治時代初期に製作か。

法量(cm) 縦21.6, 横11.7, 高24.6

重量(g) 1900



102291

綿繰機

草津市下物町

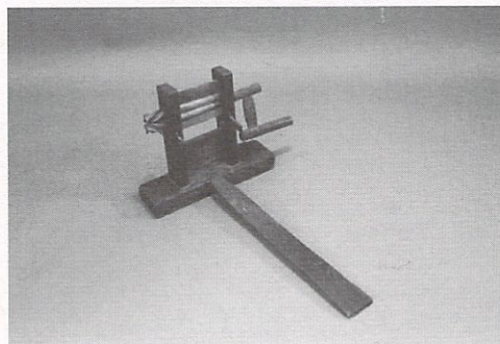
木製。昭和17～18年頃に少し使ったが、それ以前の使用は不明。大正時代には使用していない。焼印「播劬 加古川清助」。墨書「下物村庄三〇」「〇〇〇東 下物村庄〇」「天保二年卯八月〇〇」。

法量(cm) 長57.8, 幅33.1, 高28.1

重量(g) 1500

2-M-02-02

1点



102292 (237)

メクリ

八日市市三津屋町

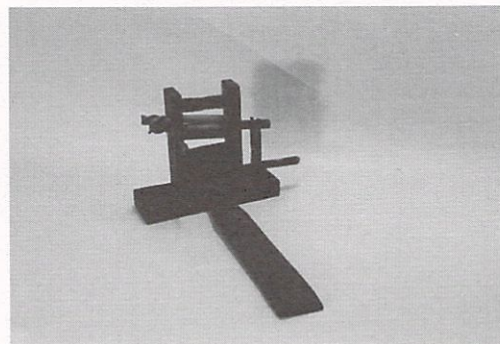
木製。棉の実より種子を取り除くための道具。実家で使用していたものを結婚時に持参した。明治時代後半～昭和19年まで使用。焼印「播劬 加古川清助」。墨書「明治貳年一月〇日戌〇年」「三津屋第〇号 川上助〇〇〇」「三ツや弥右エ門」。

法量(cm) 長50.0, 幅33.0, 高27.5

重量(g) 1600

2-M-02-02

1点



102293 (653)

綿繰り

野洲郡中主町比留田

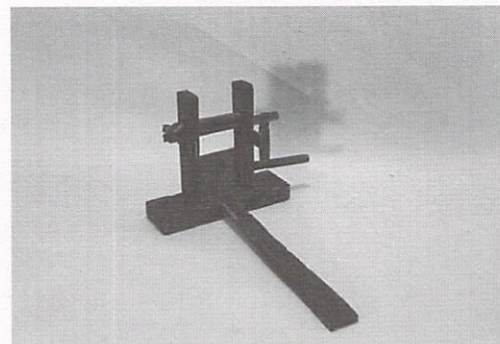
木製。回転させつつ実棉をかませると種が残り、前方に綿がくり出される。焼印「播劬 加古川清助」。墨書「〇入り勘助」。

法量(cm) 長53.0, 幅33.0, 高28.0

重量(g) 1000

2-M-02-02

1点



102294 (863)

綿繰り

八日市市市辺町

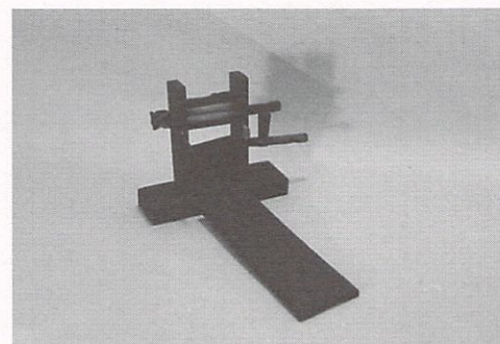
木製。棉の実をローラーにかませ、取手を回すと、綿だけになり種がとれる。明治時代まで使用。焼印「播劬 加古川清助」。

法量(cm) 長51.4, 幅33.3, 高29.0

重量(g) 2000

2-M-02-02

1点



102295 (679)

綿繰り

野洲郡中主町下堤

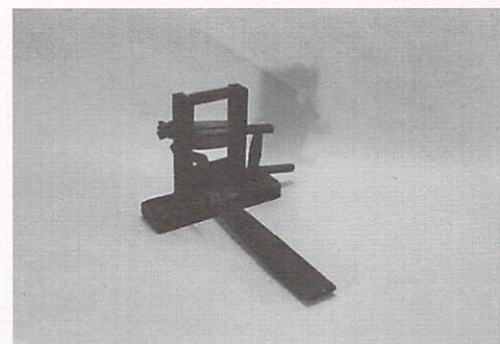
木製。ハンドルを手で回し、一方の手で棉をかませると、向こう側へ種のとれた繊維のみが出る。焼印「播劬 加古川清助」。墨書「俵屋豊吉」。

法量(cm) 長47.5, 幅33.0, 高29.0

重量(g) 1500

2-M-02-02

1点



102296 (108)

綿繰り

神崎郡能登川町伊庭

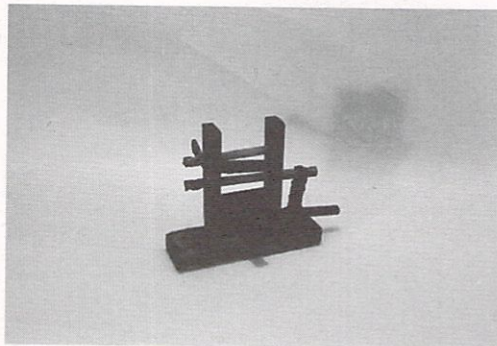
木製。焼印「播磨 加古川清助」など。墨書「日口永井」。

法量(cm) 長21.0, 幅39.5, 高28.3

重量(g) 1300

2-M-02-02

1点



102297 (781)

ワタクリ (綿繰り)

野洲郡中主町井口

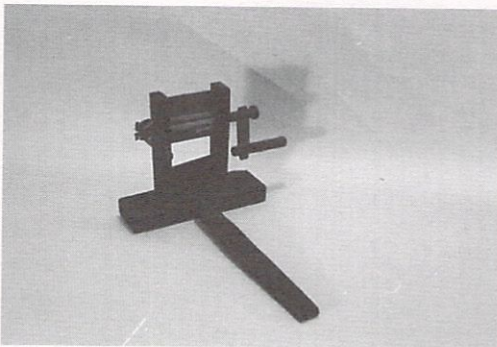
木製。焼印あり。

法量(cm) 長55.0, 幅33.3, 高28.5

重量(g) 1750

2-M-02-02

1点



102298 (414)

ワタクリ (綿繰り)

神崎郡能登川町伊庭

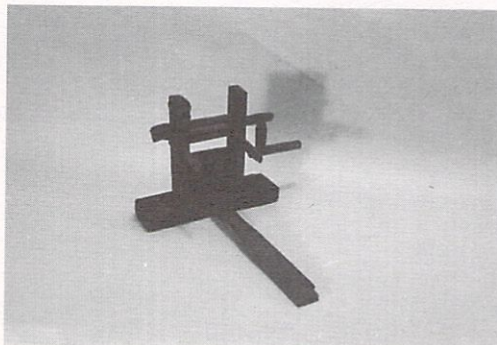
木製。カネトオシに棉を入れ、火鉢の上で暖めてから繰った。綿は自家用に用い、厚手の着物やデンチに入れた。作付面積は一畝ほどであった。

法量(cm) 長46.0, 幅33.4, 高28.5

重量(g) 1000

2-M-02-02

1点



102299 (823)

綿繰り

野洲郡中主町六条

木製。墨書「志ろさ」。

法量(cm) 長9.3, 幅33.6, 高28.7

重量(g) 1800

2-M-02-02

1点



102300 (1784)

ワタクリ (綿繰り)

八日市市大森町

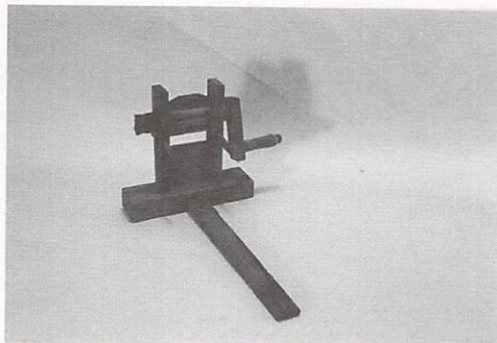
木製。棉の実から種をとるのに使う。昭和16年に購入。スタンプ「愛知県宮田町鈴木商會本店」「丸金號」「停」。

法量(cm) 長50.0, 幅30.0, 高26.0

重量(g) 1500

2-M-02-02

1点



102301 (339)

2-M-02-02

ワタクリ (綿繰)

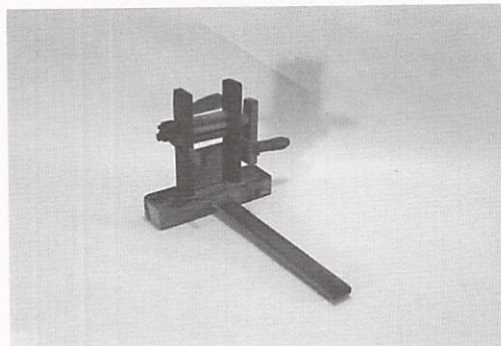
1点

八日市市寺町

木製。江戸時代末期～明治時代末期まで使用。墨書「綿繰機」。スタンプ「丸金號」。

法量(cm) 長49.0, 幅30.3, 高29.5

重量(g) 1000



102302 (1956)

2-M-02-02

ワタクリ (綿繰)

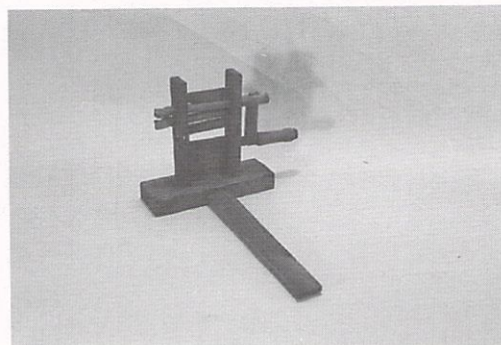
1点

神崎郡能登川町今

木製。棉の種をとる道具。取手を回していくと、種は手前に、繊維は向こう側に落ちる。大正時代まで使用。

法量(cm) 長49.5, 幅30.3, 高29.2

重量(g) 1300



102303 (1173)

2-M-02-02

繰綿機

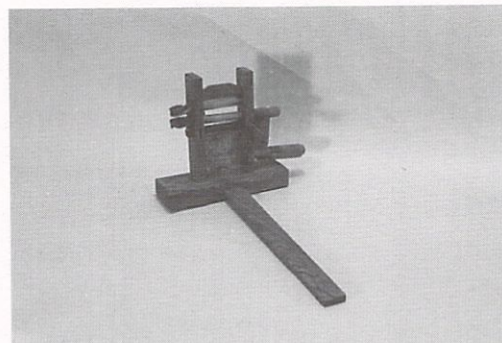
1点

高島郡新旭町饗庭

木製。棉の実から種だけを取り去る道具。ラベル「元祖登録商標國防國防式綿繰器 鈴木商會製作所 愛知県一宮市」。

法量(cm) 長53.1, 幅30.3, 高28.4

重量(g) 1600



102304 (554)

2-M-02-02

ワタクリ

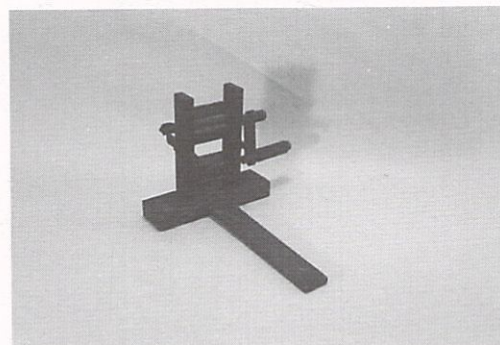
1点

神崎郡能登川町福堂

木製。ラベル「WORLDS T-S-C GARDEN IMPLEMENTS TAKII & CO.JTD.KYOTO MADE IN JAPAN」。

法量(cm) 長44.5, 幅31.0, 高29.0

重量(g) 1000



102305 (517)

2-M-02-03

糸車

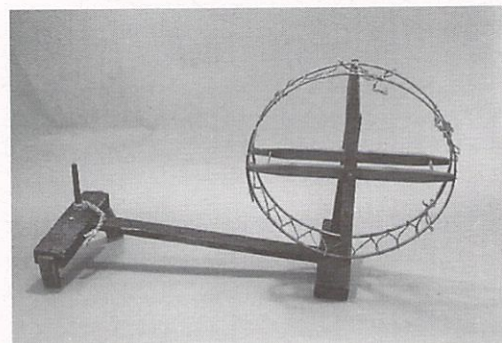
1点

高島郡安曇川町北船木

糸車は竹に麻を巻く。台は木製。紡錘は藁で固定する。

法量(cm) 糸車径56.3, 長114.7, 幅43.0, 高64.0

重量(g) 3100



102306 (464)

2-M-02-03

カセクリキ (総繰り機)

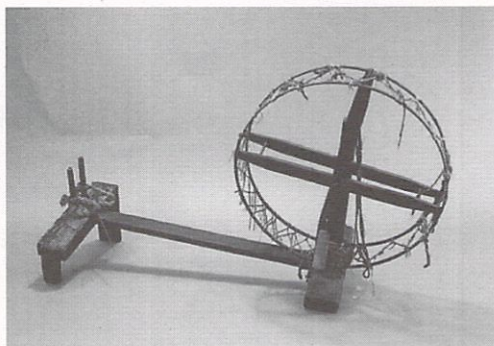
1点

高島郡新旭町太田

糸車は竹に綿糸を巻く。台は木製。紡錘は藁と綿糸で固定する。総から緯糸を巻き取るのに使用。ヨコイトカブリキともいう。「カブル」とは巻きとりの意味。

法量(cm) 糸車径55.8, 長113.8, 幅45.0, 高62.0

重量(g) 3600



102307 (596)

2-M-02-03

糸車

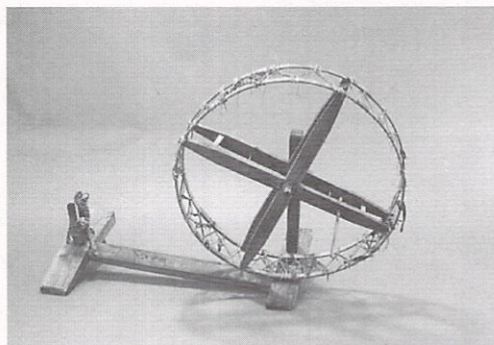
1点

野洲郡中主町比留田

糸車は竹に綿糸と布を巻く。台は木製。紡錘は藁と麻糸で固定する。

法量(cm) 糸車径56.7, 長95.0, 幅34.0, 高62.0

重量(g) 2200



102308

2-M-02-03

糸繰機

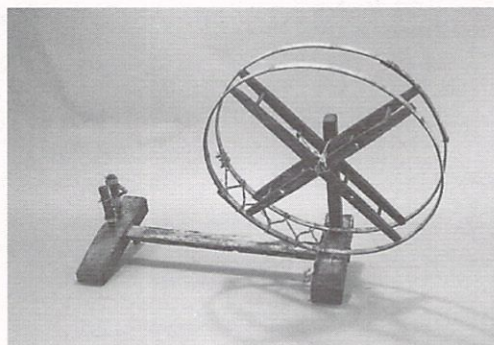
1点

八日市市池田町

糸車は竹に藁と綿糸を巻く。台は木製。紡錘は竹皮、綿布、綿糸、麻糸で固定する。焼印「池新」など。

法量(cm) 糸車径58.8, 長96.8, 幅48.0, 高65.8

重量(g) 2600



102309

2-M-02-03

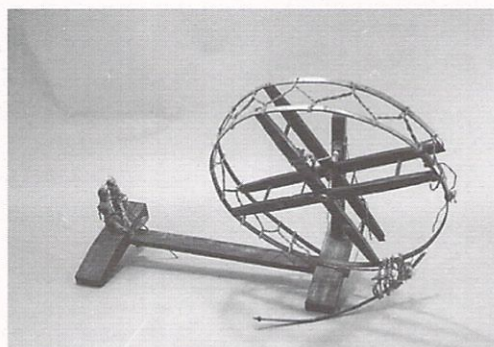
(不詳) 〈糸車〉

1点

糸車は竹に藁を巻く。台は木製。紡錘は竹皮、藁、綿糸で固定する。焼印あり。

法量(cm) 糸車径56.3, 長96.3, 幅43.5, 高61.8

重量(g) 2300



102310

2-M-02-03

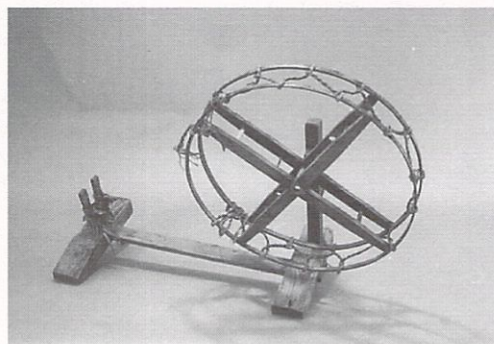
(不詳) 〈糸車〉

1点

糸車は竹に藁と綿糸を巻く。台は木製。紡錘は竹皮、綿布で固定する。

法量(cm) 糸車径53.4, 長93.0, 幅43.0, 高62.0

重量(g) 2000



102311 (1345)

2-M-02-03

ツムギダルマ

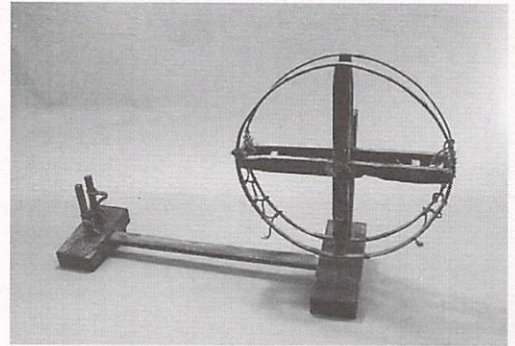
1点

伊香郡高月町片山

糸車は竹に藁縄を巻く。台は木製。紡錘は竹皮、綿布で固定する。大正時代に綿は既に栽培していないので、明治時代まで使用か。綿を紡ぐ道具。焼印あり。

法量(cm) 糸車径52.0, 長102.9, 幅37.0, 高61.2

重量(g) 3400



102312 (822)

2-M-02-03

糸巻き

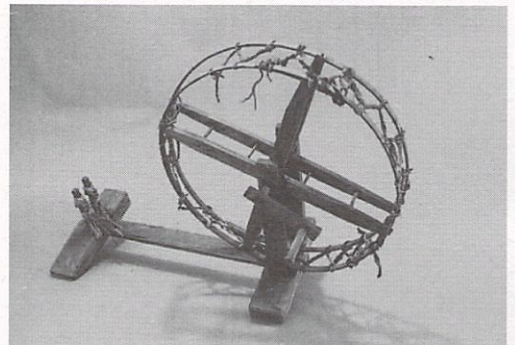
1点

野洲郡中主町六条

糸車は竹に綿布を撚った紐を巻く。台は木製。紡錘は竹皮、麻糸で固定する。

法量(cm) 糸車径54.6, 長91.0, 幅34.5, 高63.8

重量(g) 3100



102313 (1346)

2-M-02-03

ツムギダルマ

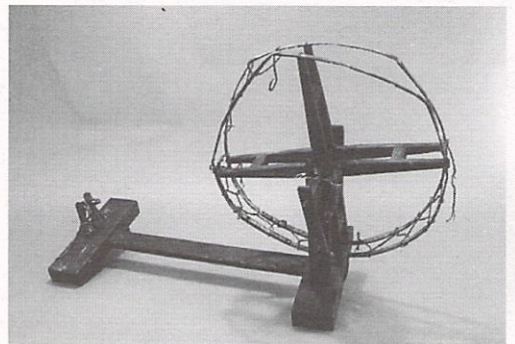
1点

伊香郡高月町片山

糸車は竹に藁縄を巻く。台は木製。紡錘は竹皮で固定する。江戸時代～大正時代初期まで使用。

法量(cm) 糸車径58.4, 長108.0, 幅38.0, 高67.8

重量(g) 4500



102314 (207)

2-M-02-03

イトヨリグルマ (糸撚車)

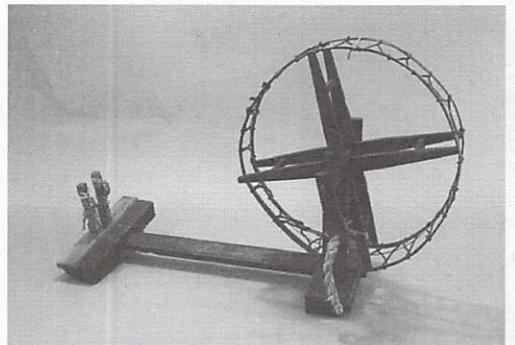
1点

伊香郡余呉町椿坂

糸車は竹に藁縄を巻く。台は木製。紡錘は竹皮と麻紐で固定する。麻の皮から苧をとり糸をつくる際に、糸に撚りをかける時に使用。苧糸は強靱なので、この糸でシャクリなどを織る。明治時代～大正時代まで使用。

法量(cm) 糸車径55.0, 長104.0, 幅38.0, 高63.5

重量(g) 3300



102315

2-M-02-03

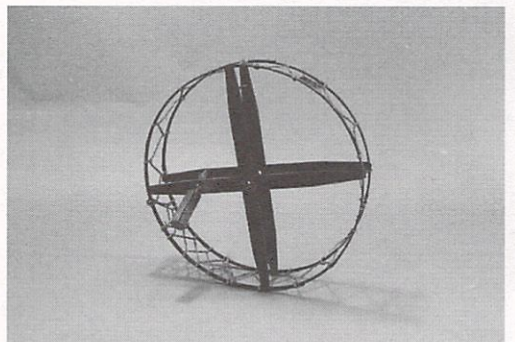
(不詳) 〈糸車〉

1点

糸車は竹に麻紐を巻く。支柱は木製。

法量(cm) 糸車径56.0, 幅11.0, 把手長17.0

重量(g) 595



102316 (534)

2-M-02-03

糸車

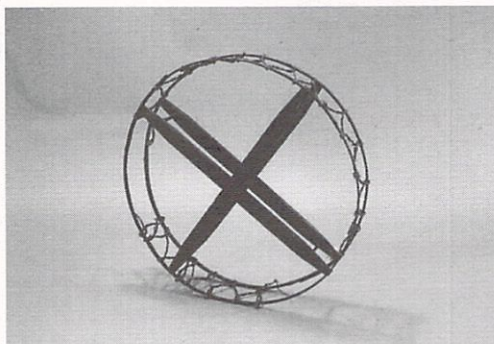
1点

高島郡安曇川町北船木

糸車は竹に麻紐を巻く。支柱は木製。

法量(cm) 糸車径59.7, 幅11.0

重量(g) 637



102317

2-M-02-03

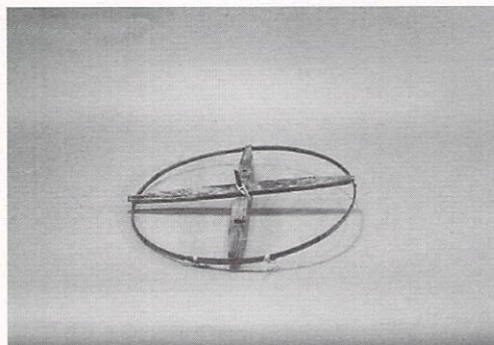
(不詳) 〈糸車〉

1点

糸車は竹製。支柱は木製。

法量(cm) 糸車径56.0

重量(g) 260



102318 (3287)

2-M-02-03

イトクリキ (糸繰り機)

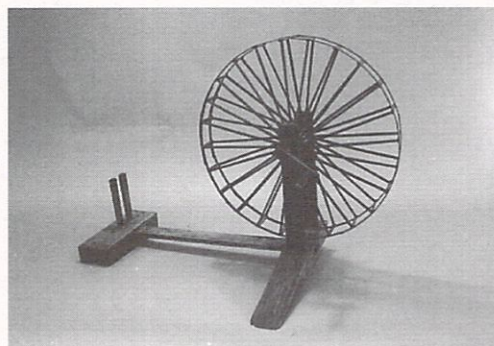
1点

甲賀郡甲南町柑子

糸車は竹製。台は木製。蚕の糸を繰り、練り合わせる道具。

法量(cm) 糸車径40.0, 長98.2, 幅55.5, 高70.5

重量(g) 4100



102319 (238)

2-M-02-03

イトクリ (糸繰り)

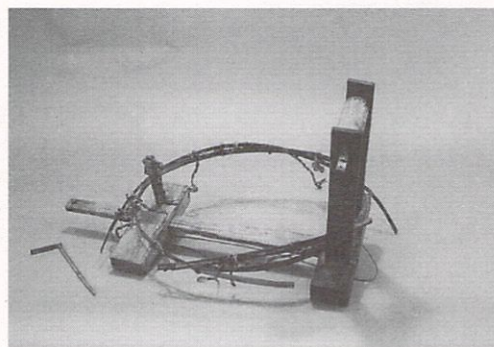
1点

八日市市三津屋町

糸車は竹に麻紐を巻く。台は木製。明治29年生の女性が結婚前に使い、
婚礼に際して持参したもの。明治42年～昭和19年まで使用。スタンプ
「請合 愛知郡長野村 □□源平」。

法量(cm) 糸車径55.5, 台長74.4, 幅30.8, 高44.1

重量(g) 1600



102320 (238)

2-M-02-03

イトクリ (糸繰り)

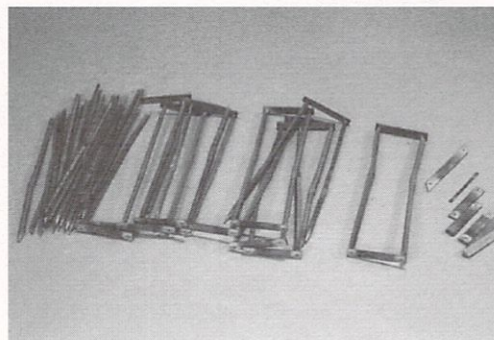
1点

八日市市三津屋町

竹製。明治29年生の女性が結婚前に使い、婚礼に際して持参したもの。
明治42年～昭和19年まで使用。

法量(cm) 長26.3

重量(g) 計324



102321

(不詳) 〈糸車〉

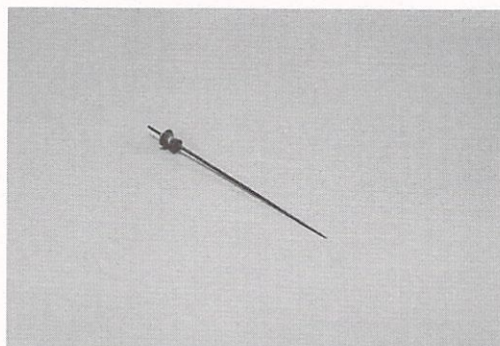
2-M-02-03

1点

木製。芯は鉄製。

法量(cm) 長22.7, 径0.2, 最大径1.8

重量(g) { 10



102322 (507)

糸のヨリカケ

高島郡安曇川町北船木

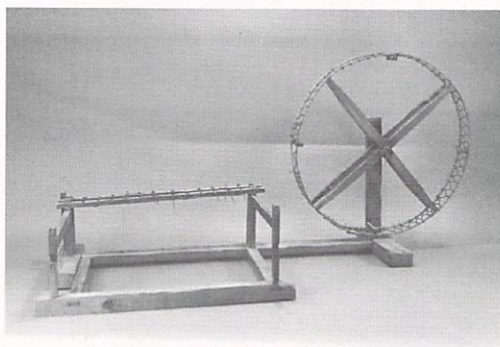
糸車は竹に麻紐を巻く。木綿を紡ぐのに使用。

法量(cm) 糸車径68.0, 長147.5, 幅61.3, 高74.0

重量(g) 4200

2-M-02-03

1点



102323 (463)

ヨリカケキ (繰りかけ機)

高島郡新旭町太田

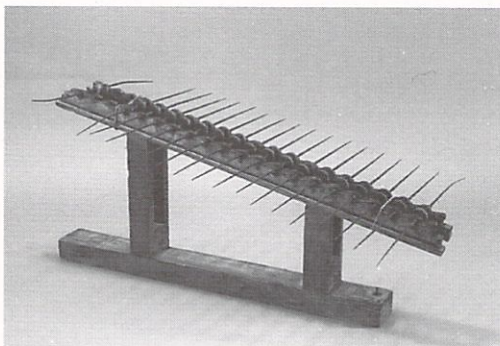
クレーブ用に単糸をあつめ、撚りをかけるのに使用。クレーブは緯糸に撚りをかけて縮ませる。

法量(cm) 縦92.0, 横44.0, 高41.5

重量(g) 4400

2-M-02-03

1点



102324 (453)

イトトリキ (糸取り機)

高島郡新旭町太田

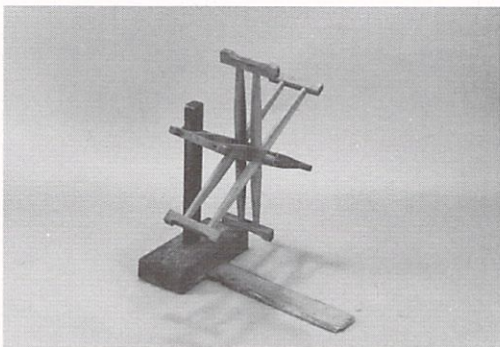
木製。綿から紡いだ糸を繰にするのに使用。大正時代まで使用。

法量(cm) 全高53.8, (車) 径45.1, (台) 縦51.5, 横27.4

重量(g) 2000

2-M-02-04

1点



102325 (186)

カセツクリ (棒作り)

伊香郡西浅井町大浦

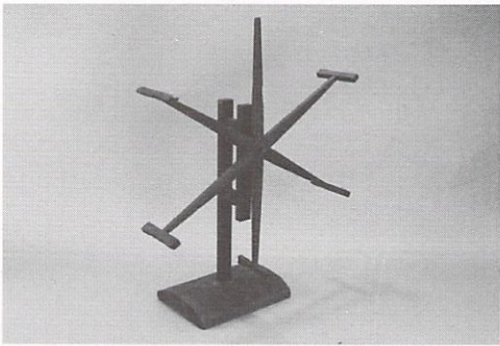
木製。糸の繰を作るのに使用。明治初年に大工が製作。明治時代初期まで使用。

法量(cm) 全高92.0, (車) 径72.0, (台) 縦25.0, 横35.0

重量(g) 3900

2-M-02-04

1点



102326 (1917)

2-M-02-04

カセクリ

1点

野洲郡中主町下堤

木製。焼印「中北村 和吉」。墨書「明治廿三年」など。

法量(cm) 全高80.5, (車) 径70.0, (台) 縦11.0, 横32.5

重量(g) 1500



102327 (824)

2-M-02-04

糸巻き機

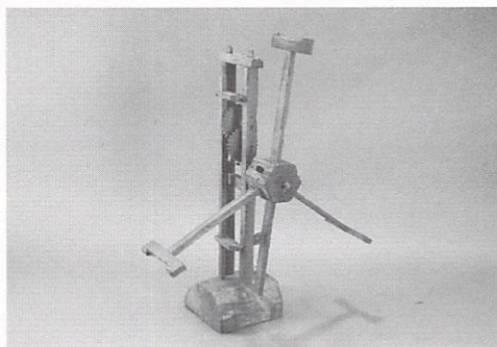
1点

野洲郡中主町六条

木製。

法量(cm) 全高79.2, (車) 径71.0, (台) 縦21.3, 横22.4

重量(g) 5000



102328 (279)

2-M-02-04

カセカケ

1点

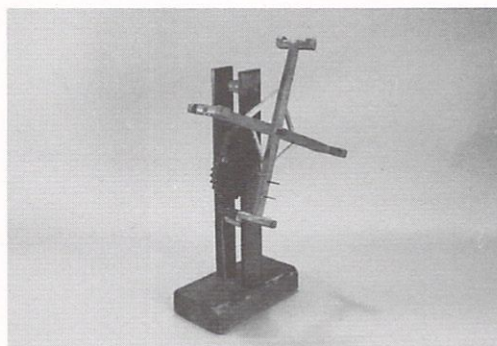
八日市市三津屋町

木製。綿や絹の布を自家製作する際に使用。婚礼の際に持参したもの。

焼印あり。

法量(cm) 全高79.1, (車) 径50.4, (台) 縦18.0, 横35.8

重量(g) 4500



102329 (379)

2-M-02-04

イトクリ (糸繰)

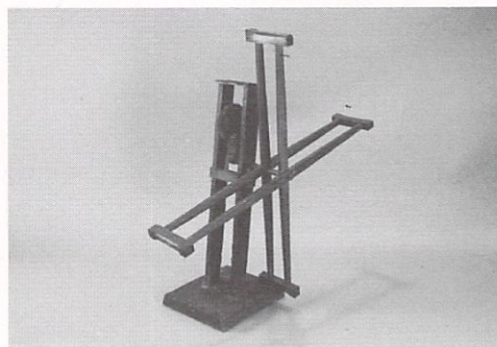
1点

八日市市池田町

木製。大正時代末期まで使用。

法量(cm) 全高85.7, (車) 径81.5, (台) 縦27.5, 横30.3

重量(g) 4100



102330

2-M-02-04

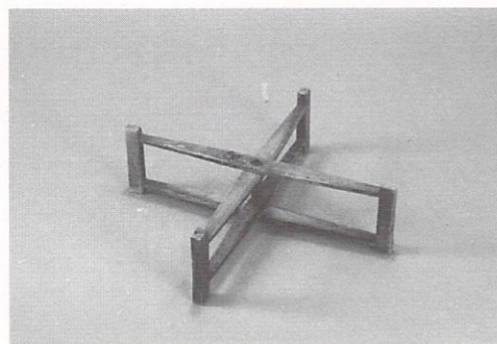
(不詳) 〈総繰〉

1点

木製。焼印あり。

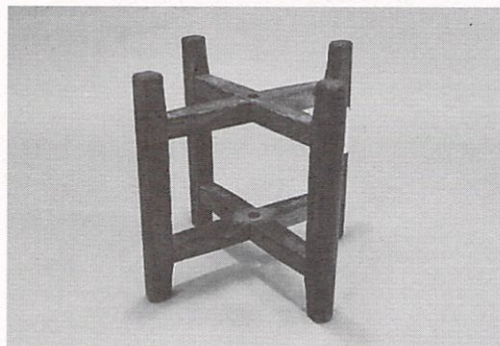
法量(cm) 径32.9, 幅9.2

重量(g) 80



102331 (1667)
イトマキ (糸巻き)
 八日市市池田町
 木製。糸巻きの枠。
 法量(cm) 幅42.0, 高38.0
 重量(g) 2400

2-M-02-05
 1点



102332 (1347)
オオワク (大枠)
 伊香郡高月町片山
 木製。木綿糸用。紡いだ糸をこの大枠にあげ、縋にして染色する。「枠揚げ」という。明治時代まで使用。焼印「請合」など。
 法量(cm) 幅43.1, 高88.0
 重量(g) 4200

2-M-02-05
 1点



102333 (1912)
糸枠
 東浅井郡浅井町
 木製。
 法量(cm) 幅42.0, 高85.0
 重量(g) 3600

2-M-02-05
 1点



102334
 (不詳) 〈糸枠〉
 木製。墨書「四號」。
 法量(cm) 幅42.0, 高88.0
 重量(g) 3500

2-M-02-05
 1点



102335 (1694)
オオワク (大枠)
 東浅井郡浅井町瓜生
 木製。糸を紡いで小枠に巻取ったものを移し、大枠に巻きとる。明治時代に製作。墨書「□喜」。
 法量(cm) 幅42.6, 高100.8
 重量(g) 3500

2-M-02-05
 1点



102336 (3112)

オオワク (大杵)

坂田郡近江町高溝

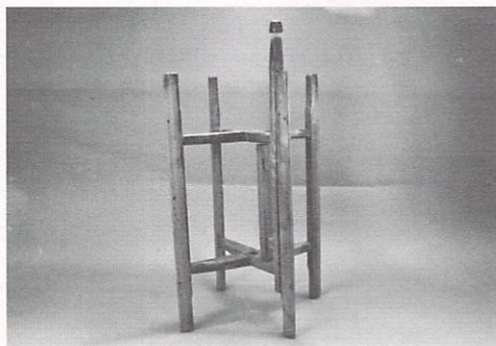
木製。木製ダルマ (座繰り器) で挽いた絹糸を小杵に巻きとり、さらに大杵に巻き替えて糸束とする。大正時代に製作、使用。

法量(cm) 幅42.5, 高102.7

重量(g) 3200

2-M-02-05

1点



102337

(不詳) 〈糸杵〉

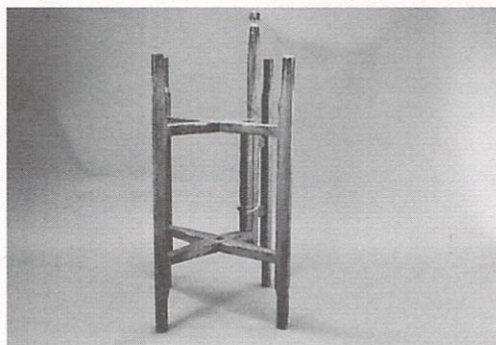
木製。

法量(cm) 幅43.3, 高104.0

重量(g) 3000

2-M-02-05

1点



102338 (340)

イトクリダイ (糸繰台)

八日市市寺町

木製。明治時代まで使用。焼印あり。

法量(cm) 径62.0, 高57.0

重量(g) 3900

2-M-02-05

1点



102339 (1189)

台

守山市木浜町

木製。

法量(cm) 幅35.0, 高42.6, 上径7.0

重量(g) 1500

2-M-03-01

1点



102340 (375)

イトマキ (糸巻)

八日市市建部日吉町

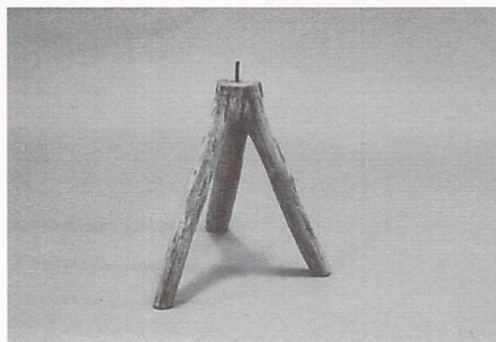
木製。

法量(cm) 幅37.8, 高37.0, 上径8.8

重量(g) 1200

2-M-03-01

1点



102341 (376)

イトクリダイ (糸繰台)

八日市市建部日吉町

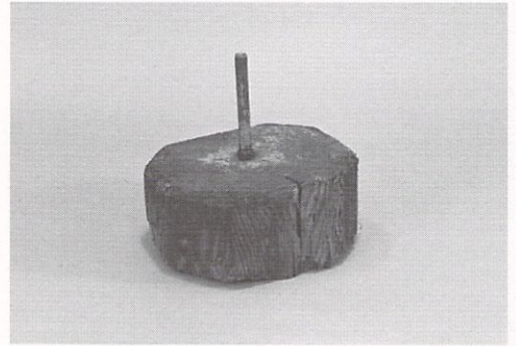
木製。明治時代初期に製作か。

法量(cm) 長径21.8, 短径18.8, 高22.0

重量(g) 2500

2-M-03-01

1点



102342 (677)

糸巻き

野洲郡中主町下堤

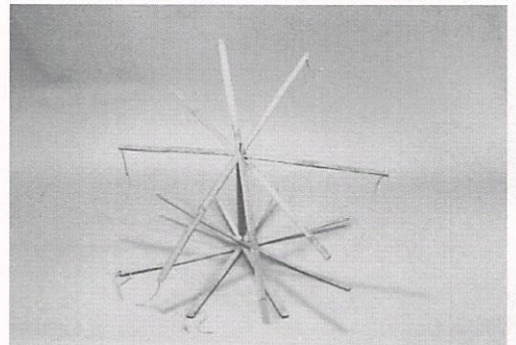
木製。

法量(cm) 羽径69.3, 幅36.0

重量(g) 360

2-M-03-01

1点



102343 (1394)

糸巻枠

神崎郡永源寺町山上

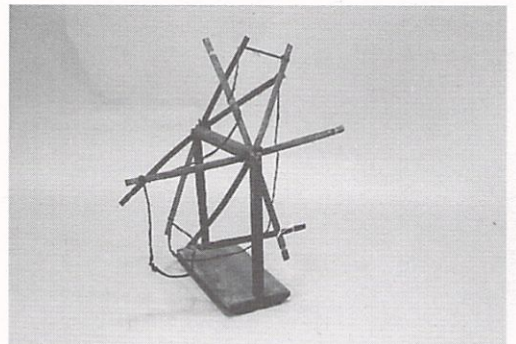
自家製。木製。一部竹。明治時代～大正時代に製作。

法量(cm) 羽長54.0, 台縦17.5, 横33.9, 高37.4

重量(g) 1500

2-M-03-01

1点



102344 (678)

糸繰り台と枠

野洲郡中主町下堤

木製。木綿糸、絹糸を糸枠に巻き取る道具。焼印あり。

法量(cm) 縦31.6, 横19.7, 高35.4

重量(g) 3100

2-M-03-01

1点



102345 (376)

イトクリダイ (糸繰台)

八日市市建部日吉町

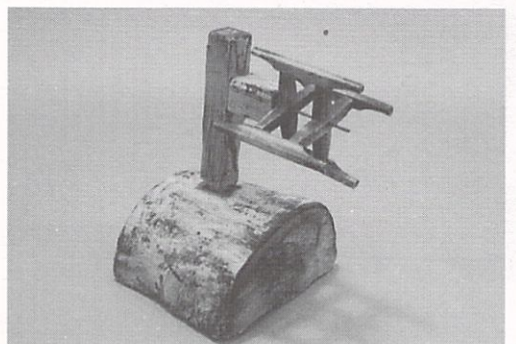
木製。木綿糸、絹糸を糸枠に巻き取る道具。明治時代初期に製作か。糸枠に墨書「□□ □本久右衛門」「□□□□年」。

法量(cm) 縦33.0, 横27.0, 高37.2

重量(g) 4700

2-M-03-01

1点



102346 (1395)

2-M-03-01

糸巻台

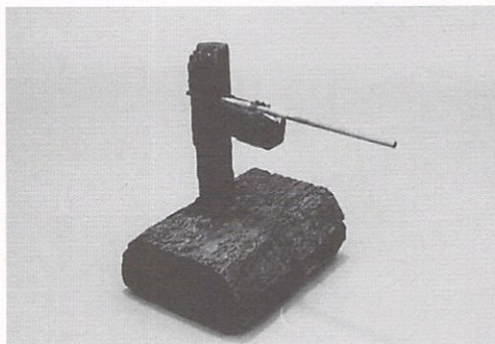
1点

神崎郡永源寺町山上

自家製。木製。明治時代に製作。大正時代初期まで使用。

法量(cm) 縦29.0, 横24.8, 高29.5

重量(g) 2000



102347 (1174)

2-M-03-01

糸繰機

1点

高島郡新旭町饗庭

木製。糸を糸枠に巻き取るのに使用。大正時代～昭和初期まで使用。

墨書「大正七年十一月」など。焼印あり。

法量(cm) 縦28.0, 横54.0, 高49.8

重量(g) 3900



102348 (454)

2-M-03-01

イトクリキ (糸繰り機)

1点

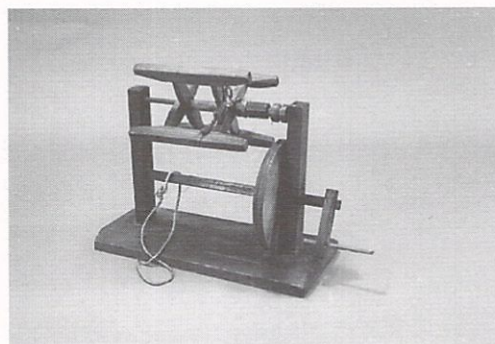
高島郡新旭町太田

木製。総から糸枠に巻き取る時に使用。明治時代～大正時代まで使用。

墨書「明治廿六年三月調之 細工人桑原虎吉」。焼印あり。

法量(cm) 縦20.0, 横45.0, 高32.7

重量(g) 2950



102349 (506)

2-M-03-01

カセクリ

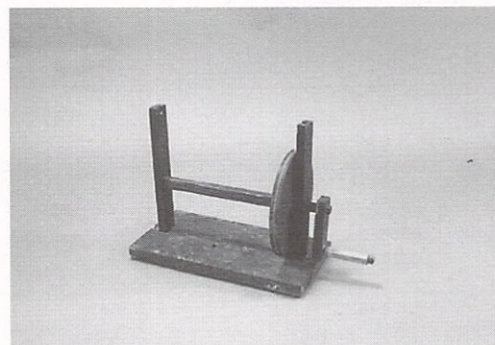
1点

高島郡安曇川町北船木

木製。墨書「大正五年壹月 新調」など。

法量(cm) 縦20.5, 横39.2, 高32.0

重量(g) 2100



102350 (407)

2-M-03-01

イトクリ (糸繰り)

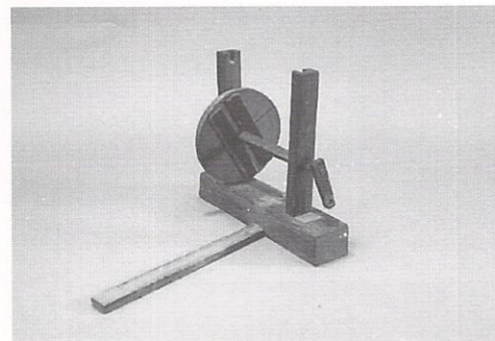
1点

神崎郡能登川町伊庭

木製。機屋からきた麻の総糸をコマに巻くのに使用。大正時代まで使用。

法量(cm) 縦9.0, 横41.6, 高35.0, (踏木) 長40.0, 幅4.0

重量(g) 3000



102351

糸巻

野洲郡中主町吉川

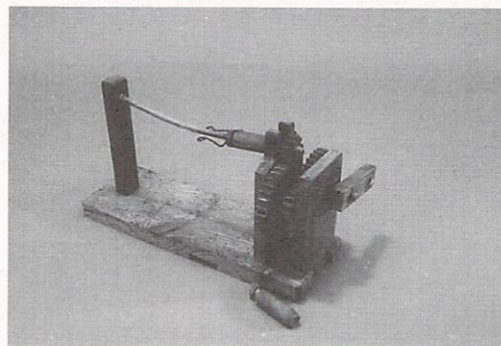
木製。

法量(cm) 縦17.6, 横46.0, 高24.6, (握手) 長9.2, 径2.2

重量(g) 1700, (握手) 19

2-M-03-01

1点



102352 (839)

糸巻き

野洲郡中主町井口

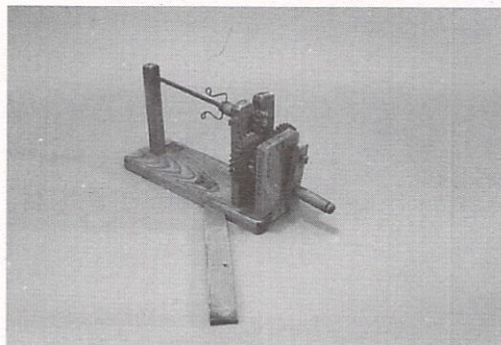
木製。墨書「大字井口 大正四年一月」など。焼印あり。

法量(cm) 縦17.2, 横52.5, 高25.0, (押え棒) 長34.5, 幅4.5

重量(g) 2000

2-M-03-01

1点



102353 (459)

イトクリキ (糸繰り機)

高島郡新旭町太田

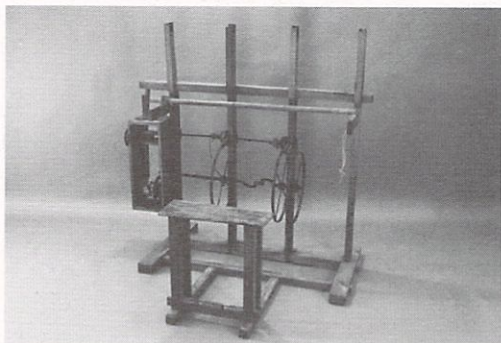
木製。歯車は鉄製。初期の糸繰機は糸棒が一つだけであったが、これは足踏式で一度に数個の棒に巻き取ることができた。大正時代に使用。

法量(cm) 縦105.0, 横133.0, 高128.5, (椅子) 高51.8

重量(g) 27000

2-M-03-01

1点



102354 (455)

イトシボリキ (糸絞り機)

高島郡新旭町太田

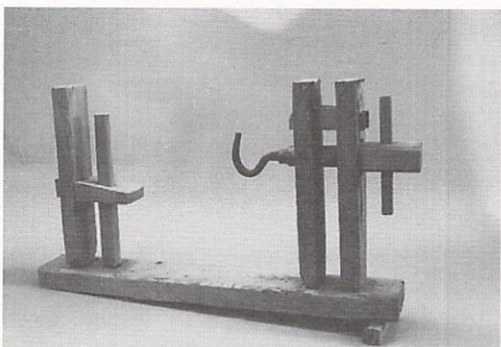
木製。一部鉄製。糸を煮て、糊付けしてから絞る。経糸は糊付けをした。明治時代～大正時代まで使用。

法量(cm) 縦117.6, 横32.0, 高68.5

重量(g) 15600

2-M-03-01

1点



102355 (384)

コマ (糸巻)

八日市市三津屋町

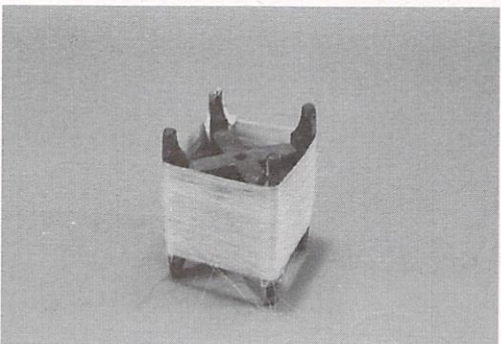
木製。絹糸を巻く。木綿や絹の糸を巻きとるのに使用。大正時代初期に製作。昭和初期まで使用。

法量(cm) 幅13.5, 高18.9

重量(g) 265

2-M-03-02

1点



102356 (430)

イトワク (糸杵)

東浅井郡びわ町早崎

木製。焼印あり。

法量(cm) 幅15.5, 高21.0~幅17.0, 高21.0

重量(g) 388~560

2-M-03-02

6点



102357 (535)

ワク

高島郡安曇川町北船木

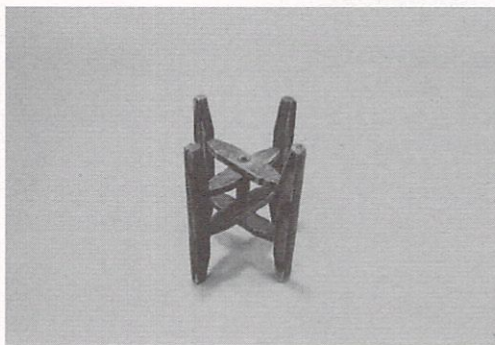
木製。焼印あり。墨書あり。

法量(cm) 幅20.0, 高23.0

重量(g) 246

2-M-03-02

1点



102358 (826)

糸杵

野洲郡中主町六条

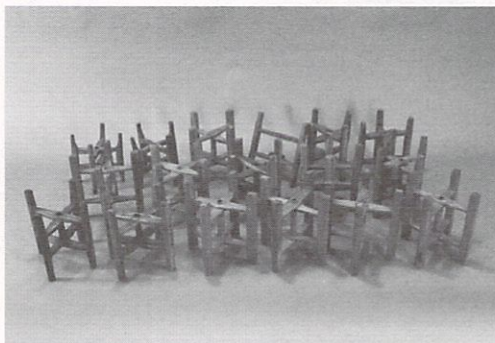
木製。墨書「大正十三年貳月新調」「十斤 六口一組」など。

法量(cm) 幅12.0, 高16.9~幅19.5, 高19.7

重量(g) 142~206

2-M-03-02

17点



102359 (1069)

糸巻き

長浜市加田町

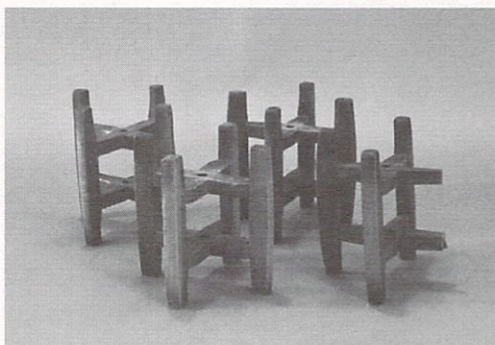
木製。明治時代~昭和10年頃まで使用。スタンプあり。墨書あり。

法量(cm) 幅12.6, 高18.1~幅13.5, 高18.3

重量(g) 121~250

2-M-03-02

4点



102360 (1393)

糸巻

神崎郡永源寺町山上

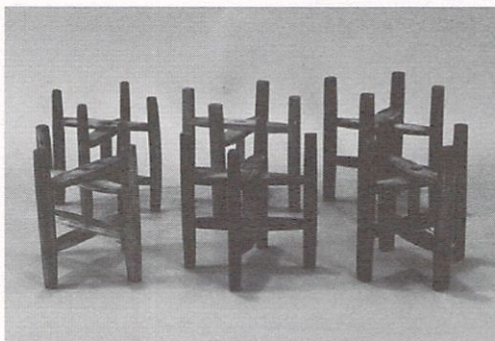
木製。明治時代~大正時代に製作か。焼印あり。

法量(cm) 幅12.5, 高18.7~幅12.5, 高18.7

重量(g) 159~181

2-M-03-02

6点



102361 (1559)

2-M-03-02

糸杵

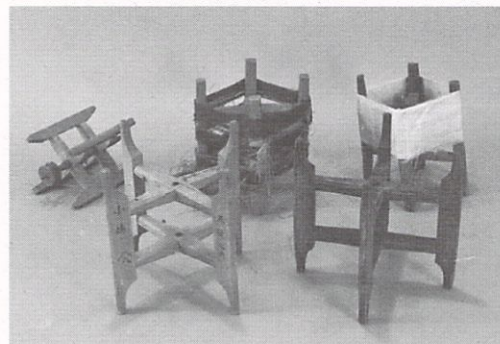
5点

八日市市市辺町

木製。墨書「明治十七年□」「風袋 五十□」「六ッ□□」「五挺之内」「風袋百拾式匁」「明治廿八年五月廿八日造之」など。焼印「西辻弥」。

法量(cm) 幅14.0, 高15.0~幅16.5, 高20.5

重量(g) 187~403



102362 (1705)

2-M-03-02

杵糸

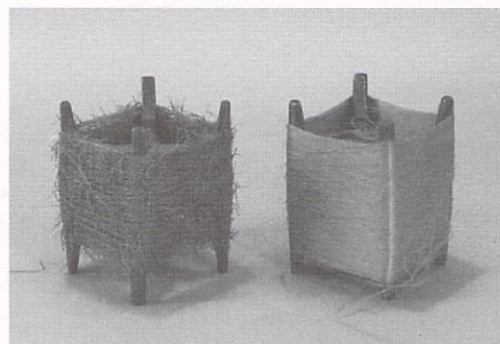
2点

東浅井郡浅井町郷野

木製。焼印あり。

法量(cm) (左) 幅11.4, 高15.2, (右) 幅10.8, 高15.3

重量(g) (左) 114, (右) 133



102363 (279)

2-M-03-02

糸マキ

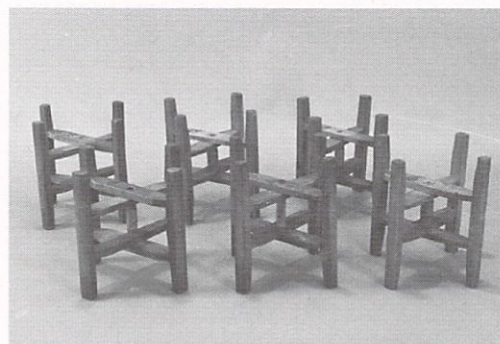
6点

八日市市三津屋町

木製。綿、絹布の自家製作に使用。婚礼の際に持参したもの。明治時代まで使用。墨書あり。

法量(cm) 幅14.3, 高17.9~幅14.8, 高17.9

重量(g) 160~205



102364

2-M-03-02

糸巻

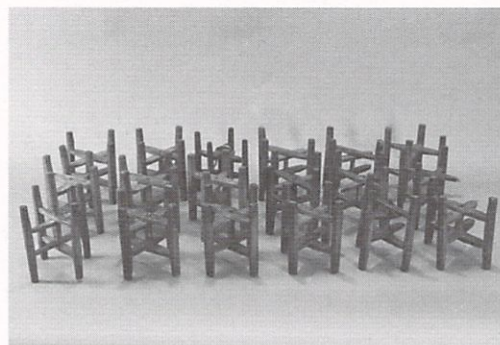
18点

八日市市三津屋町

木製。墨書「安政六未年」「明治廿五年三月十八日」「三ッ屋」「明治貳拾七年 定價□」「明治卅九年卯月新調 代金三銭」など。

法量(cm) 幅13.3, 高18.5~幅14.3, 高18.7

重量(g) 110~173



102365 (379)

2-M-03-02

イトクリ (糸繰)

1点

八日市市池田町

木製。大正時代末期まで使用。墨書「明治廿五年二月求之 数拾六之内 第四号」「神喜郡御園村大字池田 □瀬多右エ門」。

法量(cm) 幅14.9, 高18.7

重量(g) 156



102366 (456)

2-M-03-03

ハタヘリキ

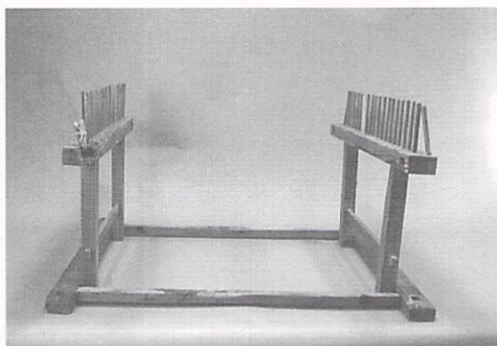
1点

高島郡新旭町太田

木製。柱から柱へと糸を張る。時には家の中で「でい」から「ざしき」までかけて張った。一本の柱に80本ぐらいの糸をかけた。明治時代～大正時代まで使用。

法量(cm) (左) 幅97.2, 高62.0, 厚7.6, (右) 幅97.5, 高61.3, 厚7.9,
(杵) 縦112.3, 横95.6, 高62.0

重量(g) (左) 3200, (右) 3300, (杵) 4300



102367 (1175)

2-M-03-03

ハタヘリキ

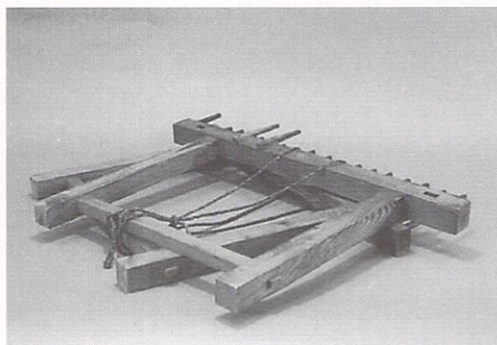
1点

高島郡新旭町饗庭

木製。明治時代～昭和初期まで使用。

法量(cm) (上) 高69.0, 幅82.0, 厚7.0, (下) 高69.0, 幅82.0, 厚5.0

重量(g) (上) 2800, (下) 2100



102368 (264)

2-M-03-03

ヘダイ

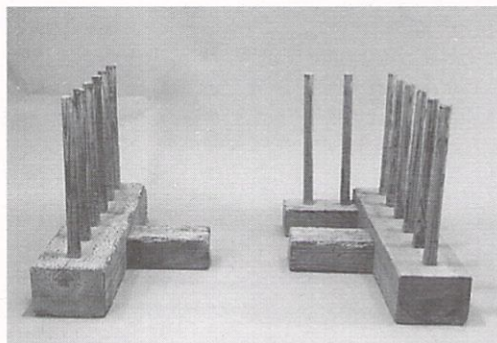
1点

八日市市三津屋町

木製。自家製の木綿布、絹布を織る時に使用。ヘダイは経糸をかける。明治時代初期～昭和20年頃まで使用。

法量(cm) (左) 縦66.8, 横35.8, 高44.6, (右) 縦66.7, 横36.0, 高45.7

重量(g) (左) 8000, (右) 9700



102369 (979)

2-M-03-03

糸立て

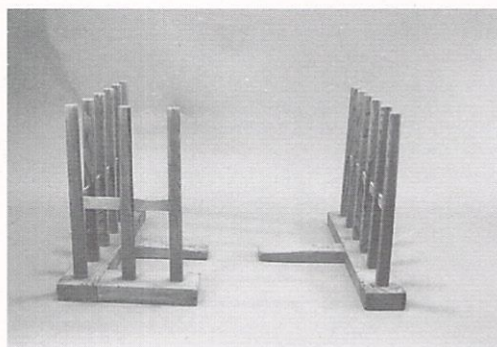
1点

神崎郡永源寺町山上

木製。糸立てという。明治時代～大正時代まで使用。墨書「川戸□七江州山上 明治五壬申正月吉日拵之」「明治五年壬申正月日」。

法量(cm) (左) 縦67.3, 横35.0, 高48.0, (右) 縦67.8, 横35.0, 高48.2

重量(g) (左) 4000, (右) 3400



102370 (825)

2-M-03-03

糸撚り台

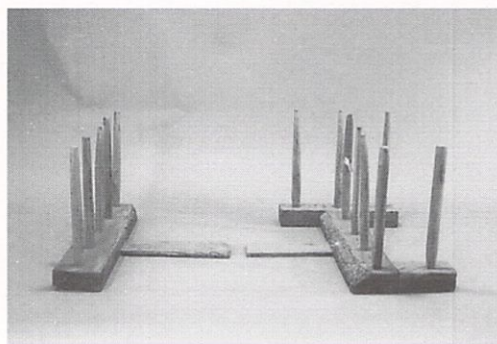
1点

野洲郡中主町六条

木製。墨書「明治十四年巳三月求之 六条□」。焼印「梅八」。

法量(cm) (左) 縦59.3, 横44.0, 高37.9, (右) 縦61.5, 横53.0, 高39.0

重量(g) (左) 3800, (右) 5700



102371 (676)

2-M-03-03

糸撚り台

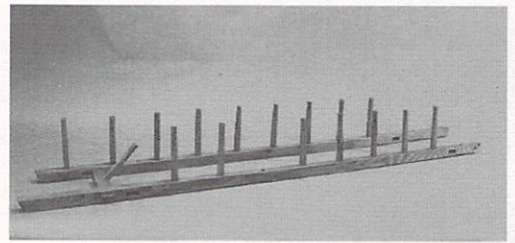
1点

野洲郡中主町下堤

木製。墨書「上ノ左」。

法量(cm) (前) 縦199.0, 横4.1, 高23.2, (後) 縦199.0, 横22.0, 高23.3

重量(g) (前) 2000, (後) 2400



102372 (827)

2-M-03-04

シモバタ (下織機)

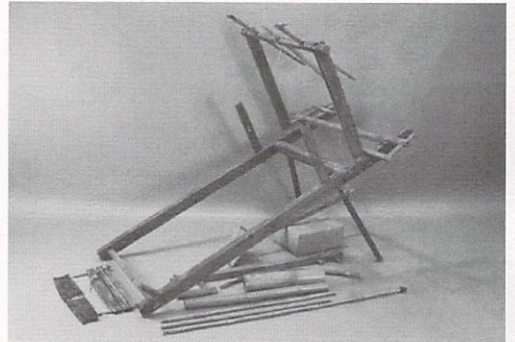
1点

野洲郡中主町六条

木製。踏木に墨書「弘化三丙午年 六条村 □□利左衛門□」。マネキに墨書「六条村利左衛門」。

法量(cm) 縦160.0, 横75.0, 高124.0

重量(g) 9500



102373 (321)

2-M-03-04

カミバタ (上機)

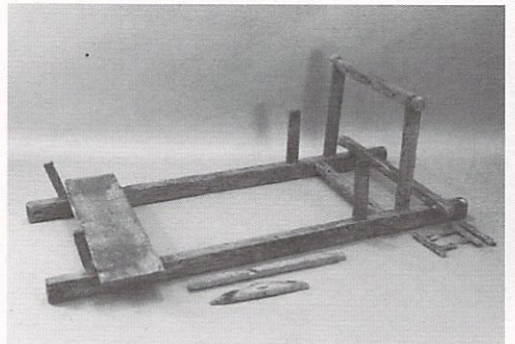
1点

八日市市川合寺町

木製。養蚕し、繭から絹糸をとり、布を織る。紬布、白羽布 (ハブタイ) を自家製作する。染は染屋に出す。紬は真綿を手でたぐり糸とする。節糸は緯糸に使う。天保13年2月~昭和初期まで使用。墨書「天保十三年壬寅二月下□ 河合寺村 徳左衛門」。

法量(cm) 縦180.0, 横91.0, 高107.0

重量(g) 10180



102374 (320)

2-M-03-04

シモバタ (下機)

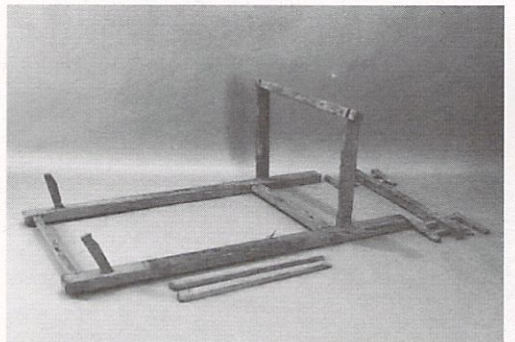
1点

八日市市川合寺町

木製。木綿から糸を紡ぎ、ハタにかけて布を織る。シモバタと呼ぶ。絹布織りはカミバタと呼ぶ。明治31年1月から使用。墨書「明治三十一年戊一月吉日」「滋賀県神守郡御園村大字川合寺」など。

法量(cm) 縦150.5, 横77.5, 高107.0

重量(g) 7400



102375

2-M-03-04

(不詳) 〈中筒〉

1点

三角形の木に竹を3本つける。うち2本は欠損。機の中筒。

法量(cm) 長60.7, 径2.0, 高10.4, 幅12.0

重量(g) 200



102376 (2053)

2-M-03-04

チキリ

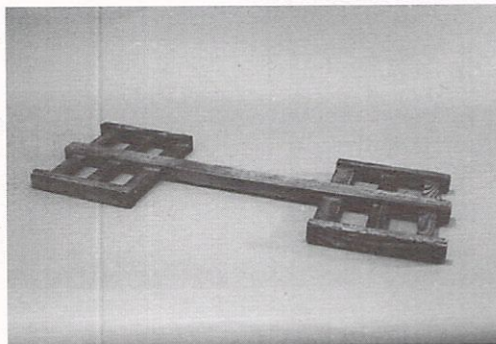
1点

伊香郡高月町片山

木製。木綿布を織る際に経糸を巻く千切。大正時代初期まで手織木綿を織っていた。

法量(cm) 長96.5, 幅34.0

重量(g) 1900



102377

2-M-03-04

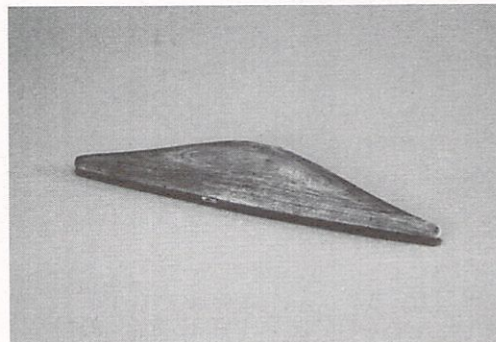
(不詳) 〈杼〉

1点

木製。一部象牙か。

法量(cm) 長41.5, 幅5.5, 厚3.2

重量(g) 135



102378 (2778)

2-M-03-04

ヒ (杼)

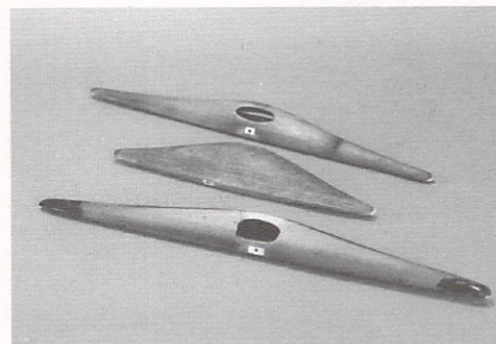
3点

坂田郡近江町高溝

木製。一部象牙か。布の製作時に使用。大正時代に製作。昭和初年まで使用。

法量(cm) (前) 長56.5, 幅5.3, 厚2.5, (中) 長37.0, 幅6.7, 厚3.5, (後) 長53.8, 幅5.8, 厚2.5

重量(g) (前) 138, (中) 160, (後) 160



102379

2-M-03-04

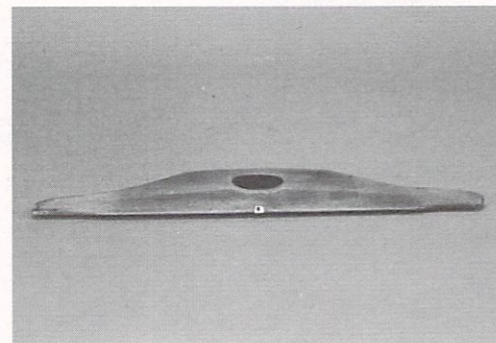
(不詳) 〈杼〉

1点

木製。一部象牙か。焼印「池新」など。

法量(cm) 長55.8, 幅7.3, 厚3.4

重量(g) 270



102380

2-M-03-04

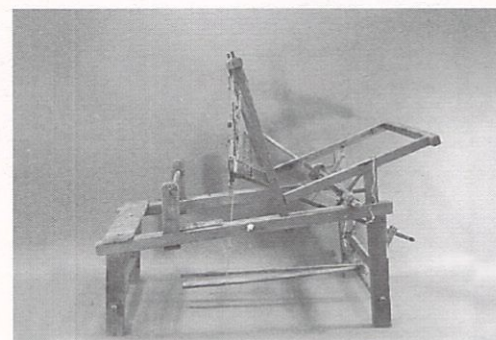
(不詳) 〈機〉

1点

木製。墨書「常楽寺□ 近江國八日市 □都井 □櫻田」。

法量(cm) 縦155.0, 横95.4, 高120.0

重量(g) -



102381 (377)

ハタ (織機)

八日市市池田町

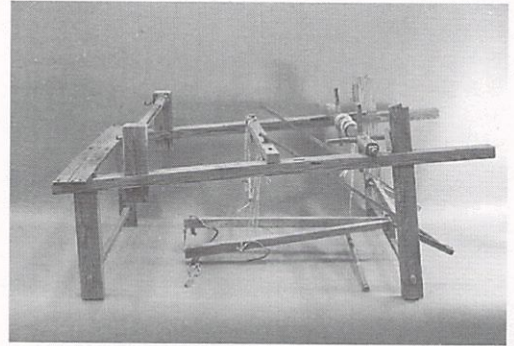
木製。木綿用。大正時代末期まで使用。

法量(cm) 縦168.0, 横95.0, 高78.0

重量(g) -

2-M-03-04

1点



102382

(不詳) 〈機〉

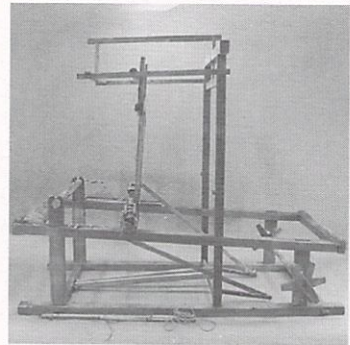
木製。接合部に墨書あり。

法量(cm) 縦197.0, 横133.5, 高170.5

重量(g) -

2-M-03-04

1点



102383

上機

野洲郡中主町吉川

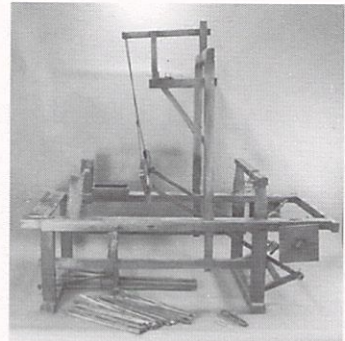
木製。機草に墨書あり。

法量(cm) 縦171.0, 横80.5, 高158.0

重量(g) -

2-M-03-04

1点



102384 (1172)

キョウバタ (着用機)

高島郡新旭町饗庭

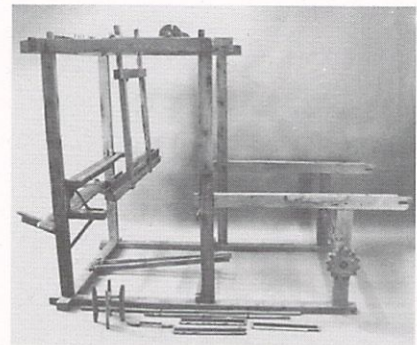
松材。布巻の止め金具は鉄製。農閑期などに平織りの木綿布を織った。布は農作業着や布団の裏地に使用した。明治時代～昭和初期まで使用。

法量(cm) 縦246.0, 横134.5, 高175.0

重量(g) -

2-M-03-04

1点



102385 (1175)

キョウバタ (着用機)

高島郡新旭町饗庭

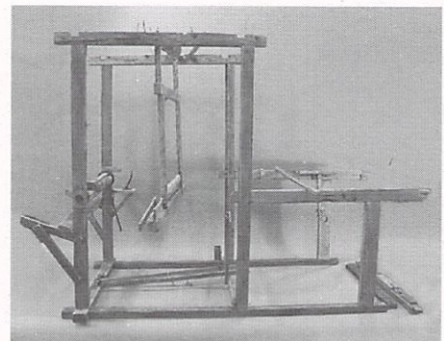
木製。明治時代～昭和初期まで使用。

法量(cm) 縦202.0, 横179.0, 高180.0

重量(g) -

2-M-03-04

1点



102386

(不詳) 〈機〉

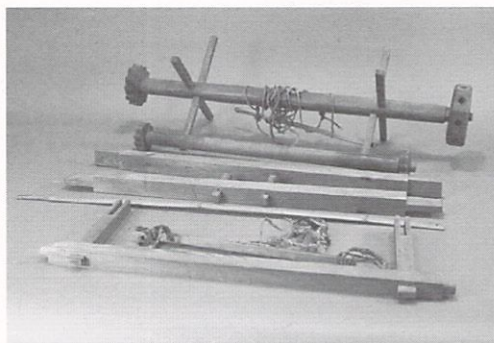
2-M-03-04

1点

木製。上機の部品。千巻、千切、綜統など。

法量(cm) (千切)長98.3, 幅37.0, 高36.5, (千巻)長77.0, 径8.0, (綜統)
長42.5, 幅1.8, 高50.0

重量(g) (千切)2000, (千巻) 551, (綜統) 91



102387 (827)

(不詳) 〈箴框〉

2-M-03-04

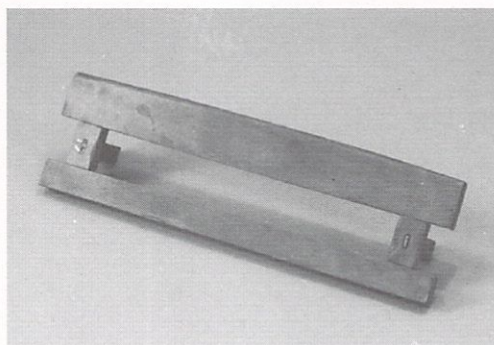
1点

野洲郡中主町六条

木製。

法量(cm) 幅57.5, 高17.1, 厚8.5

重量(g) 940



102388 (458)

カマチ

2-M-03-04

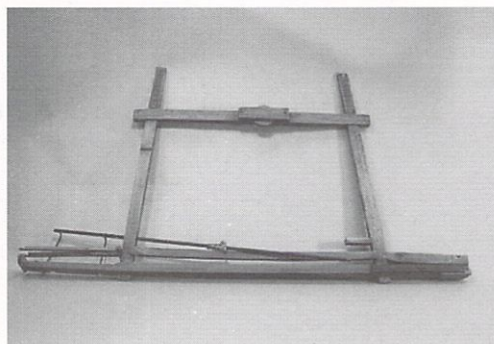
1点

高島郡新旭町太田

木製。機織機の主要部で、「箴」をはめて糸を通す。織物の幅を決めるために伸子を使った。明治時代～大正時代まで使用。焼印「近江 高嶋郡 小池製 北船木」。

法量(cm) 幅184.5, 高97.0, 厚13.0

重量(g) 7700



102389

(不詳) 〈箴框〉

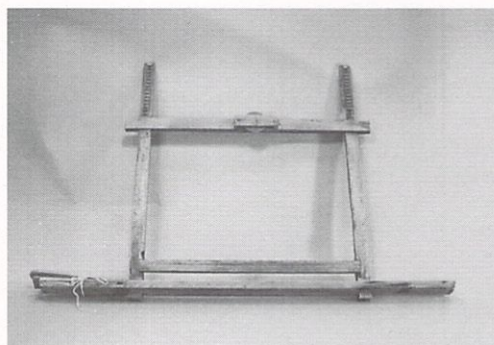
2-M-03-04

1点

木製。

法量(cm) 幅167.3, 高107.9, 厚7.7

重量(g) 4400



102390

(不詳) 〈箴框〉

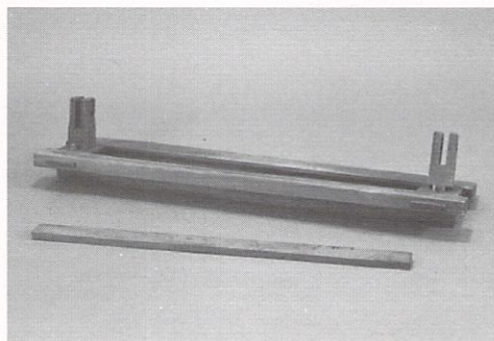
2-M-03-04

1点

木製。墨書「目方三百〇拾匁 柴田源」。

法量(cm) 縦62.6, 横17.0, 厚12.4

重量(g) 計1000



102391 (1175)

(不詳) 〈機草〉

高島郡新旭町饗庭

竹製。94点。明治時代～昭和初期まで使用。

法量(cm) 長97.0, 幅2.0, 厚1.0

重量(g) 計4800

2-M-03-04

1点



102392 (827)

(不詳) 〈機〉

野洲郡中主町六条

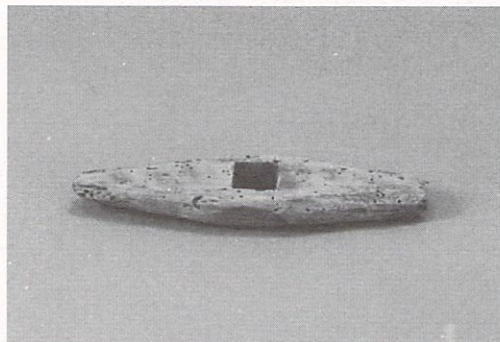
木製。機の部材。

法量(cm) 長28.0, 幅7.3, 厚3.0

重量(g) 121

2-M-03-04

1点



102393 (457)

チギリ

高島郡新旭町太田

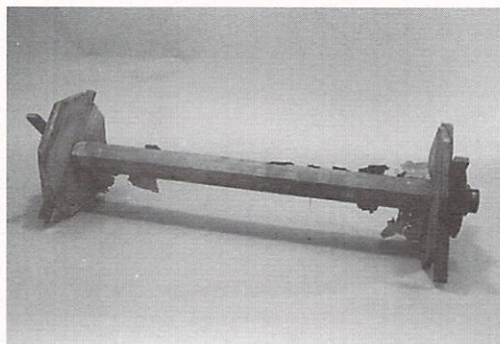
木製。整経した糸を巻き取るもの。明治時代～大正時代まで使用。墨書「式尺四寸□」「風袋老貫式百八十匁」「二十ガ四斤 十九ガ八斤 半ハ八ツ」。

法量(cm) 径32.5, 全長117.0

重量(g) 4400

2-M-03-04

1点



102394 (827)

(不詳) 〈機〉

野洲郡中主町六条

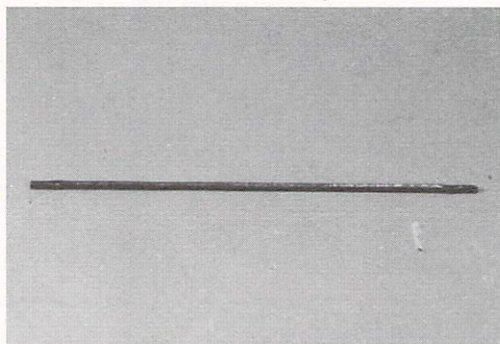
木製。

法量(cm) 径0.8, 長47.8

重量(g) 145

2-M-03-04

1点



102395

(不詳) 〈小管立〉

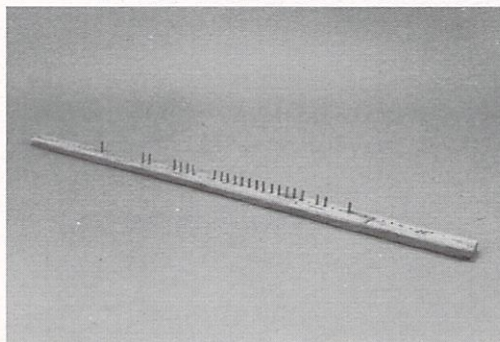
木製。

法量(cm) 長96.0, 幅3.8, 厚4.3

重量(g) 263

2-M-03-04

1点



102396

2-M-03-04

(不詳) 〈機〉

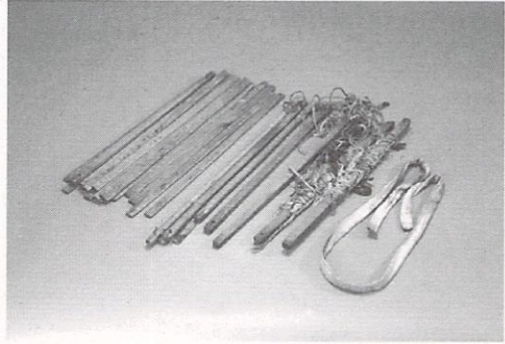
1点

八日市市三津屋町

機草、綜統は木製。綾棒は竹製。機草に墨書「明治□□年十二月□□
大字高木山□ 二百八十八項八十□」「安政二卯」「第卅七 四拾又三月
十日」「三俣村□□□□□□□□」「八十□本」など。

法量(cm) (機草) 長48.0, 幅2.0, 厚0.5, (綜統) 長55.0, 縦1.8, 横1.6,
(綾棒) 長43.7, 径1.5~長51.5, 径1.8

重量(g) (機草) 20, (綜統) 115, (綾棒) 43



102397 (462)

2-M-03-04

カザリ

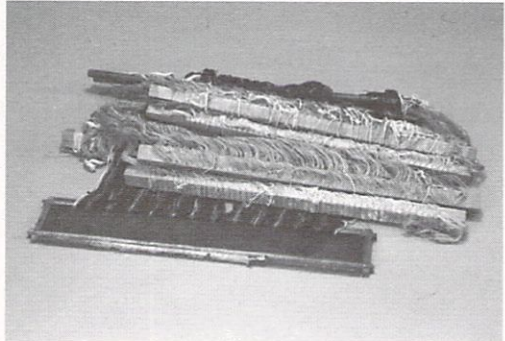
1点

高島郡新旭町太田

綜統は4本。2本ずつ上下する。明治時代~大正時代まで使用。

法量(cm) (箴) 長43.3, 幅7.8, 厚1.2, (綜統) 長44.6, 一辺2.0, (綾棒)
長48.8, 径1.0

重量(g) 計905



102398 (462)

2-M-03-04

カザリ

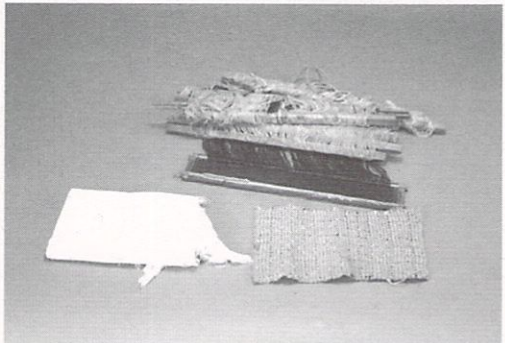
1点

高島郡新旭町太田

綜統は4本。2本ずつ上下する。明治時代~大正時代まで使用。

法量(cm) (箴) 長43.0, 幅7.7, 厚1.3, (綜統) 長45.5, 一辺1.6, (綾棒)
長53.5, 径0.6

重量(g) 計590



102399 (462)

2-M-03-04

カザリ

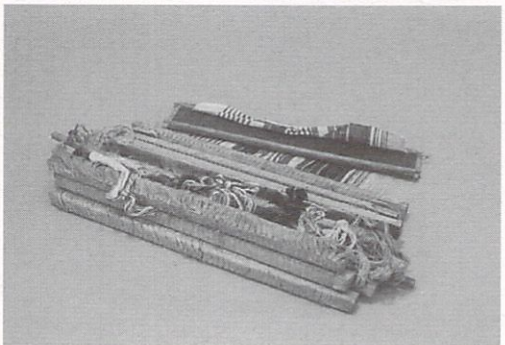
1点

高島郡新旭町太田

綜統は4本。2本ずつ上下する。明治時代~大正時代まで使用。

法量(cm) (箴) 長42.2, 幅7.5, 厚1.5, (綜統) 長45.7, 縦2.0, 横1.7, (綾棒)
長55.5, 径1.0

重量(g) 計895



102400 (462)

2-M-03-04

カザリ

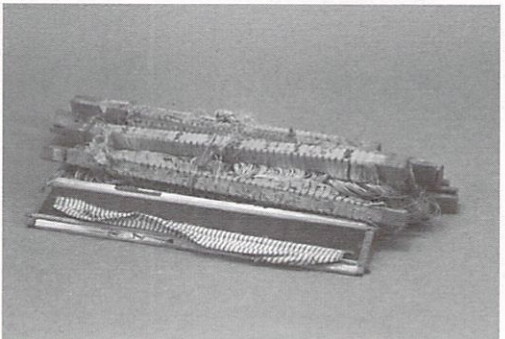
1点

高島郡新旭町太田

綜統は4本。2本ずつ上下する。明治時代~大正時代まで使用。

法量(cm) (箴) 長40.9, 幅8.1, 厚1.5, (綜統) 長46.5, 一辺1.8, (綾棒)
長55.7, 幅2.0, 厚0.5

重量(g) 計965



102401

カザリ (綜統)

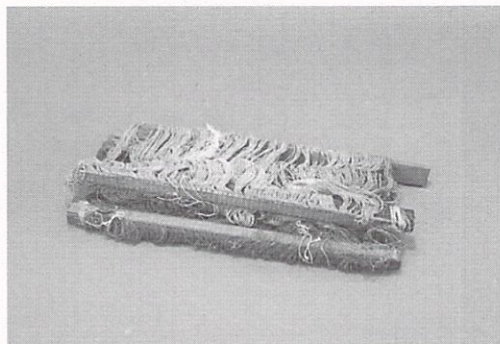
2-M-03-04

1点

木製。

法量(cm) 長47.4, 縦3.1, 横1.2

重量(g) 600



102402 (381)

オサ (箴)

2-M-03-04

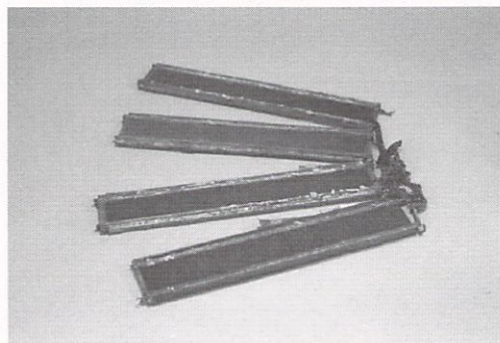
1点

八日市市三津屋町

竹籤を糸で巻いて綴じる。機織をするときに経糸を通す。木綿用(目が荒い)と絹用(目が細かい)がある。明治時代中期～昭和初期まで使用。

法量(cm) 長39.4, 幅8.1, 厚1.5～長41.8, 幅7.7, 厚1.3

重量(g) 75～134



102403

オサ

2-M-03-04

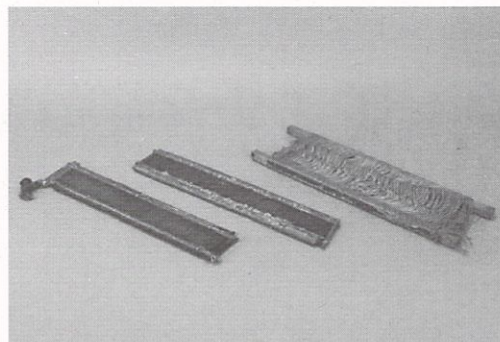
3点

八日市市三津屋町

箴は竹籤を糸で巻いて綴じる。綜統は木製。箴に墨書「十二」など。綜統に印刷「箴屋 角太郎製」。

法量(cm) (箴) 長38.3, 幅7.8, 厚1.5～長42.0, 幅8.0, 厚1.5, (綜統) 長45.3, 幅16.0, 厚1.8

重量(g) (箴) 80～100, (綜統) 138



102404

(不詳) 〈箴〉

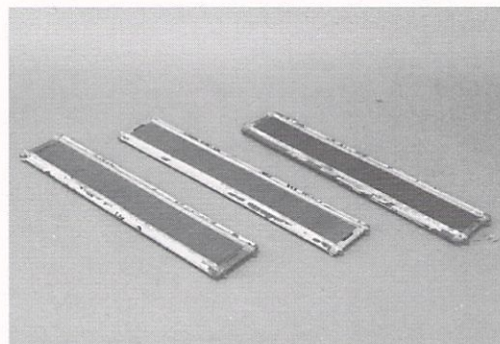
2-M-03-04

3点

竹籤を糸で巻いて綴じる。墨書「村田工房手織機」「金七拾五〇」「昭和六年二月十七日〇〇〇月〇〇日 愛知川町石橋〇〇勝〇朗ヨリ買」「橋占拾三ヨミ」「九半」など。

法量(cm) 長41.2, 幅7.8, 厚1.5～長42.8, 幅7.5, 厚1.4

重量(g) 90～97



102405 (264)

オサ

2-M-03-04

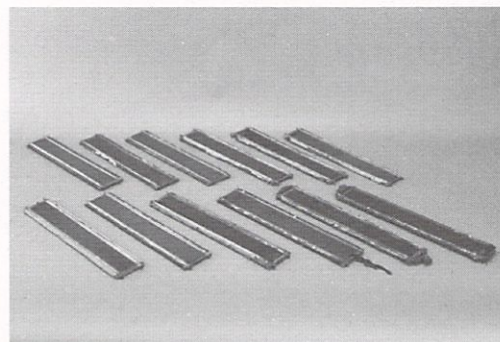
12点

八日市市三津屋町

竹籤を糸で巻いて綴じる。自家製の木綿布、絹布を織る時の織機の部品。箴は縦糸を通すもの。多くの種類がある。明治時代初期～昭和20年頃まで使用。一部に墨書あり。

法量(cm) 長40.6, 幅8.1, 厚1.4～長44.8, 幅7.8, 厚1.5

重量(g) 61～104



102406 (460)

2-M-03-04

オサ

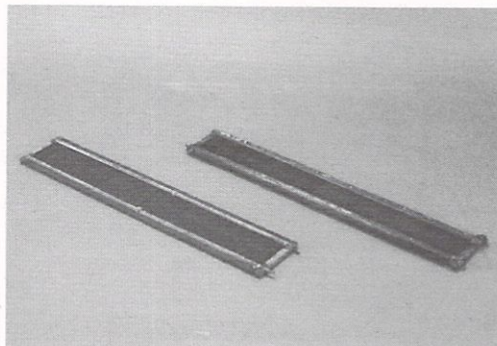
2点

高島郡新旭町太田

竹籤を糸で巻いて綴じる。

法量(cm) (左) 長45.5, 幅8.2, 厚1.1, (右) 長44.0, 幅7.7, 厚1.6

重量(g) (左) 75, (右) 95



102407 (1704)

2-M-03-04

ヒ (杼)

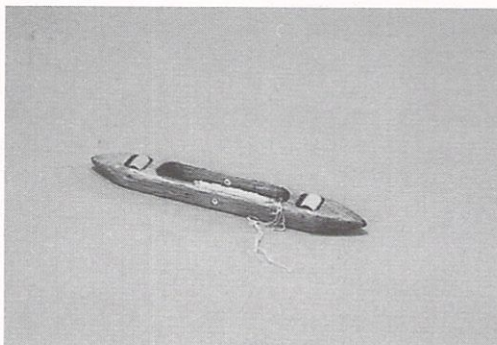
1点

東浅井郡浅井町郷野

木製。網織紬用。

法量(cm) 長24.6, 幅3.4, 厚1.7

重量(g) 72



102408 (461)

2-M-03-04

ヒ (杼)

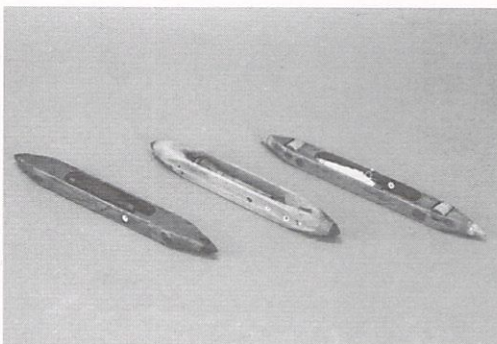
3点

高島郡新旭町太田

木製。緯糸を入れるのに使用。

法量(cm) (左) 長29.1, 幅3.0, 厚1.8, (中) 長26.7, 幅3.1, 厚2.5, (右) 長29.9, 幅3.0, 厚1.9

重量(g) (左) 125, (中) 115, (右) 115



102409 (279)

2-M-03-04

(不詳) 〈杼〉

1点

八日市市三津屋町

木製。綿布、絹布の自家製作に使用。婚礼の際に持参したもの。

法量(cm) 長22.6, 幅3.6, 厚2.1

重量(g) 85



102410

2-M-03-04

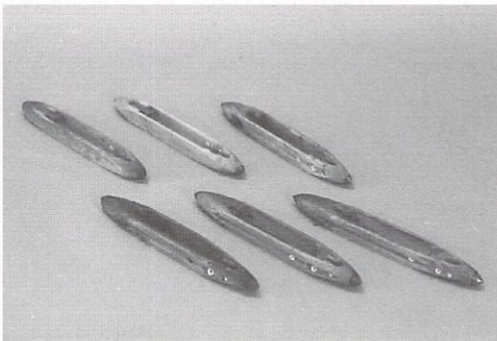
(不詳) 〈杼〉

6点

木製。

法量(cm) 長25.4, 幅3.3, 厚2.4~長26.0, 幅3.0, 厚2.5

重量(g) 95~125



102411

(不詳) 〈杼〉

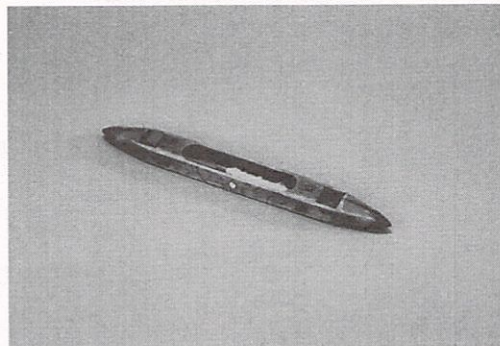
2-M-03-04

1点

木製。焼印あり。

法量(cm) 長29.3, 幅3.0, 厚1.8

重量(g) 145



102412

(不詳) 〈小管〉

2-M-03-04

1点

竹製の小管108点、伸子2点、筆1点など。

法量(cm) (小管) 長8.5, 径0.7, (伸子) 長35.0, 幅1.5, (筆) 長21.0, 径1.0

重量(g) 計390



102413 (782)

イトマキ (糸巻き)

2-M-03-04

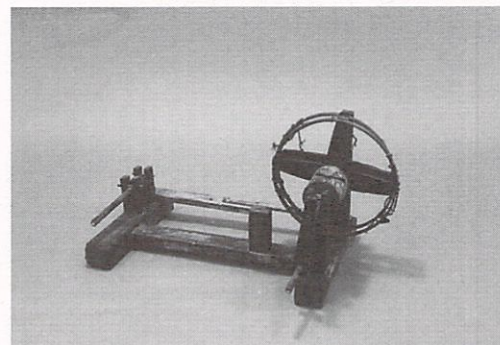
1点

野洲郡中主町井口

木製。

法量(cm) 長54.3, 幅29.4, 高29.0, (糸車) 径24.0

重量(g) 1110



102414 (567)

おもり

2-M-03-05

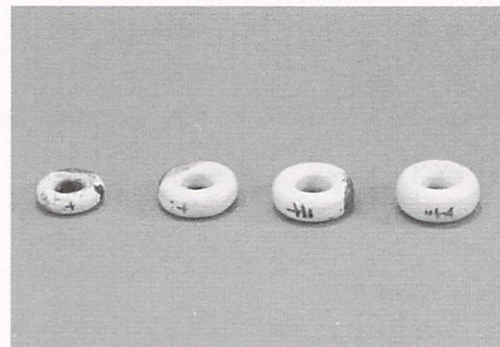
4点

長浜市高田町

陶器製。織機の糸のつっぱりで使用。昭和初期に購入。昭和35年頃まで使用。呉須書「十」「二〇」「十八」「二十五」。

法量(cm) 外径4.6, 内径2.0, 厚1.5~外径5.5, 内径2.0, 厚2.3

重量(g) 36~93



102415

(不詳)

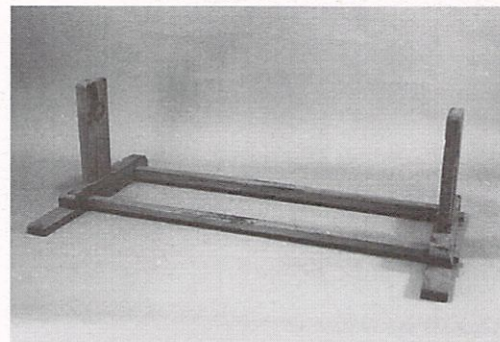
2-M-03-05

1点

木製。

法量(cm) 長116.5, 幅60.0, 高37.8

重量(g) 5200



102416

(不詳)

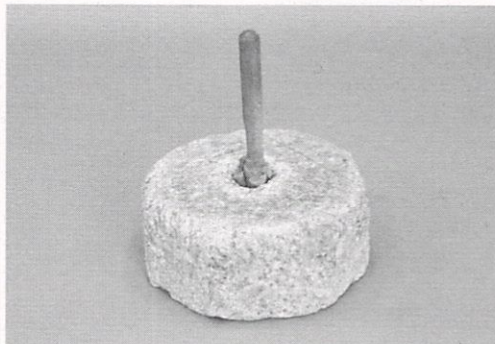
花崗岩。木製の軸を付ける。

法量(cm) 径24.5, 高10.5, 軸径2.0

重量(g) 12900

2-M-03-05

1点



102417

(不詳)

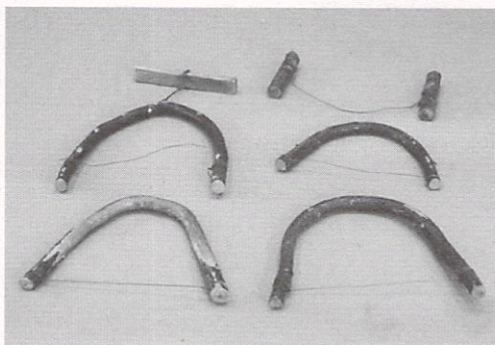
木を曲げ、針金を張る。

法量(cm) 幅23.0, 長16.0

重量(g) 計320

2-M-03-05

1点



102418

(不詳)

竹製。

法量(cm) 長58.0, 径2.6

重量(g) 110

2-M-03-05

1点



102419

(不詳)

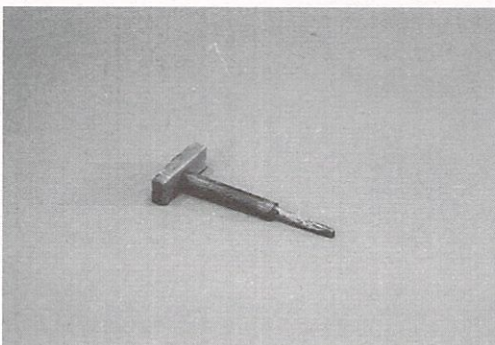
木製。

法量(cm) 縦8.9, 横3.1, 長20.3, 径1.8

重量(g) 59

2-M-03-05

1点



102420 (827)

(不詳) 〈布万力〉

野洲郡中主町六条

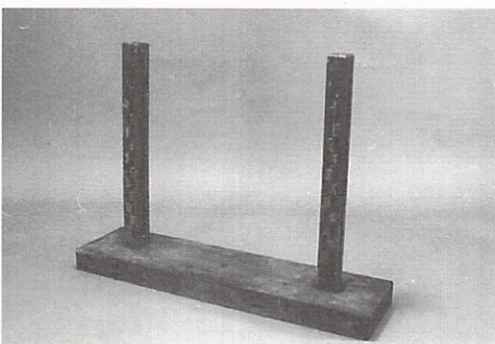
木製。

法量(cm) 縦18.4, 横73.2, 高54.4

重量(g) 6500

2-M-03-05

1点



102421 (467)

2-M-05-01

オオガメ

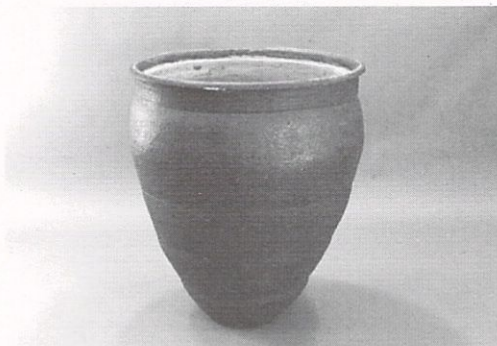
1点

神崎郡永源寺町山上

陶器。信楽焼。広い水屋（納屋）に同型の大甕を数個並べ、藍の染料をさまざまな濃度に調節したものをこの甕の中に蓄え、手織りの木綿生地を浸し、染めた。山上では300戸中2件紺屋があったが、大正年間に廃業した。江戸時代～明治時代に製作、使用。

法量(cm) 口径77.0, 高90.0

重量(g) 48000



102422

2-M-05-01

(不詳) 〈型紙〉

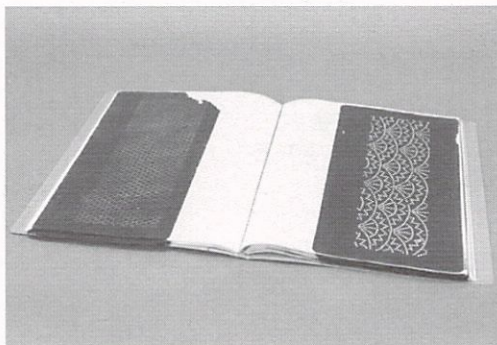
36点

彦根市武奈町

和紙に柿渋を塗る。麻布を染めるのに使用。

法量(cm) 縦41.5, 横20.7

重量(g) —



102423 (3901)

2-N-01-01

アサカワ (大麻茎皮)

1点

高島郡朽木村麻生

大麻の茎を蒸して皮をはいだもの。昭和10年代に採集。

法量(cm) 長33.0, 幅10.0

重量(g) 97



102424 (3902)

2-N-01-01

シナ (科皮)

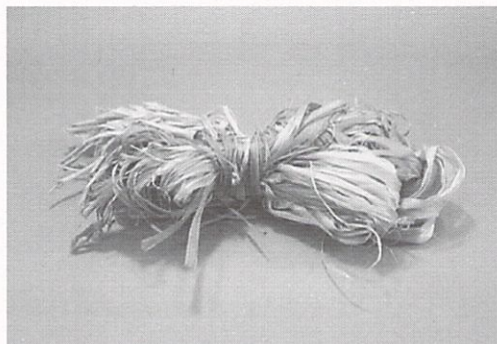
1点

高島郡朽木村麻生

科の皮をはいだもの。昭和35年頃に採集。

法量(cm) 長77.0, 幅26.0

重量(g) 510



102425 (1849)

2-N-01-01

フジの皮

1点

坂田郡山東町柏原

藤の白色の表皮を木槌で打ち、はがした内皮を米の研ぎ汁で炊いて乾燥させる。ハバキ、ガッサイ、研石袋、鉈袋、火縄などを編むのに使用。乾燥されたものをよく打って使う。薬材より丈夫で上品に仕上る。明治時代中期頃に採集。昭和40年頃まで使用。

法量(cm) 長66.0, 幅11.0

重量(g) 105



102426 (1848)

2-N-01-01

竹の皮

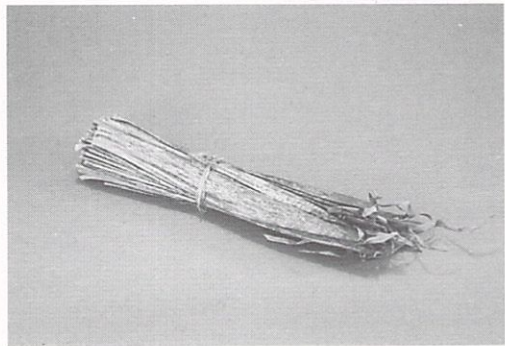
1点

坂田郡山東町柏原

真竹や孟宗竹の節間が30cm以上伸びた年の5~6月頃に長い皮のみ採集する。草履編み、握り飯の包装に使用。稀に子供が梅干しをくるみ（三角形に折る）そのトンガリから吸って食べた。草履を編む場合、2~3日前から水に浸しておいて、柔らかくなったものを裂いて使う。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 長58.0, 束幅9.0

重量(g) 240



102427 (3896)

2-N-01-01

カブイタ (株板)

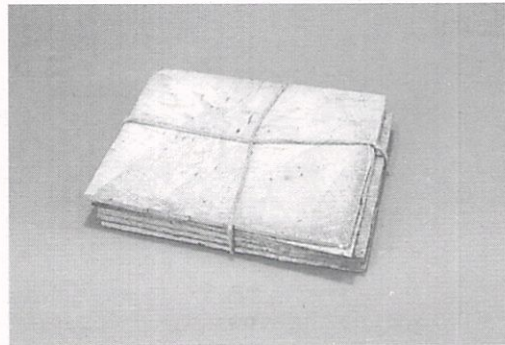
5点

高島郡今津町棕川

用材伐採後、残った切り株の四周を排土し、前挽き鋸で挽き割った板。丈は短いが木目が美しいため、障子の腰板として建具職人が高値をつけたという。大正時代に製作か。

法量(cm) 縦34.4, 横40.4, 厚1.0

重量(g) 計2850



102428 (1196)

2-N-01-01

ホソナワ

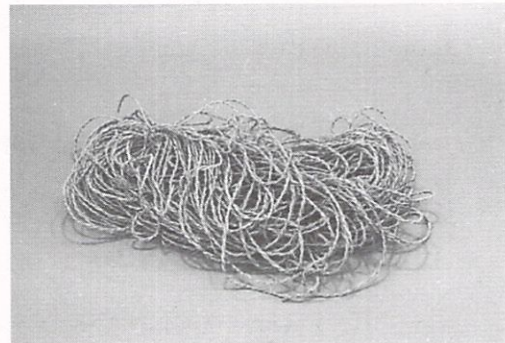
1点

守山市小浜町

薬製。ヒゲナシをはじめとする薬製品の製作に使用。

法量(cm) 径0.4

重量(g) 858



102429 (1196)

2-N-01-01

ホソナワ

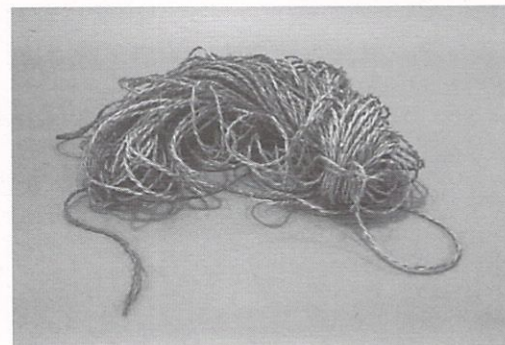
2点

守山市小浜町

薬製。ヒゲナシをはじめとする薬製品の製作に使用。

法量(cm) 径0.4

重量(g) 720



102430 (3885)

2-N-01-02

ワラズグリ (薬すぐり)

1点

高島郡今津町棕川

鉄製。朽木市場の野鍛冶が製作。柄は栗製。自家製。稲藁の根部の茎を包む葉を梳き取る。薬束の根元部分をほぐして櫛で髪を梳くように使う。大正時代末期頃に製作か。昭和40年代まで使用。

法量(cm) 柄径2.8, 爪長8.7, 幅8.2, 全長17.5

重量(g) 185



102431 (734)

2-N-01-02

ワラスグリ台

1点

東浅井郡湖北町尾上

歯は鉄製。台は木製。昔の脱穀機を改良したもの。墨書「拾」。

法量(cm) 幅62.5, 高54.0, (歯)長18.2, 幅24.5

重量(g) 4100



102432 (1372)

2-N-01-02

フラマンガ (薬馬鋏)

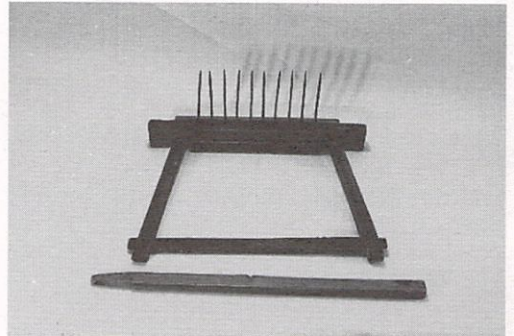
1点

伊香郡高月町唐川

歯は鉄製。台は木製。薬細工用の生薬をワラスグリと称し、葉と葉梢部を取り去るのに使用。

法量(cm) 長93.8, 幅35.0, 高48.7, (歯)長18.0, 幅33.2

重量(g) 3600



102433 (1840)

2-N-01-02

ワラスグリ

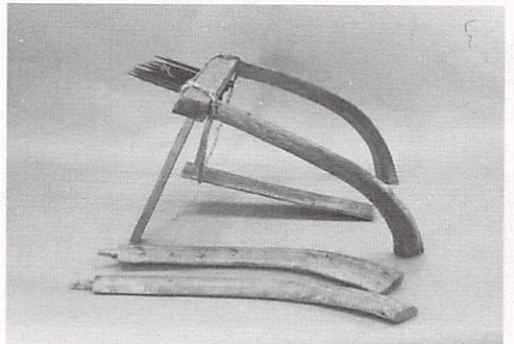
1点

坂田郡山東町柏原

歯は鉄製。台、脚は檜材。踏板は檜、杉が一枚ずつある。薬のハカマ(稲葉の外皮)を梳いて茎だけにする。踏板に足を乗せ、ワラスグリを固定し、薬の穂先を持ってハカマを歯の方へ打ちつけ上に引っ張ると梳かれたハカマが下へ落ちる。明治時代末期に製作か。昭和30年頃まで使用。墨書「大極上無類鋼□□請合草野鍛冶鉄治」。

法量(cm) 長95.5, 幅67.0, 高46.5, (歯)長17.3, 幅29.0

重量(g) 6100



102434 (1619)

2-N-01-02

ワラスグリ (千歯扱き)

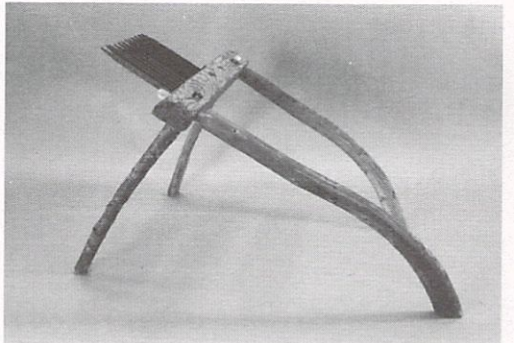
1点

八日市市大森町

歯は地元の野鍛冶屋で製作。台、脚は自家製。稲の穂を千歯に入れ両手で稲束を持ち、穂をしごき脱穀する。稲のほかに大豆、小豆などの豆類の脱穀、薬細工用の薬を作る時にワラスグリをする。明治12年頃に製作。昭和8年頃まで使用。焼印「□賀 力□屋」。

法量(cm) 長86.0, 幅61.2, 高50.2, (歯)長20.0, 幅17.4

重量(g) 4400



102435 (1503)

2-N-01-02

コツチ (木槌)

1点

神崎郡能登川町能登川

樺製。薬を叩いて柔らかくする。豆類の脱穀にも使用。明治時代に製作。焼印あり。

法量(cm) 径11.0, 高22.0, 柄径3.6

重量(g) 800



102436 (1633)

2-N-01-02

木槌

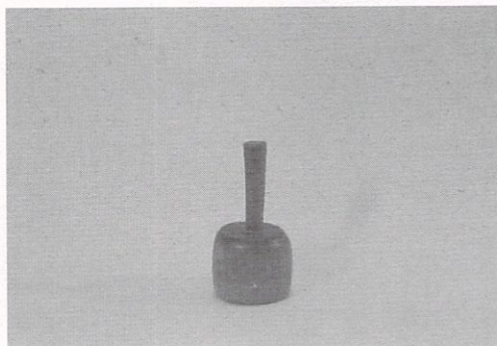
1点

神崎郡能登川町伊庭

木製。穀類を脱穀したり、藁を打って柔らかく強くする。

法量(cm) 径10.7, 高21.6, 柄径3.2

重量(g) 625



102437

2-N-01-02

槌

1点

神崎郡永源寺町山上

木製。

法量(cm) 底径12.4, 高26.3, 柄径3.8

重量(g) 1100



102438 (1581)

2-N-01-02

コツチ (横槌)

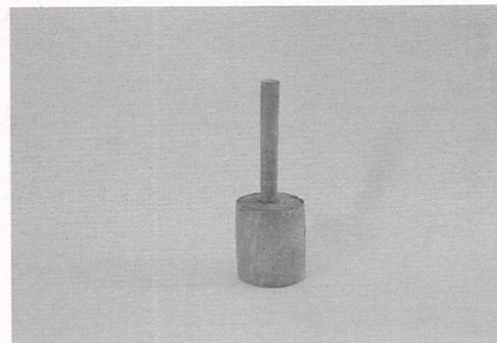
1点

神崎郡永源寺町山上

木製。藁打ち、土打ち、脱穀打ちなどに使用。明治時代～大正時代まで使用。

法量(cm) 径11.0, 高32.3, 柄径3.1

重量(g) 1000



102439 (1557)

2-N-01-02

横槌

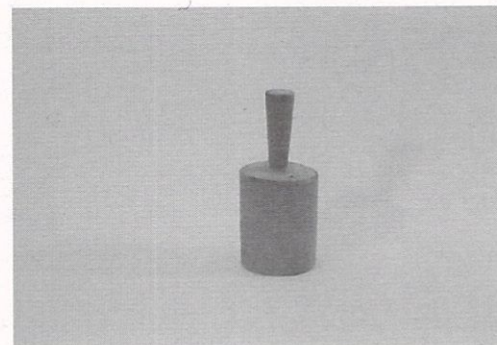
1点

八日市市市辺町

木製。

法量(cm) 径11.5, 高25.0, 柄径4.0

重量(g) 1100



102440 (1787)

2-N-01-02

ツチ (木槌)

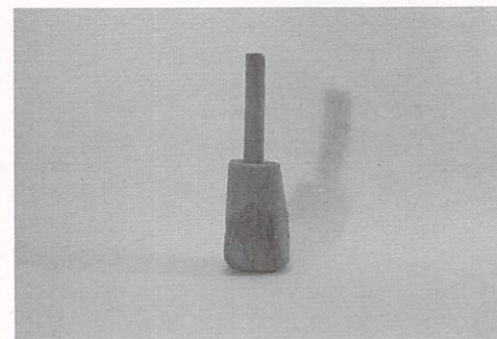
1点

八日市市市辺町

木製。藁打ち作業などに使用。明治時代中期まで使用。

法量(cm) 長径15.5, 短径12.0, 高49.8, 柄長径4.4, 短径3.8

重量(g) 1900



102441 (1167)

ヨコツチ

守山市小浜町

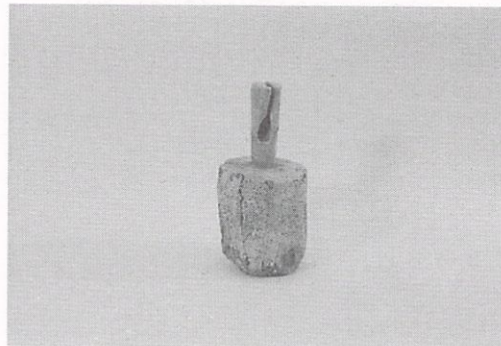
木製。藁を叩くのに使用。

法量(cm) 長径13.9, 短径12.6, 高26.5, 柄径4.2

重量(g) 1000

2-N-01-02

1点



102442

ヨコツチ

野洲郡中主町井口

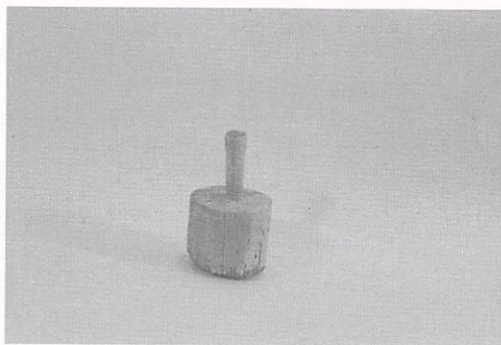
木製。

法量(cm) 径13.3, 高22.9, 柄径3.5

重量(g) 1100

2-N-01-02

1点



102443 (2846)

ツチノコ (槌)

坂田郡近江町高溝

木製。藁打ち専用。昭和10年代に製作か。昭和40年代まで使用。

法量(cm) 径12.5, 高23.0, 柄径3.2

重量(g) 1000

2-N-01-02

1点



102444 (3366)

ツチノコ (木槌)

坂田郡近江町高溝

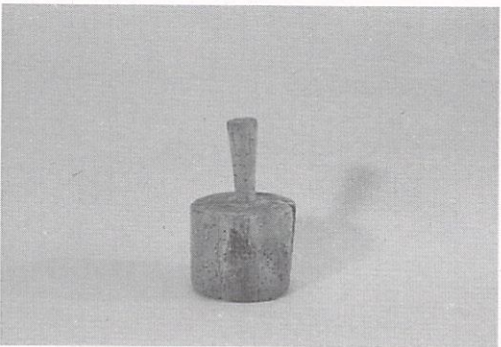
木製。藁を打って、繊維をやわらかくして、縄に織う。昭和初年に製作。昭和40年まで使用。

法量(cm) 径14.1, 高24.7, 柄径4.0

重量(g) 1100

2-N-01-02

1点



102445 (13)

ツチ (槌)

東浅井郡湖北町尾上

木製。藁を叩くのに使用。

法量(cm) 長径15.5, 短径14.1, 高23.8, 柄径3.5

重量(g) 1400

2-N-01-02

1点



102446 (962)

2-N-01-02

ヨコヅチ (横槌)

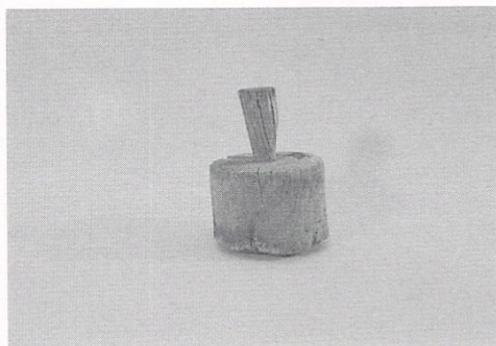
1点

蒲生郡日野町寺尻

木製。藁打ち用のヨコヅチ。明治時代中期～昭和10年頃まで使用。

法量(cm) 径14.0, 高19.7, 柄径4.9

重量(g) 1050



102447 (1988)

2-N-01-02

ツチノコ

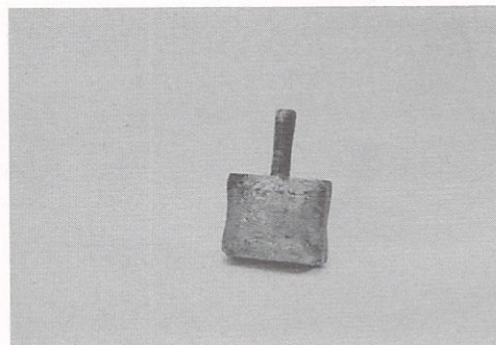
1点

坂田郡山東町柏原

檜製。手細工に使用する藁を打つときに使用。藁をツチノコで打って使う。昭和15年頃に製作。昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 縦18.5, 横8.6, 高27.0, 柄長径3.5, 短径2.6

重量(g) 1600



102448 (2779)

2-N-01-02

フラウチ (藁打ち機)

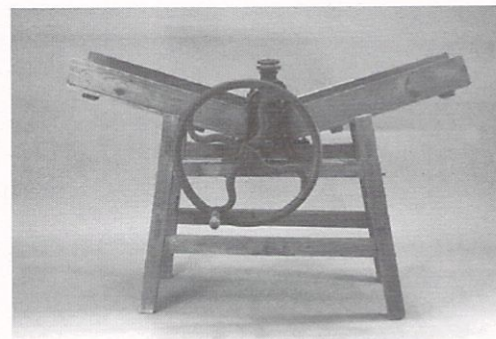
1点

坂田郡近江町高溝

鉄製。木枠の台に取り付ける。藁打ちに使用。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 全高91.8, (木枠) 長98.5, 幅38.7, (ハンドル) 径52.0

重量(g) 51800



102449 (2285)

2-N-01-02

フラウチ (藁打ち機)

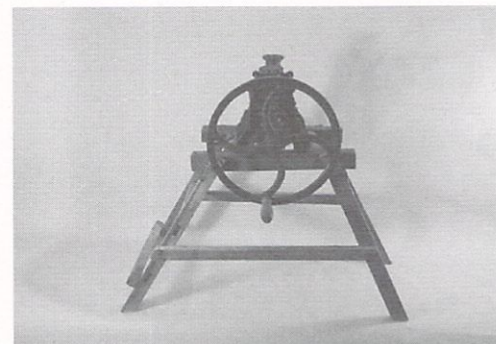
1点

長浜市今町

本体は鉄製で、台は木製。縄や簀を製作する時に藁を打った。昭和20年代後半～40年頃まで使用。

法量(cm) 全高90.4, (木枠) 長106.4, 幅48.2, (ハンドル) 径43.5

重量(g) 43500



102450 (1014)

2-N-01-02

縄編み機

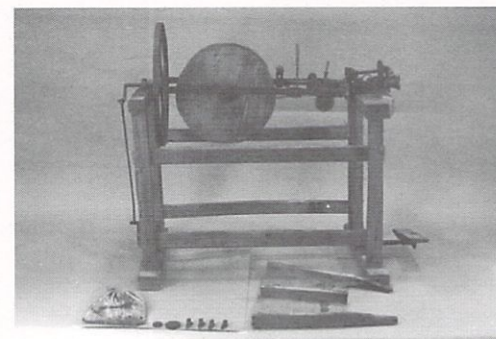
1点

長浜市鳥羽上町

木製。本体に縄をあむギヤと巻取り部の鉄製部品からなる。左下方に足踏ペダルあり。回転に伴ない左より藁を入れると縄になってドラムに巻き取られて行く。昭和15年頃～40年頃まで使用。印字「大阪田所式製縄機」。部品の袋に「元祖 なわな い 田所商 □ 田所式」など。

法量(cm) 長93.0, 幅47.0, 高72.0, (ドラム) 径38.0, 幅26.0

重量(g) 39700



102451 (2781)

2-N-01-02

ナワノイキ (縄織機)

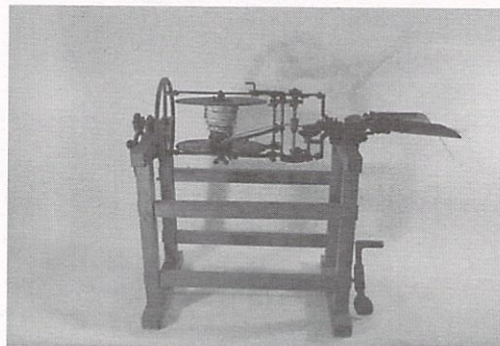
1点

坂田郡近江町高溝

鉄製。木枠の台。細縄専用の縄織機。藁縄の製造に使用。昭和40年代まで使用。プレート「イセ号細縄専用機替歯車表」。印字「イセ號細縄専用機」「三重縣川村鉄工所四日市市」。

法量(cm) 長103.0, 幅52.0, 高68.9, (ドラム) 径33.8, 幅16.0

重量(g) 29900



102452 (2571)

2-N-01-02

ナワナイキ (製縄機)

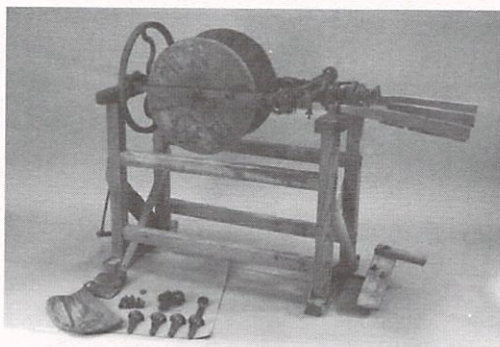
1点

坂田郡山東町柏原

木枠の台に歯車のついた金具を取付けたもの。藁台を差込み、漏斗から藁を挿入し、足踏み板を踏むと、木製ドラムが回転し縄が織られる。一日に3玉程度製造した。昭和40年頃まで使用。印字「田所式製縄機 農林省御推奨各府縣指定 農具共口会金牌受領」「田所式口細型製縄機」「口農具製造株式會社製」。

法量(cm) 長92.7, 幅54.0, 高97.5, (ドラム) 径43.7, 幅25.8

重量(g) 40700



102453

2-N-01-02

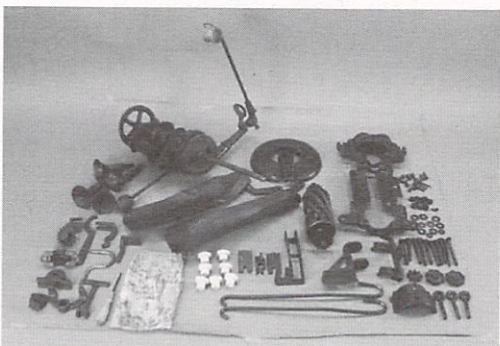
(不詳) 〈縄織機〉

1点

鉄製。

法量(cm) 軸径1.6, 長66.6, 幅53.5, 高42.0

重量(g) 13600



102454 (1016)

2-N-01-03

シブツキキネ (渋搗き杵)

1点

東浅井郡浅井町寺師

木製。柿渋を作るための杵。大正時代～昭和30年代まで使用。

法量(cm) 径13.3, 幅45.0, 全長99.0, (柄) 長径3.8, 短径2.6

重量(g) 4500



102455 (2002)

2-N-01-03

シブコシショウケ (渋漉ししょうけ)

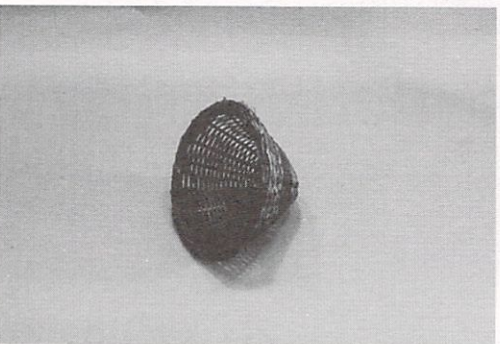
1点

坂田郡山東町清滝

竹製。一部藁、藤材使用か。渋柿の渋を採取するために使用。つぶした渋柿をショウケに入れ、渋だけ採取したものか。当家では蚕を飼育し真綿を製したので、養蚕などに渋紙などを利用するために、この道具を使用したと思われる。昭和初期まで使用。

法量(cm) 口径38.0, 高26.6

重量(g) 530



102456 (951)

2-N-01-03

ツノオケ (角桶)

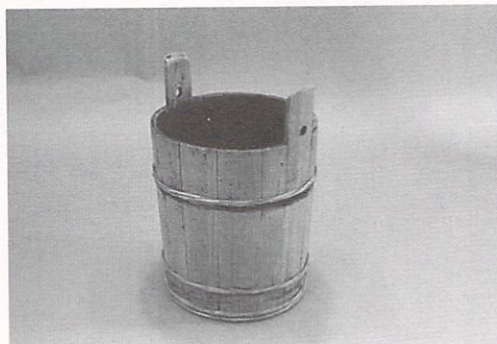
1点

蒲生郡日野町寺尻

竹製。箍は鉄製。青柿をしぼり、柿渋を取るのに使用。大正時代初期に製作、使用。

法量(cm) 径32.3, 高49.2

重量(g) 2400



102457 (680)

2-N-02-01

草履作り台

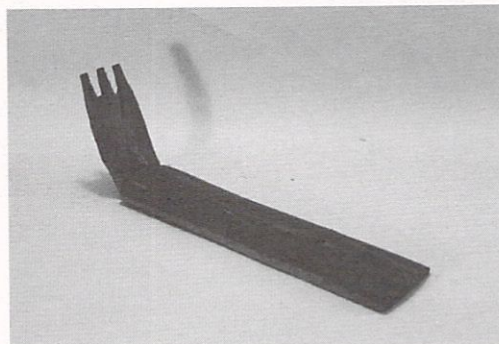
1点

野洲郡中主町下堤

木製。固定板の上に座り、自分の体重で固定する。一本の縄をかけ、両端は内側へかけて手で引っ張る。

法量(cm) 長62.5, 幅13.5, 高21.2

重量(g) 995



102458 (680)

2-N-02-01

草履作り台

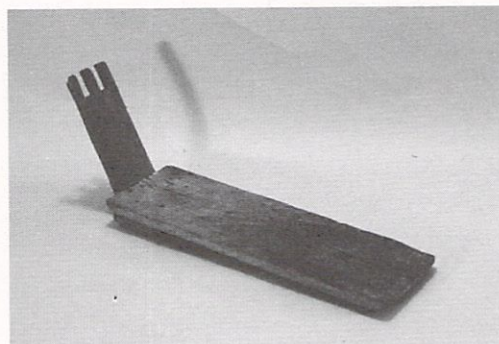
1点

野洲郡中主町下堤

木製。固定板の上に座り、自分の体重で固定する。一本の縄をかけ、両端は内側へかけて手で引っ張る。

法量(cm) 長61.5, 幅16.7, 高23.5

重量(g) 1100



102459 (18)

2-N-02-01

ソウリ作り

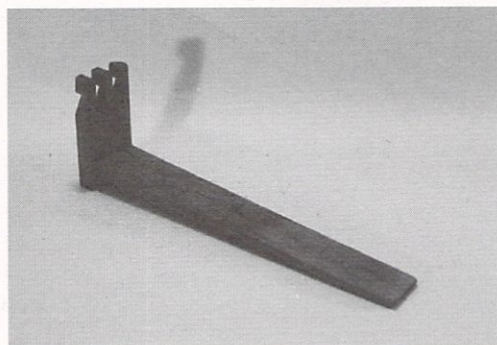
1点

伊香郡余呉町川並

木製。冬にフラジ、ソウリを作る時に使用。墨書「昭和二十四年一月」など。

法量(cm) 長67.3, 幅12.8, 高22.2

重量(g) 900



102460 (986)

2-N-02-01

フラジアミ (草鞋編み)

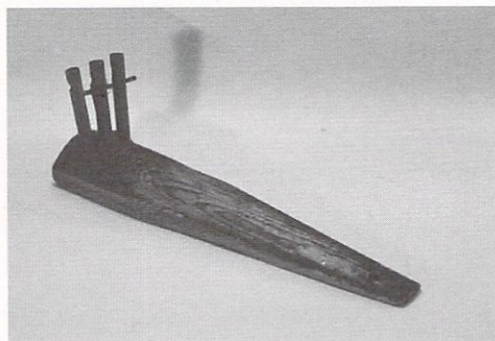
1点

神崎郡永源寺町市原野

木製。草鞋や草履を製作する際、足の親指や人差指を使用しても製作できるが、その代りに使用した。明治時代～大正時代に製作か。大正時代まで使用。焼印あり。

法量(cm) 長69.4, 幅19.4, 高23.0

重量(g) 1600



102461 (2780)

ゾウリアミ (草履編み)

坂田郡近江町高溝

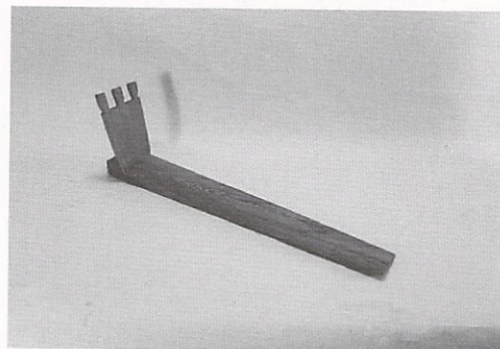
木製。草履、トンボゾウリ (足半) を製作する時に使用。明治時代に製作。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 長88.5, 幅15.5, 高26.8

重量(g) 2400

2-N-02-01

1点



102462 (802)

草履作り台

野洲郡中主町吉川

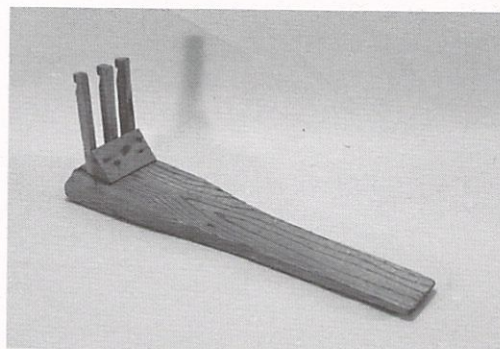
木製。

法量(cm) 長65.4, 幅17.3, 高23.5

重量(g) 1100

2-N-02-01

1点



102463 (1786)

ゾウリツクリ (草履作り器)

八日市市大森町

自家製。木製。藁草履を編む台。大正時代初期に製作。昭和20年頃まで使用。

法量(cm) 長67.0, 幅12.6, 高23.0

重量(g) 844

2-N-02-01

1点



102464

(不詳) 〈草鞋作台〉

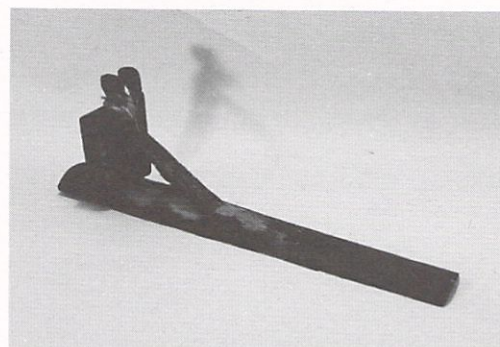
木製。

法量(cm) 長76.3, 幅14.7, 高23.7

重量(g) 1900

2-N-02-01

1点



102465 (1224)

草履作り台

長浜市布勢町

自家製。杉製。藁で草履等を作る時に使用した。大正時代末期に製作。昭和25年頃まで使用。

法量(cm) 長88.2, 幅17.0, 高24.6

重量(g) 2400

2-N-02-01

1点



102466 (1808)

2-N-02-01

ジョーリアミ (ぞうり編み)

1点

坂田郡近江町高溝

松のコワ板を使用。草履を作るのに使用。農耕、外出用、屋内上ばき用など多くの草履が必要であった。大正時代末期頃製作か。大正時代末期～昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 長96.5, 幅16.2, 高25.0

重量(g) 3300



102467 (1842)

2-N-02-01

草履作り

1点

坂田郡山東町柏原

自家製。材は杉、松、釘でとめる。草履、草鞋、足半、ツッカケ（ツマガケ）の製作に使用。草履は細縄を台の指の所へ引掛け手指で引張りながら編んでいく。手元がツマ先となり順次カカト（台の指部）へ編まれる。花緒が最後に上げられるがボロ布切れなどを巻くなど工夫がなされた。大正時代初期～昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 長80.0, 幅16.0, 高20.0

重量(g) 1400



102468 (1862)

2-N-02-01

草履作り

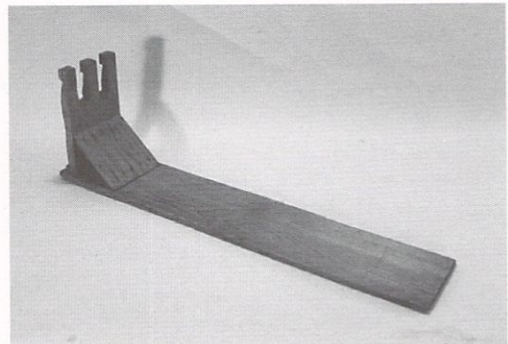
1点

坂田郡山東町柏原

自家製。杉材、釘でとめる。草履を編むのに使用。指になった部分へ藁縄をかけ、手元へ引っ張りながら編む。ツマ先から順次カカトへ編まれる。藁の毛羽立ちを手鋏で整理し、次に鼻緒をすげる。昭和21年頃に製作。昭和33年頃まで使用。

法量(cm) 長91.0, 幅16.5, 高27.7

重量(g) 1300



102469 (1896)

2-N-02-01

草鞋編み台

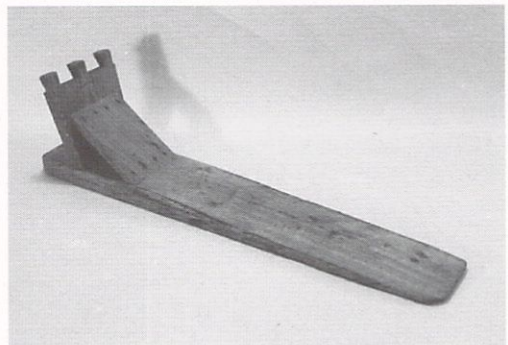
1点

東浅井郡浅井町八島

木製。

法量(cm) 長85.7, 幅16.0, 高22.6

重量(g) 2500



102470 (1896)

2-N-02-01

草鞋編み台

1点

東浅井郡浅井町八島

木製。

法量(cm) 長92.8, 幅15.0, 高29.2

重量(g) 1900



102471 (345)

草履作り台

八日市市寺町

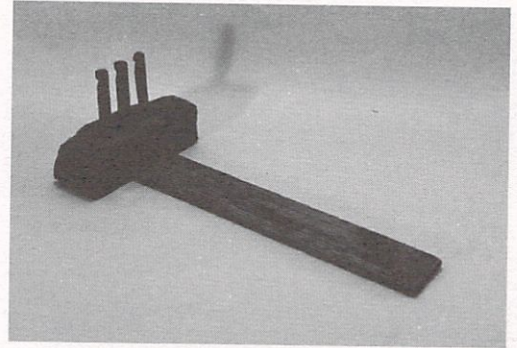
自家製。木製。角に縄をかけ、藁を縄に通して草履と草鞋を作る。

法量(cm) 長65.7, 幅27.5, 高19.7

重量(g) 1400

2-N-02-01

1点



102472 (1851)

ツマガケ台

坂田郡山東町柏原

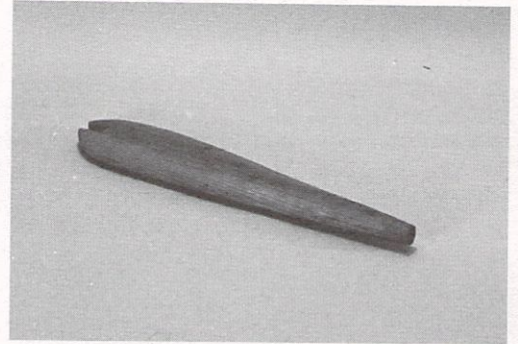
杉材、昔は朴の木を用いた。ツマガケを編むのに使用。左右は台を裏向きにすると製作できた。戦時中に製作。昭和40年頃まで使用。

法量(cm) 長47.0, 幅10.5, 厚3.0

重量(g) 281

2-N-02-01

1点



102473

(不詳) 〈俵編機〉

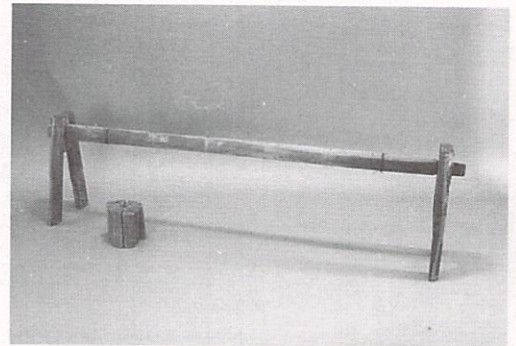
2-N-02-02

1点

木製。槌8点付。

法量(cm) 長148.5, 幅24.3, 高40.4, (槌) 縦5.6, 横13.1

重量(g) 3200, (槌) 計1600



102474 (740)

俵編台

東浅井郡湖北町尾上

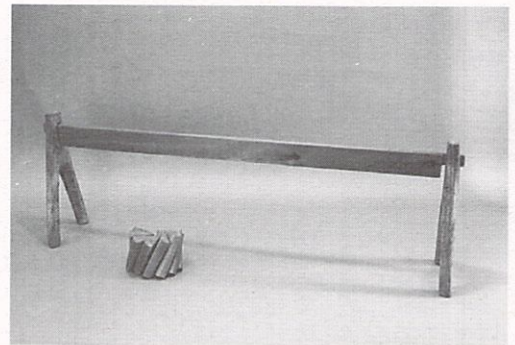
木製。槌8点付。

法量(cm) 長140.0, 幅27.5, 高45.0, (槌) 縦8.3, 横13.4

重量(g) 2500, (槌) 計1200

2-N-02-02

1点



102475 (2782)

コモアミ (俵編み機)

坂田郡近江町高溝

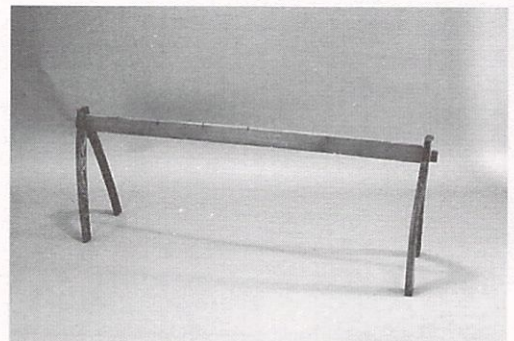
木製。脚部は又木を真半分にしたもの。米俵や蕨を製作する際に使用する。昭和30年代まで使用。

法量(cm) 長121.0, 幅32.0, 高43.5

重量(g) 1200

2-N-02-02

1点



102476

(不詳) 〈俵編機〉

八日市市

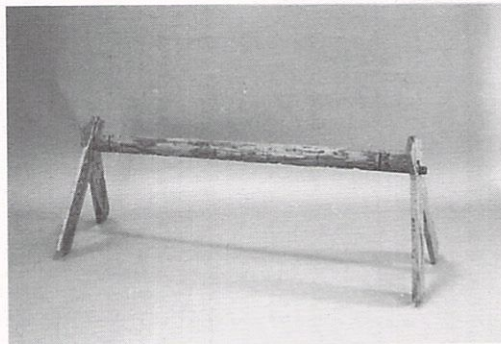
木製。

法量(cm) 長121.5, 幅40.6, 高48.0

重量(g) 1800

2-N-02-02

1点



102477 (1622)

タワラアミ (俵編み)

八日市市大森町

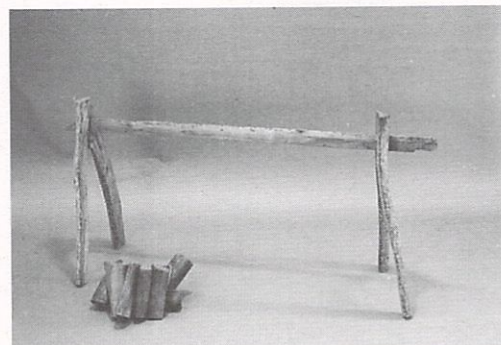
自家製。木製。槌10点付。米俵、筵、菰を作る道具。足を立て竿を渡し、竿の上に藁を置き、ツト (槌) に巻いた細縄を交差させて編む。明治20年頃に製作。昭和30年頃まで使用。槌に焼印あり。

法量(cm) 長115.0, 幅37.0, 高52.3, (槌) 縦6.0, 横14.3

重量(g) 1600, (槌) 計2000

2-N-02-02

1点



102478 (1841)

コモアミ (俵編み)

坂田郡山東町柏原

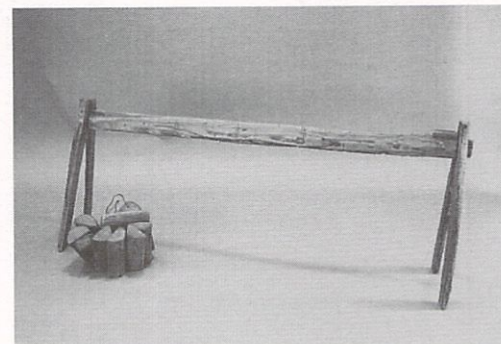
自家製。木製。槌11点付。俵、筵の下敷用菰の他に弁当ガラ、藁の一部を編むのにも使用した。俵を編む場合、棹に刻んだ四ヶ所の溝を使用。編物に適した長さの細縄がコマ穴を通し巻付けられ、棹の両側にコマをぶら下げる。棹の上に藁を乗せ、コマを交互に返して編む。大正時代初期に製作。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 長137.5, 幅27.8, 高51.8, (槌) 縦9.4, 横13.2

重量(g) 1900, (槌) 計3700

2-N-02-02

1点



102479 (1841)

コモアミ (俵編み)

坂田郡山東町柏原

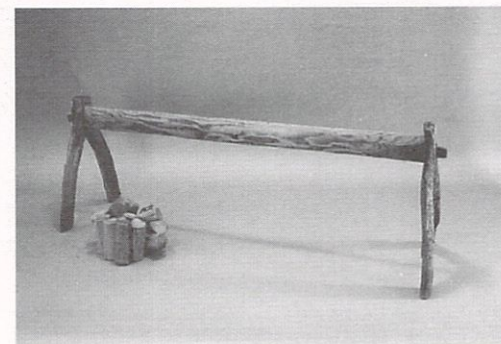
自家製。木製。槌11点付。俵、筵の下敷用菰の他に弁当ガラ、藁の一部を編むのにも使用した。俵を編む場合、棹に刻んだ四ヶ所の溝を使用。編物に適した長さの細縄がコマ穴を通し巻付けられ、棹の両側にコマをぶら下げる。棹の上に藁を乗せ、コマを交互に返して編む。大正時代初期に製作。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 長145.5, 幅39.8, 高47.2, (槌) 縦7.7, 横13.8

重量(g) 3300, (槌) 計3700

2-N-02-02

1点



102480 (1841)

コモアミ (俵編み)

坂田郡山東町柏原

自家製。木製。

法量(cm) 高52.5, 幅29.0

重量(g) 1100

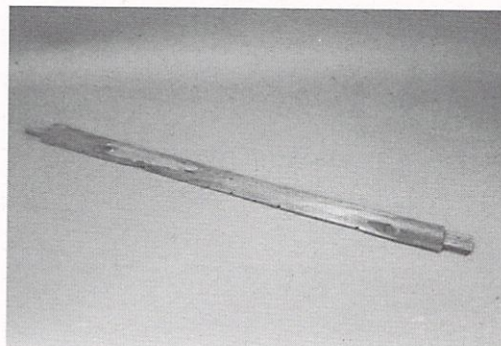
2-N-02-02

1点



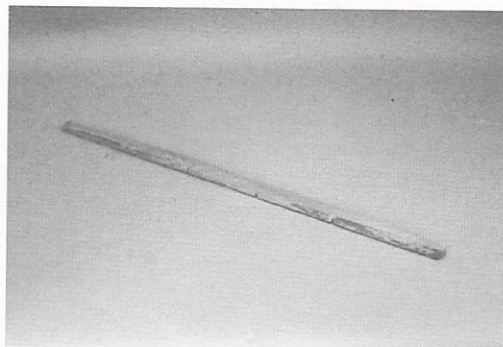
102481 (1841)
コモアミ (俵編み)
 坂田郡山東町柏原
 自家製。木製。
 法量(cm) 長120.5, 幅8.0
 重量(g) 700

2-N-02-02
 1点



102482 (1841)
コモアミ (俵編み)
 坂田郡山東町柏原
 自家製。木製。
 法量(cm) 長100.6, 幅4.0
 重量(g) 248

2-N-02-02
 1点



102483 (1841)
コモアミ (俵編み)
 坂田郡山東町柏原
 自家製。木製。
 法量(cm) 長94.7, 幅12.0
 重量(g) 1100

2-N-02-02
 1点



102484 (493)
マタとツチ (俵編み)
 高島郡今津町浜分
 自家製。マタは櫟の枝をとり、タテビキで2つに切ったもの。槌は枇杷製、8点付。俵などを編む。昭和30年頃まで使用。
 法量(cm) 高49.0, 幅33.0, (槌) 縦7.0, 横14.8
 重量(g) 計2300, (槌) 計1900

2-N-02-02
 1点



102485
俵編み道具
 八日市市市辺町
 木製。槌8点付。墨書「槌子附 明治十八年十一月」など。焼印あり。
 法量(cm) 高49.5, 幅36.5, (槌) 縦6.5, 横14.5
 重量(g) 1400, (槌) 計1600

2-N-02-02
 1点



102486 (3614)

2-N-02-02

クラ (筵編み台)

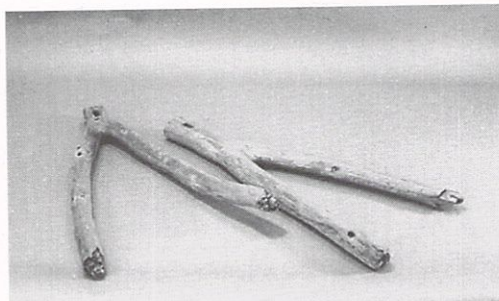
1点

東浅井郡びわ町新居

自家製。Y字の似た形の枝を人形になるよう高さを揃えて切る。クラ、サン (横に架ける棒)、コマ (編みひもを巻き付ける木片) の3点で1セットの道具になる。筵、薦、葭簀、臥簀など、材料を変えて何でも編んだ。製品により、編紐の種類と太さ、編み目の間隔と締め方の強弱を考えながら編む。昭和25年まで使用。

法量(cm) 高84.0, 幅36.5~43.0

重量(g) 計4500



102487

2-N-02-02

筵織機

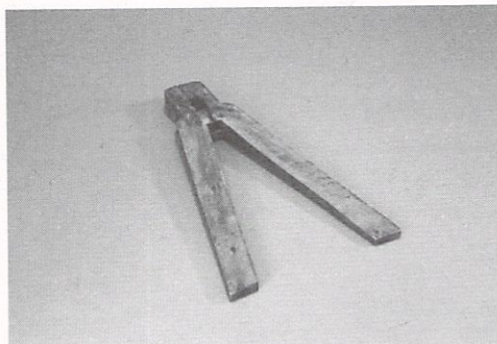
1点

長浜市

木製。

法量(cm) 高42.5, 幅24.0

重量(g) 438



102488

2-N-02-02

筵織機

1点

長浜市

木製。

法量(cm) 高79.0, 幅26.5

重量(g) 1500



102489

2-N-02-02

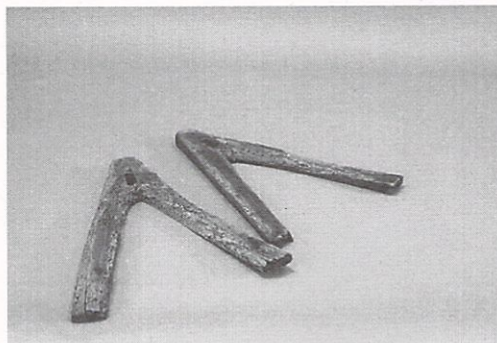
俵編み道具

1点

木製。

法量(cm) 高45.5, 幅35.0

重量(g) 900



102490 (3126)

2-N-02-02

コモアミ (薦編み)

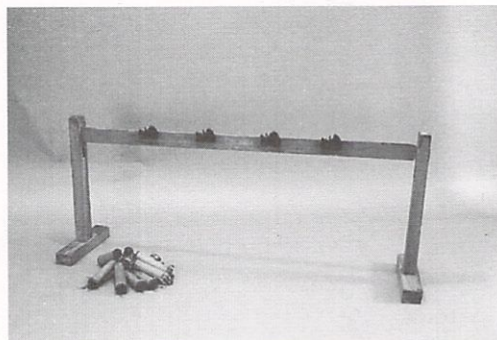
1点

坂田郡近江町高溝

木製。一部鉄製。槌10点付。薦を編む時に使用する。昭和初年~40年頃まで使用。刻印「實用新案 一七四〇八号 大日本正俵社」。

法量(cm) 長121.0, 幅29.2, 高50.5, (槌) 径2.8, 高15.8

重量(g) 3400, (槌) 計9000



102491 (154)

タワラアミキ (俵編機)

長浜市国友町

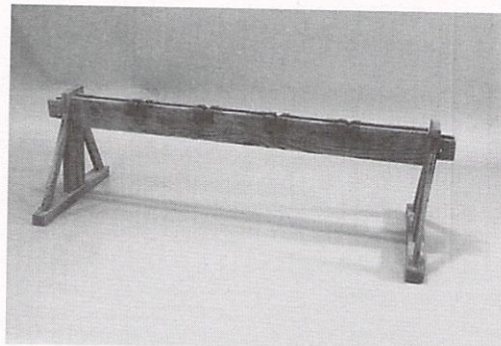
木製。粳を入れる俵を織る。三つ編みの機械。粳が紙袋に入れられるようになり、俵が不用になったため使わなくなった。昭和20～30年頃に製作、使用。印字「豊口號式」「石坂式」「俵編機」「本縄」など。

法量(cm) 長104.0, 幅42.0, 高32.0

重量(g) 3200

2-N-02-02

1点



102492 (666)

コモ編み機

野洲郡中主町野田

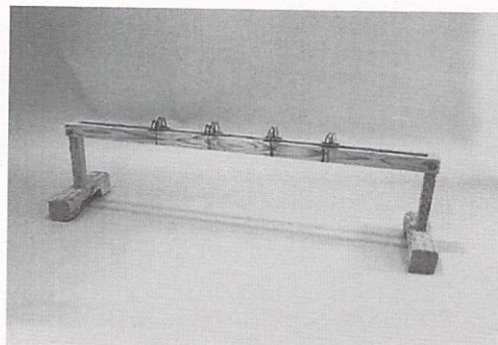
木製。一部鉄製。

法量(cm) 長134.3, 幅33.7, 高33.9

重量(g) 2900

2-N-02-02

1点



102493 (976)

ムシロアミ (筵編み)

神崎郡永源寺町山上

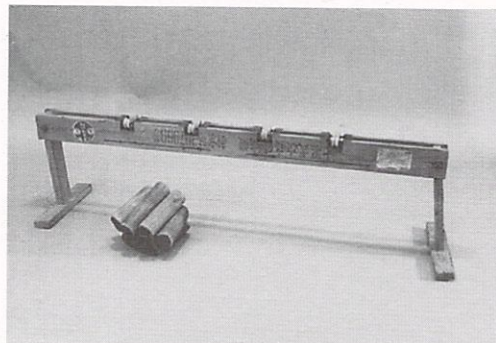
木製。農閑期の副業として又自家用として藁を槌で打ち、穂揃えの上、別に用意した細い藁縄の両端に槌を結着し、本機の左右に垂して藁縄を数本置き、前後交互に槌を運んで筵を製作したもの。明治時代～昭和20年代まで使用。印字「大黒式改良俵編機 新案第397969号」。槌に焼印あり。

法量(cm) 長121.6, 幅30.5, 高32.5, (槌) 縦6.0, 横17.0

重量(g) 3800, (槌) 計3600

2-N-02-02

1点



102494 (266)

俵編機

八日市市三津屋町

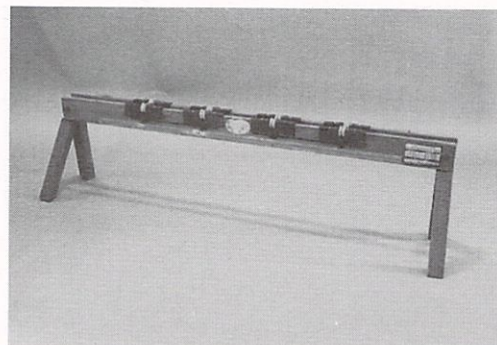
木製。一部鉄製。米俵の製作機。昭和10年頃～30年頃まで使用。

法量(cm) 長127.5, 幅24.7, 高34.3

重量(g) 3600

2-N-02-02

1点



102495 (342)

俵編機

八日市市寺町

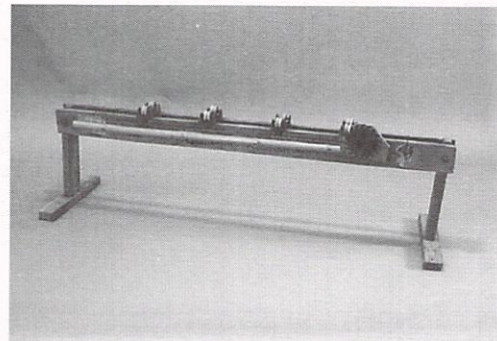
木製。一部鉄製。昭和10年～28年頃まで使用。印字「大黒式改良俵編機 新案第397969号」。

法量(cm) 長120.4, 幅32.4, 高37.0

重量(g) 2600

2-N-02-02

1点



102496 (1622)

2-N-02-02

タワラアミ (俵編み)

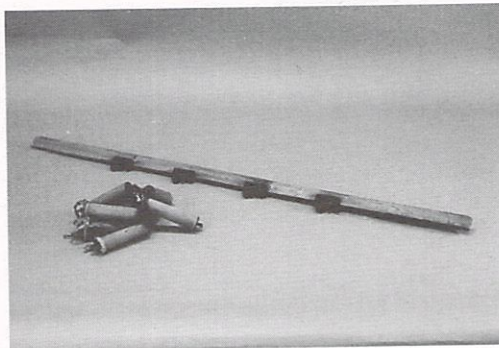
1点

八日市市大森町

市販品。木製。一部鉄。樋10点付。足は古い道具を使用し、竿とツトを改良品に代えたため、能率が上がったといわれている。筵、俵、薦を作った。昭和10年頃に購入か。昭和20年代まで使用。刻印「實用新案 一七四〇八一号 大日本正俵社」。

法量(cm) 長129.3, 幅8.0, (樋) 径3.8, 高15.7

重量(g) 1100, (樋) 計1200



102497

2-N-02-02

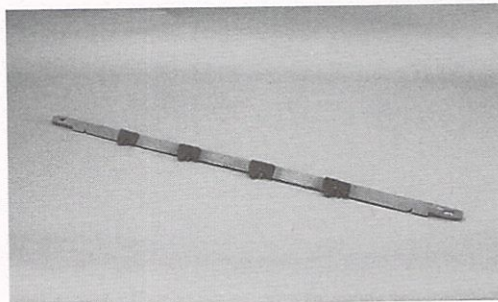
(不詳) 〈俵編機〉

1点

木製。一部鉄製。刻印「實用新案 一七四〇八一号 大日本正俵社」。

法量(cm) 長120.0, 幅4.7

重量(g) 657



102498

2-N-02-02

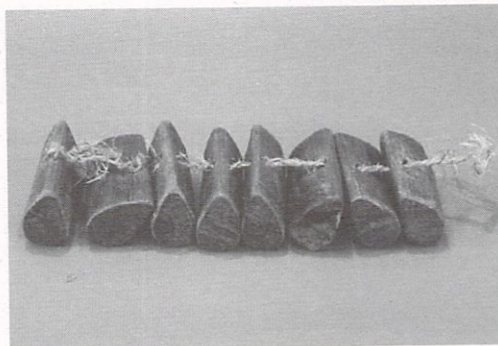
(不詳) 〈樋〉

1点

木製。樋8点。焼印あり。

法量(cm) 縦7.5, 横13.8

重量(g) 計2200



102499 (970)

2-N-02-02

ツチノコ (樋の子)

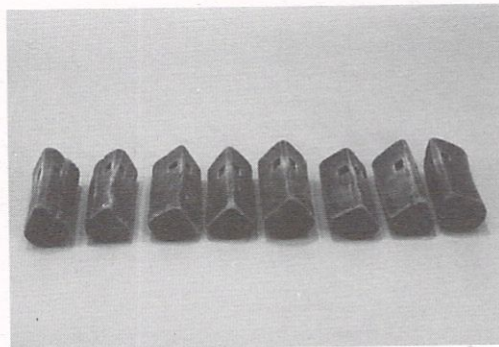
1点

蒲生郡日野町寺尻

榲製。樋8点。筵編みの時に使用。昭和10年頃に製作。昭和25年頃まで使用。

法量(cm) 縦6.2, 横13.0

重量(g) 計2000



102500 (715)

2-N-02-02

俵編み

1点

長浜市加田町

木製。樋7点。戦前まで使用。

法量(cm) 縦8.0, 横14.8

重量(g) 計2700



102501 (380)

ツチノコ

2-N-02-02

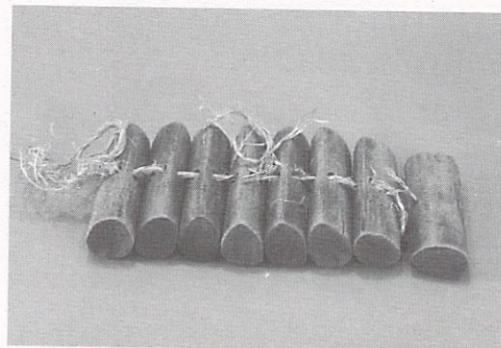
1点

八日市市三津屋町

自家製。木製。槌8点。筵織りの縦縄を巻く道具。昭和初期に製作。昭和30年まで使用。

法量(cm) 縦6.0, 横14.8

重量(g) 計1900



102502

(不詳) 〈槌〉

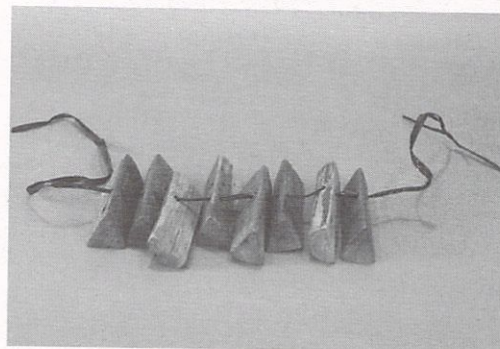
2-N-02-02

1点

木製。槌8点。

法量(cm) 縦6.0, 横13.7

重量(g) 計1400



102503

(不詳) 〈槌〉

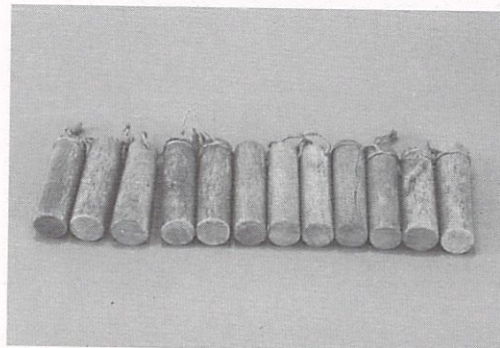
2-N-02-02

1点

木製。麻紐付。槌12点。

法量(cm) 径3.1, 高12.0

重量(g) 計1000



102504

(不詳) 〈槌〉

2-N-02-02

1点

木製。槌7点。焼印あり。

法量(cm) 縦7.0, 横13.5

重量(g) 計1400



102505

(不詳) 〈槌〉

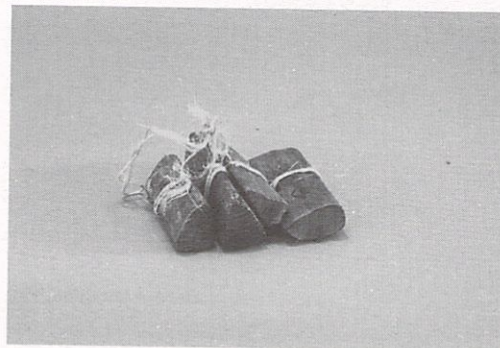
2-N-02-02

1点

木製。麻紐付。槌4点。焼印あり。

法量(cm) 縦7.5, 横18.2

重量(g) 計770



102506

(不詳) 〈槌〉

2-N-02-02

1点

木製。薬縄付。槌2点。
法量(cm) 径4.0, 高20.5
重量(g) 計315



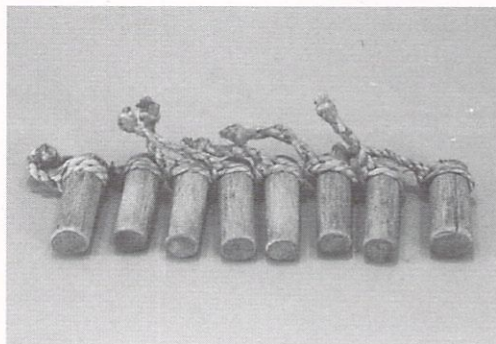
102507

(不詳) 〈槌〉

2-N-02-02

1点

木製。薬縄付。槌8点。焼印あり。
法量(cm) 径3.6, 高11.0
重量(g) 計705



102508

(不詳) 〈槌〉

2-N-02-02

1点

木製。薬縄付。槌6点。
法量(cm) 径4.8, 高16.2
重量(g) 計1100



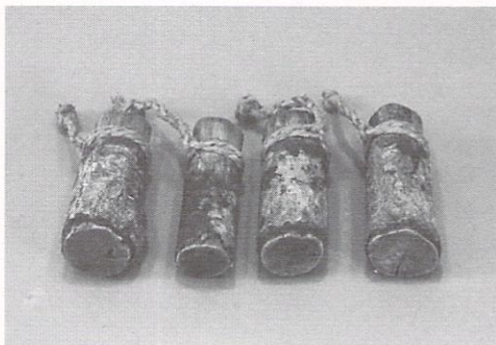
102509

(不詳) 〈槌〉

2-N-02-02

1点

木製。薬縄付。槌4点。
法量(cm) 径5.0, 高16.0
重量(g) 計1100



102510

(不詳) 〈槌〉

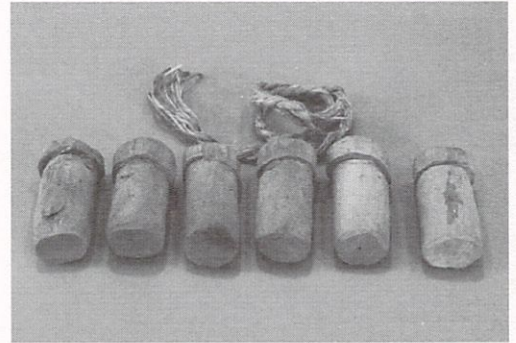
2-N-02-02

1点

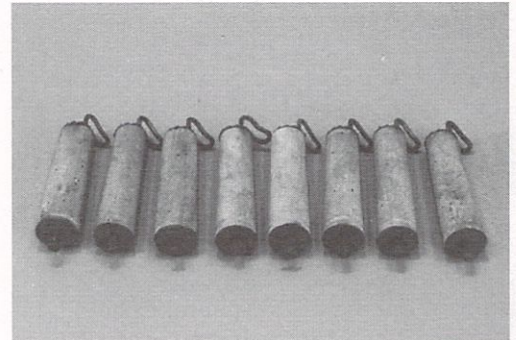
木製。薬縄付。槌8点。
法量(cm) 径3.6, 高13.0
重量(g) 計900



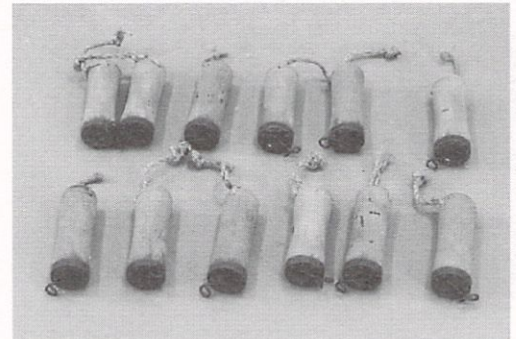
102511 (1889) 2-N-02-02
オモリ (土の子) 1点
 大津市坂本本町
 桎製。槌6点。俵を編む際、オモリとして使用。大正時代まで使用。
 法量(cm) 上径6.2, 下径5.7, 高12.4
 重量(g) 計1600



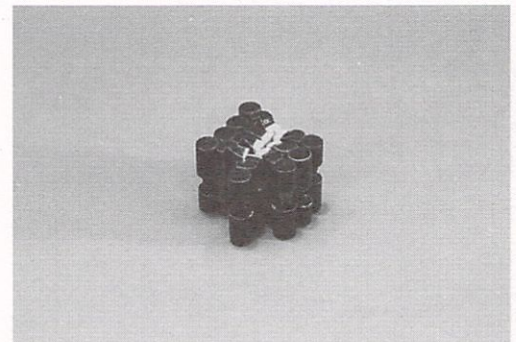
102512 2-N-02-02
 (不詳) 〈槌〉 1点
 木製。鉄製金具付。槌8点。
 法量(cm) 径3.5, 高16.0
 重量(g) 計860



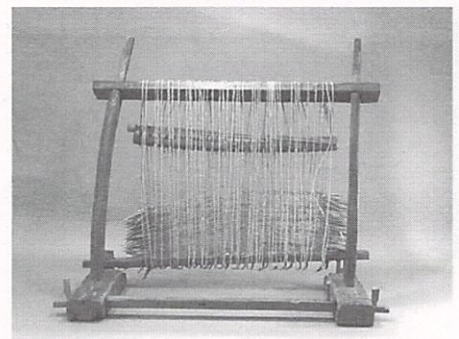
102513 (1462) 2-N-02-02
ツチノコ (木鍾) 1点
 守山市木浜町
 木製。鉄製金具付。槌12点。
 法量(cm) 径4.2, 高12.0
 重量(g) 計1100



102514 (715) 2-N-02-02
俵編み 1点
 長浜市加田町
 陶器製。槌8点。戦前まで使用。刻印「新239325案」「新案32755願」。
 法量(cm) 縦6.5, 横10.2
 重量(g) 計1700



102515 (2783) 2-N-02-03
ムシロオリ (筵織り機) 1点
 坂田郡近江町高溝
 木製。二人で筵を織る道具。手織筵織機。明治時代に製作。大正時代に使用。
 法量(cm) 縦84.0, 横152.0, 高130.0
 重量(g) 27400



102516

2-N-02-03

ムシロバタ

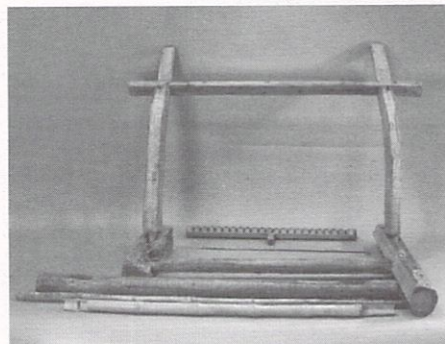
1点

野洲郡中主町吉川

木製。

法量(cm) 縦170.0, 横90.0, 高118.7, (杼)長102.6, 長径7.3, 短径6.5,
(サシ) 全長111.0, 幅9.9, 長径2.4, 短径2.1

重量(g) 29992, (杼) 2200, (サシ) 100



102517 (652)

2-N-02-03

ムシロバタ (筵機)

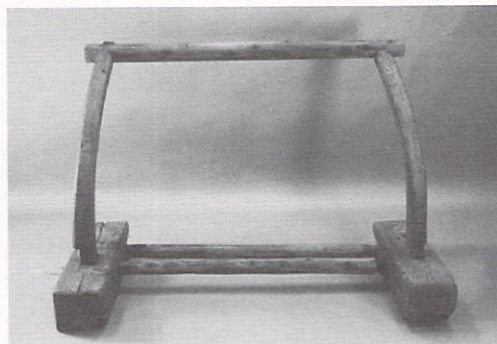
1点

野洲郡中主町比留田

木製。組み合わせる時用の墨書「大中」「小中」「一」あり。

法量(cm) 縦88.0, 横166.0, 高113.3

重量(g) 44500



102518 (170)

2-N-02-03

ハタゴ (筵編機)

1点

長浜市国友町

松材か。解体して保管する。筵を作る道具。「ひ」の溝と穴に藁縄を通し、土台と天部の横棒を一巡させる。縄の間にさし棒(おさともいう)で藁を5cm幅位に通す。「おさ」を使う人は左右につき、中央の人は左右から藁が入れると「ひ」の握手を上下に向きを変える。2mくらいまで編める。江戸時代～昭和40年頃まで使用。

法量(cm) 縦165.0, 横90.0, 高111.0, (杼)長99.0, 長径9.5, 短径7.3,
(サシ) 長107.0, 幅7.2, 厚2.7

重量(g) 54100, (杼) 2400, (サシ) 90



102519 (1353)

2-N-02-03

ムシロオリ (筵織機)

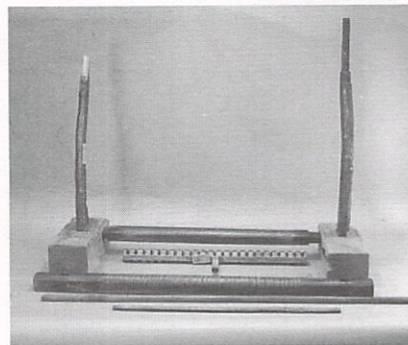
1点

伊香郡高月町唐川

自家製。自然木を利用して製作。集落内で持ち回りで使用していた。明治時代までに製作。昭和初期まで使用。

法量(cm) 縦55.0, 横163.8, 高131.5, (杼)長100.1, 径6.8, 柄長6.4, 長径3.8, 短径2.5, (サシ) 長105.7, 幅7.5, 径2.4, (棒) 長172.6, 径2.5, (棒) 長102.6, 長径2.9, 短径1.7

重量(g) 44900, (杼) 2200, (サシ) 154, (棒) 993, (棒) 425



102520 (361)

2-N-02-03

筵織機

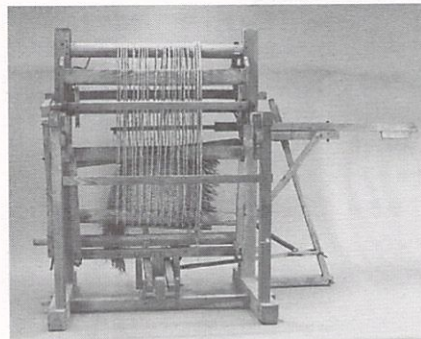
1点

八日市市建部日吉町

木製。経に藁縄、緯にワラスベを入れて筵を織る。昭和9年に製作。昭和40年頃まで使用。印字「富士式製筵機 甲賀郡佐山 昭和九年製作 藤井農具製作所」。

法量(cm) 縦86.6, 横228.5, 高159.0

重量(g) 62400



102521

(不詳) 〈筵機〉

坂田郡伊吹町上平寺

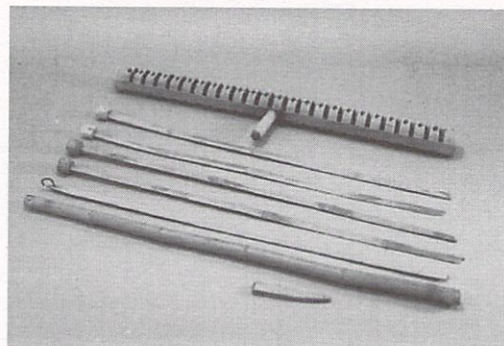
木製。

法量(cm) (杼) 長102.7, 長径7.3, 短径6.9, (サシ) 長99.7, 長径3.5, 短径2.9~長102.7, 径4.0, (鋸) 長16.4, 幅2.7, 厚1.9, (竹) 長102.4, 径3.0

重量(g) (杼) 2600, (サシ) 77~115, (鋸) 40, (竹) 350

2-N-02-03

1点



102522

(不詳) 〈筵機〉

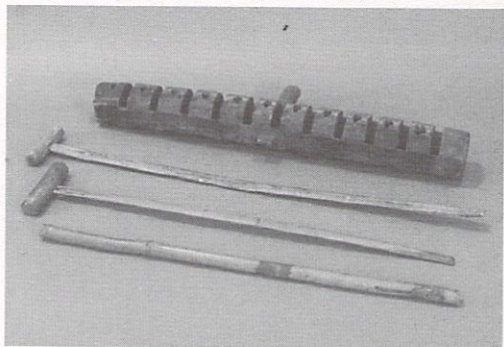
木製。焼印「岡平」。

法量(cm) (杼) 長61.0, 径7.0, (サシ) 長70.9, 幅9.4, 径2.1~長62.6, 幅11.0, 長径3.0, 短径2.0, (竹) 長58.7, 径2.0

重量(g) (杼) 1700, (サシ) 67~83, (竹) 84

2-N-02-03

1点



102523

(不詳) 〈筵機〉

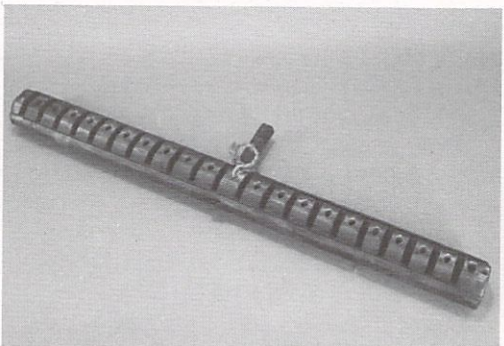
木製。

法量(cm) 長98.6, 長径9.2, 短径7.0, 柄長13.5, 径3.0

重量(g) 2700

2-N-02-03

1点



102524

(不詳) 〈筵機〉

長浜市

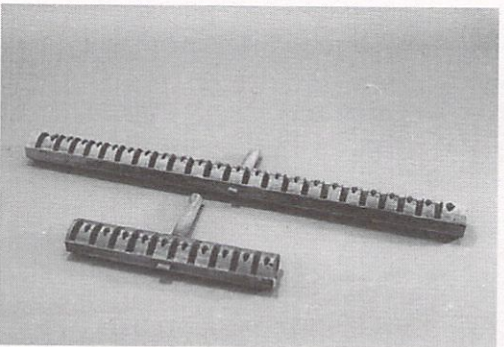
木製。墨書「明治十三年辰ノ二月吉日」「北川与八為□長馬組合」「相与」など。

法量(cm) (上) 長104.4, 長径7.2, 短径6.9, 柄長11.6, 径2.8, (下) 長44.4, 長径7.8, 短径6.0, 柄長15.5, 径3.2

重量(g) (上) 2500, (下) 990

2-N-02-03

2点



102525

(不詳) 〈筵機〉

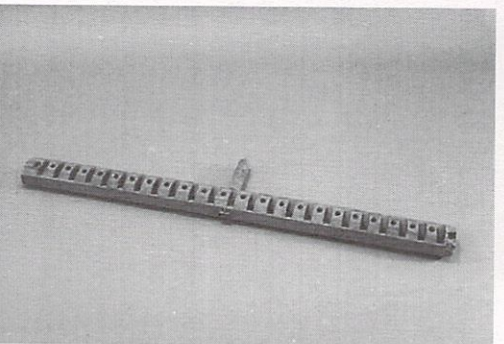
木製。

法量(cm) 長102.2, 長径7.5, 短径5.4, 柄長13.3, 径2.7

重量(g) 1900

2-N-02-03

1点



102526 (260)

2-N-02-03

筵編み機

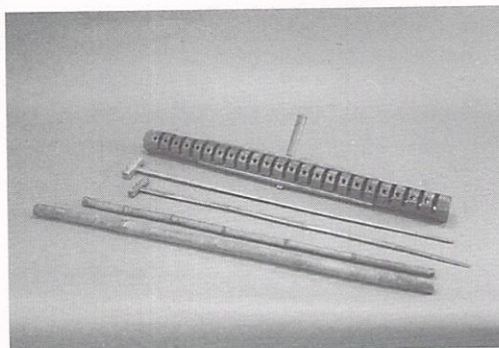
1点

八日市市三津屋町

木製。縦に細縄を吊り、細縄の間に藁を差し込み編み上げて行く。昭和10年～30年頃まで使用。

法量(cm) (杼) 長104.6, 長径7.8, 短径7.3, 柄長14.5, 長径3.2, 短径2.8, (サシ) 長106.5, 幅10.4, 径2.6, (サシ) 長104.4, 幅9.5, 径2.3, (竹) 長106.1, 径2.0, (竹) 長117.8, 径3.3

重量(g) (杼) 3500, (サシ) 112, 81, (竹) 206, 475



102527 (2091)

2-N-02-03

ツンダワラオリ (積俵織)

1点

八日市市建部瓦屋寺町

木製。細い藁縄を経糸とし、横にすぐった藁を入れて織り、筵を製作する。これを円く綴じ、底をふさぐ。明治時代末期～昭和30年頃まで使用。

法量(cm) (脚) 縦11.5, 横7.2, 長109.0, (横棒) 長123.8, 幅12.0, 厚6.0, (杼) 長69.5, 長径7.4, 短径7.0, 柄長15.9, 径2.7

重量(g) (脚) 計6500, (横棒) 4600, (杼) 2000



102528

2-N-02-03

筵織機

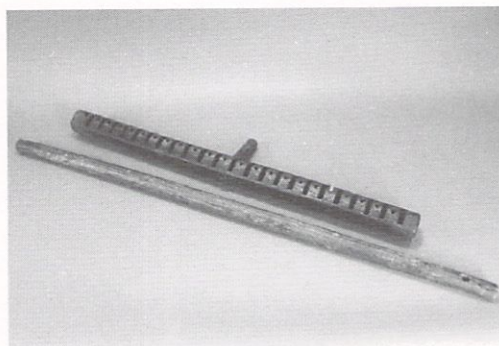
1点

八日市市川合寺町

木製。棒に墨書あり。

法量(cm) (杼) 長103.0, 径6.4, 柄長11.9, 径3.0, (棒) 長135.2, 径3.8

重量(g) (杼) 3100, (棒) 990



102529 (716)

2-N-02-03

筵編み

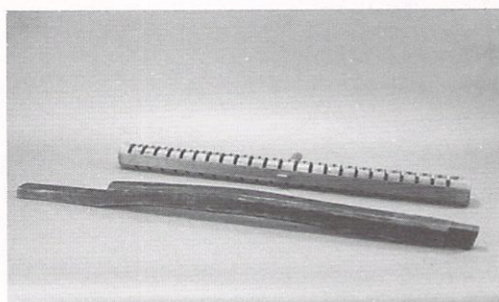
1点

長浜市加田町

木製。戦前まで使用。

法量(cm) (杼) 長102.6, 長径7.3, 短径6.8, 柄長14.6, 径2.8, (脚) 幅6.0, 厚5.5, 長121.2

重量(g) (杼) 2900, (脚) 1300



102530

2-N-02-03

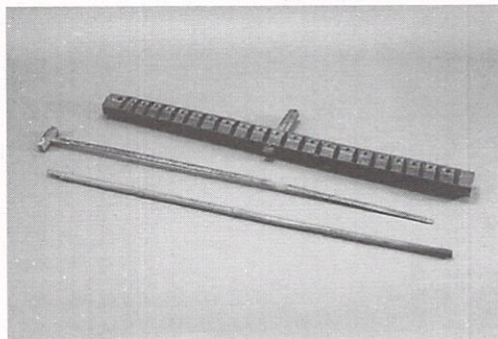
(不詳) 〈筵機〉

1点

木製。

法量(cm) (杼) 長104.1, 長径7.5, 短径5.7, 柄長12.2, 径3.3, (サシ) 長106.8, 幅9.1, 径2.7, (竹棒) 長101.9, 径2.0

重量(g) (杼) 2500, (サシ) 76, (竹棒) 87



102531 (2976)

2-N-02-03

筵織用具 (杼、えさし)

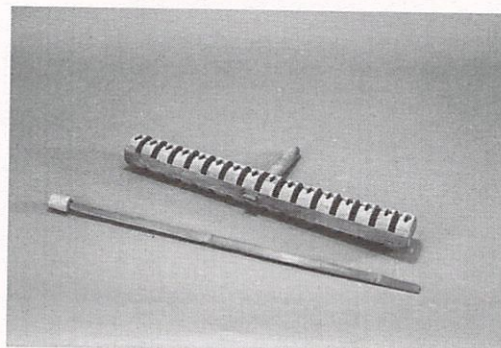
1点

坂田郡近江町高溝

杼は桎材。エサシは竹材。筵織機の部品。えさしは縦に張った縄の間へ薬を通す。大正時代～昭和30年頃まで使用。

法量(cm) (杼) 長66.1, 径7.1, 柄長15.3, 径3.0, (サシ) 長79.0, 径3.0

重量(g) (杼) 1500, (サシ) 65



102532 (2068)

2-N-02-03

シャックリ (筵織機の箴)

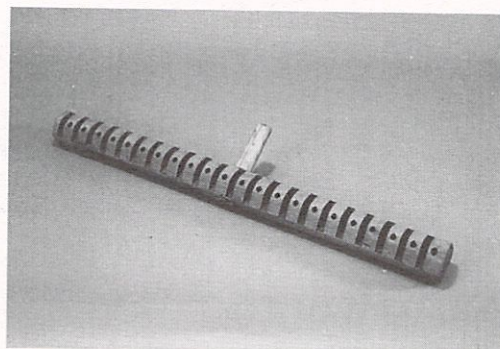
1点

伊香郡西浅井町岩熊

木製。薬筵を織るのに使用。大正時代中期頃まで盛んに用いられたが、改良織機や動力機が出現して廃れた。原料の薬を押してトントンと固める(しめる)ので、「トントン」または「シャックリ」といた。

法量(cm) 長96.5, 径7.4, 柄長12.2, 長径3.5, 短径2.8

重量(g) 2900



102533 (1180)

2-N-02-03

筵織機

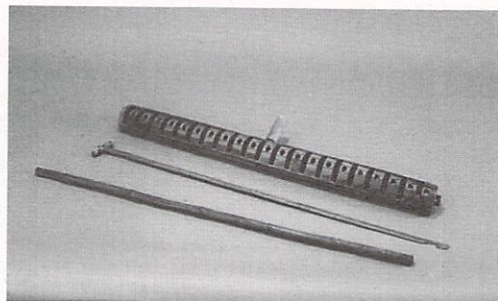
1点

高島郡新旭町熊野本

木製。筵を織る道具。明治時代～大正時代初期に使用。

法量(cm) (杼) 長100.3, 長径8.1, 短径6.7, 柄長10.5, 径3.0, (サシ) 長102.7, 幅7.2, 径2.2, (竹棒) 長105.3, 径2.2

重量(g) (杼) 2600, (サシ) 66, (竹棒) 187



102534 (969)

2-N-02-03

ワラサシ (薬差し)

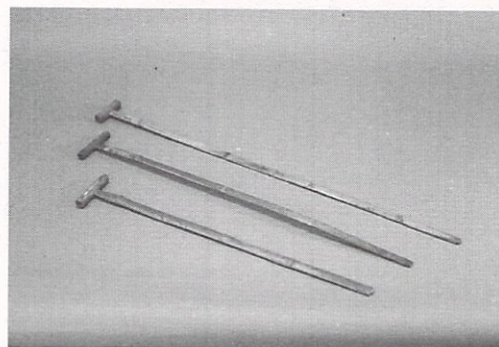
1点

蒲生郡日野町寺尻

木製の頭に竹製の柄を付ける。筵織りの時にワラサシに使う。昭和20年～35年頃まで使用。

法量(cm) (前) 長78.3, 幅12.1, 径2.4, (中) 長95.6, 幅12.4, 径2.1, (後) 長110.8, 幅9.8, 径2.5

重量(g) (前) 129, (中) 105, (後) 135



102535

2-N-02-03

(不詳) 〈筵機〉

1点

木製の頭に竹製の柄を付ける。

法量(cm) 長74.5, 幅10.4, 径2.6

重量(g) 77



102536

(不詳) 〈筵機〉

2-N-02-03

1点

木製。

法量(cm) (脚) 縦16.8, 横7.5, 長116.5, (横棒) 長98.0, 径5.6, (横棒)
長121.0, 幅12.8, 厚6.0

重量(g) (脚) 4300, (横棒) 1000, (横棒) 3200



102537

(不詳) 〈筵機〉

2-N-02-03

1点

木製。

法量(cm) 長122.7, 高6.0, 厚5.2

重量(g) 2300



102538

(不詳) 〈筵機〉

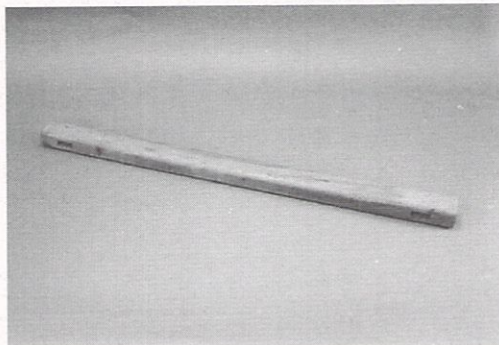
2-N-02-03

1点

木製。

法量(cm) 長129.3, 高7.2, 厚5.6

重量(g) 2000



102539

(不詳) 〈筵機〉

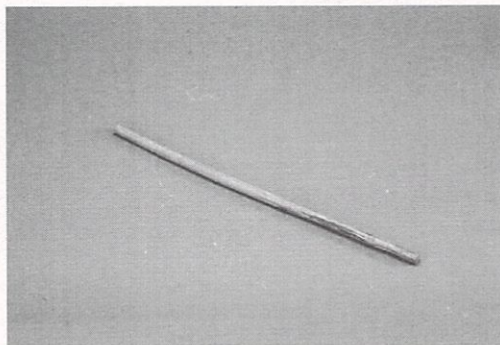
2-N-02-03

1点

木製。

法量(cm) 長57.4, 径1.6

重量(g) 102



102540 (253)

棧俵の木型

2-N-02-04

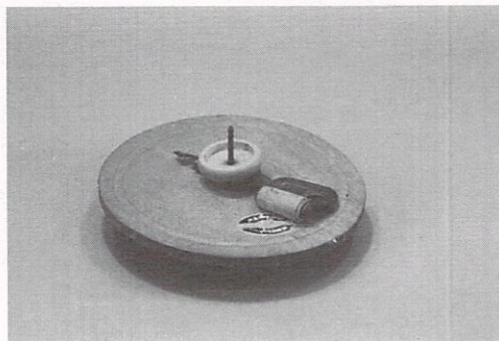
1点

八日市市三津屋町

木製。米俵の口をふさぐ棧俵を作る木型。昭和20年頃に購入。ラベル
「木宮式棧俵編機」。

法量(cm) 径34.5, 高15.5

重量(g) 1500



102541 (2975)

サンダワラアミキ (棧俵編み機)

坂田郡近江町高溝

米の供出時使用した俵のフタであるサンダワラを作る時に使用した。昭和初年に製作。昭和30年代まで使用。ラベル「木宮式棧俵機」。

法量(cm) 径34.4, 高15.3

重量(g) 1100

2-N-02-04

1点



102542 (166)

俵のクチガエシのクシ

長浜市国友町

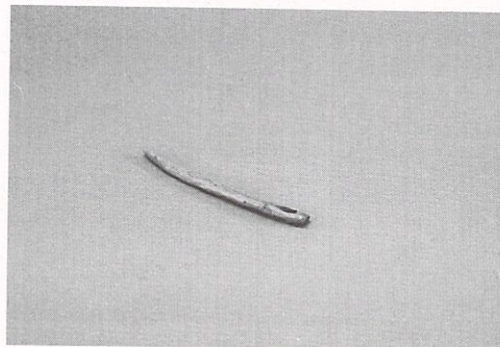
木の枝や切端の木材を加工し、先を尖らせて磨き、滑りをよくする。上部の穴には藁縄を通すので長径1cm程度の楕円にする。俵の両端へ「さんだわら」を入れ、その外側を縄で亀甲のように編む。昔は指先で編んでいたが指先が傷つきやすく、くしの考案は大きな助けになった。昭和20年頃に製作。昭和30年頃まで使用。

法量(cm) 長18.0, 幅1.2, 厚0.6

重量(g) 13

2-N-02-04

1点



102543 (1260)

ハリ

滋賀郡志賀町北小松

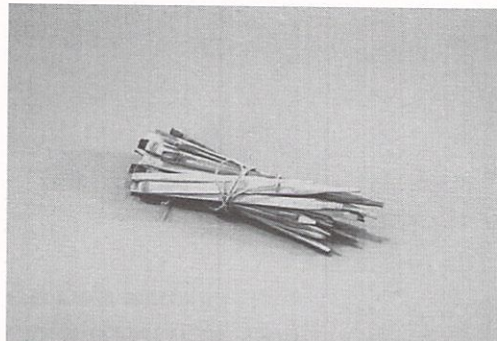
竹製。米俵の口を閉じるのに使用。

法量(cm) 長7.5, 幅1.9, 厚1.1

重量(g) 12

2-N-02-04

35点



102544 (1618)

米俵締め

八日市市大森町

鉄製。鋳物。米俵に玄米を入れ両口を棧俵で蓋をし、胴に藁縄を掛けて俵を締める時に使用。俵締め作業が楽になり、女性の力でも作業ができるようになった。昭和10年～30年代まで使用。

法量(cm) 長29.4, 幅14.4, 厚7.2

重量(g) 1400

2-N-02-04

1点



102545 (2087)

米俵締め

八日市市建部瓦屋寺町

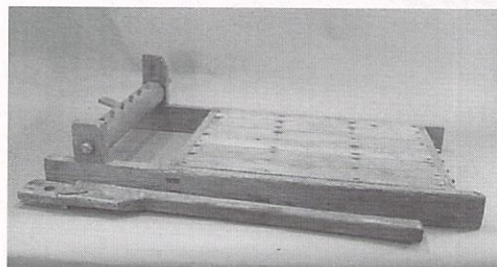
木製。俵に玄米を詰め、縄をかける時に使用。保管用の米俵は特に強く締め、虫が入らないようにした。明治時代末期～昭和20年頃まで使用。

法量(cm) 長159.5, 幅105.5, 厚37.0

重量(g) -

2-N-02-04

1点



102546 (162)

2-N-02-04

タワラ (俵)

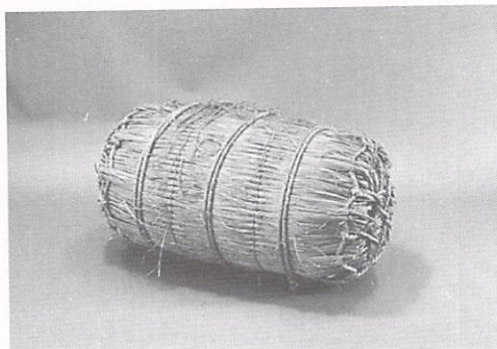
1点

長浜市国友町

藁製。俵編機で製作。米、芋類の貯蔵、搬送、年貢出し、供出米などに使用。一俵という単位で呼び、米ならば四斗(60kg)入った。昭和30年頃に製作。

法量(cm) 長78.0, 径38.0

重量(g) 12000



102547 (267)

2-N-02-04

タワラ (俵)

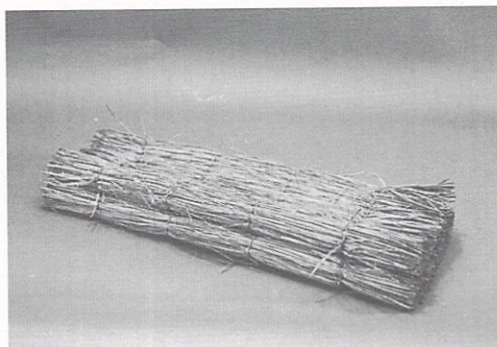
1点

八日市市三津屋町

藁製。

法量(cm) 縦91.0, 横59.0

重量(g) 2000



102548 (267)

2-N-02-04

タワラ (俵)

1点

八日市市三津屋町

藁製。

法量(cm) 縦90.0, 横57.0

重量(g) 2100



102549 (268)

2-N-02-04

サンダワラ (棧俵)

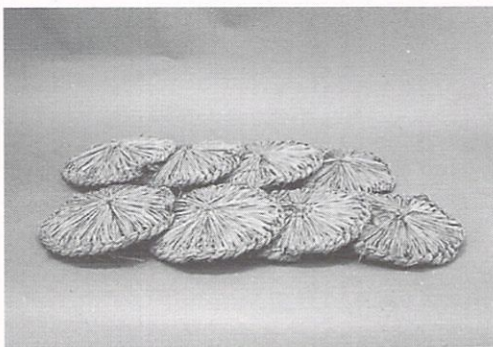
8点

八日市市三津屋町

藁製。

法量(cm) 径35.0, 厚4.5

重量(g) 295



102550 (168)

2-N-02-05

タタミバリ (畳針)

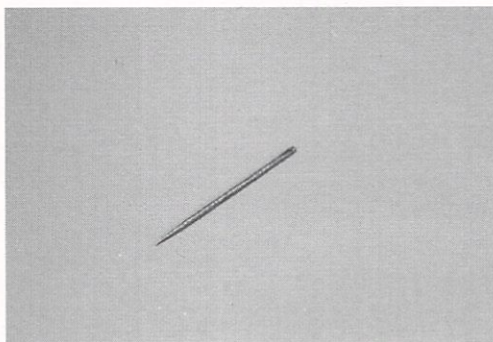
1点

長浜市国友町

鉄製。藁草履の鼻緒、蓑、円座などの最終かがり仕上げに使用する。針穴へ藁を通して縫う。昭和20年～40年頃まで使用。

法量(cm) 長15.2, 径0.4, 頭幅0.6

重量(g) 15



102551 (893)

竹籠の木型

八日市市市辺町

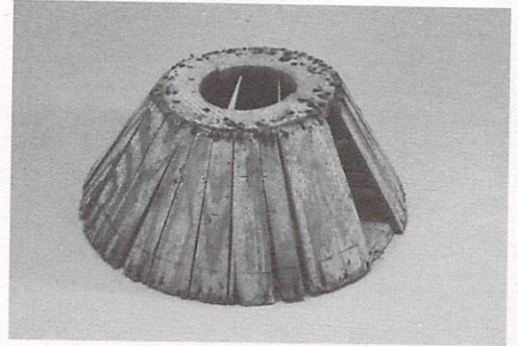
松材を鉄釘で止める。竹籠を作る時に型として使用。竹籠を編む時、水に濡らして軟らかくした割竹をこの型に合わせて編み上げる。明治時代末期頃に製作。昭和20年頃まで使用。

法量(cm) 底径43.1, 上径22.3, 高18.4

重量(g) 1800

2-N-02-05

1点



102552 (151)

モッコツクリ (畚作り)

長浜市国友町

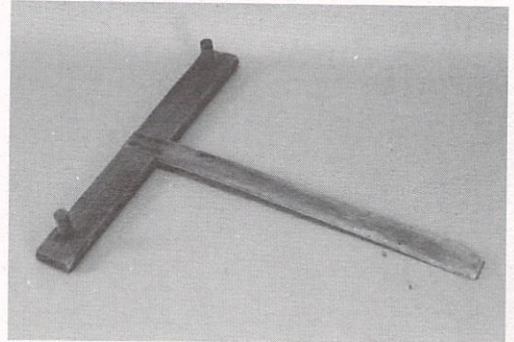
自家製。木製。モッコ作りの道具。昭和初期に製作。昭和20年頃まで使用。

法量(cm) 長57.0, 幅53.0, 高5.0

重量(g) 430

2-N-02-05

1点



102553 (1785)

モッコツクリ (畚作り器)

八日市市大森町

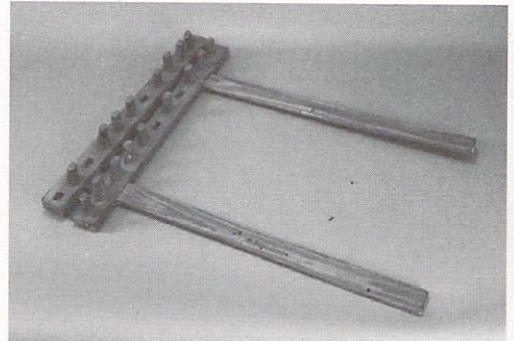
木製。畚を編むのに使用。経縄をかけ、緯縄をくぐらせて編む。穴に下の竿を固定してモッコの幅を決める。昭和21年に製作。昭和35年頃まで使用。

法量(cm) 長81.0, 幅66.9, 高8.7

重量(g) 2300

2-N-02-05

1点



102554

(不詳) 〈袋〉

八日市市東中野町

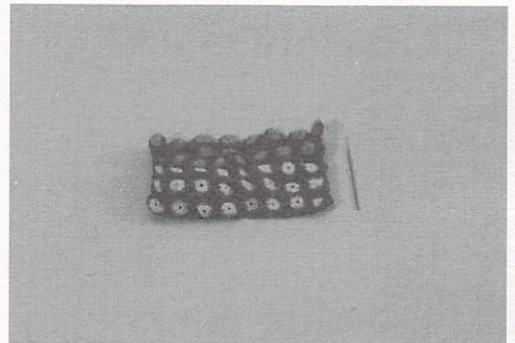
レース編み半製品。煉瓦、白、黄土色。鉤針、糸付。

法量(cm) 縦14.0, 横21.5, (針) 長12.6, 幅2.5

重量(g) 72, (針) 6

2-N-02-05

1点



琵琶湖博物館資料目録 第18号

民俗資料 4

生産生業

発行日：2008年（平成20年）3月

編集：滋賀県立琵琶湖博物館（編集責任者：用田政晴）

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

電話 077-568-4811

インターネットホームページ <http://www.lbm.go.jp/>

印刷：(株)スマイ印刷工業

©滋賀県立琵琶湖博物館 2008

R100

この本文については古紙配合率100%再生紙を使用しています

Catalogue of the Collections of the Lake Biwa Museum

no. **18** March 2008



LAKE BIWA MUSEUM

滋賀県立
琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091
TEL 077-568-4811(代) FAX 077-568-4850
インターネットホームページ
<http://www.lbm.go.jp> (lbmlはLBMの小文字です)

LAKE BIWA MUSEUM

1091 Oroshimo, Kusatsu,
Shiga 525-0001, Japan